

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第192集

老 平 遺 跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-4

2008

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第192集

老 平 遺 跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市－4

2008

中日本高速道路株式会社東京支社
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所



調査区全景（東より）



茅山下層式土器（奥）と野島式土器（前）

藤内式土器

巻頭図版 2



集積された石斧



回収した石斧

序

第二東名高速道路の建設に伴って静岡県内では多くの埋蔵文化財発掘調査が行われました。静岡県東部の愛鷹山東南麓では旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数存在することが知られており、第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地における発掘調査によってさらに多くの貴重な遺跡が追加されました。

平成19年3月、裾野市に所在する佛ヶ尾遺跡（第二東名No.147地点、裾野市－1）の調査報告書を刊行し、続く平成20年3月には、その南に隣接する下ノ大窪遺跡（第二東名No.146地点、裾野市－2）の報告書を刊行いたしました。今回報告する老平遺跡（第二東名No.145地点、裾野市－4）は、更にこれらに続くもので、下ノ大窪遺跡の南に隣接する遺跡で、後期旧石器時代後半期から縄文時代中期までの遺物と遺構が検出されています。

多大な労力をかけて高い精度で行ってきました発掘調査の成果を、埋蔵文化財発掘調査報告書としてようやく纏めることができました。この成果が研究者、愛好家に資料として有効に活用され、そしてなにより幅広く多くの方々から理解を得られるように資料が公開されることが必要だと考えます。

現地調査および資料整理、報告書作成にあたり中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）・静岡県教育委員会ほか多数の機関とご助言をくださった方々に厚く感謝の意を表します。

平成20年9月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 清水 哲

例　　言

1. 本書は静岡県裾野市大畑字老平他に所在する老平遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本道路高速道路株式会社横浜支社沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成14年4月から同年11月まで行った確認調査の結果を受け、平成15年4月から平成16年3月まで実施した。
3. 資料整理は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成19年5月から平成20年5月まで実施した。
4. 調査体制は以下の通りである。

平成14年度（確認調査）

所長 斎藤忠	副所長 飯田英夫	常務理事兼総務部長 余田徳幸
調査研究部長 山本昇平	調査研究部次長兼調査研究1課長 中嶋郁夫	
主任調査研究員 前嶋秀張	調査研究員 中村雅昭	

平成15年度（本調査Ⅰ期）

所長 斎藤忠	副所長 飯田英夫	常務理事兼総務部長 余田徳幸
調査研究部長 山本昇平	調査研究部次長兼調査研究1課長 中嶋郁夫	
主任調査研究員 前嶋秀張	調査研究員 岩崎しのぶ	

平成19年度（整理作業）

所長 斎藤忠	常務理事兼事務局長 清水哲	事務局次長兼総務課長 大場正夫
事務局次長兼調査課長 及川司	事務局次長 佐野五十三	稻葉保幸
調査課係長 笹原千賀子	常勤嘱託員 阿部敬	

平成20年度（整理作業）

所長兼常務理事 清水哲	次長兼事業係長 稲葉保幸	次長兼総務課長 大場正夫
次長兼調査課長 及川司	東部総括係長 中鉢賢治	東部調査係長 笹原千賀子
常勤嘱託員 阿部敬		

5. 現地作業においては、掘削業務、測量業務を以下の業者に委託した。

平成14年度（確認調査）　掘削業務　セリザワ建設株式会社　測量業務　国際航業株式会社
平成15年度（本調査Ⅰ期）　掘削業務　株式会社渡辺建設　測量業務　国際航業株式会社

6. 黒曜石産地分析は望月明彦氏（独立行政法人沼津工業高等専門学校教授）に委託した。附編はその分析成果である。

7. 石器実測及びトレースは、大部分の剥片石器類、全ての打製石斧、全ての接合資料、一部の礫石器類を株式会社シン技術コンサルと株式会社東京航業研究所に委託し、ほかは当財団で行った。

8. 本書の執筆と編集は、第1章1節を除き、阿部が行った。第1章1節は、本遺跡と同様に第二東名建設事業に伴う調査の対象となった佛ヶ尾遺跡発掘調査報告書（静岡県埋蔵文化財研究所編2007）の第1章（及川司・野田正人）からのほぼ全文引用である。

9. 発掘調査および整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。

安斎正人 池谷信之 尾田織好 国武貢克 小崎晋 佐藤宏之 中村雄紀 森先一貴 役重みゆき
(五十音順・敬称略)

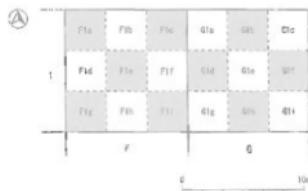
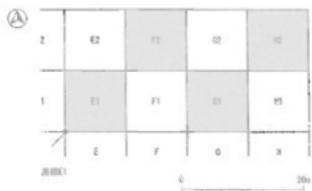
10. 発掘調査資料はすべて静岡県教育委員会が保管している。

凡 例

- 調査区の方眼設定は、国土座標（平面直角座標WGS系）を基準に、国土座標 (-90510, 35560) = (A, 0) と設定した（座標は平成15年度改訂以前の旧座標を使用している）。1グリッドは10m×10mで、各グリッドの呼称は、該当グリッド南西角の座標名称を採用している。
- 出土遺物は5桁の通し番号（=遺物番号）を付して取り上げた。遺物番号と本報告書掲載番号の対応関係は出土石器属性表を参照のこと。
- 遺構番号は現地調査時に使用した番号を付した。遺構の略号表記に付いては以下の通り。
RG：礫群 SY：集石 PF：土坑 SB：竪穴住居跡 TA：竪穴住居跡状遺構 FP：焼土 CB：炭化物集中
- 石器の実測は原則として第三角投影図法に準拠した。
- 出土遺物図の縮小率は以下の通り。いずれの場合も縮尺を付した。

土器	: 1/2か1/3
剥片石器類、剥片類、石核	: 2/3
打製石斧	: 1/2
磨石・敲石類	: 1/3
石皿・台石類	: 1/4
- 色彩に関する記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）に準拠した。
- 石器集中は、旧石器時代の石器群に限り、個体別資料や接合資料の検討とは無関係に、5点以上の石器が集中して検出されていることを基準として設定した。また、石器集中の番号は時代や時期に関わらず通し番号を付した。
- 礫群は、3点以上の礫が集中して検出されていることを基準として設定した。また、礫群の番号は第I文化層から第IV文化層まで通し番号を付した。
- 集石は、旧石器時代以外の礫群に対して設定した。また、集石の番号は時代に関わらず通し番号を付した。番号は検出された順序に対応する。
- 土坑は、時代に関わらず通し番号を付した。番号は検出された順序に対応する。

グリッドの読み方



目 次

巻頭写真

序

例言・凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 調査の方法と経過	
第1節 調査の方法	3
第2節 調査の経過	3
第3節 報告書の作成	7
第3章 遺跡の環境	
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	9
第4章 旧石器時代の遺構と遺物	
概要	13
第1節 第I文化層	13
概要	
1 石器集中	
2 出土石器の検討	
3 碾群	
第2節 第II文化層	17
概要	
1 石器集中	
2 出土石器の検討	
3 碾群	
第3節 第III文化層	23
概要	
1 出土石器の検討	
2 碾群	
第4節 第IV文化層	26
概要	
1 石器集中	
2 出土石器の検討	
3 碾群	

第5章 繩文時代の遺構と遺物	
第1節 土器分類	43
第2節 繩文時代早期の土器群	48
概要	
出土土器の検討	
第3節 繩文時代前期の土器群	82
概要	
出土土器の検討	
第4節 繩文時代中期の土器群	92
概要	
出土土器の検討	
第5節 繩文時代草創期から中期の石器群	102
概要	
(1) 尖頭器類	103
(2) DEF 5-8 グリッドの石器群	108
1 石器集中	
2 出土石器の検討	
(3) EFG13-16グリッドの石器群	119
1 石器集中	
2 出土石器の検討	
(4) CDE19-21グリッドの石器群	130
出土石器の検討	
(5) HIJK 6-11グリッドの石器群	132
出土石器の検討	
(6) その他の石器群	141
出土石器の検討	
(7) 表採資料	142
第6節 繩文時代の遺構	145
1 焼土	
2 集石	
3 土坑	
第6章 時期不明の土坑	175
第7章 まとめ	181
掲載遺構属性表 掲載遺物属性表	189
附録 老平遺跡出土黒曜石の産地分析（望月明彦）	203
写真図版	
抄録	

挿図目次

第 1 図 調査区の設定	4	第 36 図 撫糸文土器 (2)	53
第 2 図 テストピット配置	4	第 37 図 早期 繩文土器 個体別分布	54
第 3 図 土層の堆積状況	5	第 38 図 早期 繩文土器	55
第 4 図 トレンチ北壁断面	6	第 39 図 判ノ木山西式土器 個体別分布	57
第 5 図 層序と文化層	8	第 40 図 判ノ木山西式土器 (1)	58
第 6 図 愛鷹山東麓の遺跡分布	10	第 41 図 判ノ木山西式土器 (2)	59
第 7 図 第 I 文化層 器種別分布	14	第 42 図 判ノ木山西式土器 (3)	60
第 8 図 第 I 文化層 石材別分布	15	第 43 図 判ノ木山西式土器 (4)	61
第 9 図 第 I 文化層石器集中 I 器種別分布 (上) 石材別分布 (下)	16	第 44 図 判ノ木山西式土器 (5)	62
第 10 図 第 I 文化層の石器群	17	第 45 図 沈線文土器 個体別分布	63
第 11 図 第 II 文化層 器種別分布	18	第 46 図 沈線文土器	64
第 12 図 第 II 文化層 石材別分布	19	第 47 図 野島式土器 個体別分布	66
第 13 図 第 II 文化層石器集中 2・3 器種別分布	20	第 48 図 野島式土器 (1)	67
第 14 図 第 II 文化層石器集中 2・3 石材別分布	21	第 49 図 野島式土器 (2)	68
第 15 図 第 II 文化層の石器群	22	第 50 図 野島式土器 (3)	
第 16 図 3号礫群	23	茅山下層式土器 (1)	69
第 17 図 第 III 文化層 器種別分布	24	第 51 図 茅山下層式土器 個体別分布	70
第 18 図 第 III 文化層 石材別分布	25	第 52 図 茅山下層式土器 (2)	71
第 19 図 第 III 文化層の石器	26	第 53 図 茅山下層式土器 (3)	72
第 20 図 第 IV 文化層 器種別分布	29	第 54 図 茅山下層式土器 (4)	73
第 21 図 第 IV 文化層 石材別分布	30	第 55 図 打越式土器 個体別分布	74
第 22 図 第 IV 文化層石器集中 4 器種別分布	31	第 56 図 打越式土器 (1)	75
第 23 図 第 IV 文化層石器集中 4 石材別分布	32	第 57 国 打越式土器 (2)	76
第 24 国 第 IV 文化層石器集中 5 器種別分布	33	第 58 国 打越式土器 (3)	77
第 25 国 第 IV 文化層石器集中 5 石材別分布	34	第 59 国 その他の条痕文土器 個体別分布	78
第 26 国 第 IV 文化層石器集中 6 器種別分布 (上) と石材別分布 (下)	35	第 60 国 打越式土器 (4)	
第 27 国 第 IV 文化層の石器群 (1)	37	その他の条痕文土器	79
第 28 国 第 IV 文化層の石器群 (2)	39	第 61 国 早期 その他の土器 個体別分布	80
第 29 国 第 IV 文化層の石器群 (3)	40	第 62 国 前期土器群 型式別分布	83
第 30 国 第 IV 文化層 磚分布	41	第 63 国 上ノ坊式土器 個体別分布	84
第 31 国 2号礫群	42	第 64 国 諸磯 b 式土器等 個体別分布	85
第 32 国 1号礫群	42	第 65 国 上ノ坊式土器 諸磯 b 式土器 (1)	86
第 33 国 早期土器群 型式別分布	49	第 66 国 諸磯 b 式土器 (2)	87
第 34 国 撫糸文土器 個体別分布	50	第 67 国 諸磯 b 式土器 (3)	88
第 35 国 撫糸文土器 (1)	52	第 68 国 前期 繩文土器およびその他の土器 個体別分布	89
		第 69 国 前期 繩文土器 その他の土器	90
		第 70 国 中期土器群 型式別分布	93
		第 71 国 新道式土器 個体分布	95

第72図	藤内式土器 個体別分布	96	第108図	HJK 6-11グリッドの石器群（5）	140
第73図	中期 縄文土器およびその他の土器 個体別分布	97	第109図	HJK 6-11グリッドの石器群（6）	141
第74図	新道式土器 藤内式土器（1）	98	第110図	その他の石器群	143
第75図	藤内式土器（2）	99	第111図	縄文時代 磨分布	144
第76図	藤内式土器（3）	100	第112図	集石・焼土分布	146
第77図	藤内式土器（4） 縄文土器 その他の土器	101	第113図	焼土	147
第78図	縄文時代 剥片石器類の器種別分布	104	第114図	集石（1）	147
第79図	縄文時代 剥片石器類の石材別分布	105	第115図	集石（2）	149
第80図	縄文時代 磕石器類の器種別分布	106	第116図	集石（3）	150
第81図	縄文時代 磕石器類の石材別分布	107	第117図	集石（4）	151
第82図	縄文時代 尖頭器類	108	第118図	集石（5）	152
第83図	DEF5-8グリッド 器種別分布	111	第119図	集石（6）	153
第84図	DEF5-8グリッド 石材別分布	112	第120図	集石（7）	154
第85図	石斧集中	113	第121図	集石（8）	155
第86図	DEF5-8グリッドの石器群（1）	113	第122図	集石（9）	156
第87図	DEF5-8グリッドの石器群（2）	114	第123図	集石（10）	157
第88図	DEF5-8グリッドの石器群（3）	115	第124図	集石（11）	158
第89図	DEF5-8グリッドの石器群（4）	116	第125図	縄文時代 土坑分布	161
第90図	DEF5-8グリッドの石器群（5）	117	第126図	縄文時代 土坑（1）	163
第91図	DEF5-8グリッドの石器群（6）	118	第127図	縄文時代 土坑（2）	164
第92図	EFG13-16グリッド 器種別分布	122	第128図	縄文時代 土坑（3）	165
第93図	EFG13-16グリッド 石材別分布	123	第129図	縄文時代 土坑（4）	166
第94図	EFG13-16グリッドの石器群（1）	125	第130図	縄文時代 土坑（5）	167
第95図	EFG13-16グリッドの石器群（2）	126	第131図	縄文時代 土坑（6）	168
第96図	EFG13-16グリッドの石器群（3）	128	第132図	縄文時代 土坑（7）	169
第97図	EFG13-16グリッドの石器群（4）	129	第133図	縄文時代 土坑（8）	170
第98図	EFG13-16グリッドの石器群（5）	130	第134図	縄文時代 上坑（9）	171
第99図	CDE19-21グリッド 器種別分布	131	第135図	縄文時代 上坑（10）	172
第100図	CDE19-21グリッド 石材別分布	131	第136図	縄文時代 上坑（11）	173
第101図	CDE19-21グリッドの石器群	132	第137図	時期不明 土坑分布	176
第102図	HJK 6-11グリッド 器種別分布	133	第138図	時期不明 土坑（1）	177
第103図	HJK 6-11グリッド 石材別分布	134	第139図	時期不明 土坑（2）	178
第104図	HJK 6-11グリッドの石器群（1）	136	第140図	時期不明 土坑（3）	179
第105図	HJK 6-11グリッドの石器群（2）	137	第141図	時期不明 土坑（4）	180
第106図	HJK 6-11グリッドの石器群（3）	138	第142図	老平遺跡における旧石器時代から 縄文時代の石器群編年	182
第107図	HJK 6-11グリッドの石器群（4）	139	第143図	縄文時代草創期の石器集中	185
			第144図	縄文時代草創期の石器群	186

挿表目次

表1 旧石器時代文化層の概要	13
表2 第I文化層 石器石材組成	17
表3 石器集中1 石器石材組成	17
表4 第II文化層 石器石材組成	22
表5 石器集中2 石器石材組成	22
表6 石器集中3 石器石材組成	22
表7 第III文化層 石器石材組成	26
表8 第IV文化層 石器石材組成	27
表9 石器集中4 石器石材組成	28
表10 石器集中5 石器石材組成	28
表11 石器集中6 石器石材組成	28
表12 老平遺跡の土器分類基準	46
表13 銛文時代 剥片石器類の石材組成	102
表14 銛文時代 碓石器類の石材組成	103
表15 DEF 5-8 グリッド 剥片石器類の石材組成	110
表16 DEF 5-8 グリッド 碓石器類の石材組成	110
表17 EFG13-16グリッド 剥片石器類の石材組成	120
表18 EFG13-16グリッド 碓石器類の石材組成	120
表19 E15グリッド石器集中 石器石材組成 (ZN-SNZ)	121
表20 E15グリッド石器集中 石器石材組成 (ZN)	121
表21 CDE19-21グリッド 石器石材組成	131
表22 HJK 6-11グリッド 剥片石器類の石材組成	132
表23 HJK 6-11グリッド 碓石器類の石材組成	132
表24 その他のグリッド 石器石材組成	142
表25 土坑の平面形態と小穴の有無	162
表26 土坑の平面形態と掘り込み面の層位	162
表27 碓群属性	191
表28 集石属性	191
表29 土坑属性 (銛文時代)	192
表30 土坑属性 (時期不明)	192
表31 掘載土器属性	193
表32 掘載石器属性 (旧石器-銛文時代)	196

写真図版目次

巻頭図版1 調査区全景 (東より) 茅山下層式土器 (奥) と野島式土器 (前) 藤内式土器	
巻頭図版2 集積された石斧 回収した石斧	
図版1 NLa及びYLU全景 テストピット全景	図版5 テストピット27遺物出土状況 テストピット34遺物出土状況
図版2 深掘り箇限全景 完掘全景	図版6 テストピット46遺物出土状況 テストピット47遺物出土状況
図版3 テストピット31遺物出土状況 遺物検出状況 (北から)	図版7 テストピット48遺物出土状況 テストピット49遺物出土状況
図版4 遺物検出状況 (北東から) テストピット22遺物検出状況	図版8 テストピット53遺物出土状況 (東から) テストピット53遺物出土状況 (西から) 図版9 テストピット58遺物出土状況 テストピット62遺物出土状況

図版10	H 5 グリッド遺物出土状況 K/L 6 グリッド遺物出土状況（南東から）	図版21	2号土坑完掘状況 3号土坑完掘状況 5号土坑底面の状況 6号土坑完掘状況 7号土坑完掘状況 8号土坑完掘状況
図版11	K/L 6 グリッド遺物出土状況（東から） K 6 / 7 グリッド遺物出土状況	図版22	9号土坑完掘状況 10号土坑完掘状況 11号土坑完掘状況 12号土坑完掘状況 13号土坑完掘状況 14号土坑完掘状況 15号土坑完掘状況 16号土坑完掘状況
図版12	1号群検出状況 2号群検出状況 E 6 グリッド黒曜石集中検出状況 石斧集中検出状況 焼土完掘状況	図版23	23号土坑完掘状況 25号土坑完掘状況 26号土坑完掘状況 37号土坑完掘状況
図版13	1号集石検出状況 3号集石検出状況 5号集石検出状況 7号集石検出状況 9号集石出土状況 10号集石検出状況 11号集石検出状況 13号集石検出状況 15号集石検出状況	図版24	第Ⅰ文化層の石器群 第Ⅱ文化層の石器群 第Ⅲ文化層の石器 第Ⅳ文化層の石器群（1） 第Ⅳ文化層の石器群（2）
図版14	14号集石出土状況 16号集石検出状況 17号集石検出状況 18号集石検出状況 19号集石検出状況 20号集石検出状況 21号集石検出状況 23号集石検出状況 24号集石検出状況	図版25	第Ⅳ文化層の石器群（3） 第Ⅳ文化層の石器群（4） 第Ⅳ文化層の石器群（5）
図版15	25号集石検出状況 27号集石検出状況 29号集石検出状況 31号集石検出状況	図版26	撫糸文土器
図版16	30号集石検出状況 32号集石出土状況	図版27	早期 繩文土器
図版17	33号集石検出状況 1号土坑完掘状況 1号土坑底面の状況 4号土坑完掘状況 17号土坑完掘状況 18号土坑完掘状況 19号土坑完掘状況 20号土坑完掘状況	図版28	判ノ木山西式土器（1） 判ノ木山西式土器（2） 野島式土器（1） 野島式土器（2）
図版18	21号土坑完掘状況 22号土坑完掘状況 27号土坑完掘状況 28号土坑裁ち割り断面 29号土坑完掘状況 30号土坑完掘状況	図版29	野島式土器（3） 野島式土器（4） 野島式土器（5） 野島式土器（6） 茅山下層式土器（1）
図版19	31号土坑完掘状況 32号土坑完掘状況 33号土坑完掘状況 35号土坑完掘状況 38号土坑完掘状況	図版30	茅山下層式土器（2） 茅山下層式土器（3） 打越式土器（1）
図版20	40号土坑完掘状況 42号土坑完掘状況 44号土坑完掘状況 46号土坑完掘状況 47号土坑完掘状況	図版31	打越式土器（2） 打越式土器（3） 打越式土器（4） その他の沈線文土器（1） その他の条底文土器 判ノ木山西式土器（3）
		図版32	その他の沈線文土器（2） 早期 その他の土器（1） 早期 その他の土器（2） 早期 その他の土器（3） 上ノ坊式土器
		図版33	諸磯b式土器（1） 諸磯b式土器（2） 諸磯b式土器（3）
		図版34	諸磯b式土器（4） 諸磯b式土器（5） 前期 繩文土器 前期 その他の土器（1） 前期 その他の土器（2）

- 図版35 新道式土器（1） 新道式土器（2）
藤内式土器（1） 藤内式土器（2）
藤内式土器（3） 藤内式土器（4）
- 図版36 藤内式土器（5） 藤内式土器（6）
中期 繩文土器 その他の土器
- 図版37 繩文時代草創期の尖頭器類（1）
繩文時代草創期の尖頭器類（2）
DEF 5-8 グリッドの石器群（1）
DEF 5-8 グリッドの石器群（2）
DEF 5-8 グリッドの石器群（3）
- 図版38 DEF 5-8 グリッドの石器群（4）
- 図版39 DEF 5-8 グリッドの石器群（5）
DEF 5-8 グリッドの石器群（6）
- 図版40 DEF 5-8 グリッドの石器群（7）
EFG13-16 グリッドの石器群（1）
- 図版41 EFG13-16 グリッドの石器群（2）
EFG13-16 グリッドの石器群（3）
- 図版42 EFG13-16 グリッドの石器群（4）
EFG13-16 グリッドの石器群（5）
EFG13-16 グリッドの石器群（6）
- 図版43 EFG13-16 グリッドの石器（7）
CDE19-21 グリッドの石器群
HIJK 6-11 グリッドの石器群（1）
HIJK 6-11 グリッドの石器群（2）
HIJK 6-11 グリッドの石器群（3）
- 図版44 HIJK 6-11 グリッドの石器群（4）
HIJK 6-11 グリッドの石器群（5）
HIJK 6-11 グリッドの石器群（6）
HIJK 6-11 グリッドの石器群（7）
- 図版45 HIJK 6-11 グリッドの石器（8）
その他のグリッドの石器群（1）
その他のグリッドの石器群（2）

第1章 調査に至る経緯

混雑する東名・名神高速道路の抜本的な対策として昭和62年の道路審議会において第二東名・第二名神の建設が建議された。その後、第4次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道路建設法の一部改正等を経て、平成元年1月に開催された第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において飛島村～神戸市間の第二名神とともに、横浜市から東海市に至る延長約270kmの第二東名高速道路の基本計画が策定された。静岡県内においては東西に貫く形となり、その延長は約170kmに及ぶ。この基本計画の策定を受けて静岡県は平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、教育委員会文化課もメンバーとして参加した。

その後、第二東名の基本計画については、文化財を含む環境影響調査等が行われ、ほかの公共事業や地域開発計画との調整をはかった上、平成3年9月24日には静岡県長泉町～引佐町の都市計画決定告示がなされた。

こうした環境影響調査と並行する形で、埋蔵文化財の分布状況の把握作業もなされている。第二東名建設に関する調査の指示を受けた日本道路公団は平成4年2月17日付けで文化庁へ通知を行うとともに、平成4年5月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、長泉町～引佐町間の埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼を行った。また、平成4年8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務局長から静岡県教育委員会教育長宛に、「第二東名自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされている。これを受けた県教育委員会は平成4年9月29日に関係市町村教育委員会を集めて第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。踏査結果については、各市町村教育委員会からの回答をもとに協議を行い、県教育委員会が取りまとめたものを平成5年3月18日付けで静岡県教育委員会教育長から日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所等宛に回答がなされている。この時点での調査対象箇所は136ヶ所、調査対象総面積が $1,453,518\text{m}^2$ となっている。

その後、長泉町～引佐町間にについては、平成5年11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局および静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方について協議が行われた。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について協議されるとともに、発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所へ委託することが確認された。しかしながら、第二東名建設に伴う埋蔵文化財調査については、短期間に膨大な調査量が想定されるため調査体制をどのように確保するかが大きな課題となつた。

さらに平成6年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年に示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告ととりまとめがなされた。こうした状況調査や新たな踏査結果をもとに見直しがされた結果、この段階での調査対象地点は133箇所、調査対象総面積は $1,286,759\text{m}^2$ となった。

平成7年度後半には、路線の一部では幅杭の打設が開始され、埋蔵文化財の調査の開始についてもかなり見通しが出てきた。こうした状況の中で、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いを協議する場として、日本道路公団静岡建設所（平成6年2月設置）と県教育委員会文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、第1回の協議が平成7年12月13日に行われた。これ以降、細かい埋蔵文化財の取り扱いについてはこの会議で協議することとなつた。なお、日本道路公団静岡建設所は平成8年7月1日をもって日本道路公団静岡建設局に改組された。

平成8年度には、第二東名建設にかかる埋蔵文化財の調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、平成8年9月24日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについての確認書を締結した。さらに調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた3者は平成8年9月25日付けで第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。年度後半には、掛川市倉真のNo.94地点、浜北市大平のNo.136地点およびNo.137地点の確認調査が実施された。その後、平成9年度からは、発掘調査も本格化し、県内各地において確認調査から順次着手した。

一方、長泉町～御殿場市間についても日本道路公団に対し、平成9年1月31日付けで施行命令が出されている。この区間については、建設省の立会いにより平成6年度後半に踏査が行われ、調査対象地点のリストアップが行われたが、調査開始を受けて再度、平成10年9月2日付けで日本道路公団静岡建設局より静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」の照会がなされた。これをうけて、県教育委員会文化課は、関係する市町村教育委員会に平成10年9月25日付で再踏査の依頼をするとともに、10月2日には踏査の実施に関する打ち合わせを行った。11月上旬には長泉町、裾野市、御殿場市教育委員会から踏査結果についての報告がなされ、県教育委員会文化課がそれを取りまとめ、平成10年12月17日付けで県教育長から日本道路公団静岡建設局長宛の回答を行った。この区間で埋蔵文化財調査の対象となった箇所は21地点、調査総面積は108,734m²であった。関係者協議の結果、これらの調査対象地点についても、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施することとし、平成11年3月5日付けで協定変更を行った。

なお、第二東名にかかる埋蔵文化財の調査は関係者協議の結果、基本的には本線およびサービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路および取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかないため、本線部分の一部についても沼津市や静岡市、浜北市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応していただくとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、裾野市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、老平遺跡（第二東名No.145地点）の調査も行われた（及川司・野田正人2007『佛ヶ尾遺跡』より引用）。

第2章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

道路工事の工程の関係上、調査対象地の東半部を西半部に先行して平成16年度に引き渡すことになつたため、上り線センター・ラインに沿つて引き渡しラインを設定し、これを境に調査区を東半部と西半部に区分し、東半部の北側を1区、南側を2区とした（第1図）。1区の北部は当初、調査テントが張られていたが、調査区外にプレハブを建てる用意が整つたため、追加調査された場所である。調査面積は1区が1707.7m²、2区が46558.3m²、追加調査部分が764m²である。

調査区には、X軸（南北）方向にアルファベット、Y軸（東西）方向にアラビア数字を付して10m四方の方眼を設定し、これをグリッドとした（第2図）。国家座標（日本測地系 平面直角座標第Ⅷ系）旧基準（X, Y） = (-90530.0, 35560.0) 上を原点（A, 1）とした。第二東名沼津工区内の遺跡を同一座標で管理する必要性から、すべての遺構、遺物について国家座標のX、Y座標と水準値（Z座標）を記録した。本書では、調査区設定のための座標名称（例えば座標（X, Y） = (A, 1)）は、この座標を南西角とするグリッド名称として用いる。

第2節 調査の経過

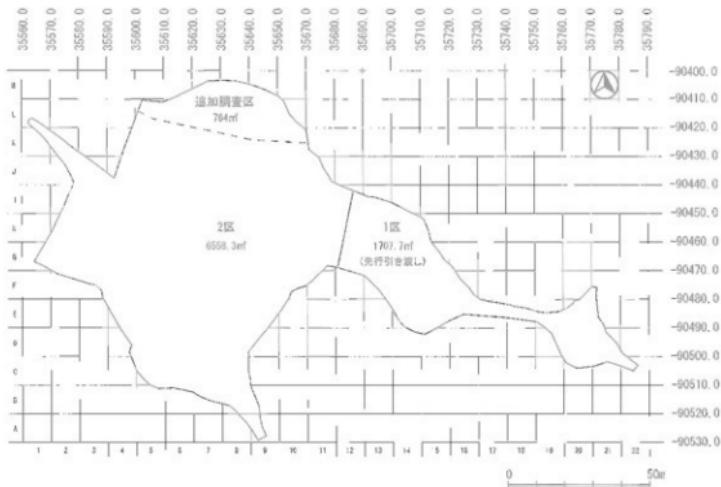
確認調査

調査区全域を対象として、平成14年9月上旬から11月上旬に実施した。テストピットは16箇所（TP1-16）を設定した（第2図）。また、E16-19グリッドにかけて東西に伸びるトレチを設定した。以上の設定範囲は、樹根と表土を重機で除去した後、人力で掘削し、掘削後に撮影と実測を行った。諸作業の終了後、重機で埋め戻し作業を行い、確認調査を終了した。確認調査の結果、時期不明（だが中世の可能性がある）遺構と、縄文時代から旧石器時代の遺構と遺物が出土したため、本調査を行うことになった。

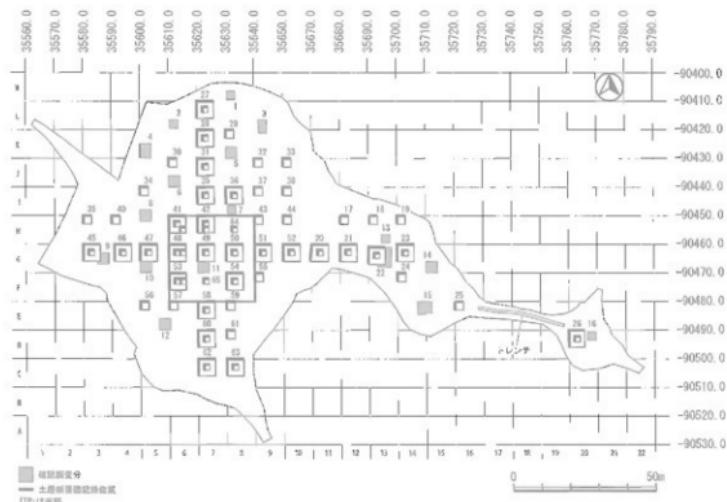
本調査

平成15年4月から16年3月まで行った。15年4月に重機で抜根と表土除去を行い、同月から人力掘削作業を開始した。5月中旬までに富士砂沢スコリア包含層（SNZ）まで掘り下げ、時期不明の土坑を検出し、撮影および実測を行った。5月中旬から、富士砂沢スコリア包含層下位の暗褐色土層を掘り下げ、縄文時代の遺構と遺物を検出し、撮影及び実測を行った。7月下旬から、栗色土層（KU）と富士黒色土層（FB）を掘り下げ、引き続き縄文時代の遺構と遺物の検出、撮影、実測を行った。

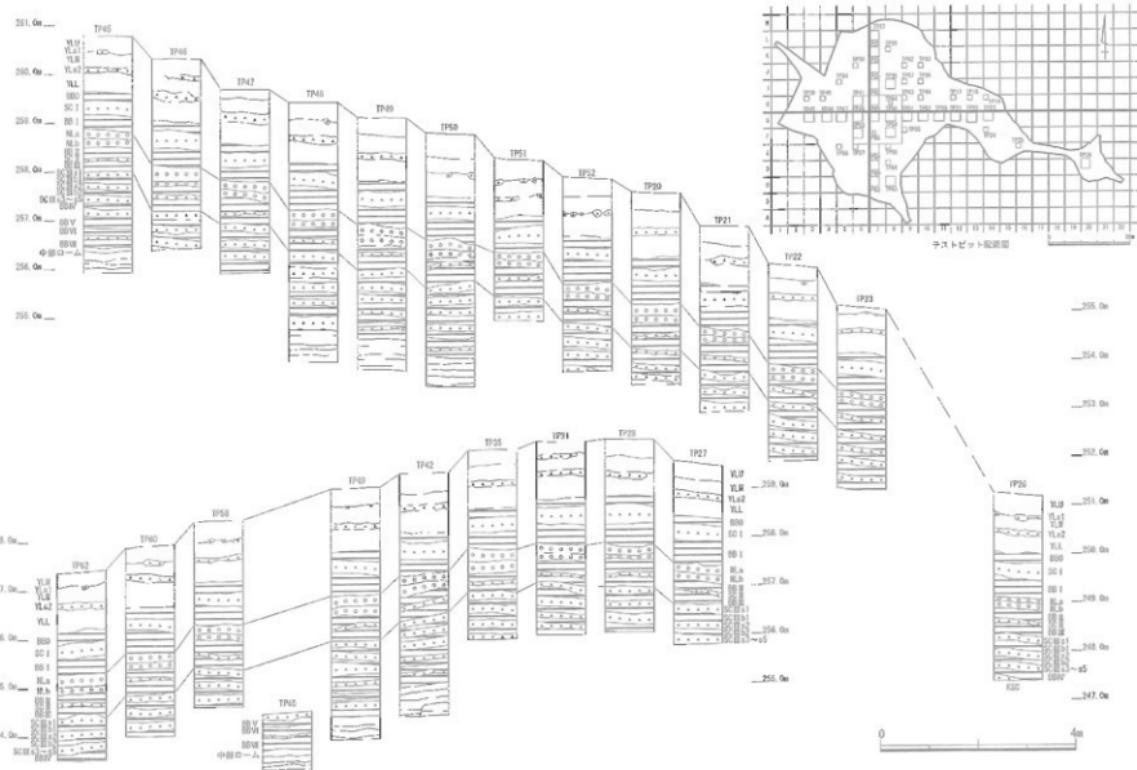
11月上旬から、休場層上部（YL_U）を掘り下げ、縄文時代及び旧石器時代の遺構と遺物を検出し、撮影と実測を行った。同月下旬からは、休場層中部（YLM）から下部（YLL）を掘り下げ、引き続き旧石器時代の遺構と遺物を検出し、撮影と実測を行った。休場層より下位の層準については、2月中旬より49箇所のテストピット（TP17-65）を追加設定し（第2図）、遺構と遺物の検出状況を把握しながら、中部ローム上面付近まで（休場層より最大3mの深さまで）掘り下げた。掘削終了後、すべてのテストピットの位置及び北壁と西壁の土層を記録し（注1）、3月下旬に埋め戻して全ての作業を終了した。



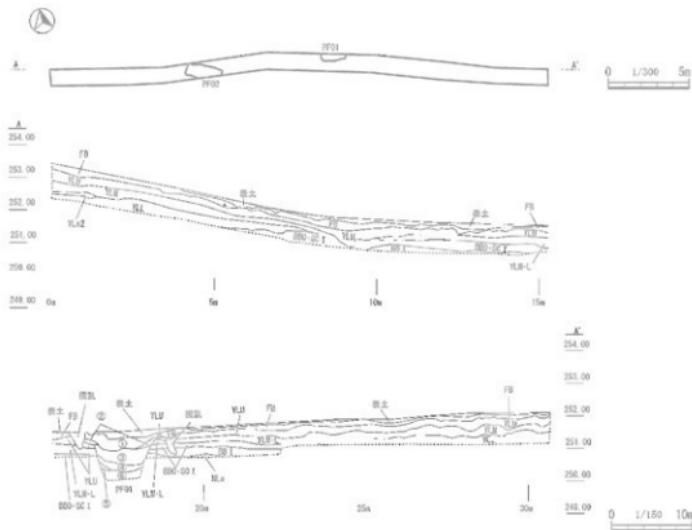
第1図 調査区の設定



第2図 テストピット配置



第3図 土層の堆積状況



第4図 トレンチ北壁断面

土層と文化層

本遺跡は愛鷹山の東南東へ伸びる尾根上にあり、地形はこの方向へ傾斜している。この尾根は、調査区東部で急速に幅を狭めており、E16-19グリッドにかけて馬の背状となる。土層の堆積は良好で、一部の擾乱を除けば、縄文時代の主要な包含層である富士黒色土層（FB）から栗色土層（KU）、および旧石器時代の主要な包含層である休場層が、調査区のほぼ全域で確認された。ただし調査区東部ではE16-19グリッドにかけて砂沢スコリア包含層準（SNG）の欠落が認められた（第4図）。

各テストピットにおいて、北壁と西壁の土層断面を記録した。第5図は、これらの記録に基づいて本遺跡の土層を模式化し、観察所見と検出遺物の時期（文化層）設定をあわせて、その対応関係を表したものである。遺構と遺物は、旧石器時代がAT包含層直上の第I黒色帯（BB I）から休場層上部（YLU）までに4枚の文化層にわけられ、縄文時代が漸移層（ZN）から天城カワゴ平バミス包含層（KGP）に草創期から中期まで含まれていた。

第1層は黒色を呈する表土である。

第2層は2500年前に噴出したとされる富士砂沢スコリアを含む層である。本書ではSNZと略す。

第3層は2800年前に噴出したとされる天城カワゴ平バミスを含む層である。本書ではKGPと略す。縄文時代の集石と石器群が僅かに検出された。

第4層はKUである。栗色土層である。縄文時代前期の石斧集中（集積地点）が検出された。下位にあるFBとあわせ、石器の主要包含層準である。

第5層はFBである。富士黒色土層である。縄文時代早期土器群の主要な包含層である。

第6層はZNである。上位のFB層から下位のYLU層への漸移層である。FB下部からこの層を挟んでYLUまでが、有舌尖頭器を主体とする石器群の主要な包含層準である。

第7層はYLUである。休場層上部にあたる。2基の礫群と、切出形石器および両面加工尖頭器を主

体とする第IV文化層石器群の主要な包含層準である。異なる時期の石器群が混在しているかもしれない。第8層はYLS1である。休場層スコリア帶1である。

第9層はYLMである。休場層中部にあたる。下半で1基の礫群で検出された。第III文化層の包含層準である。

第10層はYLS2である。休場層スコリア帶2である。

第11層はYLLである。休場層下部にあたる。下位にあるBB0とあわせ、背部加工ナイフ形石器（背部加工尖頭形石刃石器）を含む第II文化層石器群の包含層準である。

第12層はBB0である。休場層直下黒色帶である

第13層はSCIである。第Iスコリア層である。

第14層はBB1である。第I黒色帶である。剥片・碎片等で構成される第I文化層石器群の包含層準である。

第15層はNLaである。ニセローム層上部である。

第16層はNLbである。ニセローム層下部である。28000年前に噴出したとされる姶良Tn火山灰の濃集層準である。

第17層はBBIIである。第II黒色帶である。

第18層はSCIIである。第IIスコリア層である。

第19層はBBIIIである。第III黒色帶である。

第20層はSCIII s1である。第IIIスコリア帶スコリア1である。

第21層はSCIII b1である。第IIIスコリア帶第黒色帶1である。

第22層はSCIII s2である。第IIIスコリア帶スコリア2である。

第23層はSCIII b2である。第IIIスコリア帶第黒色帶2である。

第24層はSCIII s3-5である。第IIIスコリア帶スコリア3から5に相当すると思われるが、堆積が不十分で区別はできなかった。

第25層はBBIVである。第IV黒色帶である。

第26層はスコリア質土層である。

第27層はBBVである。第V黒色帶である。

第28層はBBVIである。BBVとの間にスコリア層が観察されなかった。

第29層はスコリア質土層である。

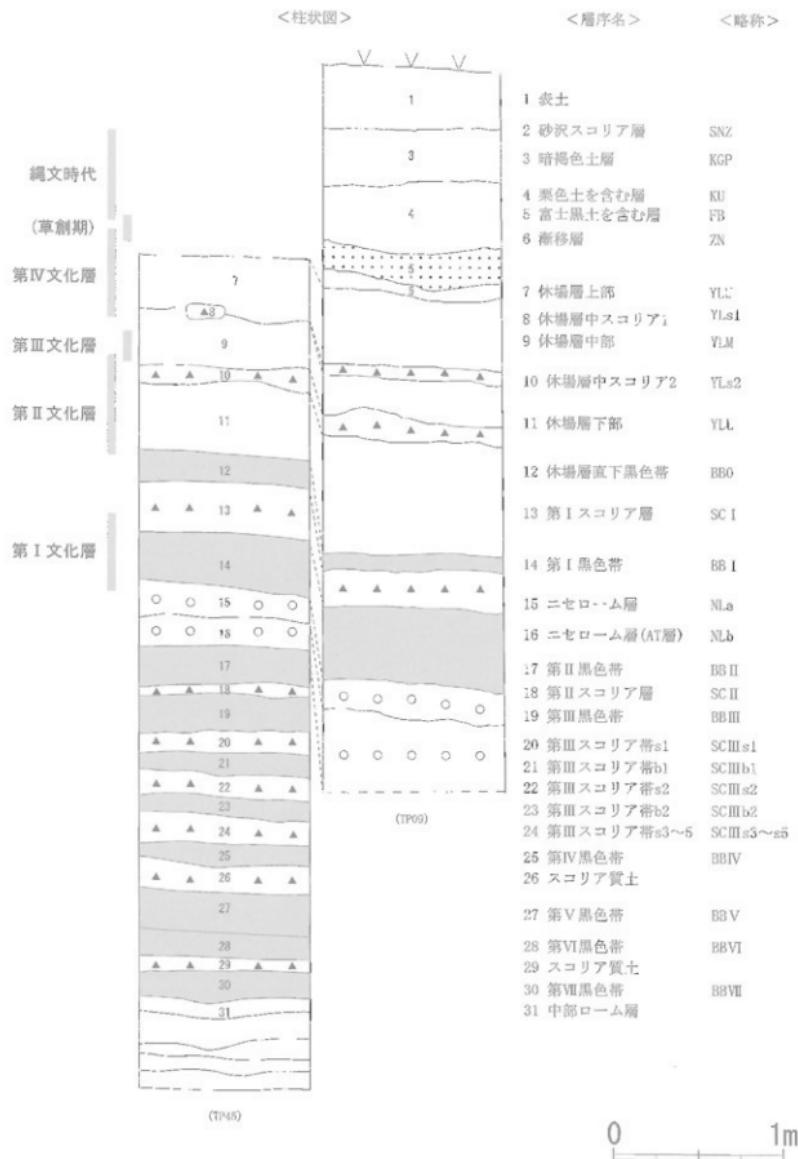
第30層はBBVIIである。第VII黒色帶である。本地域の後期旧石器時代石器群のうち最も古い一群の包含層である。

第31層は中部ロームである。本書ではMLと略す。BBVIIとの間にスコリア層は観察されなかった。

第3節 報告書の作成

資料整理は平成19年6月から平成20年5月まで、洗浄と注記と石材分類を基礎整理棟、接合作業と実測ほか編集から校正までを長泉地区事務所でそれぞれ実施した。黒曜石産地分析は、沼津工業高等専門学校の望月明彦氏に依頼して蛍光X線分析を行って頂いた。分析対象資料は、BB1層からZN層までのほぼ全点と、FB層以上の主要なトゥール（石鎚等）である。石器実測およびトレースは、礫石器類（磨石、敲石、石皿、台石、礫器）を当研究所で行い、剥片石器類および石核、およびそれらの接合資料、打製石斧と一部の礫石器類（礫器、砥石）を株式会社シン技術コンサルと株式会社東京航業研究所に委託した。

注1 土層断面図は、本書の文化層設定等を説明するのに最低限必要なもの以外、すべて削愛した。



第5図 層序と文化層

第3章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

老平遺跡はJR裾野駅から北西に約2.5km離れた裾野市大畑字老平他に位置する。ここは富士山の南東、愛鷹山の東麓である。愛鷹山は約50～40万年前から活動を始め、約10万年前に活動を停止した火山である。その後、約8万年前から活動を開始した古富士火山の噴出物が堆積して愛鷹ローム層を形成した。約1万2千年前には新富士火山から芝川溶岩流が流出し、その後も火山灰が厚く堆積した。この古富士火山の活動期に数回の開析作用が起こり、その結果形成された樹根状の尾根の上に新富士火山（現在の富士山）の噴出物が覆い、いまの地形が造り上げられた。愛鷹ローム層は現在、上部ローム（関東の立川ロームに対比）、中部ローム（同じく武蔵野ロームに対比）、下部ローム層に分けられており、西は富士川、東は裾野市まで広がっている。本遺跡はこのようにして形成された最大幅約60m程度の痩せ尾根上の、標高250～260mに立地する。調査区の南北には黄瀬川の支流によって形成された比高差40m程の開析谷が存在し、それぞれを挟んで佛ヶ尾遺跡（No.147地点）と老平遺跡（No.145地点）が立地している（第6図）。

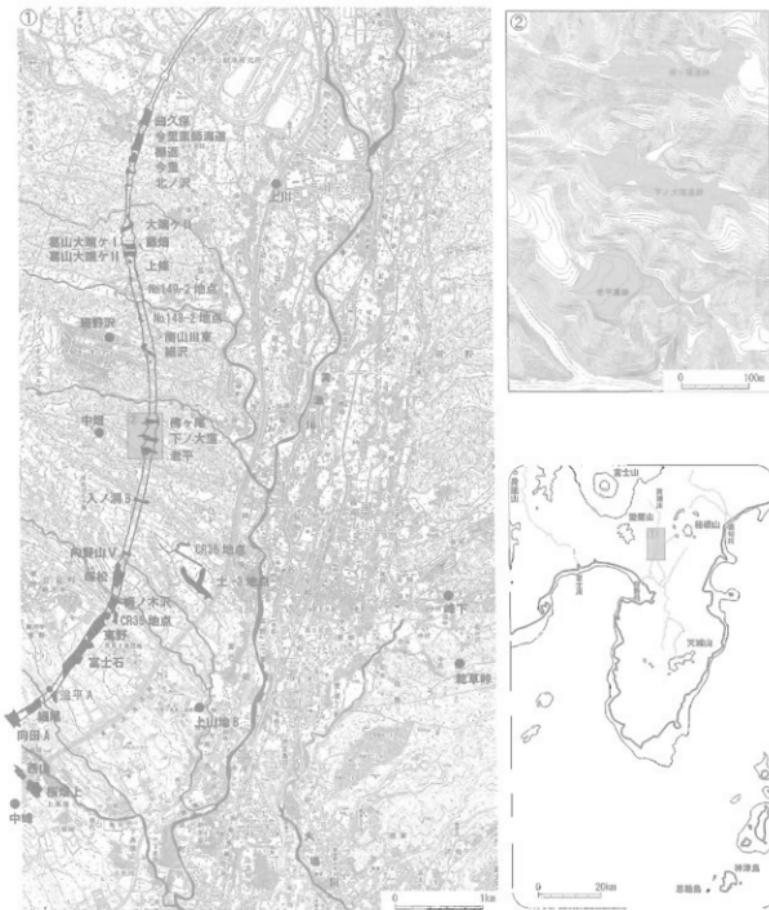
第2節 歴史的環境

黄瀬川を挟んで西側、愛鷹山東南麓には旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在する。発掘調査された遺跡の殆どは長泉町と沼津市に含まれているが、これまで愛鷹東麓の裾野市にはたいへん少ない状況が続いていた。しかし、第二東名関連の調査によって、この地域にも多数の遺跡が存在することが確認された（第6図①）。

後期旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡としては、これまで上川遺跡（中野ほか1987）や富沢平林遺跡が知られ、ほかには尾畠遺跡（裾野市教育委員会編1987b）、丸山II遺跡（裾野市教育委員会編1982）、屯屋遺跡（渡瀬1990）、相生原遺跡（渡瀬前掲）などで僅かな石器が回収されていただけだった（裾野市編1992）。第二東名関連の調査によって、裾野市の棚返遺跡・今里遺跡（壬生ほか2008）、佛ヶ尾遺跡（野田ほか2007）、下ノ大窪遺跡（阿部ほか2008）、入ノ洞B遺跡・内野山V遺跡・塙松遺跡（篠原ほか2008）などが発見された。南に隣接する長泉町では梅ノ木沢遺跡（篠原ほか2008）、向田A遺跡（富樫2007）、西山遺跡（笹原2006）などが続いている。どの遺跡でも該期の遺構と遺物が重層的に検出されている。

旧石器時代の陥り穴とみられる第III黒色帶期の土坑群は、箱根山西麓に多いことが知られているが、愛鷹山南麓も同様の状況である。本報告されたものでは、鉄平遺跡（笹原ほか2003）で7基、向田A遺跡で5基などがあったが、さらに最近、塙松遺跡の16基が追加された。今後報告されると思われる周辺諸遺跡の事例もあわせ、旧石器時代における昆蟲研究の最重要資料となるに違いない。

縄文時代早期の遺跡では住居跡の発見例が目覚ましい。早期後半では從来、上川遺跡（中野ほか 前掲）で早期末の竪穴住居跡2軒、中畑遺跡（井上1986）で竪穴住居跡を含む遺構群、富沢内野山I遺跡（芹沢1986）で竪穴住居跡と推定される遺構2基が知られている。打越式期の集落としては箱根山西麓の三島市乾草跡遺跡（三島市教育委員会編2005）もつとに有名である。第二東名関連の発掘調査では、



第6図 愛鷹山東麓の遺跡分布

愛鷹山東麓における第二京名跡調査報告書（総論文）の刊行状況

山久保遺跡	未刊行	上林遺跡	未刊行	入ノ門遺跡	高井・荻野 2008	富士石道路	未刊行
今里直筋道遺跡	未刊行	3-149 地点	未刊行	内野山V遺跡	高井・荻野 2008	追平A 道跡	未刊行
御殿遺跡	佐々木 2008	3-148-2 地点	未刊行	御松遺跡	高井・荻野 2008	御尾遺跡	未刊行
今里道跡	王立・佐々木 2008	西山直筋道跡	未刊行	CB36 地点	未刊行	向田A 道跡	宮原 2007
北ノ沢	未刊行	御沢遺跡	未刊行	二-5 道点	未刊行	西山道跡	猪俣 2007
大瀬ヶII道跡	未刊行	御ヶ尾道路	森田・武田 2007	後ノ本沢遺跡	菅原千・沼名 2008	板津上道跡	未刊行
御館遺跡	未刊行	下ノ大庭道跡	阿部・羽崎 2008	OK35 地点	未刊行		
御山大塙ヶI道跡	未刊行	老平道跡	本書	黒野道跡	未刊行		

佛ヶ尾遺跡で打越式期の堅穴住居跡が6軒、下ノ大窪遺跡でも同時期の堅穴住居跡11軒および堅穴住居状遺構5基が検出された。両遺跡に共通して礎石器類と石鐵が多量に組成しており、安定した生業活動を窺わせている。

前期の遺跡は早期や中期に較べて少なく（注1）、住居跡となるとさらに希少である。細野沢遺跡（裾野市教育委員会編1982）で堅穴住居跡5軒を含む前期後半の集落跡が検出されている。

中期の遺跡はとても多いが、住居跡の報告は裾野市になく、今後の事例増加が俟たれる。周辺をみわたしても多いとはいえないのだが、望月由佳子の集成（望月2000）によれば、南に接する長泉町で勝坂式期の上山地B遺跡（平川ほか1988）で27軒、中峰遺跡（小野ほか1971）で24軒と突出した数の堅穴住居跡が検出されているほか、桜畑上遺跡（小野ほか1971）と桜畑下遺跡（小野ほか前掲）でそれぞれ1軒、沼津市でも広合遺跡（高尾ほか1987）で3軒、大郭遺跡（沼津市1958）で2軒、大芝原遺跡（沼津市前掲）、中見代第II遺跡（高尾ほか1988）、ニツ洞遺跡（沼津市教育委員会1991）、大谷津遺跡（石川ほか1982）でそれぞれ1軒ずつ発見されている。中期の住居跡では少数の集落とそれを取り巻く多数の潜在地点との規模の格差が明瞭である（注2）。

縄文時代後期から古墳時代については資料が乏しく、遺跡の実態は現在のところ不明である。

本書で報告する老平遺跡では、後期旧石器時代後半期から縄文時代中期までの遺構と遺物が検出されている。旧石器時代文化層4枚、縄文時代草創期石器群、早期から中期の集石、土坑、石器、土器が検出された。

注1）瀬川裕市郎の集成（1990）では、静岡県内で縄文土器の出土する1,245遺跡の内訳は、草創期3遺跡（0.2%）、早期366遺跡（29.4%）、前期218遺跡（17.5%）、中期518遺跡（41.6%）、後期125遺跡（10.0%）、晚期15遺跡（1.2%）となる。中期の遺跡は縄文遺跡全体の約4割にも及ぶ。

注2）望月の集成（1999）は、静岡東部地域における中期のセトウメントパターンの地理的変異を考察する上でたいへん示唆的な情報を提供している。それによると、箱根山西麓の縄文中期遺跡は300遺跡で、住居跡があるのは18遺跡（6.0%）である。このうち、住居跡1~4軒のものが13遺跡、5~9軒のものが4遺跡、そして10軒以上となると1遺跡しかない。愛鷹山東南麓では、37遺跡中、住居跡のあるものが10遺跡（27.8%）で、おなじように軒数で分けると、それぞれ27遺跡、8遺跡、0遺跡、2遺跡である。遺跡数が箱根山西麓にくらべて8分の1以下と少ないが、逆に住居跡の出現比率がかなり高いこと（4.6倍）に注意したい。また、参考までに同様の視点から天城山西北麓をみると、68遺跡中、住居跡が検出されたのは9遺跡（13.2%）で愛鷹山南麓より低率だが、軒数別では、それぞれ4遺跡、1遺跡、4遺跡である。10軒以上で構成される集落の比率がかなり高いようだ。「地域」面積と発掘調査面積比率は考慮していないので安易な推測は避けたいが、少なくともここでは、箱根山西麓地域の居住地点は天城山西北麓や愛鷹山南麓にくらべて低調である点は指摘し得よう。

住居軒数と遺跡数の相関

住居跡数（軒数）	0軒	1~4軒	5~9軒	10軒以上	計
箱根山西麓	282	13	4	1	300
愛鷹山東南麓	27	8	0	2	37
天城山西北麓	9	4	1	4	9

参考文献

- 阿部敬・岩崎しのぶ 2008『下ノ大窪遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 石川治夫・北川恵一 1982『子の神・大谷津・山崎II・丸尾II』沼津市教育委員会。
- 井上輝夫 1986『裾野市大畑中畑遺跡発掘調査報告書』裾野市教育委員会。
- 井上輝夫・宮井英一ほか 1982『裾野市千福市場平第1・第2 小杉平第1・第2 細野沢遺跡』裾野市教育委員会。
- 小野眞一・白石竹雄 1971『上長窪遺跡群』長泉町教育委員会。
- 笠原千賀子・岩名健太郎 2008『梅ノ木沢遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 笠原千賀子・吉村たまみ 2003『鉄平遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 笠原芳郎 2006『西山遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

- 鈴木敏中・芦川忠利・池谷初恵 2005 『三島市埋蔵文化財発掘調査報告X 乾草峠遺跡 ほか』三島市教育委員会。
- 裾野市教育委員会 編 1975 『裾野市日向・丸山I・丸山II遺跡発掘調査報告書』。
- 裾野市教育委員会 編 1978 『裾野市深良城ヶ尾遺跡発掘調査報告書』。
- 裾野市教育委員会 編 1992 『裾野市史 第一巻 資料編 考古』。
- 瀬川裕市郎 1990 「第2章第2節 繩文時代遺跡の概観」『静岡県史 資料編I 考古一』、299-312頁、静岡県。
- 芹沢充寛 1986 『裾野市大畑中畑・裾野市富沢内野山遺跡発掘調査報告書』裾野市教育委員会。
- 高尾好之・池谷信之 1987 『広合遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。
- 高尾好之・池谷信之ほか 1988 「土手上・中見代第II・第III遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会。
- 富樫幸志 2007 『向田A遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 中野国雄・渡瀬治ほか 1987 『上川遺跡』静岡県教育委員会。
- 野田正人・成田修一 2007 『佛ヶ尾遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 沼津市 編 1958 『沼津市誌 下』。
- 沼津市教育委員会 編 1991 『広合e区・二ツ洞遺跡a区発掘調査報告書』。
- 平川昭夫・杉本誠 1988 『上山地遺跡』長泉町教育委員会。
- 平川昭夫・前嶋秀張 1986 『野台遺跡』『中尾・イラウネ・野台』長泉町教育委員会。
- 三島市教育委員会 編 2005 『乾草峠遺跡』『三島市埋蔵文化財調査報告X』。
- 千生亮輔・佐々木富士子 2008 『翻返遺跡 今里遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 望月由佳子 1999 「第II章 遺跡の環境」『押出シ遺跡(遺構編)』、3-9頁、静岡県埋蔵文化財調査研究所。
- 渡瀬治 1990 『裾野市内における旧石器時代および繩文時代について』『裾野市史研究』第2号、21-57頁、裾野市教育委員会。
- 薦科泰裕・荻野正裕ほか 2008 『入ノ洞B遺跡 塚松遺跡 内野山V遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所。

第4章 旧石器時代の遺構と遺物

概要

旧石器時代石器群の時期区分は、平面/垂直分布密度、石材、型式等の観点から行った。その結果、以下のような文化層が設定された（表1）。

すべてニセローム層（AT包含層）よりも上位にある後期旧石器時代後半期の文化層である。各文化層には石器集中と礫群とが観察され、前者は4枚の文化層で計9箇所、礫群は計3基である。点数が最も多いのは第IV文化層で、ほかの文化層では僅少である。なお、SCIII（第III黒色帯直下の第IIIスコリア帯）から亜角礫が検出されたが、調査区全体で僅か1点（重さ40g）だったので、文化層の要件にはしなかった。

表1 旧石器時代文化層の概要

層位	文化層	石器	集中	礫群	主要石器群
ZN	海移層				
YL _L	休場層上部	IV	67	3	両面加工尖頭器 石刃/剥片側ナイフ形石器 切出形石器 細石刃
YL _{S1}	休場層中スコリア1				
YL _M	休場層中部	III	2		石刃
YL _{S2}	休場層中スコリア2	II	19	2	石刃/剥片側ナイフ形石器 切出形石器
YL _L	休場層下部				
BB0	休場層直下黒色帯				
SC I	第Iスコリア帯	I	5	1	剥片
BB I	第I黒色帯				
NL _A	ニセローム層上部				

第1節 第I文化層

概要

J/K7グリッドのBB Iを中心で検出された石器5点と礫5点で構成される。石器集中は1箇所を確認したが、礫は集中していなかった（第7/8図）。石器群の内訳は、諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片2点と碎片1点、ガラス質黒色安山岩製剥片2点である（表2）。

1. 石器集中（第9図、表3）

1箇所が検出された。

石器集中1

5点の剥片で構成される。本文化層の剥片石器類全点が含まれる。

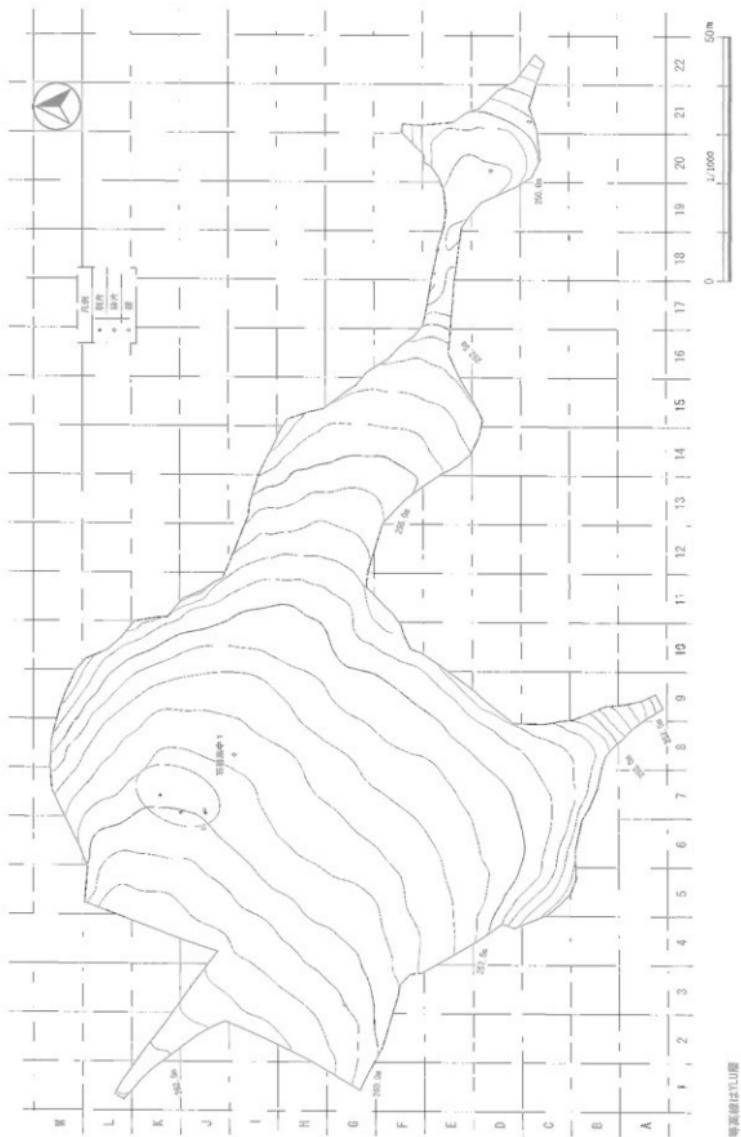
2. 出土石器の検討（第10図）

1と2は共にBB I出土のガラス質黒色安山岩製剥片である。石器集中1に含まれる。

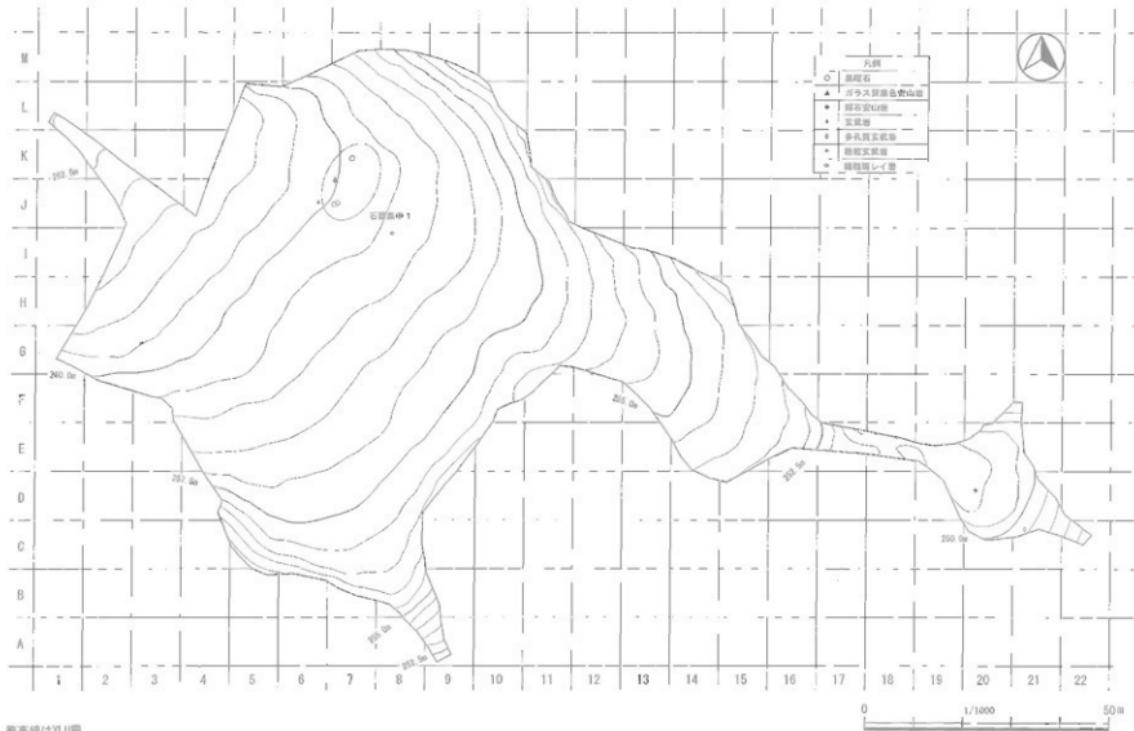
1は縦長剥片の端部の折れたものである。2は自然面を打面として同一方向に連続剥離する過程で得られた剥片で、末端右を僅かに折損する。右側縁上部の急角度な剥離面は二次加工ではない。

3. 磕群

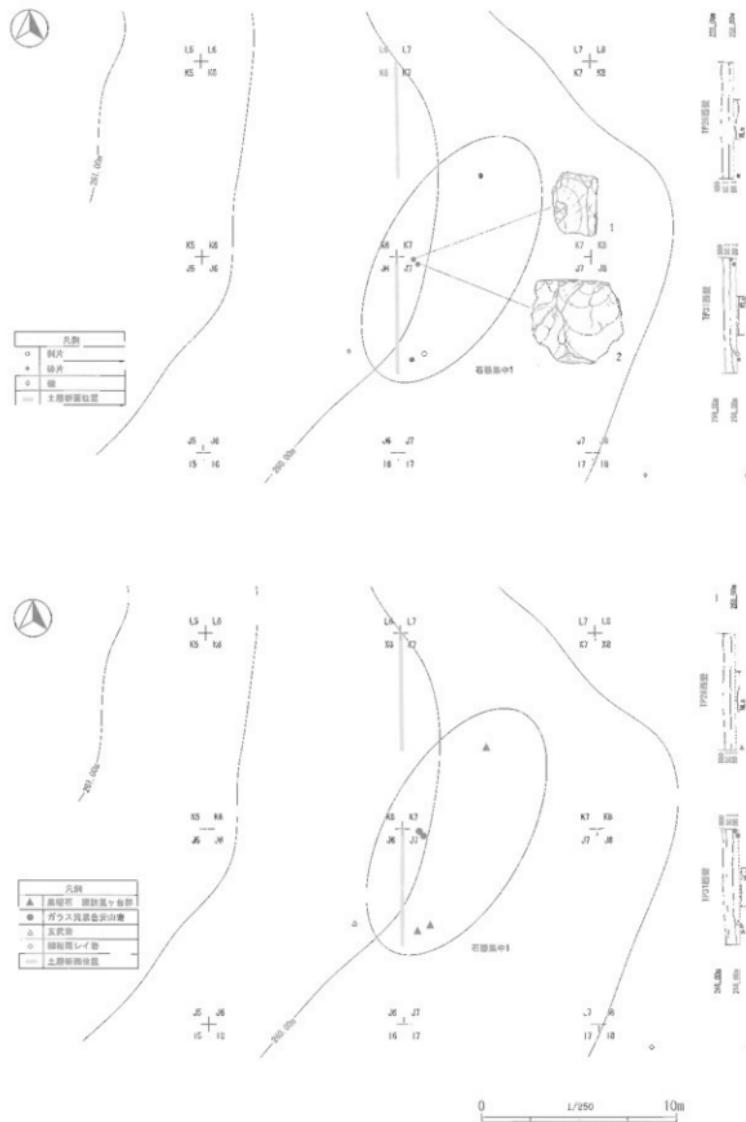
5点の礫が回収されたが、分布は散漫で、それぞれの被熱痕跡も不明瞭であった。



第7図 第1文化層 器種別分布



第8図 第1文化層 石材別分布



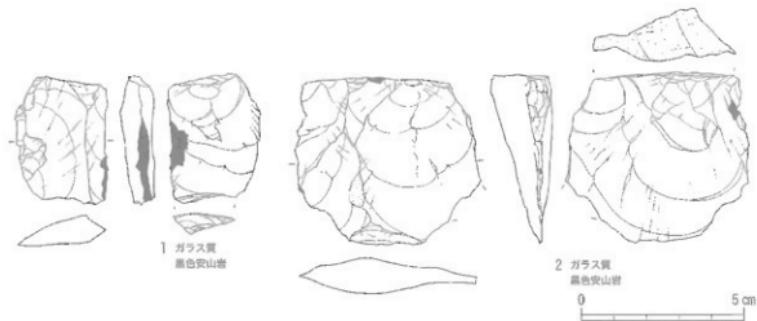
第9図 第1文化層 石器集中1 器種別分布（上）石材別分布（下）

表2 第Ⅰ文化層 石器石材組成

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	計
調訪里ヶ台群			
剥片	2	2	4
碎片	1	1	
計	3	2	5

表3 石器集中Ⅰ 石器石材組成

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	計
調訪里ヶ台群			
剥片	2	2	4
碎片	1	1	
計	3	2	5



第10図 第Ⅰ文化層の石器群

第2節 第Ⅱ文化層

概要

調査区西南部F6とD7グリッドのBB0からYLLを中心に、ホルンフェルスを主体とする石器集中2箇所と集中を構成しない石器と礫、調査区東端部で輝石安山岩製剥片が検出された（第11/12図）。総点数は26点で、内訳は切出形石器1点、ナイフ形石器7点、石刃1点、剥片7点、碎片3点および礫7点である（表4）。

1. 石器集中（第13/14図）

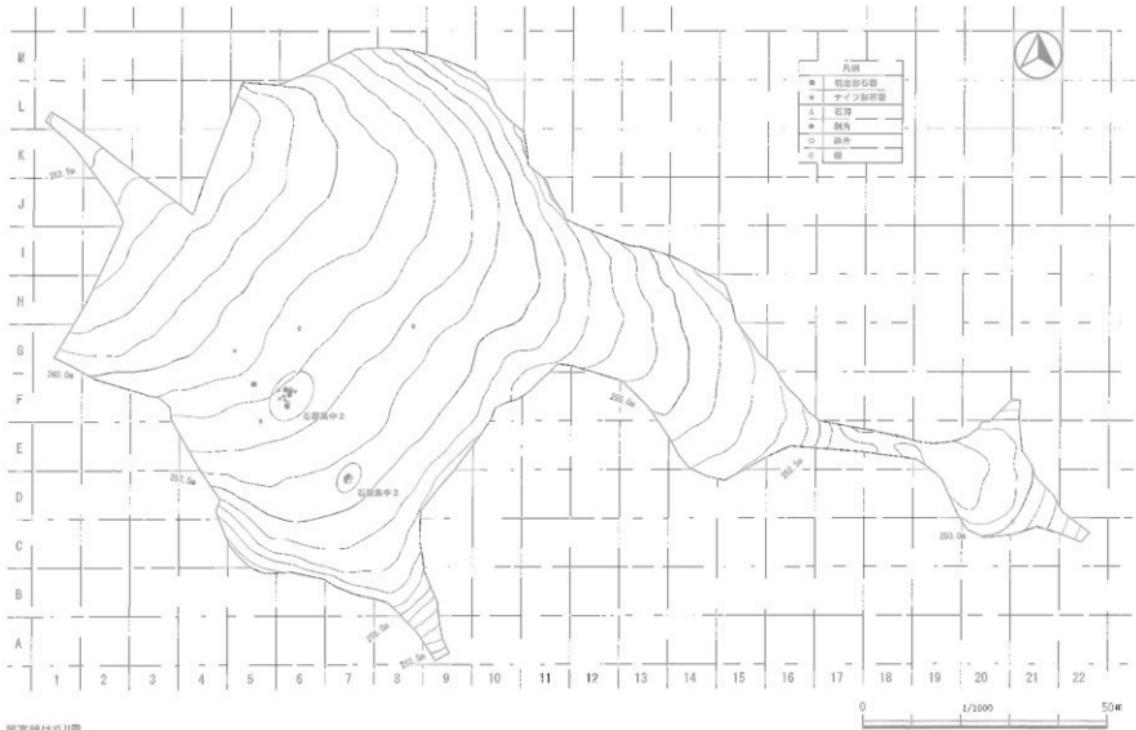
2箇所が検出された。

石器集中2（表5）

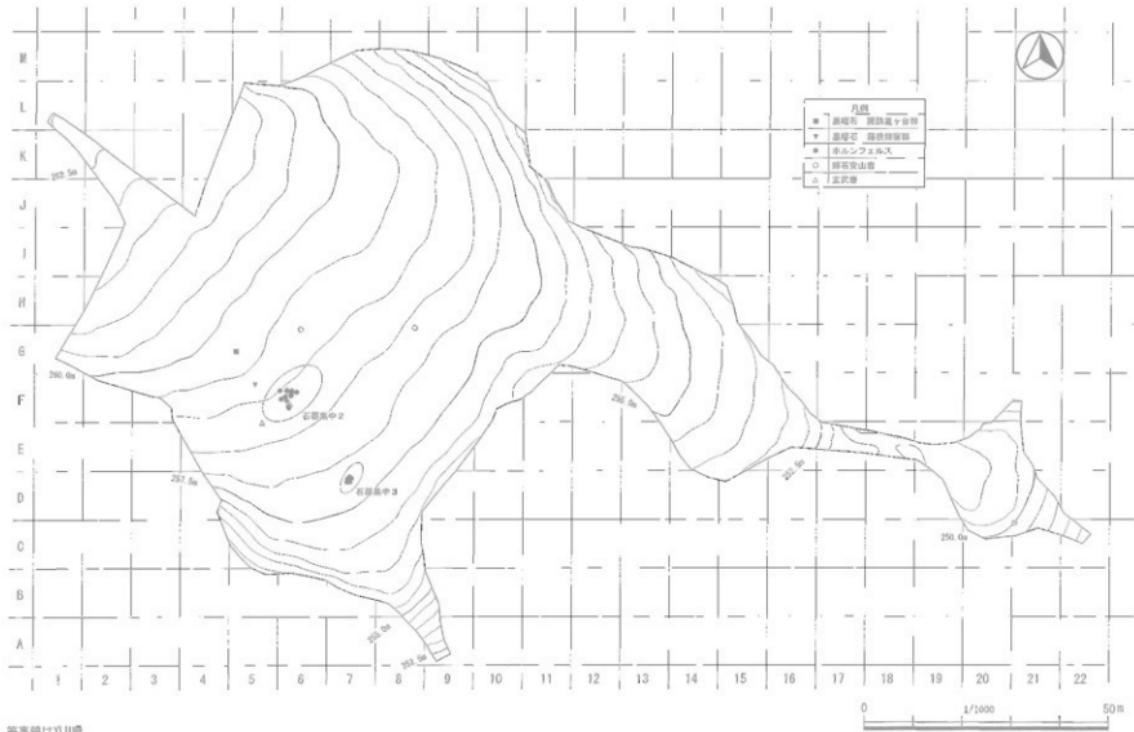
F6グリッドのYLL上部からYLL下部で、数点で構成される砾群と重複して検出された。ホルンフェルス13点で構成される。内訳は、ナイフ形石器5点、石刃1点、剥片6点、碎片1点である。小規模ながら、石刃がここで生産された可能性がある。ただし、碎片の点数からみると、ナイフ形石器の大半はここで製作されたものではないかも知れない。

石器集中3（表6）

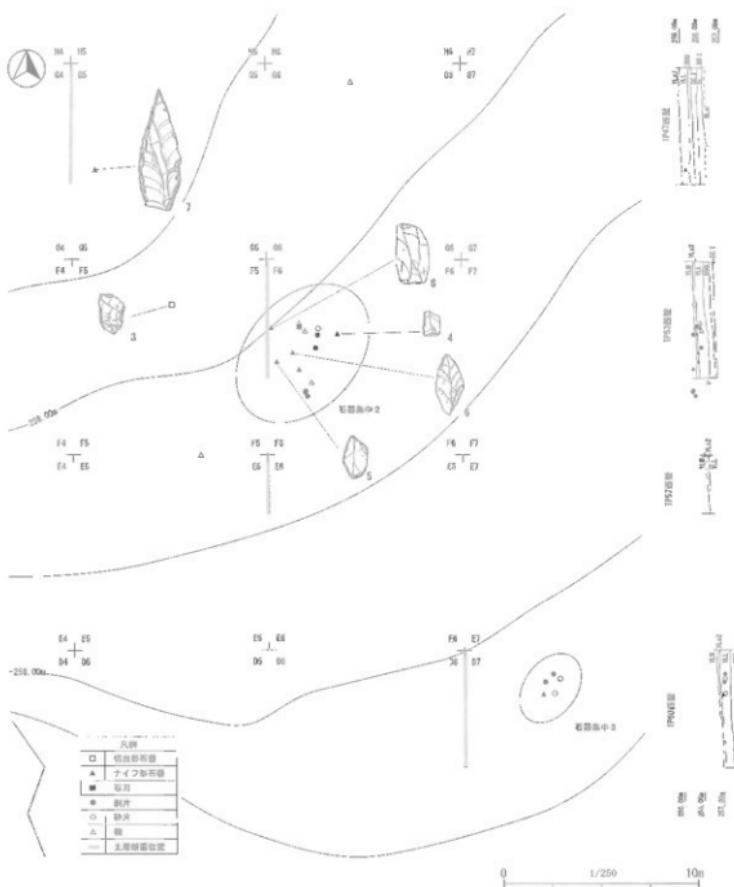
D7グリッドのYLLを中心に検出された。ホルンフェルス5点で構成される。内訳は、ナイフ形石器1点、剥片2点、碎片2点である。ナイフ形石器は、図示していないが、他の剥片類とは異なる母岩によるもので、両端部が折損する小型石刃製の部分加工品である。



第11図 第II文化層 器種別分布



第12図 第II文化層 石材別分布

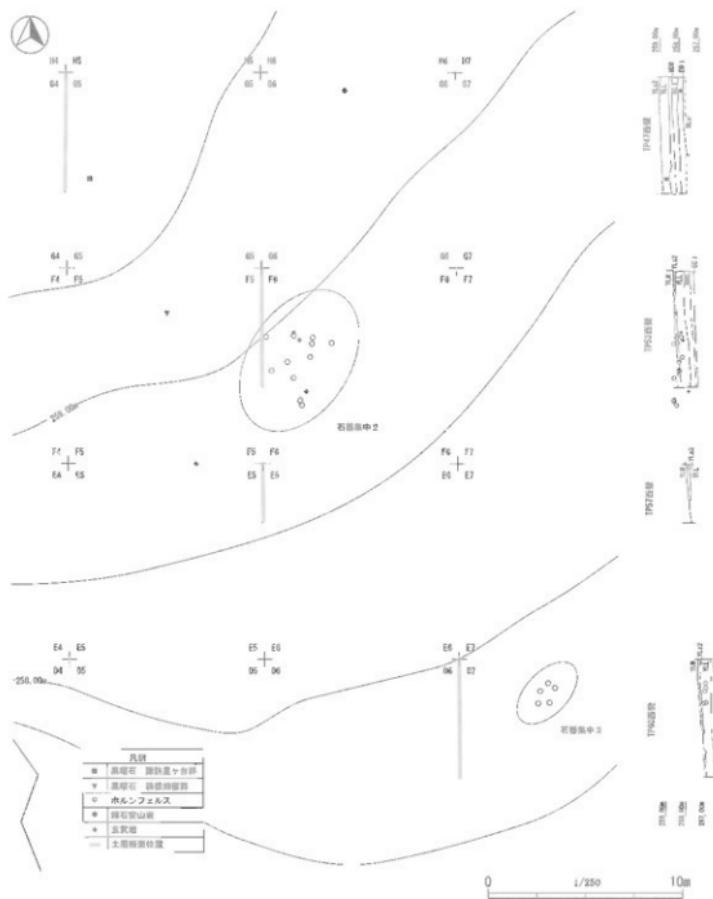


第13図 第II文化層 石器集中2・3 器種別分布

2. 出土石器の検討（第15図）

切出形石器（3）

3は箱根烟宿黒曜石製である。同一方向への連続剥離過程で得られた幅広剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端に急角度の二次加工を施して略台形に整形する。刃部の通常的な微細剥離痕と折れ面は使用の痕跡と推測される。また、本文化層に同石材は他に認められないので、ほぼ製品の状態で撒入されたものと推測される。YLL出土で、石器集中を構成しない。



第14図 第II文化層 石器集中2・3 石材別分布

ナイフ形石器（4-8）

4-6と8はホルンフェルス製ナイフ形石器である。風化しやすい石質のため、剥離面の遺存状態は良いとはいえない。

5は剥片を素材として背部と基部を整形する。欠損と剥落のため、具体的な観察は不可能である。YLL出土で石器集中2に含まれる。

6は石刃を素材として、これを縦位に用い、急角度の二次加工で打面を大きく切り取り、端部に僅かな二次加工を施して尖頭形に整形する。8607とは異なる母岩である。YLL出土で石器集中2に含まれる。

4は石刃を素材として、これを縦位に用い、右側縁に急角度の二次加工で背部を整形する。基部と端部を折損しているので、上下も定かでない。

7は諏訪星ヶ台産黒曜石製で背部加工尖頭形石刃石器ともいいう。大型石刃を素材にして、これをやや斜位に用い、左側縁のほぼ全体を急角度に二次加工して背部とし、右側縁の打面寄りを急角度に二次加工し、ならびに裏面のバルブに対して平坦に剥離を施して基部を整形する。基部は折損している。刃部には連続的な微細剥離痕が観察され、執拗な使用履歴を窺わせている。本文化層に同石材は他に認められないので、ほぼ製品の状態で搬入されたものと推測される。YLL出土で、石器集中を構成しない。

8は基部加工尖頭形石刃石器ともいいう。上下に打面を有する石核から得られる石刃を素材として、これを縦位に用い、基部両側縁とバルブに二次加工を施し打面を残す。

3. 碠群

数点の小型亜円礫が検出されたが、遺構として認識できるものはない(第11/12図)。いずれもYLL出土である。

表4 第II文化層 石器石材組成

	黒曜石 切出形石器	ホルン フェルス ナイフ形石器	計
石刃	1	6	7
刮片		1	1
碎片		7	7
計	1	3	19

表5 石器集中2 石器石材組成

	ホルン フェルス
ナイフ形石器	5
石刃	1
刮片	6
碎片	1
計	13

表6 石器集中3 石器石材組成

	ホルン フェルス
ナイフ形石器	1
刮片	2
碎片	2
計	5

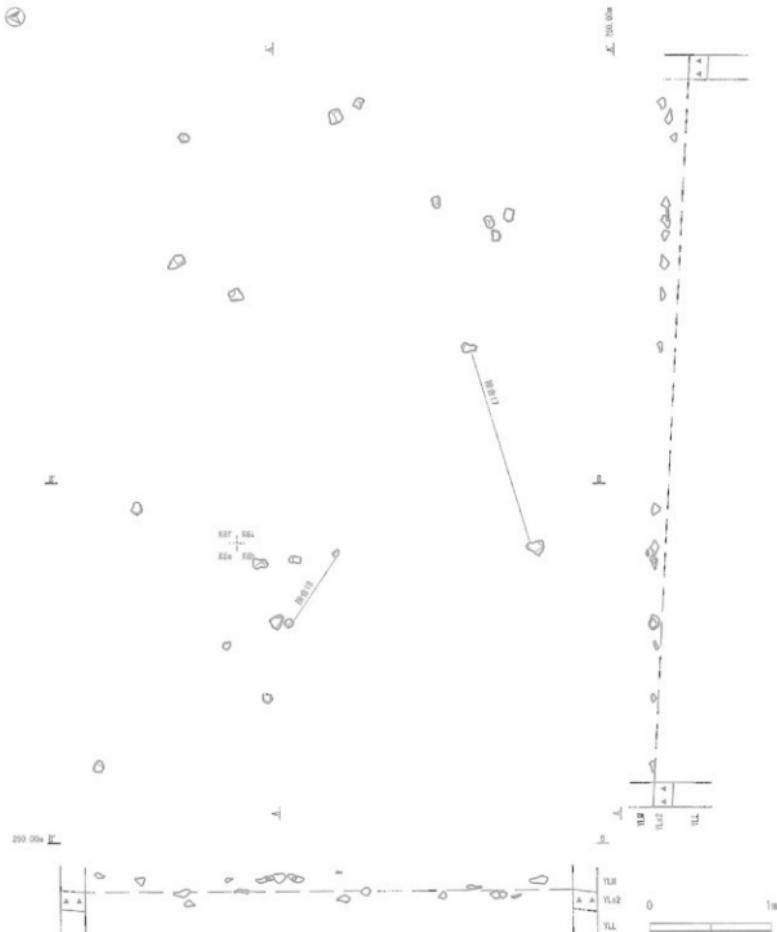


第15図 第II文化層の石器群

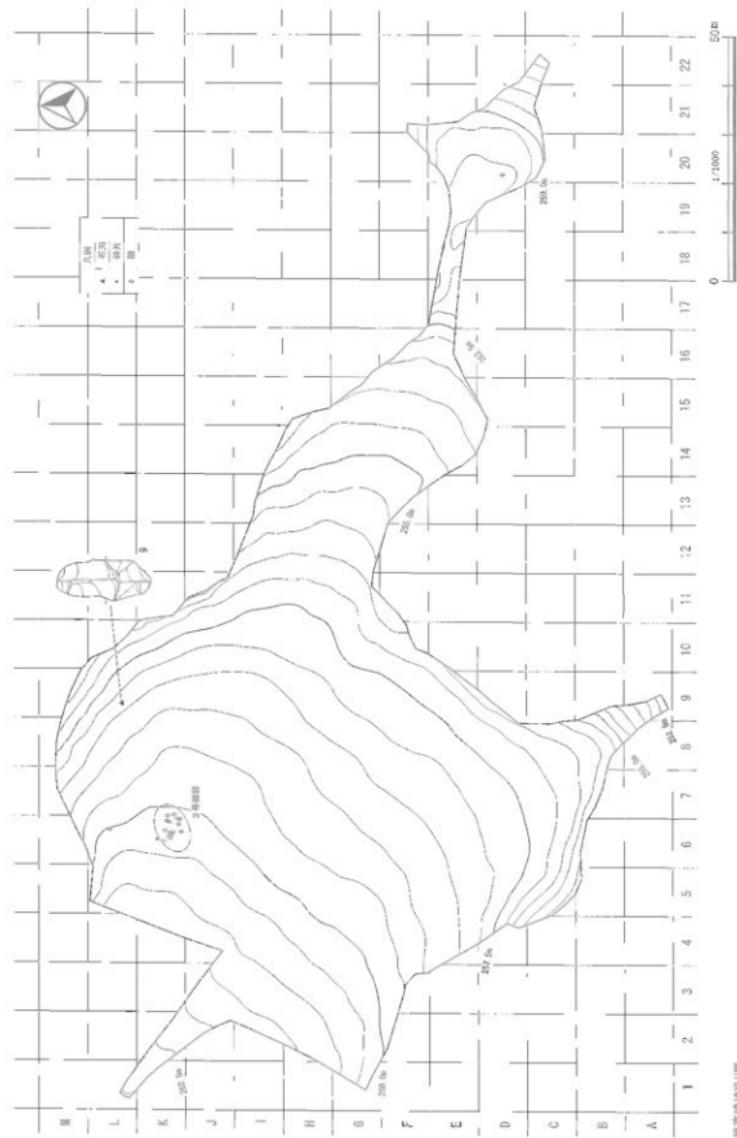
第3節 第Ⅲ文化層

概要

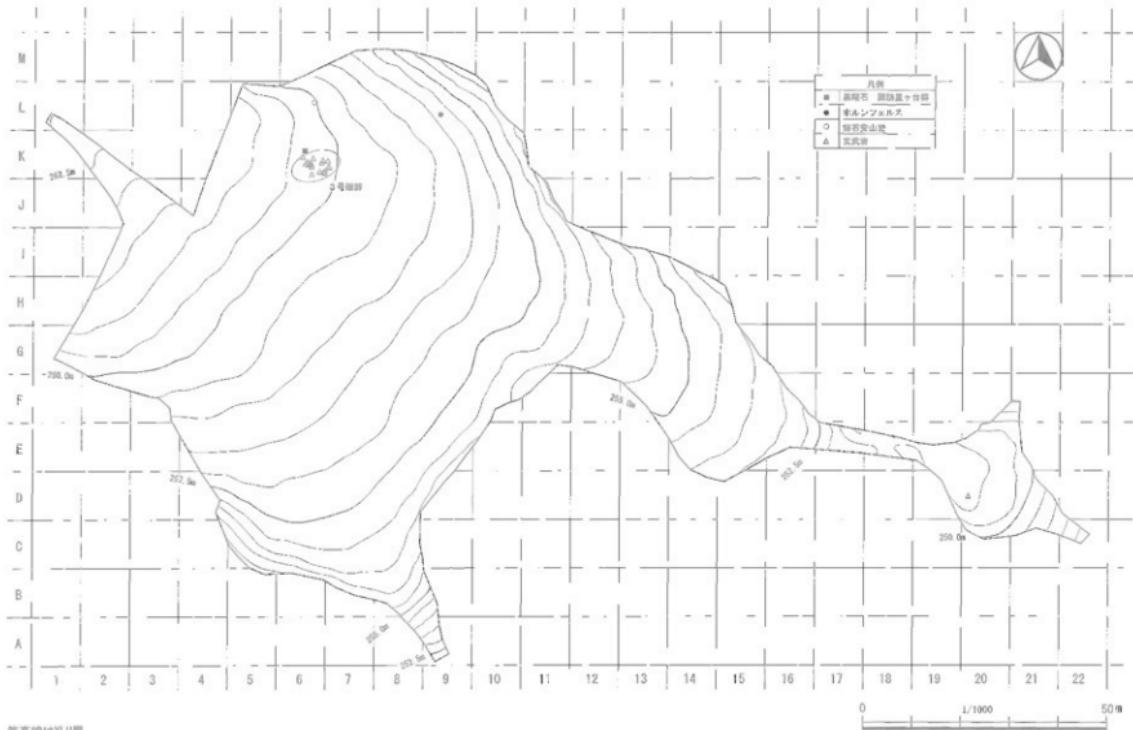
調査区北部のYLMを中心として、ホルンフェルス製石刃1点、諏訪星ヶ台産黒曜石製碎片1点、礫群1基が確認された（第17/18図、表7）。また、E20グリッドでも礫1点が検出された。



第16図 3号砾群



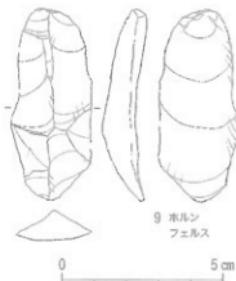
第17図 第III文化層 器種別分布



第18図 第III文化層 石材別分布

表7 第III文化層 石器石材組成

	黒曜石 安山岩	輝石 安山岩	玄武岩	ホルン フェルス	計
調訪星ヶ台群					
石刃				1	1
砂片	1				1
礫		2	20		22
礫を除く計	1	0	0	1	2



第19図 第III文化層の石器

1. 出土石器の検討（第19図）

石刃（9）

9はホルンフェルス製である。YLM出土である。風化が激しく詳細な観察は困難である。

2. 磨群（第16図、表27）

3号磨群 K6/7グリッドで検出された。YLM下部を底面とし、20点で構成される。

第4節 第IV文化層

概要

調査区西部のYLUを中心に、石器集中3箇所と磨群2基が検出された（第20/21図）。礫を除く石器総数は67点である（表8）。尖頭器（5点）、切出形石器および横打剥片製ナイフ形石器（計16点）を中心とし、角錐状石器（1点）、削器類（4点）や細石刃（4点）等を組成する。石材は黒曜石製32点、ホルンフェルス製16点、ガラス質黒色安山岩製5点などで構成される。黒曜石は調訪星ヶ台産を主とする中部高地産9点、伊豆箱根産17点、神津島産2点、そして珍しいことに高原山産1点（二次加工剥片）が含まれる。二次加工痕のあるトゥールが石器群全体の43.3%（29/67点）に及び、非常に高い比率を示すのが特徴である。

また、多種類の石器群が複合していることも特徴だろう。器種と石材との対応関係はたいへん明瞭で、切出形石器群が伊豆一箱根産黒曜石、小型石刃製ナイフ形石器が中部高地産黒曜石、尖頭器がホルンフェルスと安山岩などに結びついている。伊豆一箱根産黒曜石製の小型剥片製石器群は高尾好之の編年におけるⅢ期に該当する特徴が認められるが、尖頭器石器群との共存を妨げるものではない。Ⅲ期石器群の主要な包含層準であるBB I-YLLとの間には、YLM下部の文化層を挟んでおり、十分な層位差が認められることを明記しておく。

しかし他方で、ナイフ形石器と細石刃の共伴は疑わしい。この点については、新しい時期の石器群が同一層準に重疊している可能性がある。

表8 第IV文化層 石器石材組成

調査 黒ヶ台群	夢利 冷山群	和田 鹿山群	和田美都 ライト群	黒曜石				ガラス質 黒色安山岩	輝石 安山岩
				高麗山 甘池沢群	箱根 箱宿群	天城 柏崎群	神津島 恩施島群		
切出形石器					3			1	
ナイフ形石器	2		1	i		7			
尖頭器	2							1	
角錐状石器					1				
刮器						1			
二次加工剝片					1	1			
微細剝離痕剝片		1				1			
縫石刃							1	2	
削片							1		
刮片	1							3	
鉗片	1					3			
石核								1	
敲石									1
螺旋									1
計	6	1	1	1	1	14	3	2	5
									2

調査 安山岩	沉没岩	デイサイト	水晶	ホルン フェルス	計
切出形石器					4
ナイフ形石器		1			12
尖頭器				2	5
角錐状石器					1
削器	1	1		1	4
二次加工剝片	1				3
微細剝離痕剝片					2
縫石刃		1			4
削片					1
刮片	2	4		10	20
鉗片			1	1	6
石核				2	3
敲石					1
螺旋					1
計	2	2	5	3	67

石器集中6（第26図、表11）

G13グリッドのYLU下部を中心に分布し、ホルンフェルス製5点、デイサイト製5点などで構成される。デイサイト5点はほぼ同一個体とみられ、この場所で小規模な消費が行われたことを示唆している。なお、この集中の東に5mほど離れた場所のKUから切出形石器が1点検出されている。旧石器時代遺物包含層よりもかなり上位で検出されたことになるが、風化の度合いと二次加工技術等の特徴から旧石器時代の所産と推定した。

2. 出土石器の検討（第27-29図）

主要な石器38点を図示した。

■ 二次加工石器類

切出形石器（10-13）

10は箱根畠宿産黒曜石製である。同一方向からの連続剥離によって得られた剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端を折断し、この折断面を打面とする二次加工をそれぞれ背面と腹面に施す。YLU出土で石器集中5に含まれる。

表9 石器集中4 石器石材組成

ホルン フェルス	計
剥片	6

表10 石器集中5 石器石材組成

頭部 墨ヶ台群	夢科 冷山群	尾根 烟宿群	天城 柏崎群	神津島 恩賜島群	ガラス質 黒色安山岩	計
					黒曜石	
切出形石器			1			1
尖頭器	1					1
削器		1				1
微細剥離痕剥片		1				1
鋸石刃			1			1
剥片	1				2	2
碎片			2			3
石核					1	1
計	2	1	2	2	3	11

表11 石器集中6 石器石材組成

	ガラス質 黒色 安山岩	繊粒 安山岩	デイサイト	ホルン フェルス	計
削器	1	1	1	3	
二次加工剥片		1			1
剥片	1	4	2	7	
碎片			1	1	
石核			1	1	
計	1	2	5	5	13

11は箱根烟宿産黒曜石製である。求心剥離によって得られた剥片を素材にして、これを横位に用い、打面と末端を背面加工して背一基部を整形する。基部は互いに接する二次加工部によって尖状を呈する。刃部は、僅かに欠損したが、残された一部の腹面に連続的な微細剥離痕が観察された。YLU出土で石器集中に含まれない。

12は箱根烟宿産黒曜石製である。同一方向への連続剥離過程によって剥離された剥片を素材として、これを逆斜位に用い、直線的な刃部を残してその他の部位全体に連続する急角度な二次加工を施す。KU出土であるが、風化の度合いと技術形態的特徴から旧石器時代の石器と判断した。石器集中に含まれない。

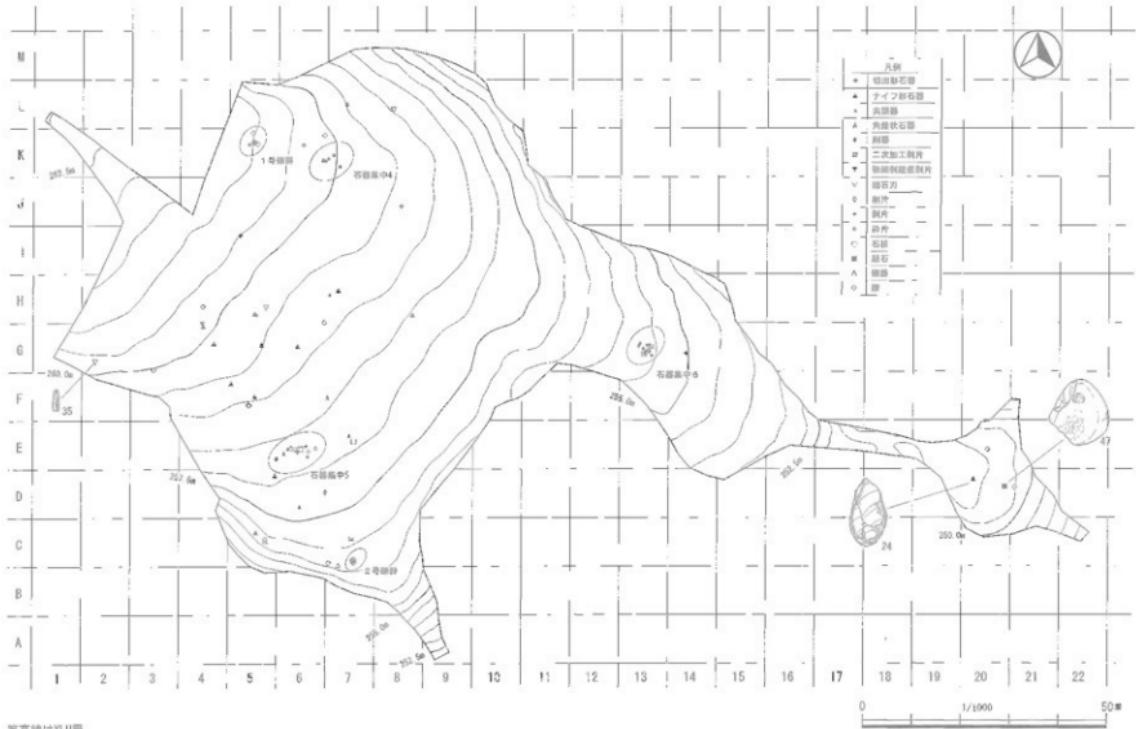
13は黒曜石製（産地未分析）である。ほぼ同一方向からの連続剥離によって得られた剥片を素材に、これを横位に用い、打面と末端に急角度の二次加工を施す。基部は切り取りよりもあとに折れているので、全体形状は不明である。KU出土であるが、風化の度合いと二次加工技術の特徴から旧石器時代のものと判断した。石器集中には含まれない。

ナイフ形石器（14-24）

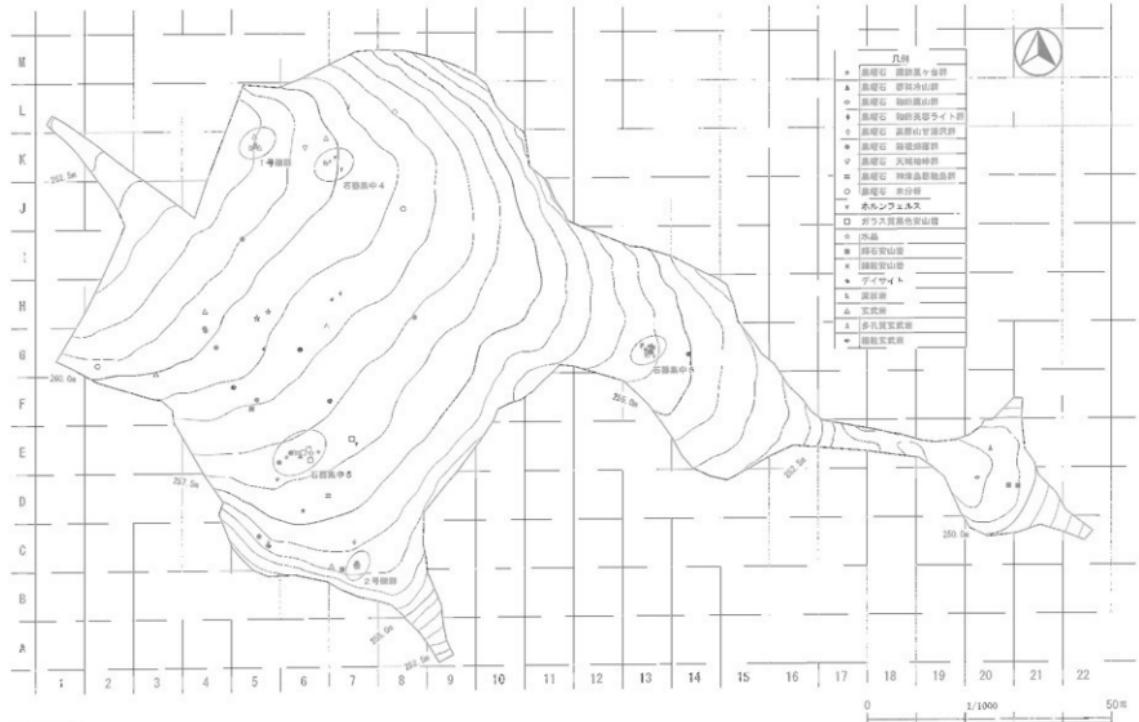
14は箱根烟宿産黒曜石製である。縦長剥片を素材にして、これを逆位に用い、左側縁に背部を整形する。基部全体が折損しているので素材剥片や全体形状は不明である。YLU出土である。

15は箱根烟宿産黒曜石製で横打剥片を素材とする。同一方向から連続剥離する過程で得られた剥片を素材として、これを横位に用い、打面を弧状に切り取って背部とし、末端を内湾するように切り取って基部を整形する。横打剥片であるが、刃部が上に偏っているとまではいえないで形態分類上はナイフ形石器とした。YLU出土で石器集中に含まれない。

16は箱根烟宿産黒曜石製である。半求心剥離によって得られた剥片を素材として、これを縦位に用い、

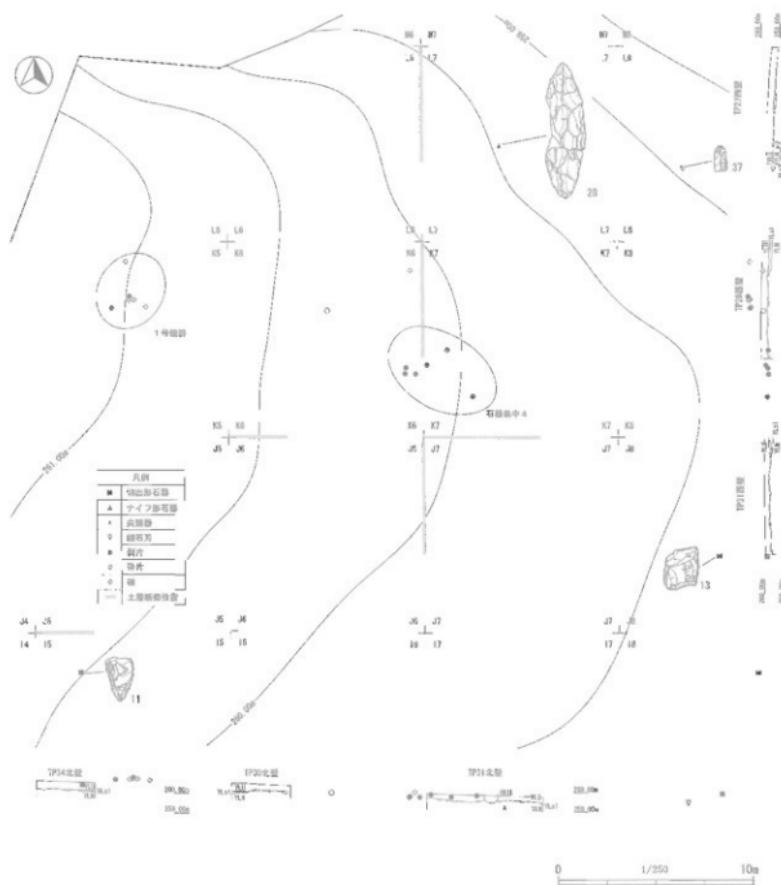


第20図 第IV文化層 器種別分布



等高線はYLU層

第21図 第IV文化層 石材別分布

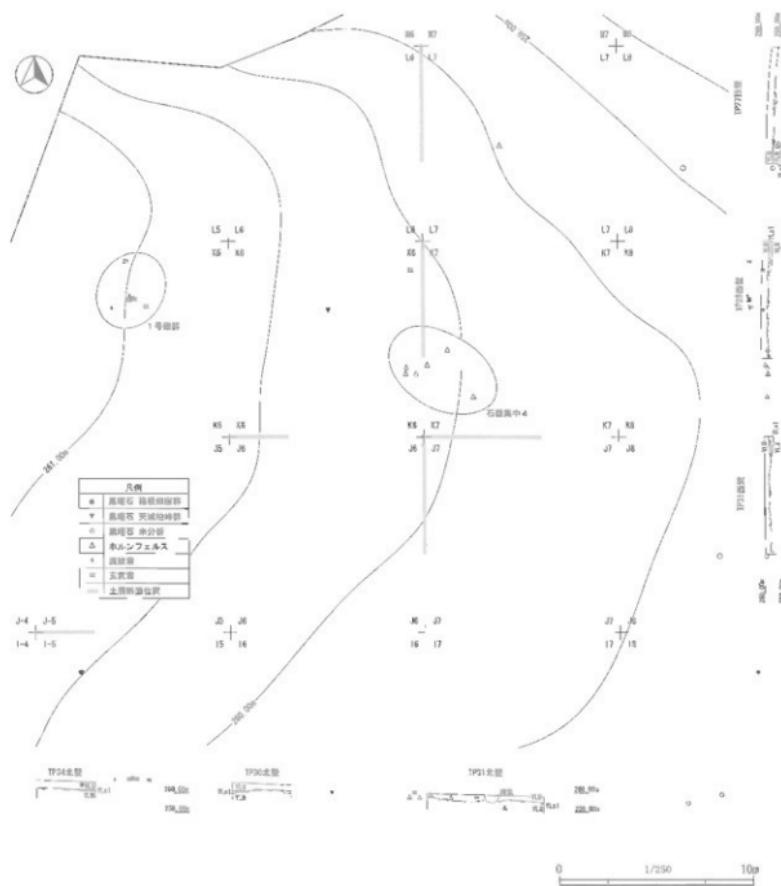


第22図 第IV文化層 石器集中4 器種別分布

左側縁に緩やかな弧状を呈する背部を整形し、右側縁に内湾する基部を整形する。また、背部加工部位を打面として基部に平坦削離を施す。尖端部が折損しているので全体形状は不明であるが、右側縁の形状からみて、失われた部分は刃部と推測された。YLU出土である。

17は箱根烟宿産黒曜石製で横打剥片を素材とする。尖端部が折損するので、全体形状が分からぬ。台形石器ないし切出形石器の可能性もある。

18は箱根烟宿産黒曜石製である。縦長剥片を素材としてこれを縱位に用い、左側縁に急角度の二次加工を施し背部を整形し、右側縁の中位にも二次加工を施す。尖端を折損する。YLU出土である。

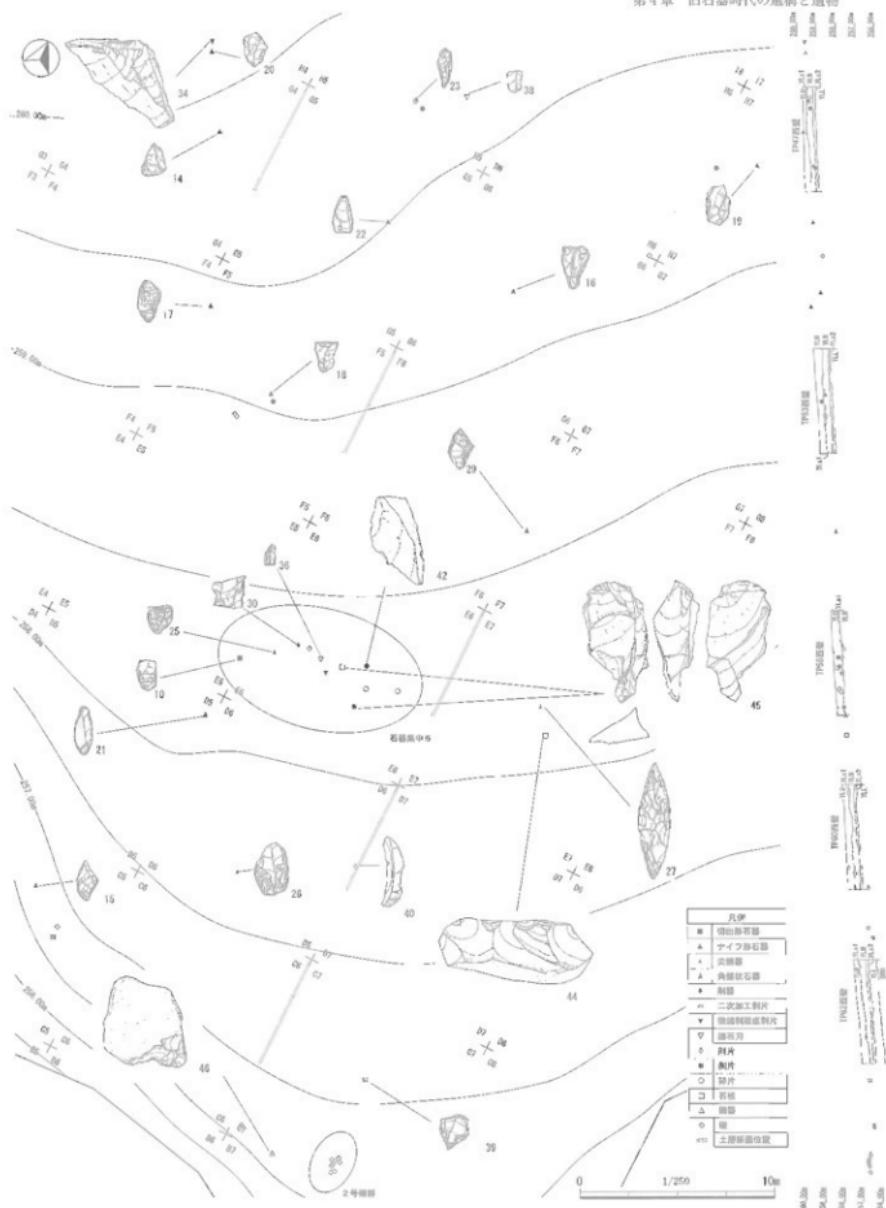


第23図 第IV文化層 石器集中4 石材別分布

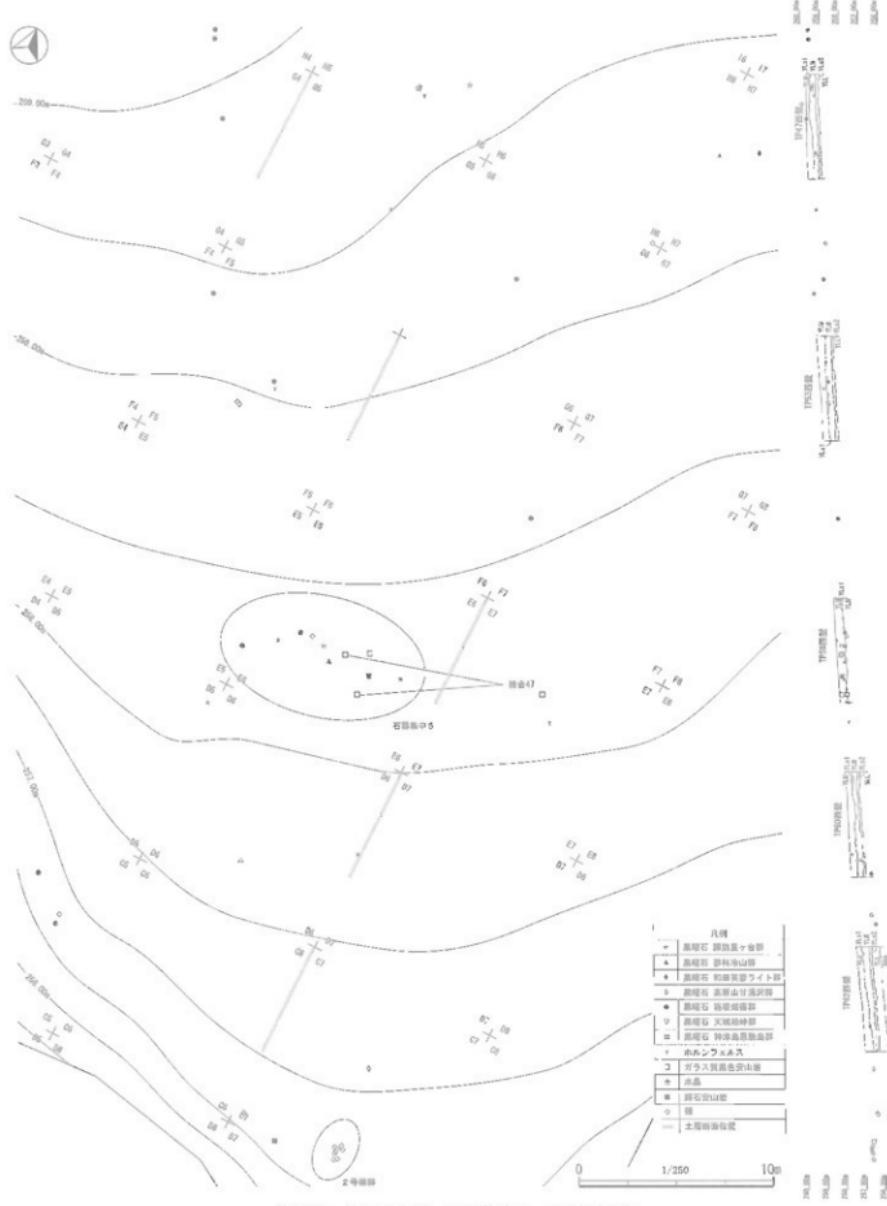
19は和田芙蓉ライト産黒曜石製である。同一方向から連続的に剥離する過程で得られた剥片を素材に、これを横位に用い、末端を切り取って背部とし、打面を外湾気味に切り取って基部を整形する。尖端を欠損したので分類は不確定で、切出形石器とすることも可能である。FB出土で石器集中中に含まれない。

20は箱根畠産黒曜石製である。石刃ないし縱長剥片を素材として、これを縦位に用い、右側縁に2辺からなる背部、左側縁に基部を整形する。尖端部は折損しており、裏面に及ぶ折れ面の状態からみて、使用によるものと推測される。基部は発掘時の欠損である。YLU出土である。

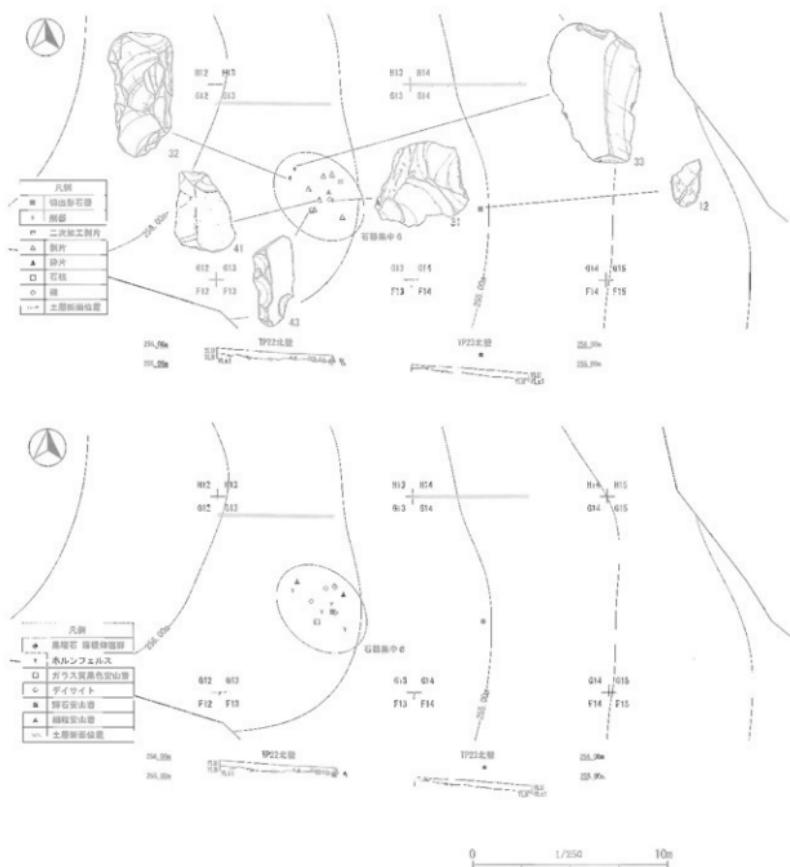
21は諫訪星ヶ台産黒曜石製である。小石刃を素材にして、これを縦位に用い、急角度の剥離によって



第24図 第IV文化層 石器集中5 器種別分布



第25図 第IV文化層 石器集中5 石材別分布



第26図 第IV文化層 石器集中6 器種別分布（上）と石材別分布（下）

左側縁に弧状の背部を整形し、右側縁に基部を整形する。裏面には平坦剥離が認められる。また、尖端部は、急角度な剥離によって左右をやや内湾するように二次加工する。尖端部は折損したようにみえるが、その後も使用が続いたのか、やや摩滅して丸くなっている。石錐かもしれない。YLU出土で石器集中中に含まれない。

22は調訪星ヶ台産黒曜石製である。石刀を素材として、これを逆位に用い、左側縁を二次加工して背部を整形し、右側縁株に微細な二次加工を施して基部を整形する。基部加工には平坦剥離も併用する。尖端は発掘中に欠損、基部は折損している。YLU出土である。

23は水晶製である。小石刃を素材にして、これを逆位に用い、右側縁にやや弧状の二次加工を施して背部とし、左側縁に直線的な基部を整形する。上方は、使用によるためか、微細剥離痕が連続して尖状

を呈さない。YLU出土である。

24は和田鷹山産黒曜石製である。同一方向から連続剥離する過程で生産される、やや厚手の縦長剥片を素材に、これを縦位に用い、左側縁全体を弧状に切り取って背部とし、対する右側縁も弧状に切り取って基部を整形する。刃部には微細な剥離痕が連続し、使用頻度の著しさを示している。YLU出土で石器集中に含まれない。

尖頭器 (25-28)

25は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。魚鱗状の剥離によって表裏を整形する。折損しているので尖端の形状が不明であり、したがって尖頭器としての分類も不確定である。YLU出土で石器集中5に含まれる。

26は諏訪星ヶ台産黒曜石製である。縦長剥片を素材にして、これを縦位に用い、右側縁背面全体と左側縁背面下半分および裏面に魚鱗状の二次加工を施し、涙滴状に整形する。左側縁裏面は使用痕かもしれない。二次加工技術の違いを除けば24（ナイフ形石器）と近似する形態である。YLU出土で石器集中に含まれない。

27はガラス質黒色安山岩製両面加工尖頭器である。魚鱗状剥離で両面を整形する。YLU出土である。

28はホルンフェルス製両面加工尖頭器の折れたものが接合している。風化が著しいため、剥離面の残存状況が非常に悪い。欠損部は風化を原因としている。

角錐状石器 (29)

29は箱根烟宿産黒曜石製である。厚手の剥片を縦位に用いて弧状の背部と内湾する基部を整形し、さらに端部にも、基部加工と接する二次加工を施す。17のような切出形石器の変異かもしれない。YLU出土で石器集中に含まれない。

削器 (30-33)

30は箱根烟宿産黒曜石製側削器である。180度の打面転移一剥離を行って形成された作業面から得られた縦長剥片（推定）を素材にして、急角度な剥離によって右側縁にやや鋸歯状を呈する刃部を作出する。YLU出土で石器集中5に含まれる。

31はデイサイト製である。新鮮な面（ガジリ）と金属音からガラス質黒色安山岩とよく似た質の石材であるが、明灰色に風化している。求心剥離で得られた幅広剥片の右縁辺に直径3mm程度の二次的剥離痕が連続している。使用痕かもしれない。YLU出土で石器集中6に含まれる。

32はホルンフェルス製鋸歯状尖頭削器である。石材消費の比較的早い段階で得られたやや大型の剥片を素材に、左右側縁の裏面に大振りな二次加工を連続的に施し、尖頭部に繋がる鋸歯状刃部を作出する。YLU出土で石器集中6に含まれる。

33は細粒安山岩製鋸歯縁側削器である。先細りする厚手の大型剥片を素材として、左側縁の裏面に大小不揃いな二次加工を連続的に施し、鋸歯状刃部を作出する。また、右側縁の打面付近にもひとつの二次的剥離が認められる。YLU出土で石器集中6に含まれる。

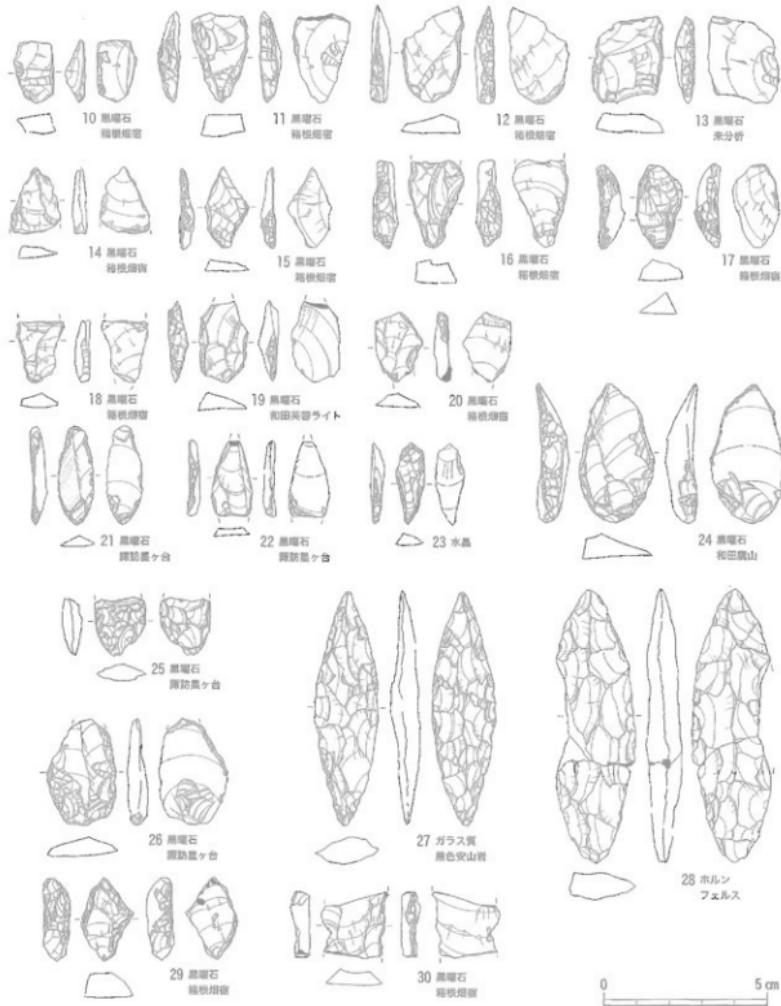
二次加工剥片 (39)

39は高原山甘湯沢産黒曜石製である。同一方向に連続的に剥離する過程で生産された剥片の左縁辺に背部加工様の急角度な二次加工を施す。また、裏面には挟み撃ちで潰れたかのような二次的剥離が、打面側の折れ面と右縁辺の2方向からはいっている。端部は急角度な面なので折れ面のように見えるが、主剥離面に後行するかどうかはつきりしていない。YLU出土で石器集中に含まれない。

■ 剥片・石核類と接合資料

細石刃 (35-38)

35は黒曜石製である（産地未分析）。石器集中に含まれない。



第27図 第IV文化層の石器群（1）

36は神津島恩馳島産黒曜石製である。YLU出土で石器集中5に含まれる。

37は黒曜石製である（産地未分析）。石器集中に含まれない。

38は水晶製である。YLU出土である。

削片 (40)

40は神津島恩馳島産黒曜石製削片である。大型削片の打面部付近を打面として、縁辺を取り込みつつその腹面を剥離したものと思われる。背面右側の剥離面はポジティブである。主剥離面に後行する打面部からの細長い剥離は、二次加工ではなく、削片剥離と同時に形成されたものと推測される。YLU出土で石器集中に含まれない。

微細剥離痕削片 (34)

34は箱根烟宿産黒曜石製である。背面に大きく自然面を残す大型削片の左右縁辺に微細剥離痕が連続する。打面はなく、バルブの発達が極めて微弱である。打面は折れているが、その折れ面は背面と急角度をなさず緩やかに連続する。おそらくは削片剥離時に折れたのだろう。こうした事例は両極剥離を多用する縄文時代石器群に顕著に見られる傾向である。YLU出土である。

剥片 (41/42)

41はホルンフェルス製である。YLU出土で石器集中6に含まれる。

42はガラス質黒色安山岩製である。尖頭形を呈する。右縁辺の下部に二次的剥離痕が観察される。YLU出土で石器集中5に含まれる。

石核 (43/44)

43はホルンフェルス製である。石核自然面を除去する際にとられた分厚い削片の二縁辺の一方を腹面剥離、もう一方を背面剥離して幅広削片を得る。

44はホルンフェルスである。分厚い削片の1縁辺を作業面にして、しばしば石核底面を末端に残す幅広削片を連続的に交互剥離する。YLU出土で石器集中に含まれない。

接合資料 (45)

接合資料は大変少なかった。トゥールの組成比率が非常に高いことと関連しているだろう。削片の接合資料1例（接47）を図示した。45（接47）はガラス質黒色安山岩製削片2点が接合する。厚手の不定形削片の末端部に小型削片が接合する。

■ 磬石器類

礫器 (46)

46は輝石安山岩製である。正面觀が台形状を呈する扁平礫の端部に数回の二次加工を施して刃部を整形する。YLU出土で石器集中に含まれない。

敲石 (47)

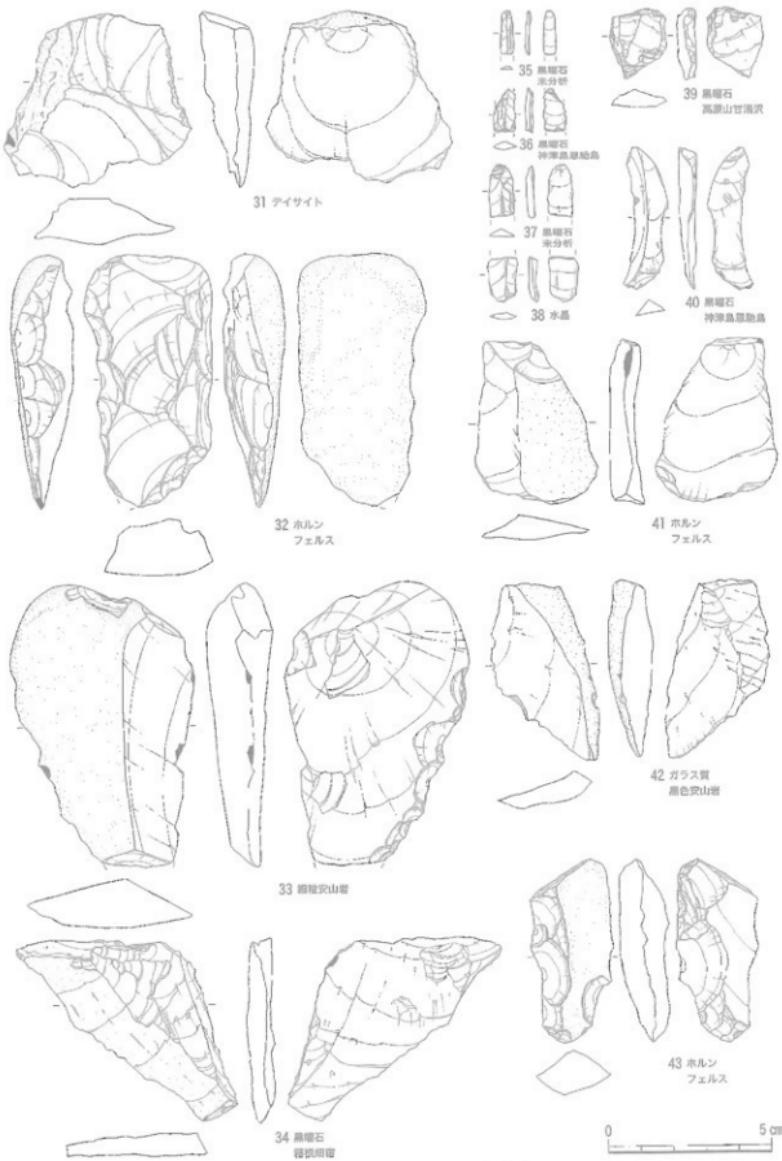
47は輝石安山岩製である、中央に敲打痕が認められる。この点から所謂「凹石」にも分類可能である。裏面下部の剥離面は敲打の衝撃によるものと推測される。研磨痕は認められない。YLU出土で石器集中に含まれない。

3. 磬群（第31/32図、表27）

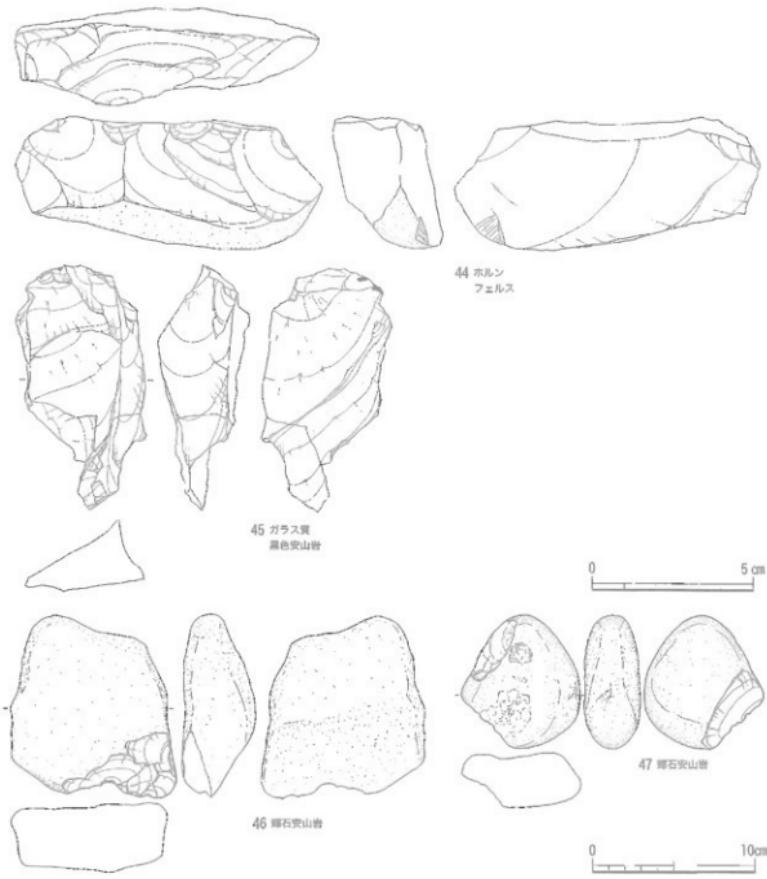
2基が確認された。

2号礫群（第31図） C7グリッドに分布し、YLU中部で検出された。礫8点で構成される。

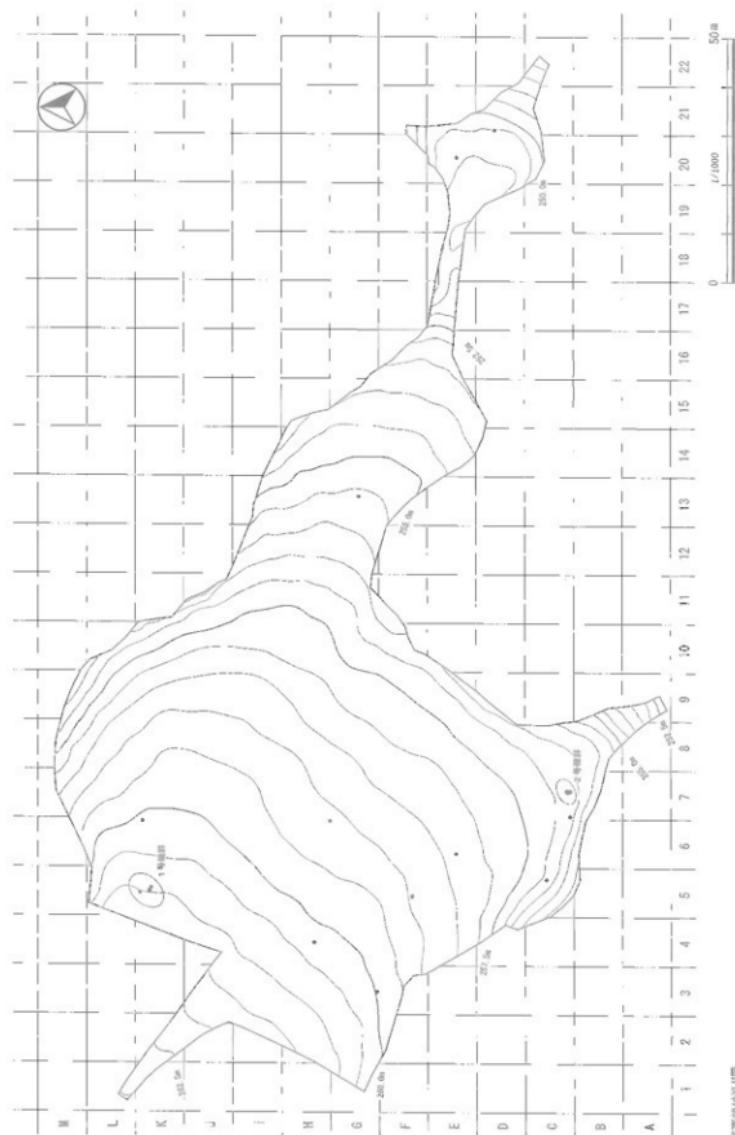
1号礫群（第32図） K5グリッドに分布し、YLU中部で検出された。礫6点で構成される。削片石器2点と重複する。



第28図 第IV文化層の石器群（2）

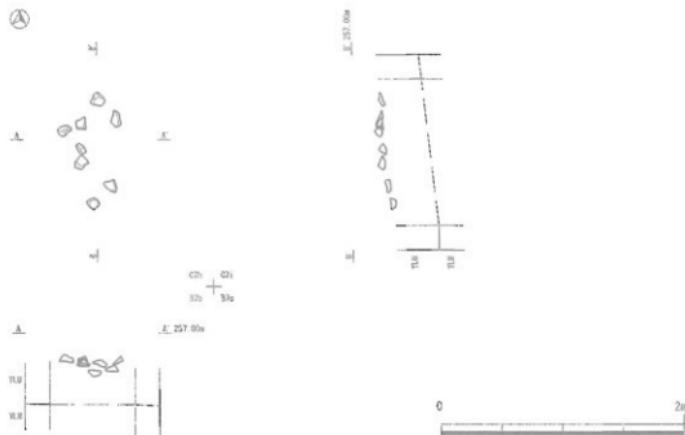


第29図 第IV文化層の石器群（3）

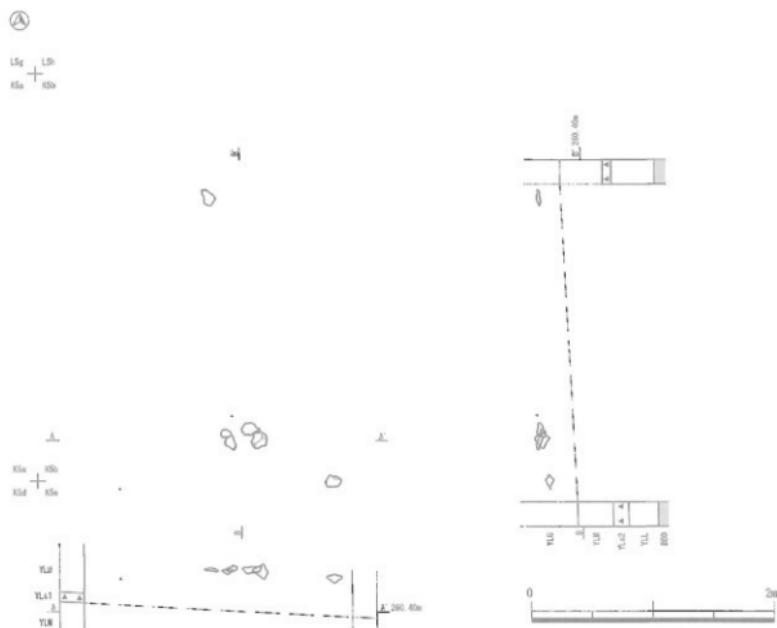


第30図 第IV文化層 總分布

等高線は1.0m



第31図 2号砾群



第32図 1号砾群

第5章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 土器分類

本遺跡で出土した土器は1107点である。徹底的な個体分類作業の結果、63個体の存在が明らかとなつた（分類不能な小片は除く）。最も多いのは早期土器群40個体である。ほかに前期土器群12個体と中期土器群11個体がある。分類は表12にあるとおり、時期（群）、系統（類）、型式（種）等の分類を行ったうえに、胎土、器形、文様の特徴から細かい分類を重ね、記号化した。この記号は、例えば「I群A類aア①」などとなっているが、しかしこの表示方法では、そのつど分類基準を参照しなければ文章を読み下すことも儘ならないと思われたので、省略した分かりやすい記号を付すことにした。以下の分類の括弧内がそれである。本文と分布図にはこの略号を使用する。

I群 早期土器群

A類 摺糸文土器

型式の認定は困難だったが、文様、器形、胎土の特徴から8個体抽出された。

- a 細かい摺糸で施文する
 - ア 器厚を厚くする
 - ① Rの摺糸で縦位ないし斜位に施文する (摺糸文2)
 - ② ①のうち、摺糸がさらに細かい (摺糸文3)
 - ③ ①とは異なるRの摺糸で横位に縦に施文する (摺糸文7)
 - イ 器厚を薄くする (摺糸文1)
- b 粗い摺糸で施文する
 - ア 白色粒子を多く含む黄褐色の胎土を用いる (摺糸文4)
 - イ 赤褐色の胎土を用いる (摺糸文5)
 - ウ 石英粒子を多く含む灰褐色の胎土を用いる (摺糸文6)
- c 綱目状の摺糸で施文する (摺糸文8)

B類 縄文土器

型式の認定は困難だったが、文様、器形、胎土の特徴から6個体抽出された。

- a 外面と口唇部に縄文を施す (早期縄文1)
- b 内外面に縄文を施す
 - ア 器厚を厚くする (早期縄文2)
 - イ 器厚を薄くする (早期縄文3)
- c 外面のみに縄文を施す
 - ア 白色岩片を多く含む赤褐色の胎土を用いる (早期縄文4)
 - イ にぶい赤褐色の胎土を用いる (早期縄文5)
 - ウ 赤褐色の胎土を用いる (早期縄文6)

C類 沈線文土器

1種 判ノ木山西式土器

- a 口縁部直下に刺突を列点状に施す (判ノ木山西 1)
- b 口縁部直下に刺突し、等間隔の沈線を縱位に施す

 - ア 口縁部直下と胴部に1段の刺突列を横位に施す
 - ① 等間隔の沈線を縱位に施し、あいだに格子目状沈線を充填する (判ノ木山西 2)
 - ② 胴部に格子目状の沈線を施す (判ノ木山西 3)
 - イ 脇部に2段の刺突列を横位に施し、また沈線を格子目状に施す (判ノ木山西 4)

- 2種 その他の沈線文土器
- a 口唇部に刻みを入れる

 - ア 頸部を括れさせる (沈線文 1)
 - イ 沈線を縱位に施す (沈線文 2)

- b 口唇部に刻目を入れず、口縁部直下に刺突、また沈線を斜位に施す (沈線文 3)
- c その他 (口唇部が明らかでない)

 - 沈線を縱位に施す (沈線文 4)

D類 条痕文土器

1種 野島式土器

口縁部に条線を縱位に施し、内面に貝殻条痕文を横位に施すものが3個体抽出された。

- ア 同種「イ」ではないもの (野島 1)
- イ 口縁から胴部の間に段をつける
 - ① 胴部に括れをいれない (野島 2)
 - ② 口唇部に刻み、段の下に括れを入れ、中位で砲弾形を呈するように脛らませる (野島 3)

2種 茅山下層式土器

胴上部に貝殻腹縁文を「ハ」の字形に施すものが3個体抽出された。

- ア 沈線による文様のあるもの
 - ① 胴上部に右から左方向の刺突列を施す (茅山下層 1)
 - ② 胴上部に左から右方向の刺突列を施す (茅山下層 3)
- イ 沈線による文様のないもの (茅山下層 2)

3種 打越式土器

口唇部に刻みをいれ、貝殻腹縁文を施すものが3個体抽出された。

- ア 口縁を波状にする (打越 1)
- イ 口縁を平らにする
 - ① 口縁部に「く」の字状の貝殻腹縁文を施す (打越 2)
 - ② 口縁部に波状を呈する2条の貝殻腹縁文を施す (打越 3)

4種 その他

条痕文土器のうち、特定の型式にあてはめることができないものが7個体抽出された。

- a 口唇部に刻みを入れ、条線を縱位に施す (条痕文 1)
- b 口唇部に刻みを入れず、条線を横位に施す
 - ア 鈍い黄橙色を呈し、石英を多く含む胎土を用いる (条痕文 2)
 - イ 褐色を呈し、石英と輝石を多く含む胎土を用いる (条痕文 3)

ウ 石英が非常に多い胎土を用いる 口縁部を外反させる (条痕文4)

E類 その他

A-D類に含まれないものが5個体抽出された。

- | | |
|----------------------|----------|
| ア 口縁部を角頭状にする | (早期その他1) |
| イ 口唇部を僅かに外反させ、内側を削ぐ | (早期その他2) |
| ウ 多くの繊維を混和させた胎土を用いる | (早期その他3) |
| エ 平底に丸みを帯びさせる | (早期その他4) |
| オ 平底にするもののうち「エ」以外のもの | (早期その他5) |

II群 前期土器群

A類

棒状または籠状工具で刺突列を施す上ノ坊式土器が2個体抽出された。

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| ア 口縁部刺突列下に連続的な刺突を斜位に施す | (上ノ坊1) |
| イ 口縁部から胴部に粘土を盛り上げ、その上に5列の連続的な刺突列を施す | (上ノ坊2) |

B類 竹管文土器

地文に縄文を施し、半截竹管による沈線を平行に引く諸磯b式土器が3個体抽出された。

- | | |
|-----------------------|--------|
| ア RLの原体で縄文を横位に施す | (諸磯b1) |
| イ Lの原体で縄文を横位に施す | (諸磯b2) |
| ウ 「ア」のうち白色粒子が多い胎土を用いる | (諸磯b3) |

C類 縄文土器

半截竹管文を施さないが、器形と胎土により諸磯b式土器に分類可能なものが2個体と、型式不明の土器が3個体抽出された。

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| a 地文に縄文を施す | |
| ア 胴部にRLの原体で縄文を横位、口縁部付近に斜位に施す | (諸磯b4) |
| イ 胴部にRLの原体を疎らに押捺する | (諸磯b5) |
| b 原体を推定できない縄文を施す 器形と胎土から諸磯b式の可能性が高いもの | (前期縄文1) |
| c その他の縄文 | |
| ア RLの原体で縄文を横位に施し、口縁部の内側を削ぐ | (前期縄文2) |
| イ RLの原体で縄文を横位に施し、-部にLRの縄文を施し、底部を平らにする | (前期縄文3) |

D類 その他

A-C類に含まれないものが、繊維痕の有無により2個体抽出された。

- | | |
|------------------|----------|
| ア 繊維を混和させた胎土を用いる | (前期その他1) |
| イ 繊維を混和させた胎土を用いる | (前期その他2) |

表12 老平遺跡の土器分類基準

群	類	種	細分類1	細分類2	細分類3	個体番号
I群 早期	A 滅文		a 振りが細かい	ア 厚手	① Rの振りを縦位、斜位に施文	滅文2
					② より細かいRの振りを縦位、斜位に施文	滅文3
				イ 薄手	③ Rの振りを横位にまばらに施文 色土が非常に難い	滅文7
						滅文1
			b 振りが粗い	ア 黄褐色で白色粒子を多く含む胎土		滅文4
				イ 赤褐色		滅文5
				ウ 灰褐色で石英を多く含む胎土		滅文6
	B 織文		c 網目状に施文			滅文8
			a 外面と口唇部に施文			早期織文1
			b 外・内唇とも施文	ア 厚手		早期織文2
			イ 薄手		早期織文3	
			ア 赤褐色で白色岩片を多く含む胎土		早期織文4	
II群 中期	C 沈継文	1 利ノ木山西式	a 刺突有り、等間隔に縦位の沈線なし	口縫部直下に刺突列		利ノ木山西1
				ア 口縫部直下と脇部に横位一段の刺突列	① 等間隔の縦位の沈線、その間に格子目状沈線で壳模	利ノ木山西2
			b 刺突有り、等間隔に縦位の沈線有り	イ 脇部に横位二段の刺突列	② 脇部に格子目状の沈線	利ノ木山西3
				ア 脱部が捨れる	格子目状の沈線	利ノ木山西4
				イ 縦位の沈線		沈継文1
		2 その他	a 口唇部剗み有り	口縫部直下に刺突		沈継文2
			b 口唇部剗み無し	口縫部の沈線		沈継文3
			c 口唇部不明	縦位の沈線、石英を多く含む胎土		沈継文4
	D 条痕文	1 野島式	ア 口縫から脇部の間に段階し			野島1
			イ 口縫から脇部の間に段有り	① 脱部が捨れる		野島2
			ア 沈線による文様有り	② 口縫部に剗み 縦の下が折れて脇らむ砲弾形		野島3
			イ 沈線による文様無し	③ 脱部の段の上に右から左方向の刺突列		茅山下層1
			ア 波状口縫	④ 脱部の段の上に左から右方向の刺突列		茅山下層3
	2 茅山下層式	横位の貝殻条痕文	イ ラッパ状把手を口縫に付す			茅山下層2
			ア 沈線による文様無し			
			ア 波状口縫	① 口縫部にくの字状の貝殻痕文		打越1
			イ 平縫	② 口縫部に波状の二条の貝殻痕文		打越2
			ア 口唇部に剗み有り			条痕文1
	3 打越式	口唇部に剗み、貝殻痕文	ア に赤い黄緑、石英を多く含む胎土			条痕文2
			イ 褐色で石英、輝石を多く含む胎土			条痕文3
			ウ 口縫部が外反する 石英が非常に多い胎土			条痕文4
	4 その他		ア 口唇部に剗み無し			

群	類	種	細分類1	細分類2	細分類3		個体番号
I群 早形	E その他		無文	ア 口縁部角頭状			早形その他1
				イ 備かに外反する内削ぎの口唇部			早形その他2
				ウ 繩維痕が非常に多い			早形その他3
				エ 丸みを帯びた平底			早形その他4
				オ 平底			早形その他5
II群 前期	A		上ノ坊式	箋状工具による削肉	ア 口縁剥突列下の側部に斜位の通跳刺突		上ノ坊1
					イ 口唇から顎にかけ粘土を盛り上げた上に、工具を横に使用した5列の通跳刺突		上ノ坊2
	B 竹管文		諸種b式	調文の地文に半鉛竹管状工具による平行划跡	ア RLの横位調文		諸種b1
					イ Lの横位調文		諸種b2
					ウ RLの横位調文		諸種b3
	C 調文		諸種b式	a 調文の地文	ア RLの横位調文、一部口縁付近に斜位がみられる		諸種b4
					イ RLの横位調文をまばらに施す 石斧母多い		諸種b5
					原体不明		前期調文1
	D その他			無文	ア 内削ぎの口縁、RLの横位調文		前期調文2
					平底 RLの横位、一部LRの横位もみられる内面にスス付置		前期調文3
					イ 繩縫、補修孔有り		前期その他1
					イ 繩縫無し		前期その他2
III群 中期	A		新造式				新造
					a 円筒形の抽象文		脇内1
					ア 頭部に相対する耳飾状把手		脇内2
					イ 頭部に下をキャラピラ文で押された貼付け縫帶を透らせる		脇内4
					c 爪形文の区画		脇内3
	B 調文		脇内式		d 調文の地文		脇内5
					e 脱部に瘤円の区画		脇内6
					a RLの横位調文		中附調文1
	C 調文				b Lの横位調文、一部縫位に調文		中附調文2
					c RLの縫位調文 石斧が多い		中附調文3
	D その他			無文	ア 平底		中附その他1
					イ 備かに屈曲した平底		中附その他2

III群 中期土器群

A類 新道式土器

1個体抽出された。

(新道)

B類 藤内式土器

6個体抽出された。

a 脣部を円筒形にする

(藤内1)

b 「a」のうち口縁部から頸部にかけてやや内湾させキャリバー形にする

ア 頸部に相対する耳飾り状把手を付ける

(藤内2)

イ 頸部に下をキャタピラ文で押された隆帯を巡らせる

(藤内4)

c 爪形文で区画する

厚手を作る 角頭状の口縁部を僅かに外反させる

(藤内3)

d 地文として繩文を施す

(藤内5)

e 楕円で区画する

(藤内6)

E類 繩文土器

3個体抽出された。

a RLの原体で縄文を横位に施す

(中期縄文1)

b Lの原体で縄文を横位に施し、一部縦位にも施す

(中期縄文2)

c RLの原体で縄文を縦位に施す

(中期縄文3)

F類 その他

A-E類に含まれない無文土器が2個体抽出された。

ア 底部を平らにする

(中期その他1)

イ 底部を平らにし、わずかに屈曲させる

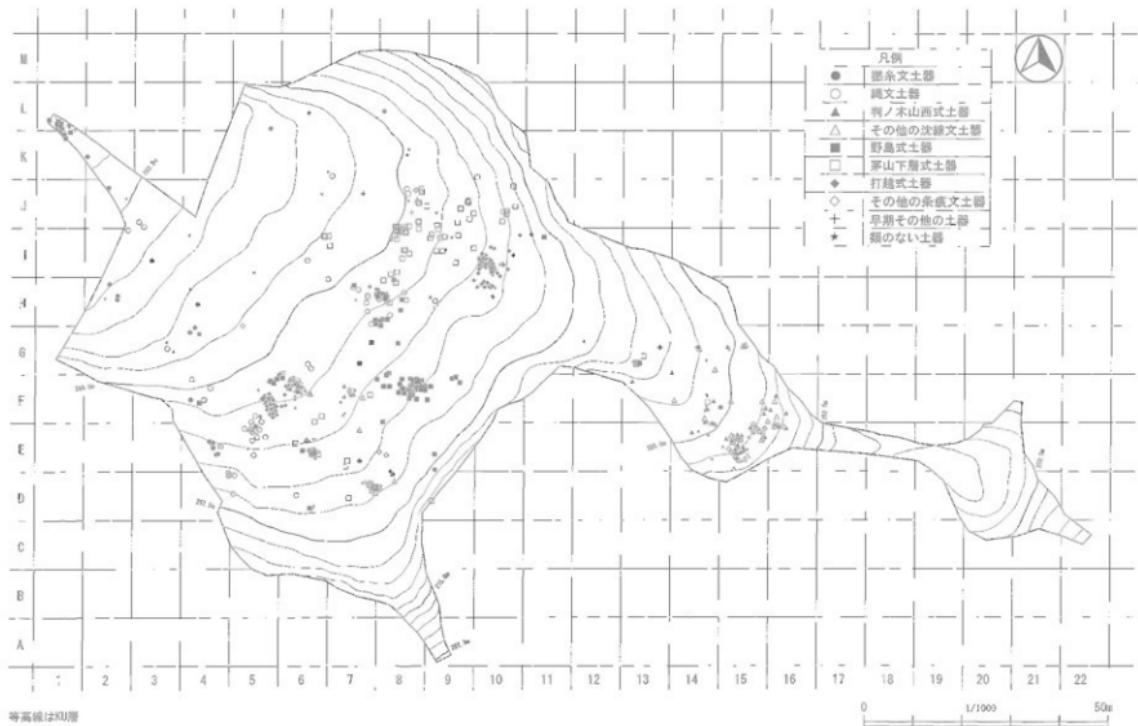
(中期その他2)

第2節 縄文時代早期の土器群

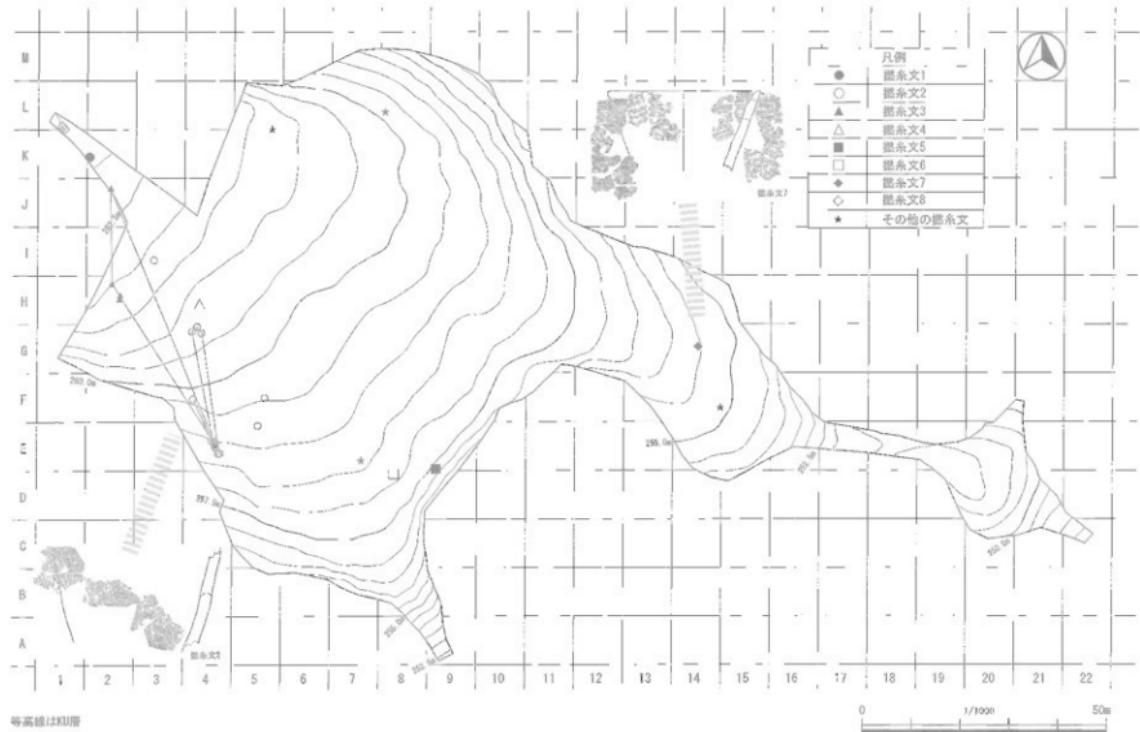
概要

早期土器群は40個体である。土器型式別の分布を第33図に示した。早期土器群は大きく分けて4箇所程度の集中域が認められる。すなわち、EF5-8グリッド、EF14-16グリッド、HIJ7-10グリッドが該当する。前二つはちょうど縄文時代石器群の集中域と重なるか近い範囲である。後一つは、剥片石器類との重複が希薄ながら、礫石器類とよく重複する。このような分布傾向は特定土器型式と特定石器群とを結びつける材料とはならないが、しかし生業地点間の機能的差異を知るための材料としては重要である。

遺構は、以上の土器との層位対比により、1/8/17/25/28/30/31/32/33号集石が早期で、年代差はあるが、殆どが当該期後半のものと推定された（詳細は第6節を参照）。土坑の時期は、早期に限らず判別できないものが殆どだった。



第33図 早期土器群 型式別分布



第34図 撲糸文土器 個体別分布

出土土器の検討（第34-61図）

第34図は撚糸文土器の個体別分布を示したものである。調査区西部に偏在する小規模な集中が北西-南東に伸びる分布帯を形成する。本土器群は8個体が抽出された。

第35図1-3は撚糸文2の深鉢胴部破片の接合資料である。繊維を混和し輝石の少ない胎土で、底部に向かって緩やかに脹らむ器形を作り、胴部上部から中部にかけてRの撚糸で縦位ないし斜位に施文する。

4-7は撚糸文3の深鉢胴部破片の接合資料である。白色粒子がやや多く繊維を混和する明赤褐色の胎土で、底部に向かって緩やかに脹らむ器形を作り、胴部上部に撚糸文2よりも細いRの撚糸で縦位ないし斜位に施文する。各施文単位が短く、またしばしば逆斜位にも施文する。

第36図8-10は撚糸文7の深鉢口縁/胴部破片の接合資料である。輝石と黒色粒子が少なく、礫が多く、繊維を混和する鈍い赤褐色を呈する胎土で、口縁部から胴部下部に直線的に窄める。Rの撚糸で横位に疊らに施文する。

11は撚糸文1の深鉢口縁部破片である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する鈍い赤褐色の胎土を用いる。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。口縁部に細いLの撚糸で横位に施文する。

12は撚糸文4の深鉢胴部破片である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する、鈍い黄橙色の胎土を利用する。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。Rの撚糸で縦位に施文する。

13は撚糸文5の深鉢胴部破片である。輝石が少なく繊維を混和する赤褐色を呈する胎土を用いる。破片は極めて部分的なので具体的な器形が判然としない。Rの撚糸で縦位に施文する。

14は撚糸文6の深鉢胴部破片である。右英、輝石、白色粒子が多く、繊維を混和し鈍い褐色を呈する胎土を用いる。Rの撚糸で横位に施文する。

15は撚糸文8の深鉢胴部破片である。輝石が少なく白色粒子が多い、繊維を混和する明赤褐色の胎土で、胴部上部から中部へと緩やかな逆S字を描く器形を作り、RLの網目状の撚糸で横位に施文する。接合するこの2点のほかに同一個体は認められなかった。

第37図は早期繩文土器の個体別分布を示したものである。本土器群は6個体が抽出された。その分布は大局的に見て、早期繩文1が集中するH7/8グリッドと、早期繩文4が集中するE5グリッドに分けられる。

第38図は早期に帰属すると思われる繩文土器である。

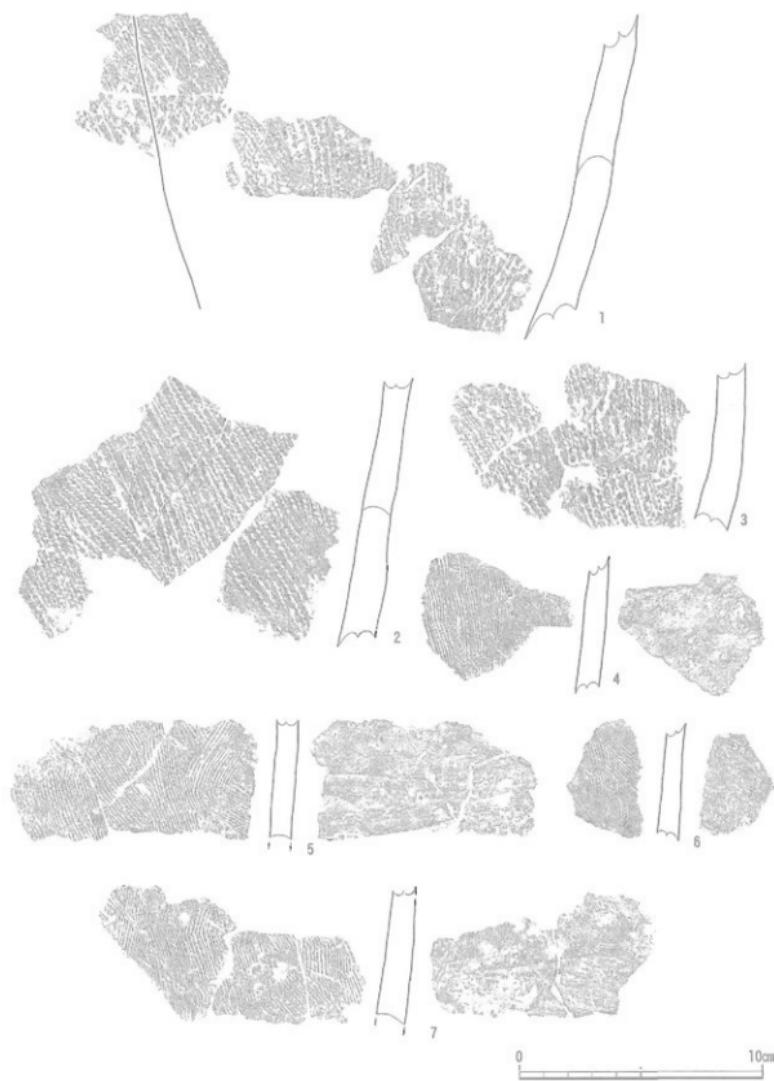
16-18は早期繩文1の深鉢口縁部の接合資料、19-21は同一個体の胴部破片の接合資料である。輝石が少なく白色粒子が多く、また繊維を混和する胎土を用い、口縁部が開く器形を作り、口唇部と外面全体にLRの原体で縦位に施文する。

22/23は早期繩文2の深鉢口縁部破片の接合資料、24は同一個体の胴部破片の接合資料である。口縁部から胴部上部にかけての内外面にLRの原体で横位に施文する。

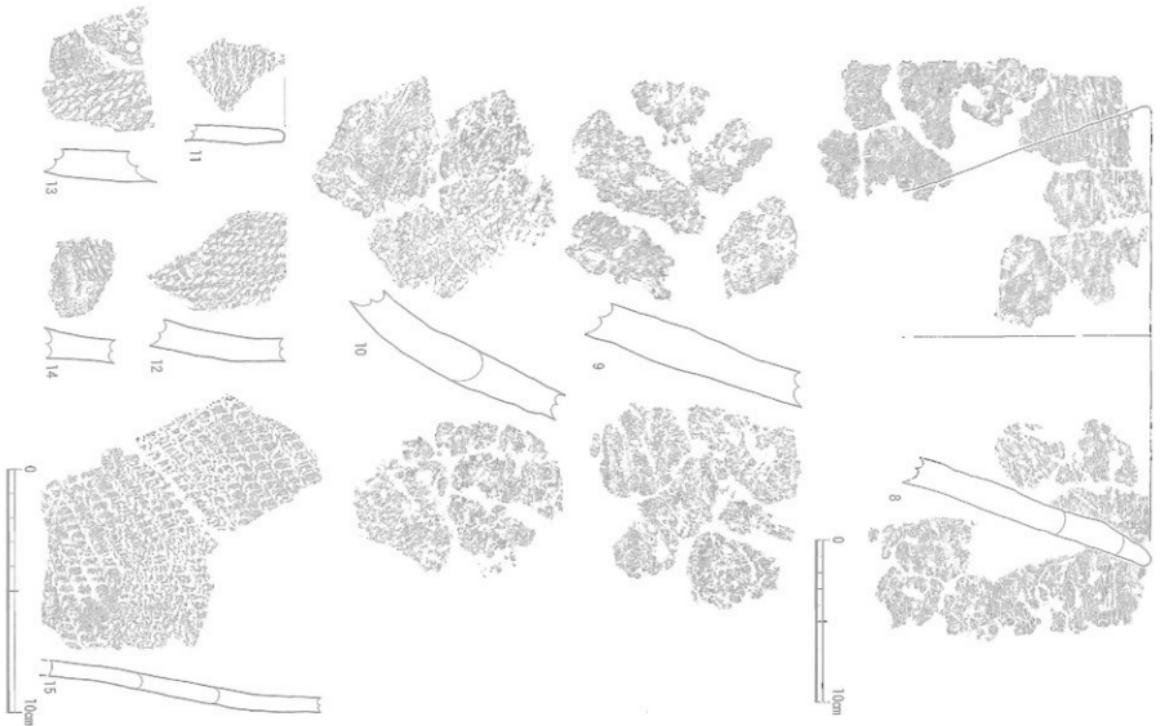
25は早期繩文3の深鉢口縁部、26は同一個体の胴部破片である。輝石と白色粒子が少なく繊維を混和しない胎土を用いる。口縁部から胴部の一部にかけての内外面にRLの原体で散漫に施文する。

27-30は早期繩文4の深鉢胴部破片の接合資料である。輝石が少なく、白色岩片がやや多く、繊維を混和させない胎土を用いる。胴部外面全体に太いRLの原体で縦位に施文する。打越1と分布位置が近いので垂直分布図を作成して検討したところ、早期繩文4が若干下位に包含されることが判った。

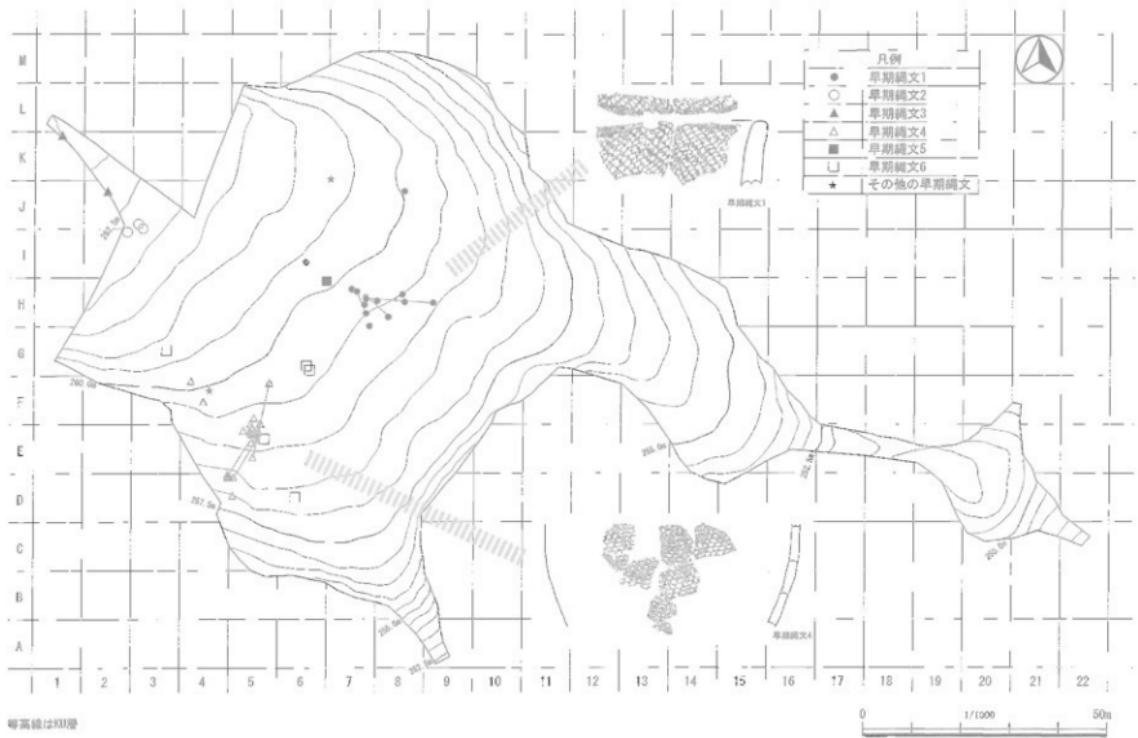
31は早期繩文5の深鉢胴部破片2点の接合資料である。白斑粒子がやや多く、繊維を混和させる胎土を用い、RLの原体で繩文を縦位に施す。



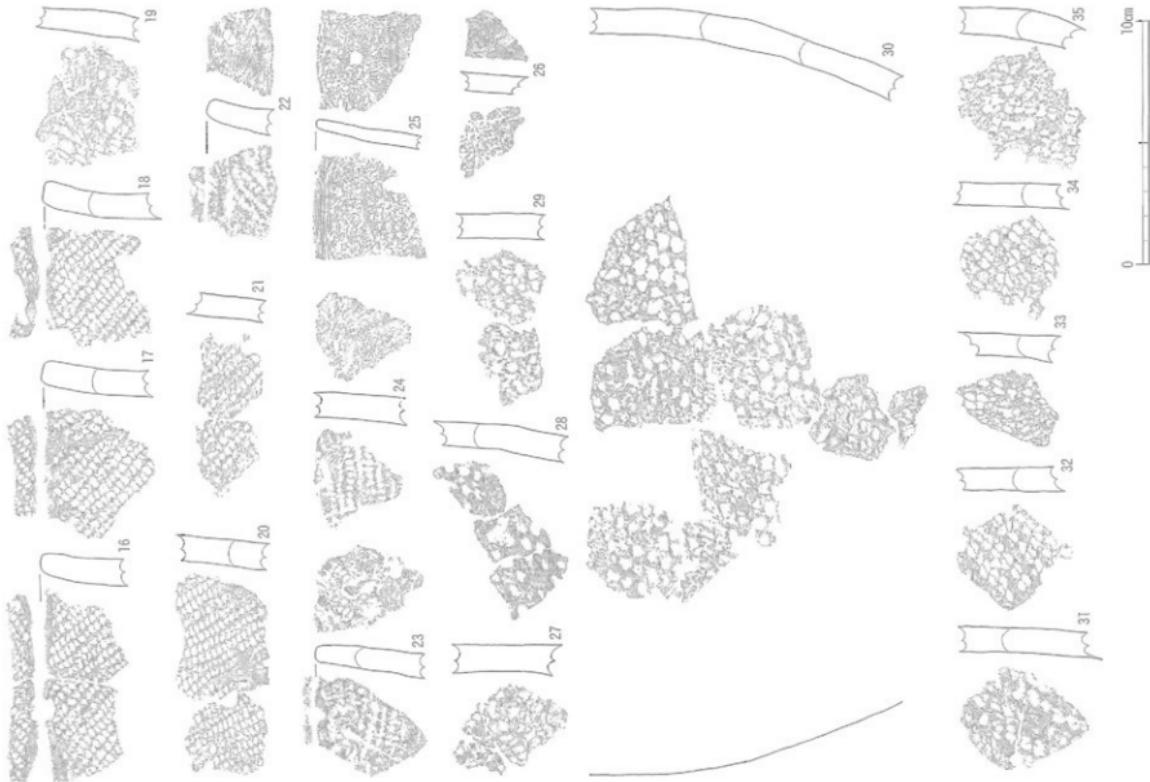
第35図 繩糸文土器（1）



第36図 條糸文土器（2）



第37図 早期 縄文土器 個体別分布



第38図 早期 繩文土器

32-35はそれぞれ早期縄文6の深鉢胴部破片の接合資料である。白色粒子がやや多く、繊維を混和させる胎土を用い、RLの原体で縄文を縦位に施す。

第39図は判ノ木山西式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は4個体が抽出された。その分布は判ノ木山西3が集中するEF13-16グリッドと判ノ木山西2が集中するF6/7グリッドに分けられる。あとで石器群の検討の際にも述べるが、EF13-16グリッドは黒曜石が集中する範囲である。

第40-44図36-55は判ノ木山西式土器である。

36は判ノ木山西1の口縁部破片の接合資料である。石英が多く、輝石と白色粒子が少なく、繊維が混和する胎土を用いる。口縁部には下方から籠状工具で刺突列をいれる。

37-42は判ノ木山西式2の口縁部から胴部中部の接合資料である。37は上に外面、下に内面を提示している。石英が多く、輝石と白色岩片がみられ、赤色粒子が少なく、繊維が混和する胎土を用いる。口縁は緩やかな波状を呈する。内外面全体に貝殻腹縁状工具で左上から右下へ流れる器体整形を行う。これは口縁部で横走するが底部に向かうほど斜走するようになる。施文は、口唇部に短く斜行する刻み目をいれ、口縁には1本の沈線を引き巡らし、その上に重ねて1列の刺突列を巡らす。加えて胴部中部にも同様の刺突列を巡らす。次いで、両刺突列の間に左上から右下へ斜走する沈線を1本ずつ間隔をあけて引き、文様帶を縦に区画する。この区画内には矢羽状の沈線を充填する。なおこの沈線は、42に見られるように、文様帶を胴部で区画する刺突列の下位に及ぶこともある。器体調整以外の文様はおそらく全て同一の棒状工具で行っている可能性が高い。

43-54は判ノ木山西3の口縁部から胴部中部の接合資料および破片である。口縁は僅かに開く緩やかな波状を呈する。内外面ともに貝殻腹縁によると推測される器体調整がみられる。内面は横に、外面は左上から右下へ流れている。施文は、まず半截竹管状工具の腹面を用いて左右から棒かけ状の沈線を引き、これが器面を覆う。次いで口縁部に幅約5mmの籠状工具で下から上へ突き刺し、1列で口縁を巡らす。また、胴部中部にも同様の列を形成する。判ノ木山西2とは異なり、口唇部に刻目はなく、また口縁の刺突列に先立って引き巡らす沈線もみられない。また、判ノ木山西2は刺突列による文様帶の区画が沈線に先行するが、判ノ木山西3は逆に沈線が刺突列に先行する。このような刺突列と沈線の施文順序の相違に、棒状工具の単独使用と籠状工具・半截竹管状工具の複合使用という施文工具選択の相違が対応する。なお、整理作業の終盤で53か43に接合することが判明した。

55は判ノ木山西4の胴部破片である。どういうわけか1点しか検出されていない。若干反っているので、おそらく胴部上部であろう。外面は沈線文で覆っているので分からぬが、内面には器体調整がみられる。施文は、半截竹管状工具で交差しない斜めの沈線を交互に引き、次いで幅約4mmの棒状工具で突き刺し、2列の刺突列を形成する。この施文順序は判ノ木山西2と共通する。

第45図は沈線文土器の個体別分布を示したものである。4個体が抽出された。その分布はEFG14-16グリッドとEF6/7グリッドを中心とする2箇所に大きく分けられる。両集中はともに判ノ木山西式土器の分布と重なっており、共伴関係にある可能性が高い。

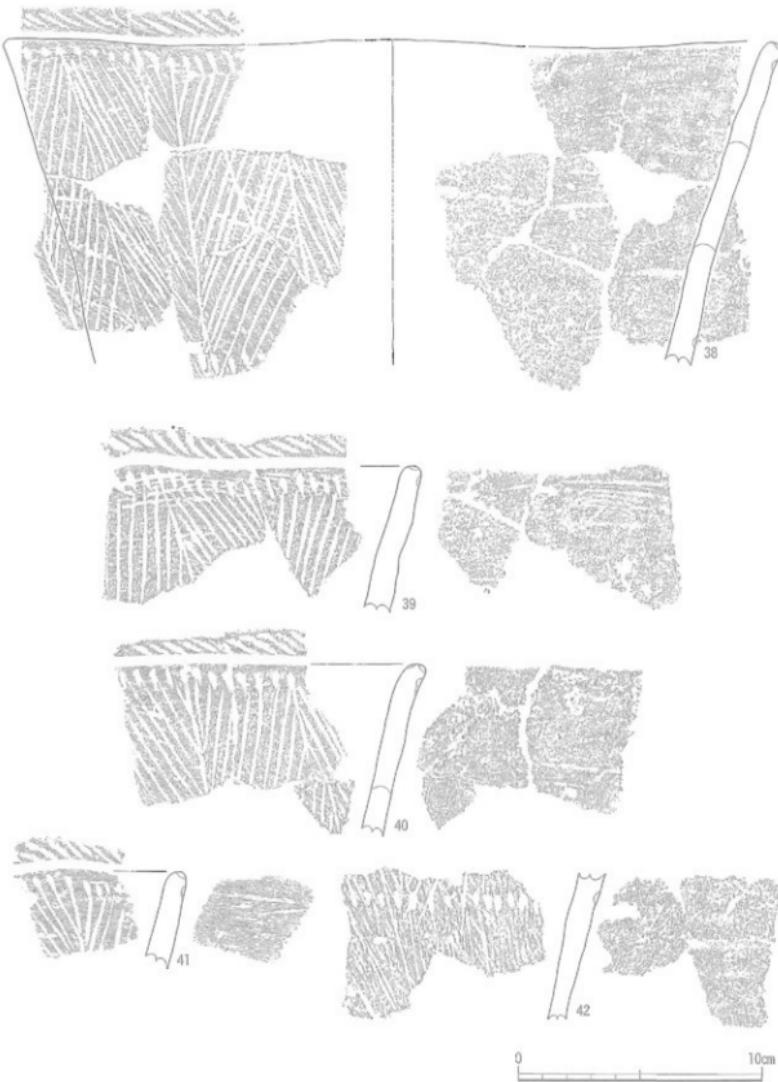
第46図62は沈線文1の接合資料である。繊維を多く混和させる胎土を用いる。口縁部が開き、頸部の括れをつけてその下位から外溝させる深鉢である。文様はいさか複雑である。口唇部に刻目をつけ、口縁部最上部に右上から左下へ向かって平行する平行沈線を引く。次いで、この沈線の下縁に右下から左上に向かって突き刺す突刺列を巡らす。この下には、平行沈線を垂下させて区切る二様の文様を施す。ひとつは「へ」もしくは「ハ」の字形の沈線を4段充填する区画、もうひとつは平行沈線間に左上から右下に向かって斜行する沈線を充填する区画である。おそらくこれらの区画を交互に施して胴部最上部



第39図 判ノ木山西式土器 個体別分布



第40図 判ノ木山西式土器（1）

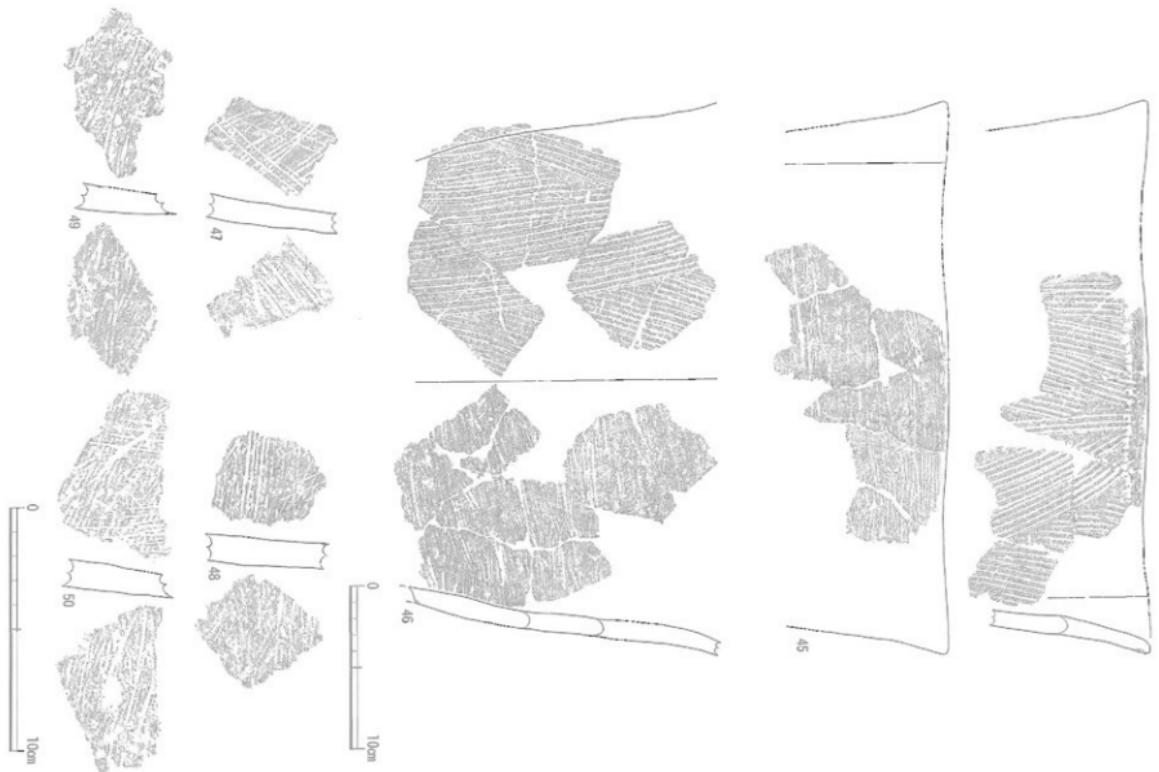


第41図 荊ノ木山西式土器（2）



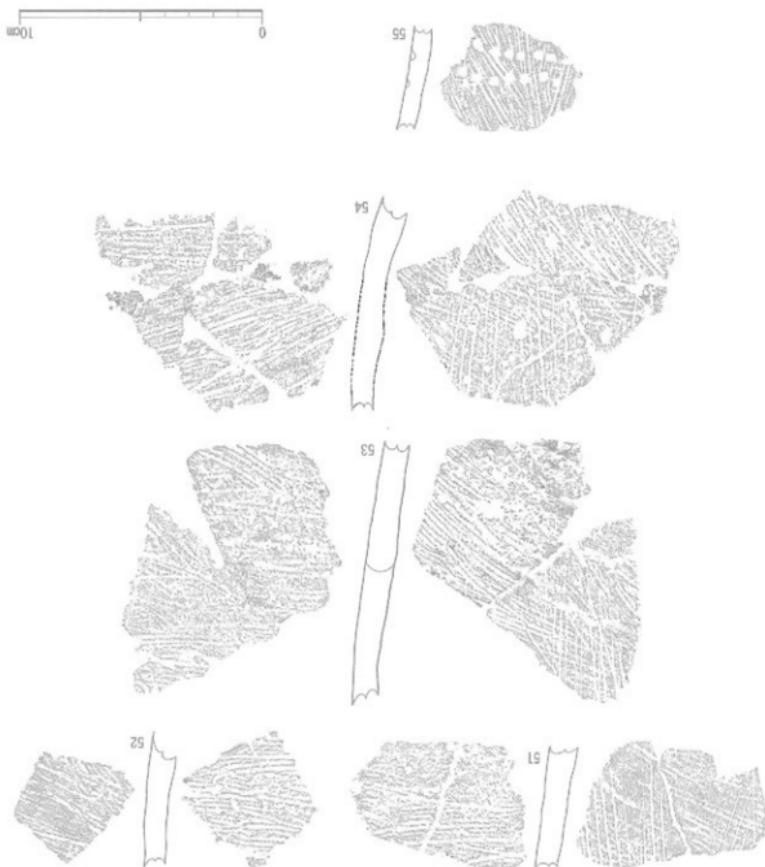
10m
0

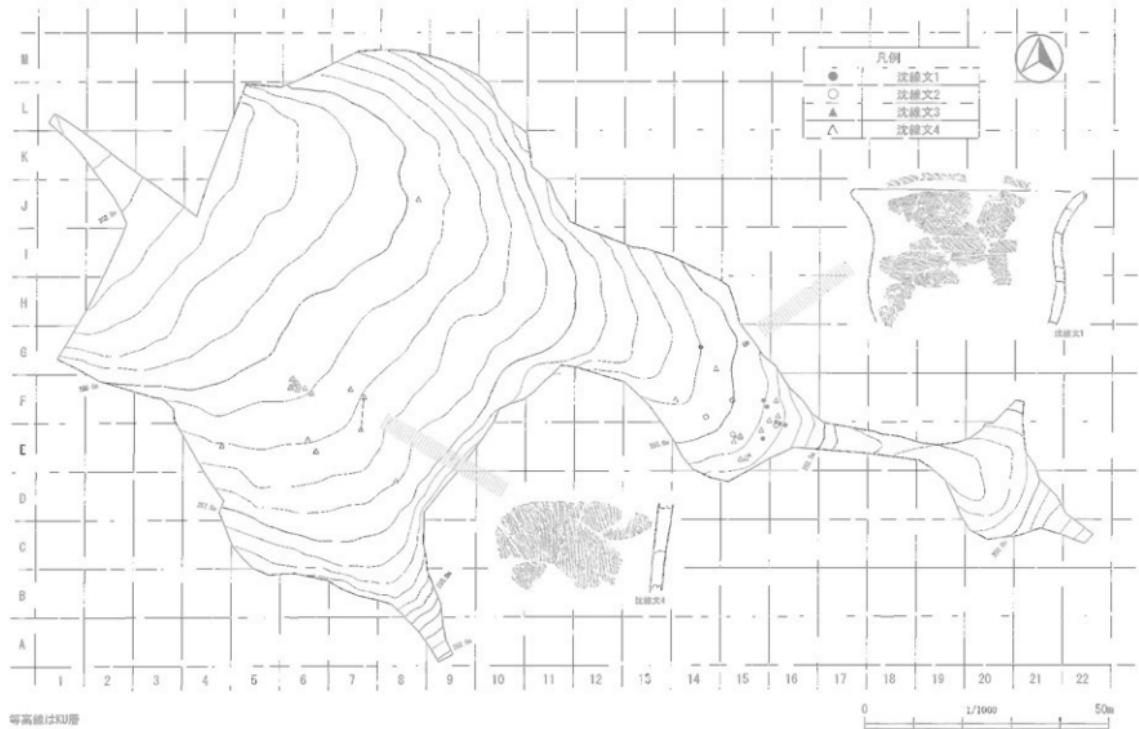
第42図 刈ノ木山西式土器（3）



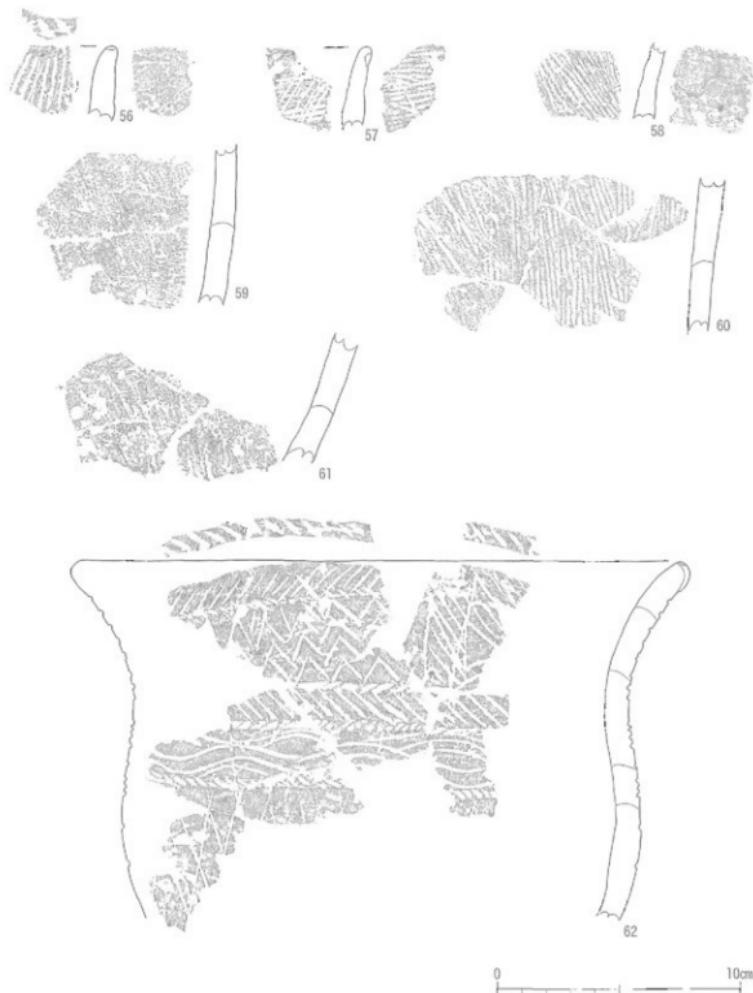
第43図 判ノ木山西式土器 (4)

圖44 利木山西式土器 (5)





第45図 沈縫文土器 個体別分布



第46図 沈線文土器

文様帶を構成する。この文様帶の下縁には右上から左下へ向かう刺突列を2列巡らせる。より上位の列が器形の括れの最も深い場所にある。この2列の間には左上から右下へ向かって斜走する平行沈線を充填するかに見えるが、実際には平行斜走沈線を先に施している。これらのあと、さらに波状の沈線文様を巡らし、この下縁に右下から左上に突き刺す刺突列を沿わせる。この下にはさらに右上から左下に斜走する平行沈線を引き、次いでこれを斜断する平行沈線を重ね、斜格子目文とする。検出部位の限りから、この文様の水平/垂直方向の文様はともに不明である。以上の全ての文様は箇状工具の角を用いている可能性が高い。近隣に類例が少ないので断定はできないが沈線文を主体とする数段の文様帶構成などは田戸上層式土器と類似する。

56は沈線文2の口縁部破片である。口唇部に箇状工具で刻目を入れ、胴部上部に斜位の沈線文を施す。57と58は沈線文3のそれぞれ口縁部と胴部破片である。57は外外面に貝殻腹縁状工具で調整したあと、斜位の沈線文を施す。58は上部に向かって急速に薄くなる点やそりが急激になる点から、口縁部を僅かに欠いたものと思われる。斜位の沈線文を施す。57とは向きが異なるが、胎土と器厚、施工工具の特徴がよく類似するので同一個体と判断した。これが正しいなら、この個体の施文は斜格子状の沈線であろう。

59-61は沈線文4の胴部破片の接合資料である。その湾曲から60は胴部の上半、59と61は下半とみられ、とくに61は底部にかなり近い。60はやや反り返っているうえ、沈線文がより明瞭に観察される。

第47図は野島式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は3個体が抽出された。その分布は個体ごとに異なって、野島1はGH7/8グリッドに集中箇所と散漫な箇所とを織り交ぜ、早期縄文1と分布が大きく重なる。野島2はF5/6グリッドの境界で集中するものの、調査区の広い範囲に点在する。他方、野島3はF8/9グリッドの境界付近にはば限定して密度の高い集中を形成する。

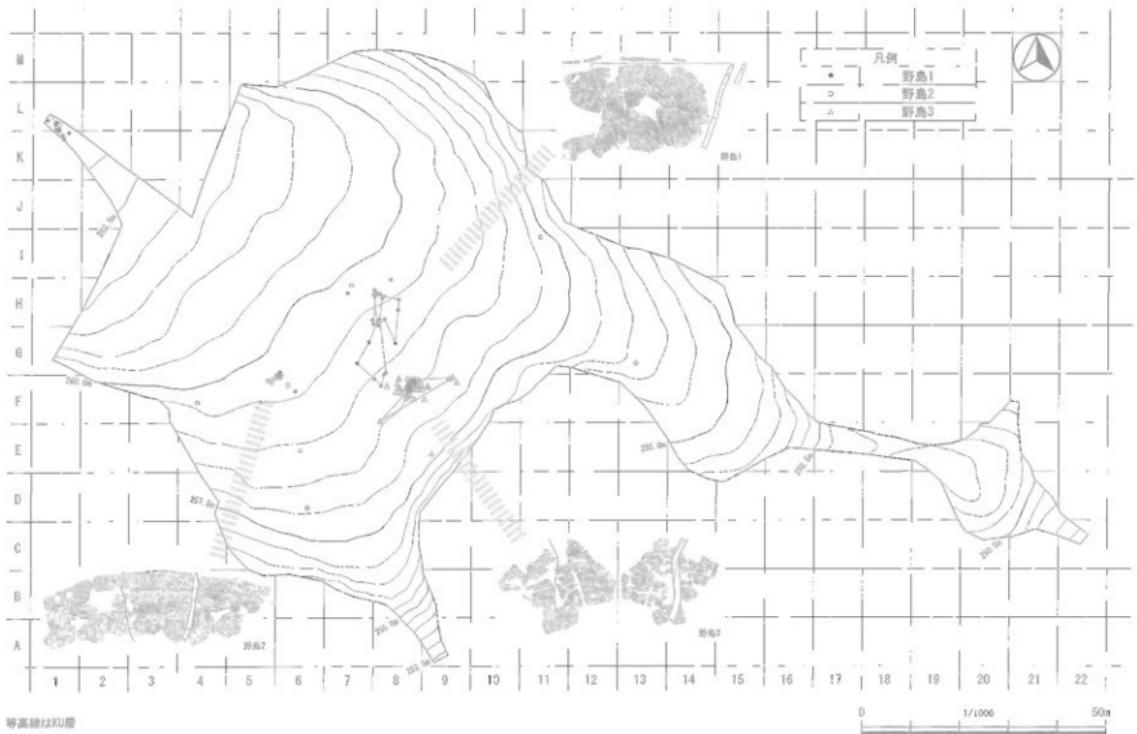
第48-50図63-72は野島式土器である。

63と64は野島1の深鉢口縁部から胴部破片の接合資料である。内面(63下)には調整痕が見られる。尖端が平らな工具で口唇部に刻み目を入れ、胴部上部に沈線を引く。沈線は9本を単位として右傾-左傾し、胴部上部の左から右へ左回転しながら順次引く入り組み文を構成する。胴部中部以下は無文である。

65は野島2の小型深鉢口縁部から胴部下部破片の接合資料である。緩やかな波頂部を3箇所有する波状口縁で、胴部上部の文様帶は段で区切られる。内面は刷毛状工具で調整する。文様は口縁部から胴部上部の段の間に半截竹管状工具で縱走する平行沈線を引き、次いで幅4mm前後の刷毛状工具で文様帶をジグザグに斜断する沈線を引く。

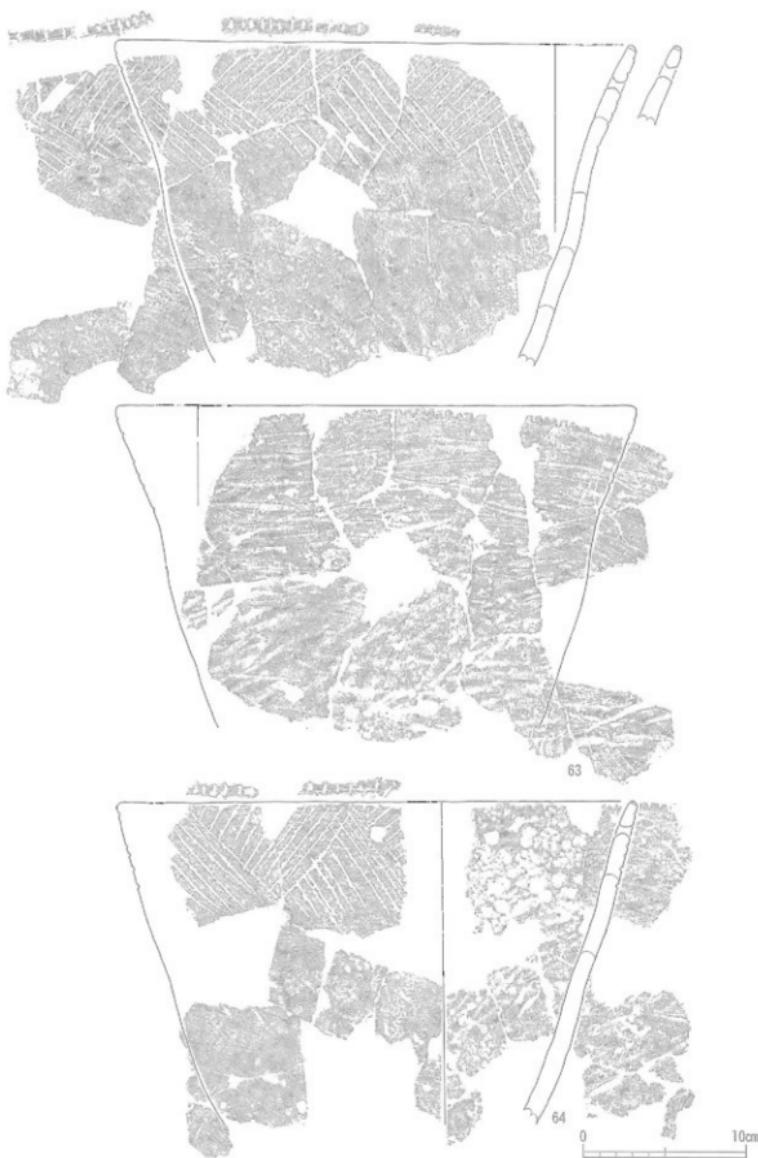
66-72は野島3の深鉢口縁部から胴部破片の接合資料である。口唇部に刻目を入れ、口縁を波状にし、胴部上部に段を付け、その直下から括れをつける。口縁部から段の間に縱走する平行沈線を引く。この平行沈線は、68によく表れているように、2種類の太さが交互に施される。次いで、それらの沈線よりもやや太い工具で、先の沈線を斜断する入組み状沈線を引く。

第51図は茅山下層式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は3個体が抽出された。その分布はやや特異である。茅山下層1は大局的に3箇所に分布している。すなわち、HIJ7/8グリッド、DEF5-7グリッド、EPG13-15グリッドである。この分布範囲間での接合関係がないので、それごとに個体が異なる可能性を考慮し、胎土や接合関係を再確認したが、明確な証拠は見いだせなかった。対照的に茅山下層2は茅山下層1の分布する3箇所のうちHIJ7/8グリッドと重なって分布する。比較的まとまりのある一群といえる。茅山下層3は、整理作業上でかなりあとになってから茅山下層1から分離したものである。こちらは茅山下層2の分布範囲とよく重なるが、点数が少なく実態はよくわからない。



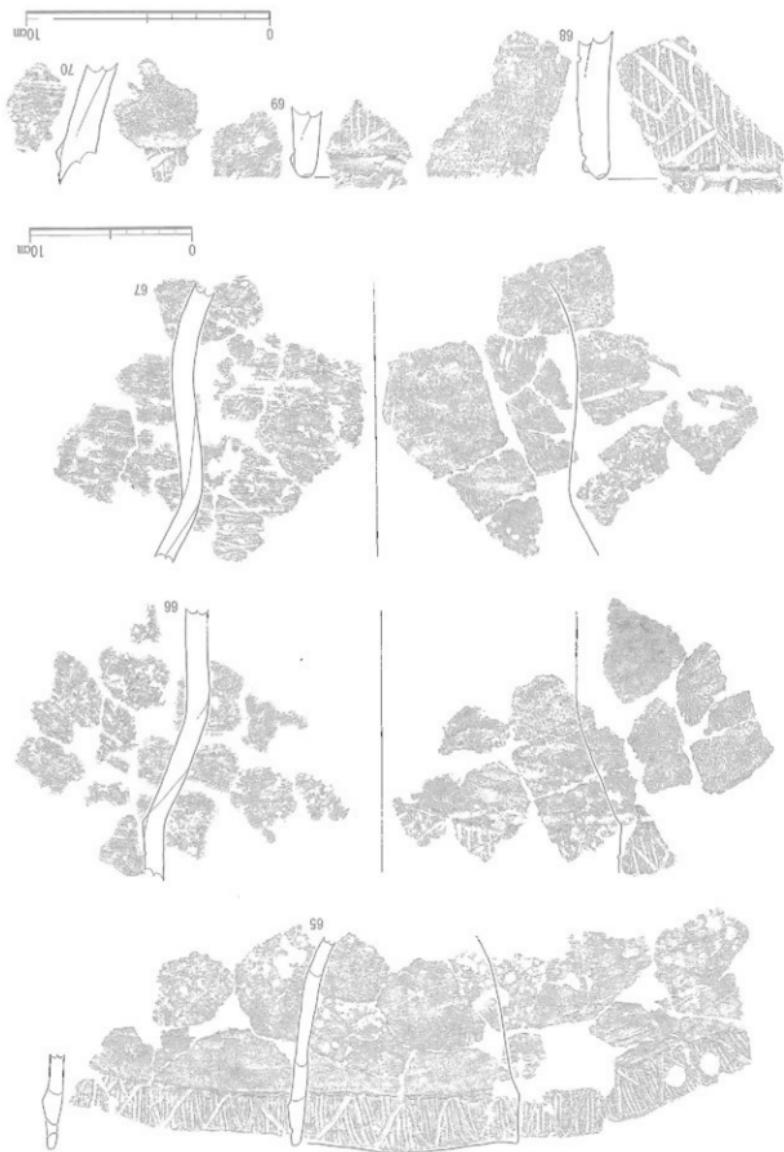
第47図 野島式土器 個体別分布

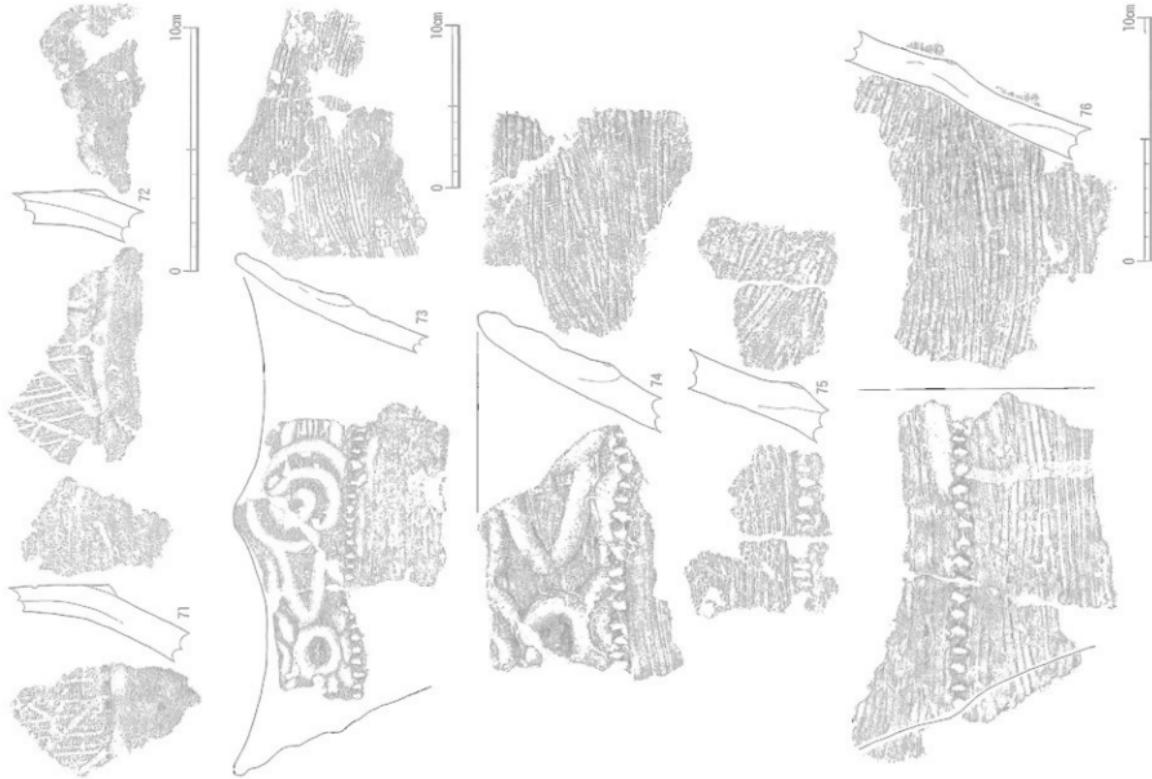
等高線はKU面



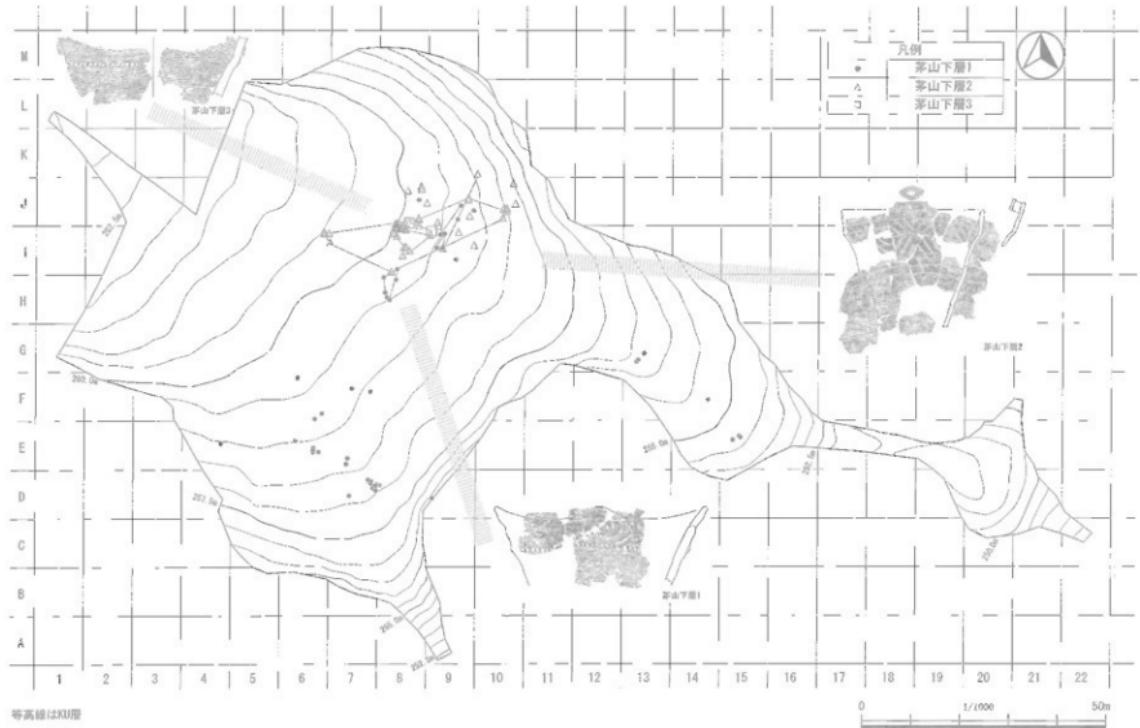
第48図 野島式土器（1）

第49圖 舊石器時代遺物 (2)

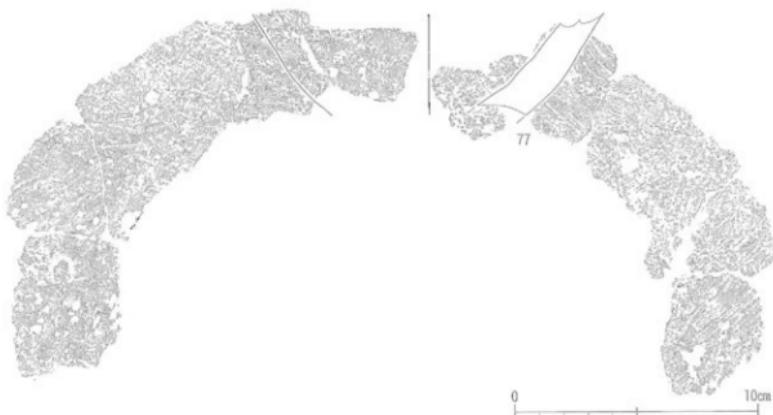




第50図 野島式土器（3）茅山下層式土器（1）



第51図 茅山下層式土器 個体別分布



第52図 茅山下層式土器（2）

第50/52-54図73-81は茅山下層式土器である。

73-75/77は茅山下層1の深鉢口縁部から底部破片の接合資料である。白色粒子が多く、赤色岩片が少ない繊維を混和する胎土をもつ。輪積みの最上段の接合面を盛り上げながら胴部上部に段をつくり、口縁は波状にする。次いで器体内外面に貝殻腹縁状工具により横位の器体調整を施す。段の上に籠状工具で右から左へ突く連続的な刻目をいれ、文様帯を区画する。文様帯には指頭により流線形の沈線を引く（74/75）。この沈線は、とくに波頂部直下で渦巻文となる（73）。73の下端にも緩やかな輪積み接合面があらわれている。

76は茅山下層3の接合資料である。指頭圧痕文が文様帶全体に及んでいない。この個体の胎土は茅山下層1に極めて良く似ているものの、文様帶の指頭圧痕文が部分的で、粘土紐上の刺突が左から右へと突かれている。

78-81は茅山下層2の口縁部から底部の接合資料である。石英が多く輝石がみられ、繊維の混和する胎土である。にぶい黄橙色を呈し、全体に白っぽい印象をうける。底部は平らにし、底面から2センチ程度の部位で括れをいれる。胴部上部と中部に継やかな段をつけ、口縁は2箇所の波頂部に筒状突起部（78/80）のある波状にする。内外面に貝殻腹縁で調整を施す。器体上部は、棒状工具により、筒状突起部を含む口唇部内外面、口縁部外縁等に刺突を施す。平行な刺突列を6列周囲に巡らし、上から3列目を軸として上下に反転する幾何学的な刺突列を充填する。なお、上から2列目と上部の段、6列目と下部の段の位置がそれぞれ対応関係にある。刺突列は内面にもあり、口唇部に沿うもののほかに、筒状突起に3列みられる。

第55図は打越式土器の個体別分布を示したものである。本土器群は3個体が抽出された。分布は打越1が平5グリッド、打越2と3がH10グリッドに集中するほか、数点が遠くに飛散している。後者のグリッドには剥片石器類が皆無に近いが、その反面、大型の石皿を含む礫石器類が集中する。なんらかの加工工作業が集積する地点だったのかもしれない。

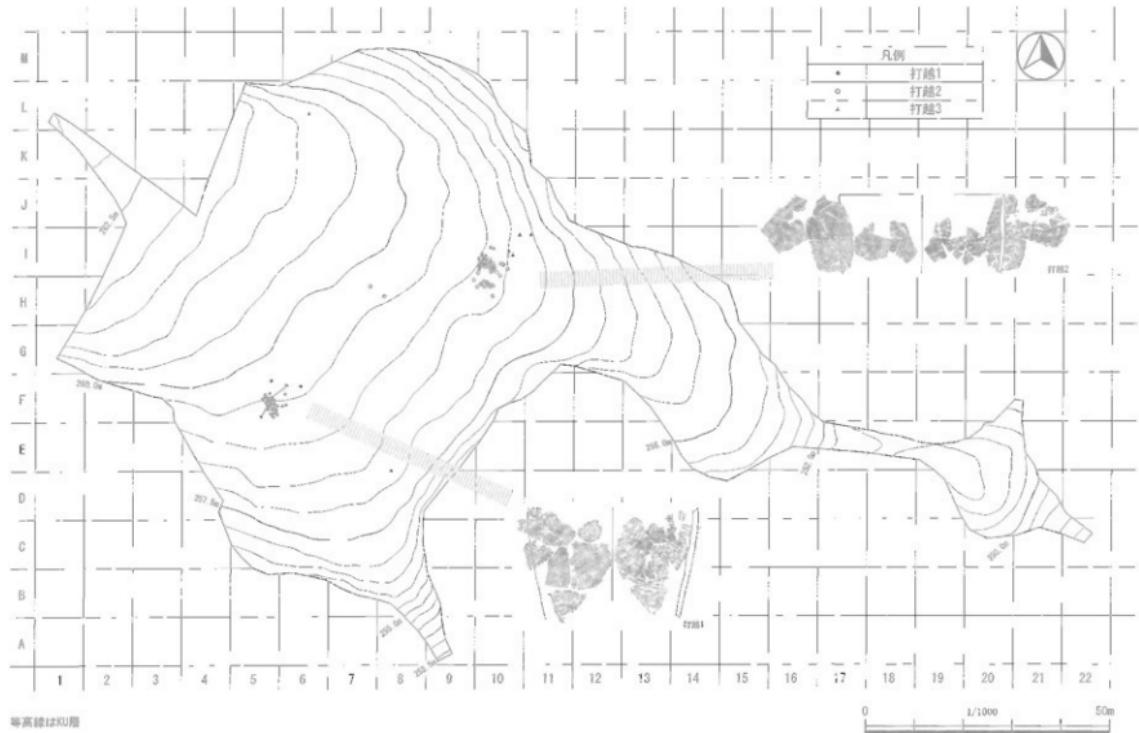
第56-58/60図82-90は打越式土器である。



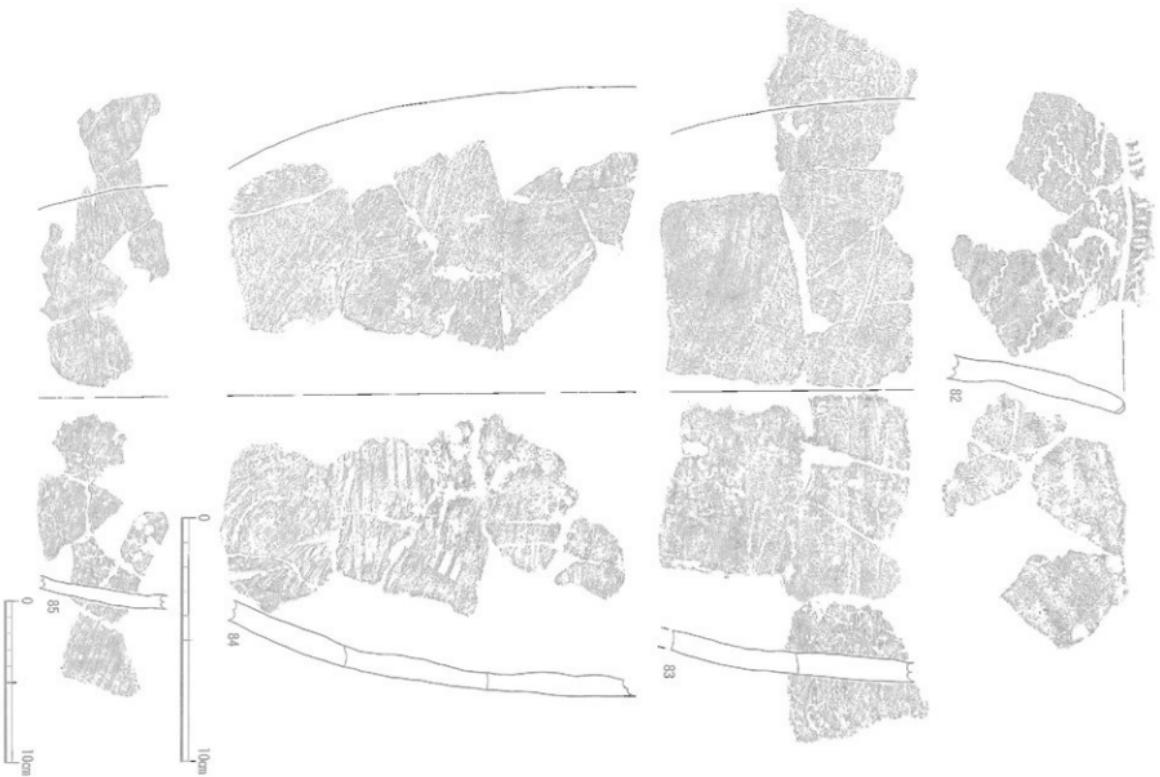
第53図 茅山下層式土器（3）



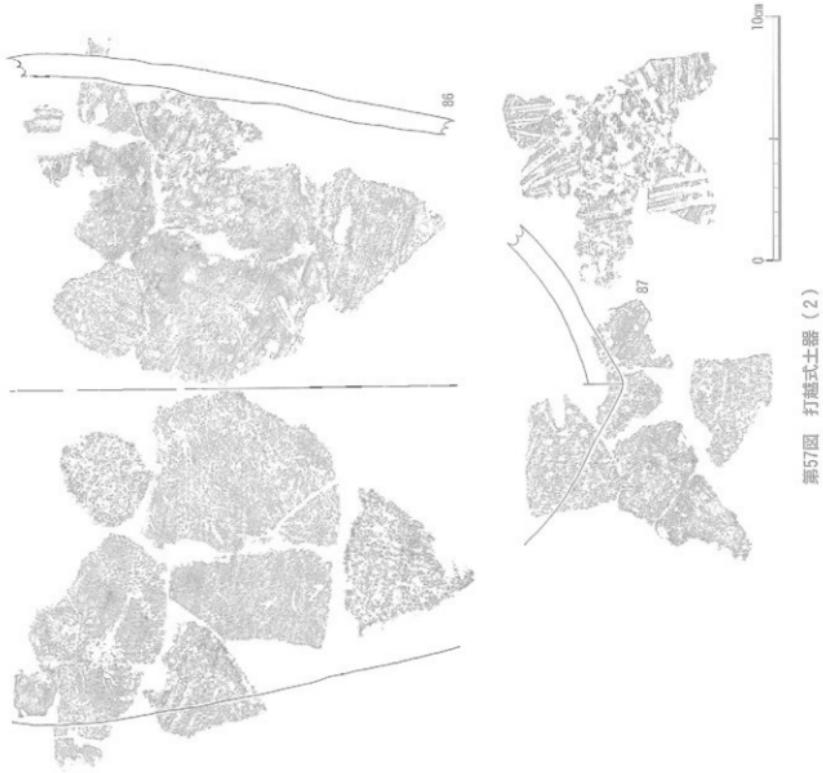
第54図 茅山下層式土器（4）



第55図 打越式土器 個体別分布

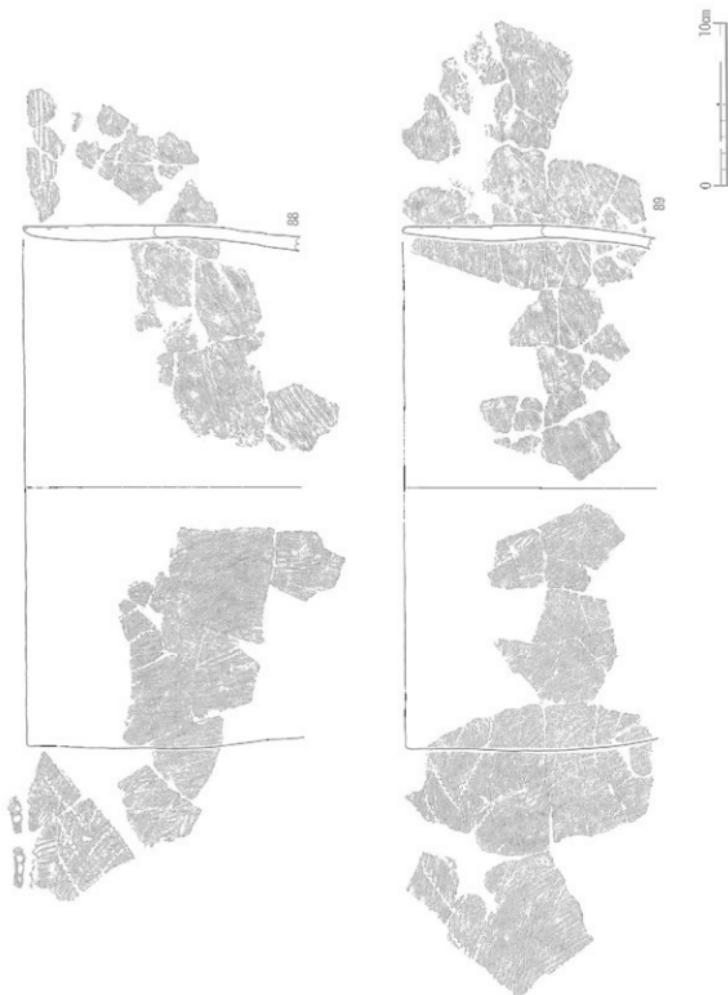


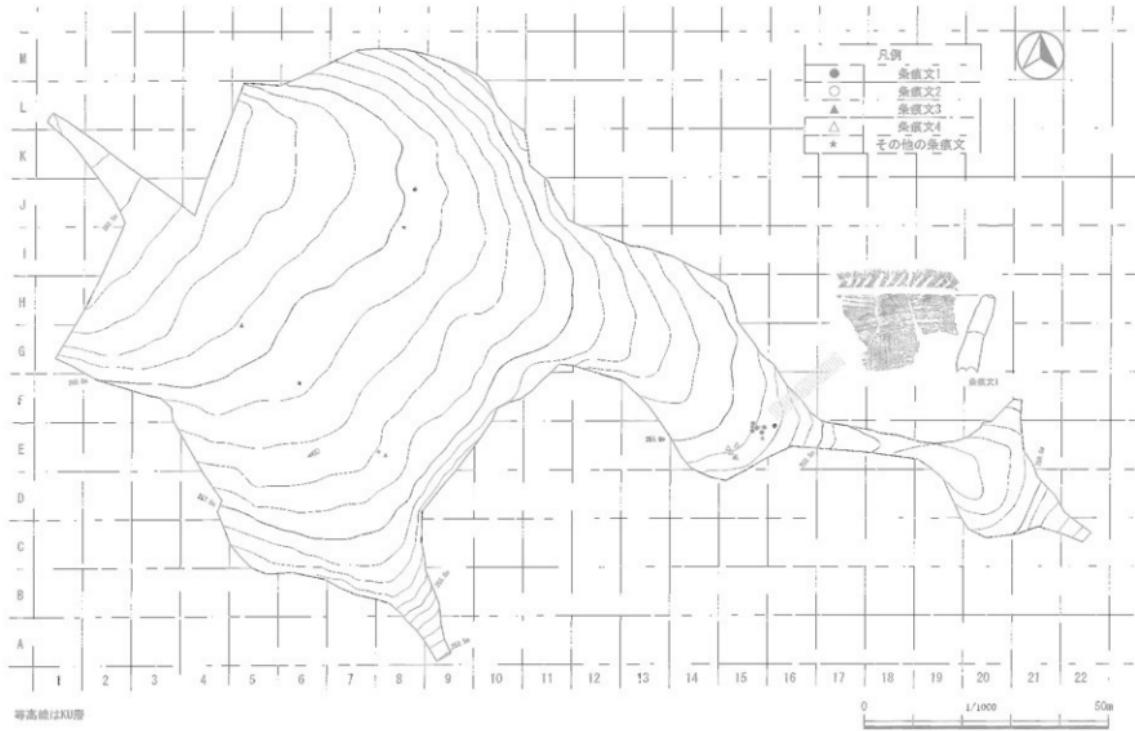
第56図 打越式土器（1）



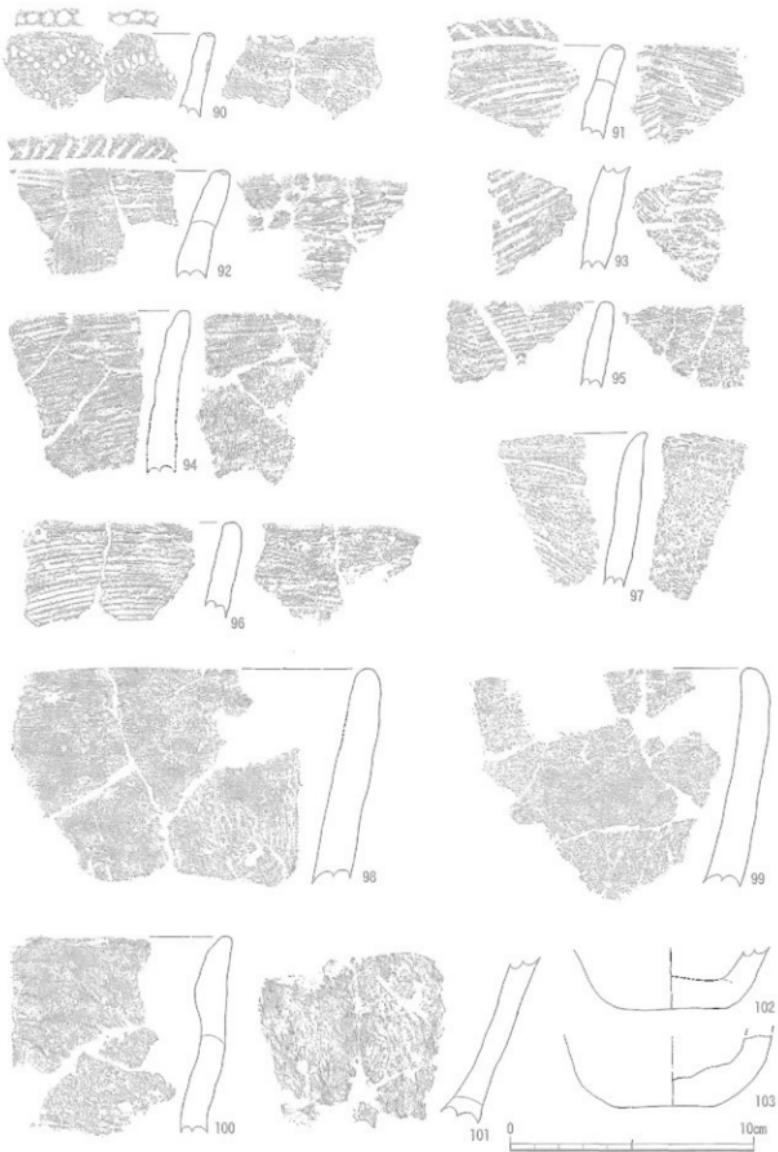
第57図 打越式土器（2）

第58図 打越式土器（3）

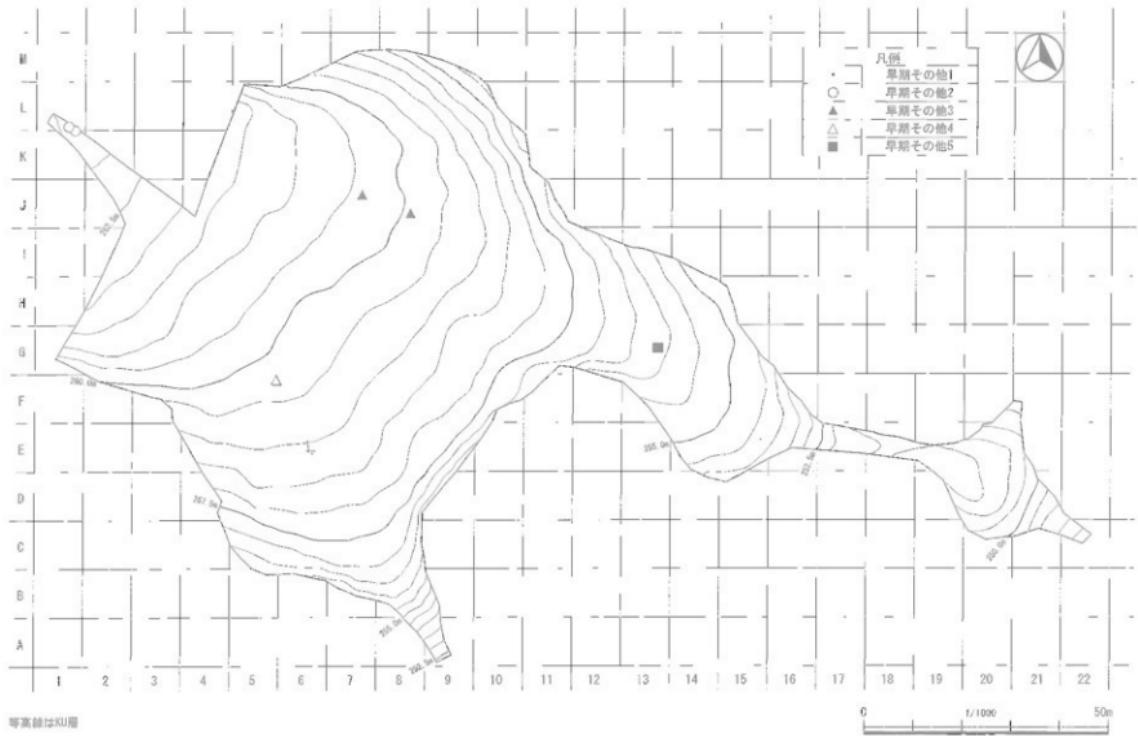




第59図 その他の条痕文土器 個体別分布



第60図 打越式土器（4） その他の条痕文土器



第61図 早期 その他の土器 個体別分布

82-87は打越1の深鉢口縁部から底部破片の接合資料である。織維を混和させる胎土を用いる。緩やかな波状を呈する口縁部直下をやや括らせ、胴部を緩やかに脹らませたうえ、底部は尖らせる。内外面に幅約6mmの籠状工具で器面調整を行う。口唇部に籠状工具で刻目をいれ、胴部上部に貝殻腹縁文を施す。接合できた口縁の部位が小さいので施文のパターンが正確に読み取れない。

88と89は打越2の深鉢口縁部から胴部の接合資料である。口径約31cmと比較的大形に整形し、内外面を貝殻状工具と刷毛状工具で調整する。口縁の形状は、接合部位が小さすぎて判然としないが、口唇部に貝殻腹縁による刻みをいれる。また、胴部上部に貝殻腹縁を押し付け、「く」の字形の連続する文様帯をつくる。

90は打越3の口縁部破片の接合資料である。口縁に刻目をいれ、胴部上部に貝殻腹縁で波状の刺突を下方に若干引くようにして施す。下位にもその一部とおぼしき痕跡が見られるので、この波状文様はおそらく2列あると推測される。

第59図は上記以外の条痕文土器群の個体別分布図である。本土器群は特定の型式に同定することができなかつたものを一括しているが、とりあえず4個体が抽出された。E15グリッドの条痕文1とE6グリッドの条痕文2の分布域はそれぞれ限定的であり、個体分類制度は概ね良好といえよう。しかし、分類精度に若干問題があるのか、例えば条痕文3のように同一個体に分類されたものが遠く離れて散漫に分布している例も一部に認められる。

第60図91-97はその他の条痕文土器群である。

91-97は条痕文1の口縁部と胴部破片で、このうち91と92が深鉢口縁部の接合資料である。内外面を貝殻腹縁状工具で調整し、口唇部に籠状工具で刻目をいれる。

94と95は条痕文2の口縁部の接合資料である。内外面に条痕文を施す。

96は条痕文3の緩やかな波状口縁破片の接合資料である。内外面に条痕文を施す。

97は条痕文4の口縁部破片である。外面に条痕文を施す。

第61図は早期のその他の土器の個体別分布を示したものである。5個体が抽出された。いずれも数点程度で構成されるだけで、はっきりしない。ただし、早期その他1の分布はE6グリッドに集中し、これは茅山下層1と条痕文2の分布とよく重なるので何か関係があるかもしれない。

第60図98-103はこれらの土器である。文様が観察されないので型式等の詳細は不明である。98と99は早期無文土器の深鉢口縁部の接合資料である。分厚く整形する。100も口縁部の接合資料である。口縁部直下でやや弯曲する。101は胴部破片の接合資料である。102と103は底部破片の接合資料である。

第3節 縄文時代前期の土器群

概要

前期土器群は12個体である。抽出された型式は上ノ坊式と諸磯b式で、あとは胎土から前期に比定されたが型式の判らない縄文土器があった。土器型式別の分布を第62図に示した。前期土器群には大きく分けて4箇所程度の集中域が認められる。すなわち、EF5/6グリッド、DE7/8グリッド、JL6、EF14/15グリッドである。JL6以外は早期土器群の一部とよく重なる。

EF5/6は石器群の集中域とも重なる。JL7/8は剥片石器類と礫石器類の双方とも重なる傾向がない。石斧の意図的な集積（石斧集中）が1箇所検出された。上ノ坊式土器に関連するものである。

遺構は、12号/16号集石が前期前半上ノ坊式とほぼ同時期で、2号土坑が諸磯b式土器とほぼ同時期である。2基の集石は石斧集中と近い場所にある。

出土土器の検討（第63-69図）

第63図は上ノ坊式土器の個体別分布を示したものである。2個体が抽出され、分布も離れている。上ノ坊1は調査区北部のJ6グリッドとL6グリッドに分布する。上ノ坊2は調査区南部でE5グリッドに特に集中する。北部と南部で互いの個体が1点ずつ混入しているのがやや気にかかるが、個体分類に問題があるとは思われなかった。

第65図104-114は上ノ坊式土器である。

104-110は上ノ坊1の深鉢口縁部破片と胴部破片もしくはそれらの接合資料である。口縁部を肥厚させず薄く仕上げる。口縁部に籠状工具の角で約5mm間隔に連続して突き刺し、横位に1列をつくる。また、その下に、おそらく同一の籠状工具で幅12-14mm程度の右傾させた爪形を横位に2列施す。104-106は1列目、104の下部および107/108/110に2列目がみられる。109はどちらか判断できない。

111-114は上ノ坊2の深鉢口縁部破片と胴部破片もしくはそれらの接合資料である。上ノ坊1と同様に薄作りである。波状を呈する口縁部の輪積み外面と胴部の一部に文様を施す。幅8-9mm程度の籠状工具を横に用いて5段または6段の連続的な刺突列を形成する。また、112の下部にみられるように、爪形状工具（爪かもしれない）により横位の列を形成する。

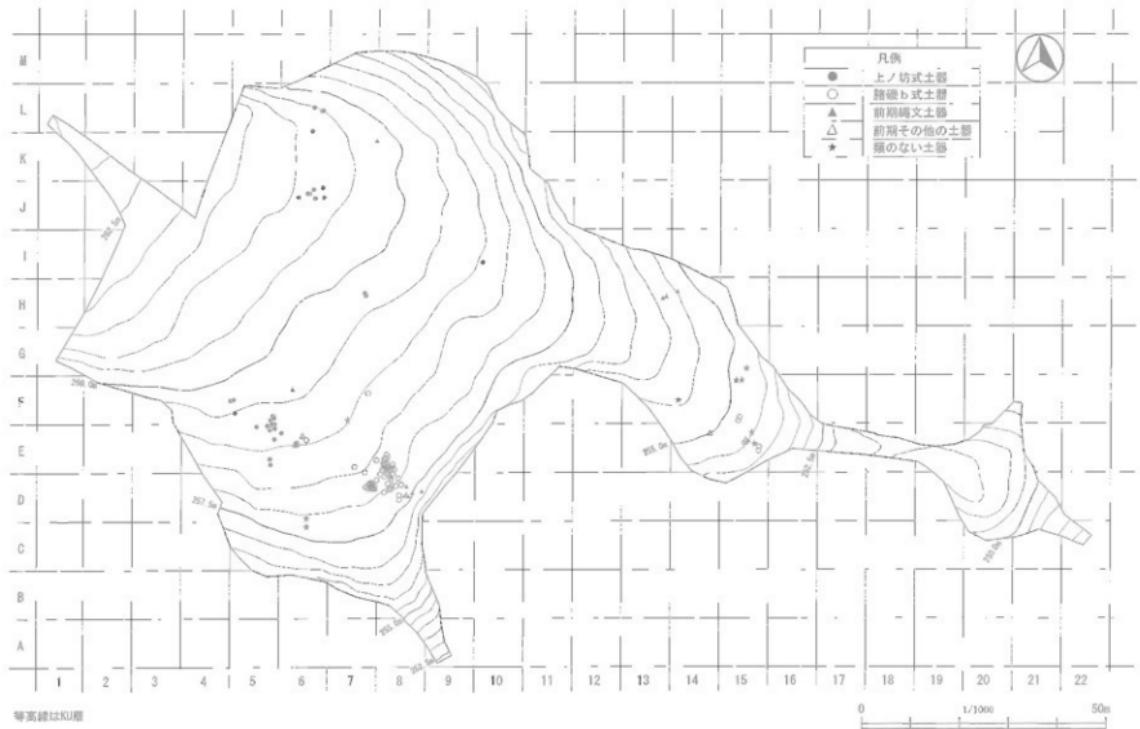
第64図は諸磯b式土器の個体別分布を示したものである。5個体が抽出された。殆どがED7/8グリッドに集中し、5点（諸磯b4と5）がE15グリッドないしその付近に分布する。しかし、両グリッドの土器には接合関係がない。

第65-67図115-128は諸磯b式土器である。

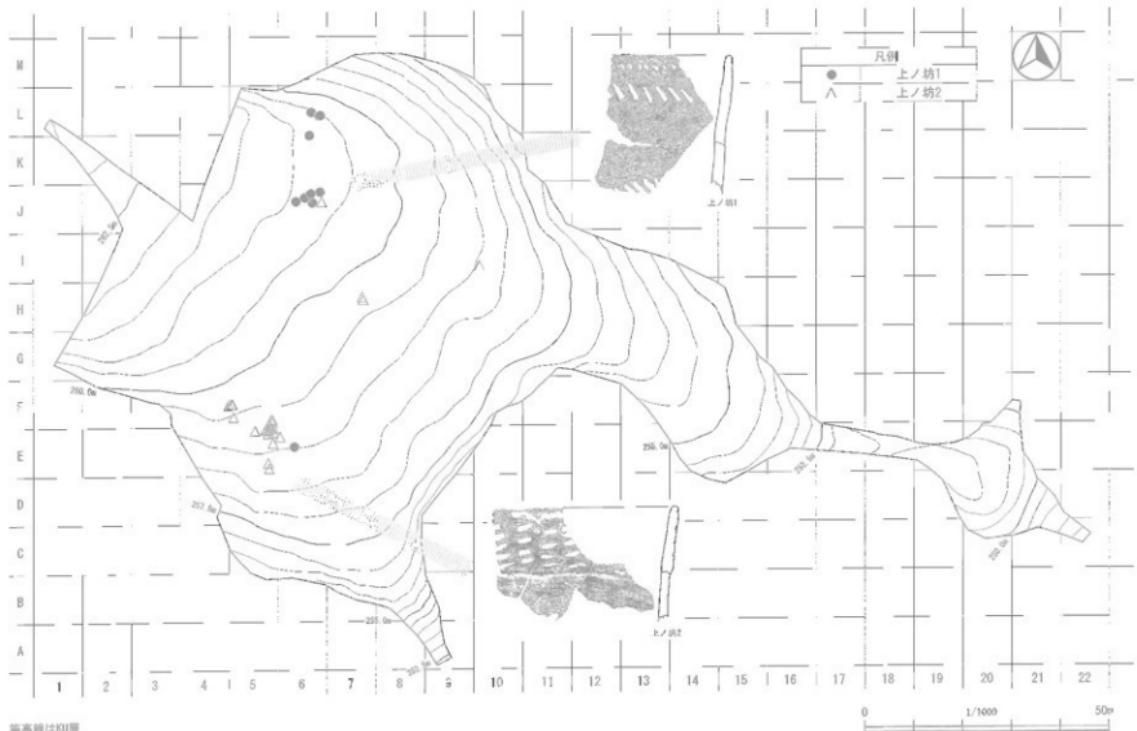
115-118は諸磯b1である。口縁部がキャリバー形を呈し（115-117）、括れた頸部の下に粘土紐を貼付け隆帯を形成する。口唇部と外面全体にRLの縄文原体で地文を横位に施し、次いで同様の部位に半截竹管状工具で周囲を巡る平行沈線を等間隔に施す。貼付けた隆帯上にジグザグの沈線を巡らして文様帯を形成し（118上部）、その上位に半截竹管状工具の端部（腹面を右する「C」字の状態で）を連続的に突き刺して横位の列を1列（117左下部、118上部）施文する。

119-122は諸磯b2の胴部破片とその接合資料である。緩やかに括れる頸部を形成する。Lの縄文原体を横位に施して地文とし（119）、半截竹管状工具により間隔を空けた平行沈線を引く。

123と124は諸磯b3の胴部破片である。RLの縄文原体を横位に施し、隆起線の上位に細い棒状工具を連続的に突き刺して列を形成する（123）。

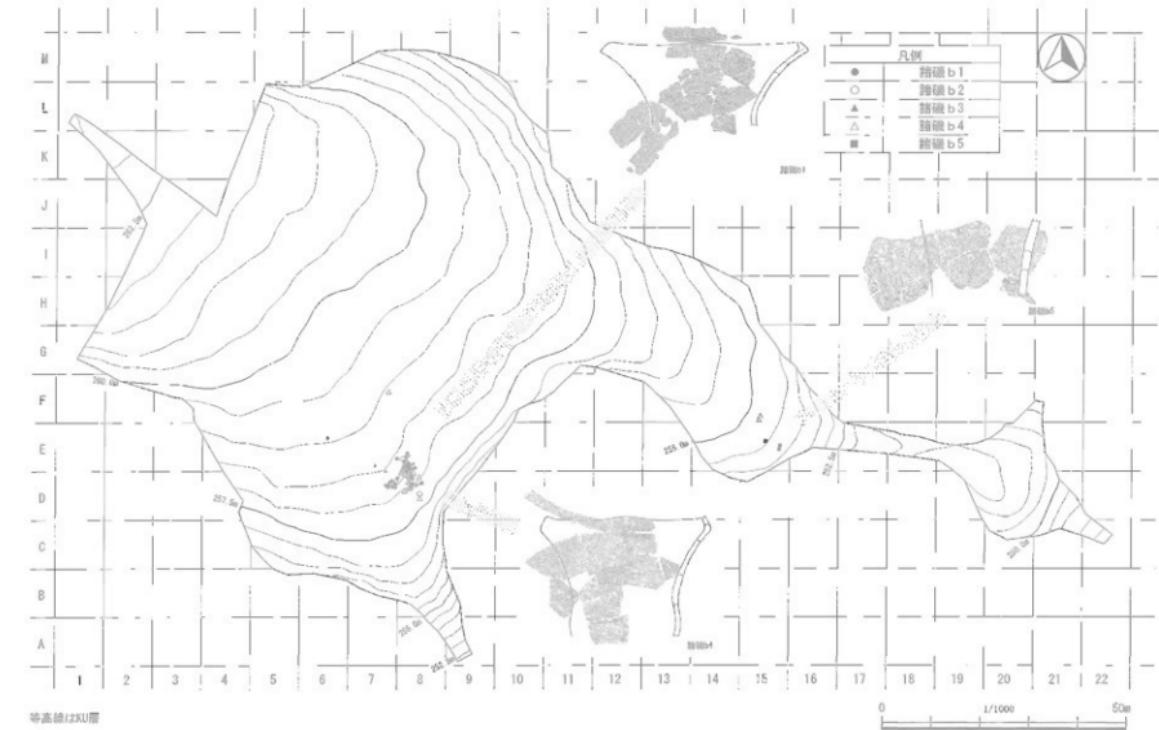


第62図 前期土器群 型式別分布

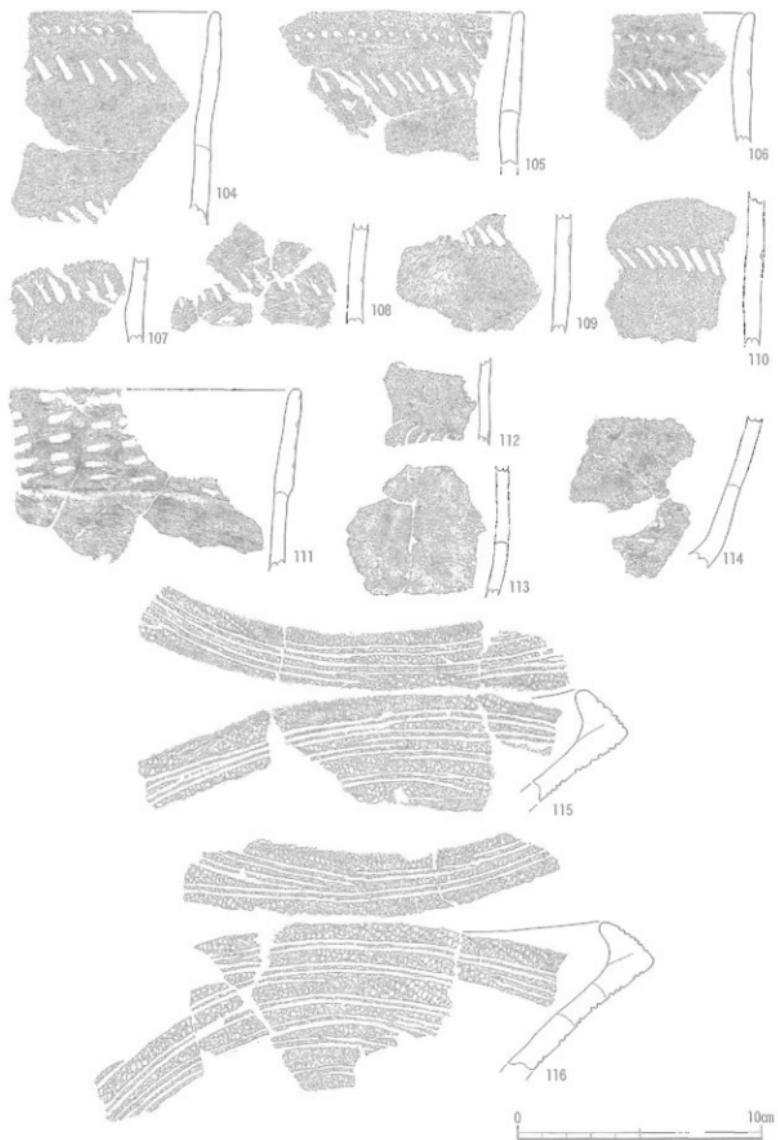


第63図 上ノ坊式土器 個体別分布

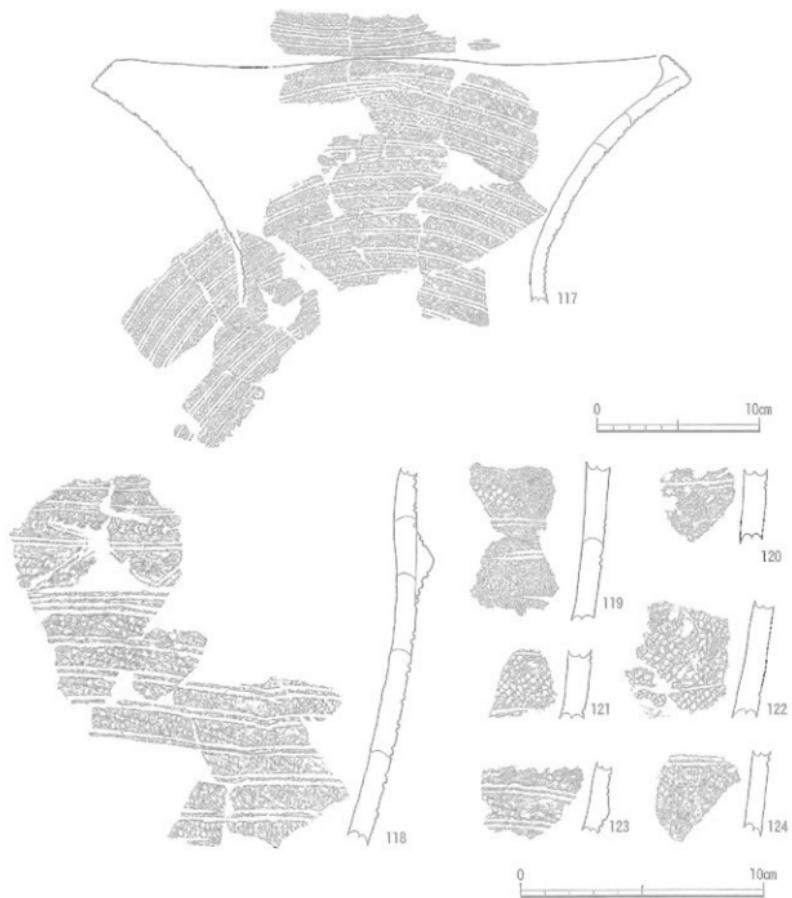
等高線は20m



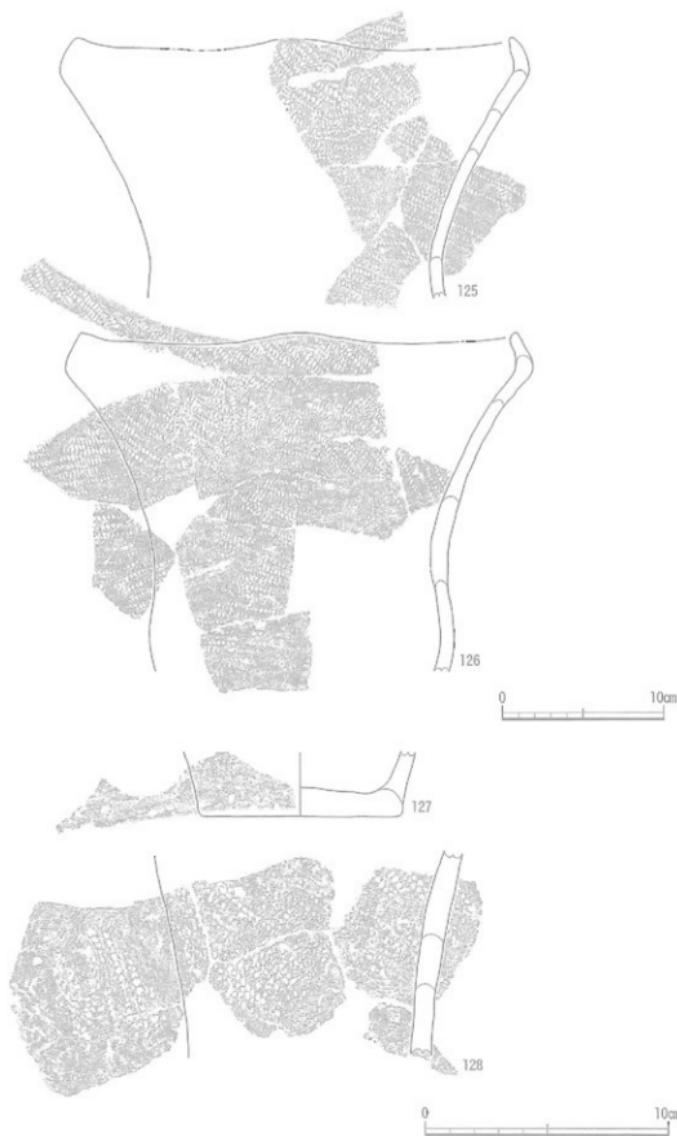
第64図 諸磧b式土器等 個体別分布



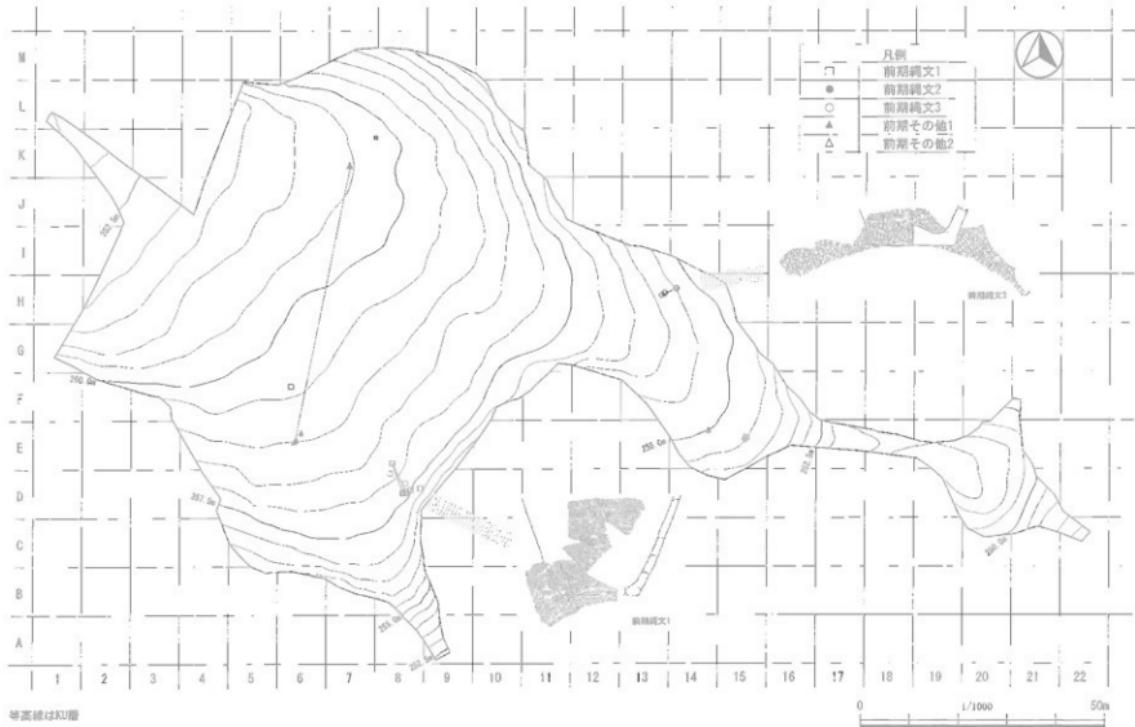
第65図 上ノ坊式土器 諸磯b式土器 (1)



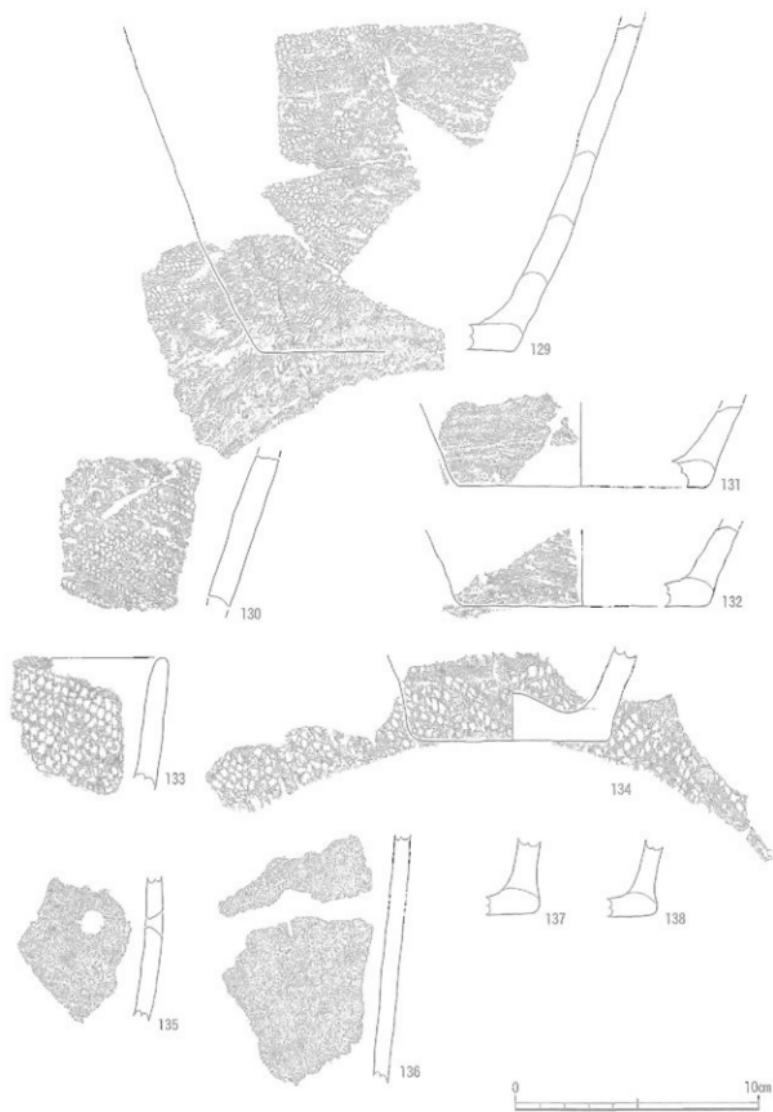
第66図 諸磯b式土器（2）



第67図 諸磚b式土器（3）



第68図 前期 縄文土器および他の土器 個体別分布



第69図 前期 繩文土器 その他の土器

125-127は諸磯b 4の深鉢口縁部から胴部破片および底部の接合資料である。4方に頂部のある波状口縁のキャリパー形に整形する。外面全体にRLの原体で縄文を横位に施す。

128は諸磯b 5の深鉢胴部下部破片の接合資料である。RLの原体で横位に疎らな縄文を施す。

第68図は、型式が不明であるが前期土器群と思われる胎土を用いるもののうち、縄文を施すものと、無文のものの個体別分布図である。縄文を施すものは3個体、無文（その他）は2個体が抽出された。D 8 グリッドに前期縄文1が集中するほかは割と散漫に分布する。前期縄文1の集中分布域は諸磯b 1-5に近く、その南東で一部重複する。しかし、垂直分布を検討した結果、諸磯b 2/4よりも下位に包含されることがわかった。したがって時間的には本遺跡の諸磯b式土器に先行する一群である。

第69図は型式不明の前期土器群である。

129-132は前期縄文1の深鉢胴部破片と、胴部から底部破片の接合資料である。外面全体にRLの原体で疎らな縄文を横位に施す。胎土も縄文も諸磯b式のそれによく似ている。

133は前期縄文2の口縁部破片である。RLの原体で縄文を横位に施す。調査区全体をみわたしても1点しか検出されていない。周辺の土器群とあせて垂直分布を検討した結果、中期縄文1と3よりも上位で新道と藤内6と同層準にあることがわかった。おそらく使用場所から逸脱しているものと推測される。

134は前期縄文3の底部破片の接合資料である。RLの原体で横位に施文するが、またLRの原体で縦位に施文する部分もある。

135-138は無文土器である。

135と136は前期その他1の胴部破片の接合資料である。薄手作りである。135には補修孔、136には大型の織維が横断していた痕跡が見られる。

137と138は前期その他2の底部破片である。以上の前期土器群と同一とは思われない胎土を利用していいる。

第4節 縄文時代中期の土器群

概要

中期土器群は12個体が抽出された。新道式土器1個体、藤内式土器6個体である。藤内I式とII式の区別は行わなかった。土器型式別の分布は第70図に示した。土器群には数箇所の集中域が認められる。すなわち、C7グリッド、H5グリッド、KL6-8グリッド、IIIグリッドなどである。しかし、これらの集中域はほとんどが同一個体の破片化されたもので構成されているため、集合的といえそうのはKL6-8グリッドに留まる。この範囲の土器群は、剥片石器群の集中域とは重なっていないかったが、台石を始めとする礫石器類がありと目立って分布する。遺構は、15号/20号集石が中期に帰属する可能性が高い。

出土土器の検討（第71-77図）

各型式の個体数が少ないので、先に分布図をまとめて掲載しておく（第71-73図）。

第71図は新道式土器、第72図は藤内式土器の個体別分布を示したものである。

第74図139/140は新道式土器である。139と140は新道式土器の深鉢口縁部から底部付近破片の接合資料で、同一個体（新道）である。139は破損している耳飾り状突起を受けた口縁部に刻みを入れ、その下位に原体RLの縄文を横位に施し、さらにその下位に籠状工具でキャタピラ文を横位に施す。このキャタピラ文の上下に籠状工具の角で山形の沈線を引く。また、キャタピラ文の四方から、同様のキャタピラ文で両側面を押さえた隆帯を垂下させる。

第74/77図141-156は藤内式土器の口縁部から底部破片の接合資料である。

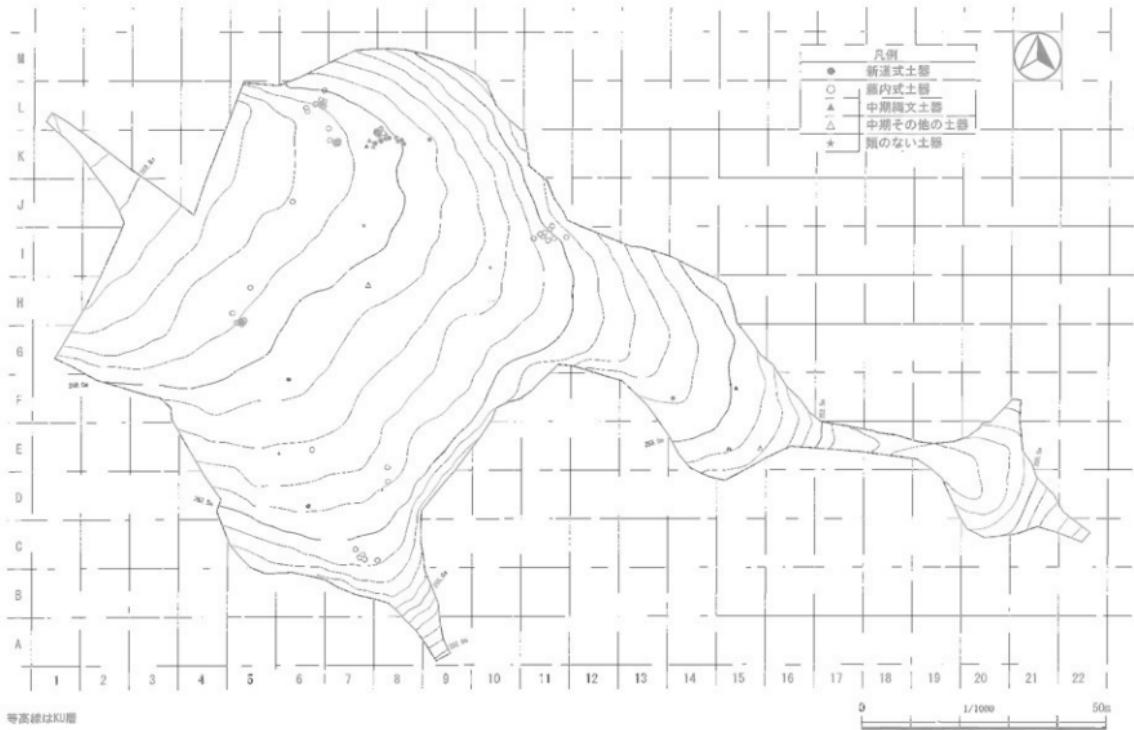
141と142は藤内Iの口縁部から胴部破片の接合資料と胴部から底部破片の接合資料である。口縁部に突帯が付くと推測される円筒形を呈する。半截竹管状工具で片側を重ねた沈線と貼付け隆帯の脇を籠状工具で連続的な爪形文で押さえ、また周囲を巡らして上部文様帶を区画する。区画内の空隙には半截竹管状工具の端部を押しつけたC字形の刺突文を連続的に施す。中部ないし下部の文様帶は抽象的な流れをもつ隆帯の両脇を上部文様帶と同様の籠状工具で連続的な爪形文で押さええる。また、爪形文には山形文を沿わせる。小区画内にはまた、流線型の沈線が認められるが、観察できるのが部分的なので形状はよくわからぬ。

143は藤内2の深鉢口縁部から胴部下部破片の接合資料である。口縁部に刻みを入れ、口縁に屈曲部を形成する。この屈曲部頂点の上下は無文である。この下位に、連続的な爪形文をつけた隆帯を四方に垂下させて縱位の文様区画をつくり、半截竹管状工具で沈線を引き縱長長方形を主体とする区画を形成する。内部には小形の半截竹管状工具で縱位と横位の沈線および同工具の端部で突き刺すC字形の刺突文を充填する。耳状の突起は対応する箇所に付ける。

144-146は藤内3の頸部破片の接合資料と口縁部破片である。口縁部から頸部の屈曲部にかけて半截竹管状工具の端部を連続的に押し付けた爪形文を施す。また一部に隆帯を垂下させる。

147-149は藤内4の頸部破片の接合資料（148）と頸部破片（147）と胴部破片（149）である。縄文地の上に抽象的に流れの隆帯の両脇に籠状工具で連続的な爪形文を施し、それに沿う山形文を縱位/横位に施す。

第76図150-155は藤内5の口縁部から頸部の接合資料および胴部破片と底部破片である。H5グリッドを中心に分布する。キャリバー形を呈する口縁をつくり、口唇部に爪形の刻みを連続的に施す。その下位は全面に原体RLの縄文を横位に施す。



第70図 中期土器群 型式別分布

第77図156は藤内6の接合資料である。K7/8グリッドに分布する。耳飾り状突起を付けた口縁部下で大きく脹らむ。頸部の内湾部に隆帯で梢円文を施し、内側を沈線でなぞり、その内部を縦位もしくは斜位の沈線を充填する。一巡りする隆帯から隆帯を2箇所垂下させて二つの区画をつくり、次いでこの中に原体RLの縄文を斜位に施す。藤内II式と思われる。

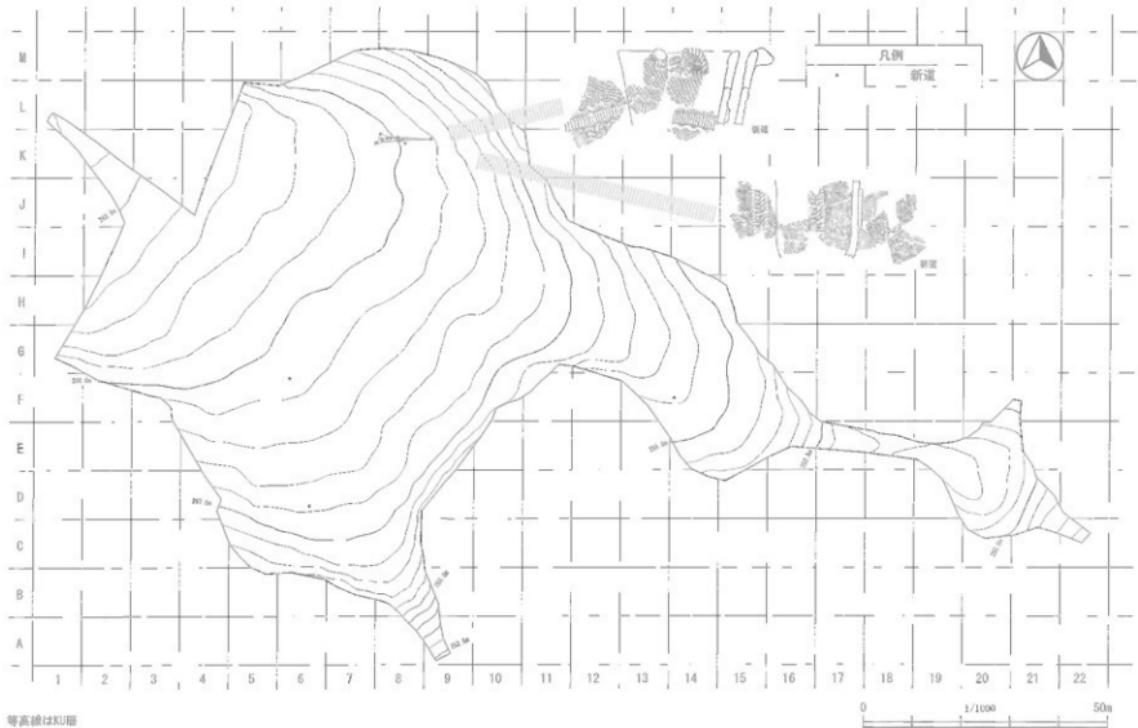
第73図は中期のものと推測される胎土を使用するもののうち、縄文を施文するもの3個体と型式の不明なものの2個体の個体別分布を示している。中期縄文1と同3の平面分布は新道と藤内6にたいへん近い。そこで垂直分布を検討したところ、中期縄文1・3（同層準）は新道・藤内6（同層準）よりも30cm余り下位に包含されていることがわかった。攢乱等がないとすれば、中期でもかなり早い時期に帰属するのだろう。

第77図157は中期縄文Iの口縁部破片の接合資料である。口縁を角頭状にし、原体RLの縄文を横位に施す。

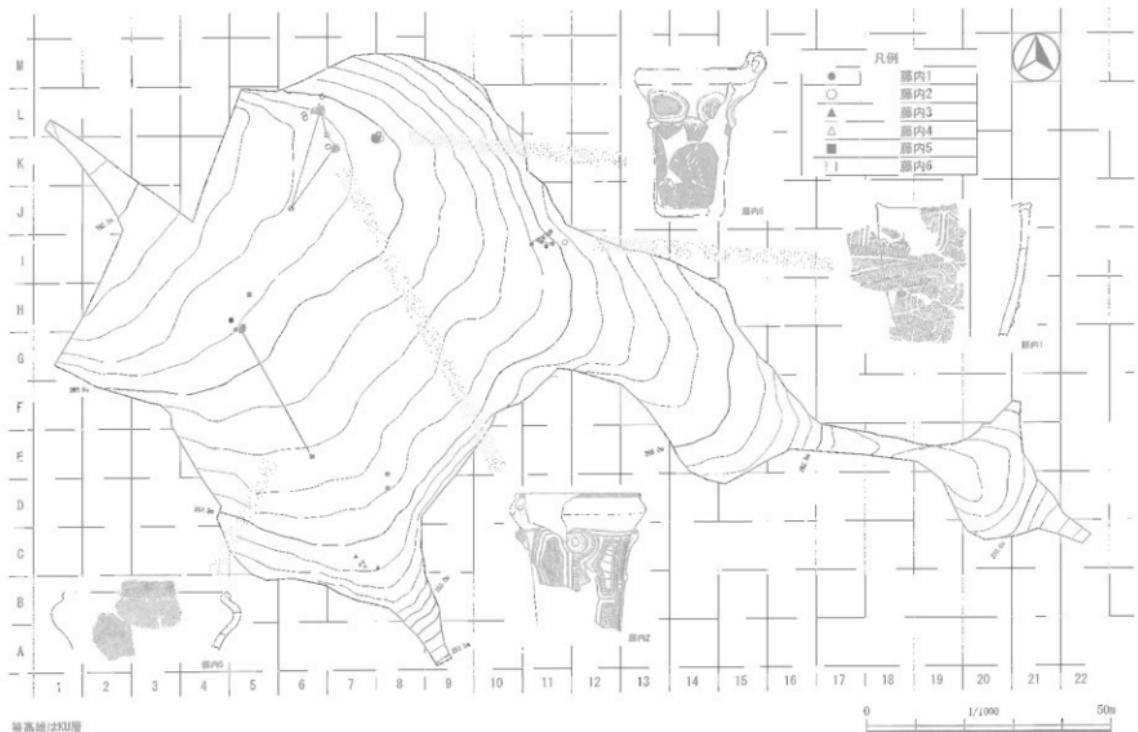
158-160は中期縄文2の頸部ないし胴部破片である。原体Lで縄文を縦位・横位に施す。

161-165は中期縄文3の胴部破片である。原体RLで縄文を縦位に施す。

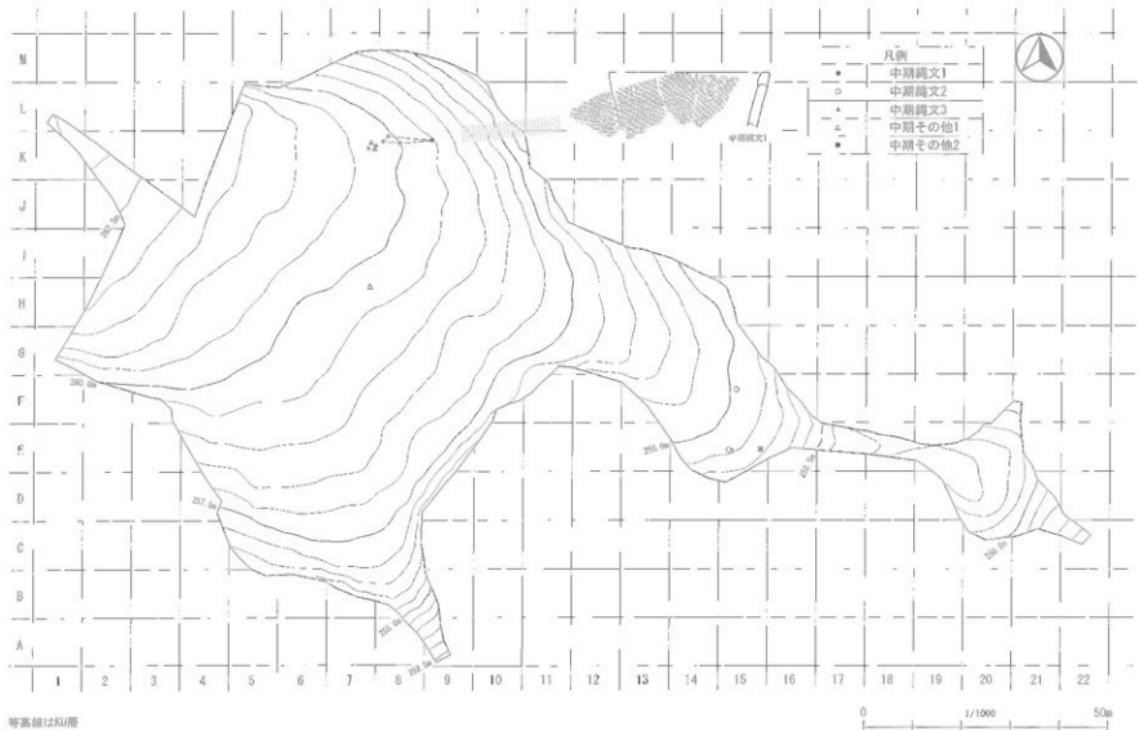
166と167は中期その他1の底部破片である。168は中期その他2の底部破片である。中期その他1に比較して僅かに屈曲させる。



第71図 新道式土器 個体分布



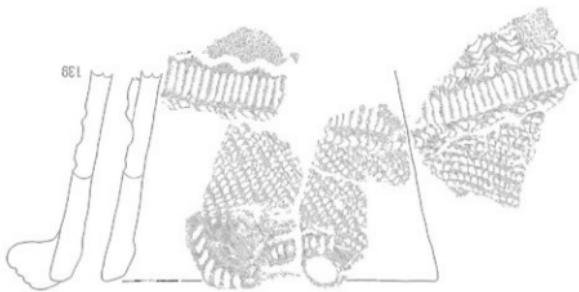
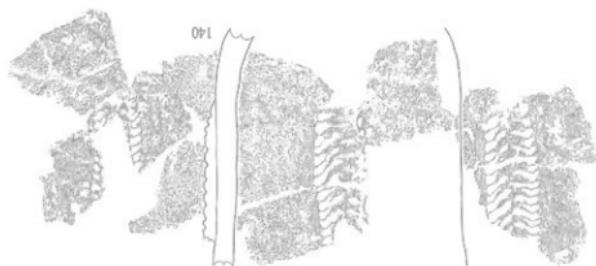
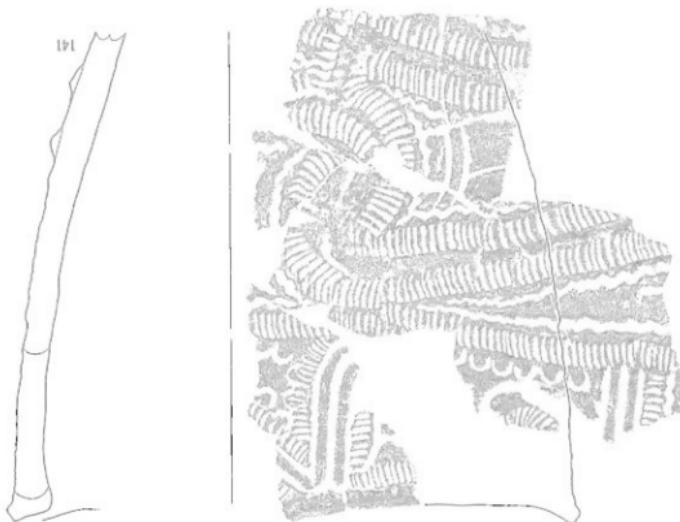
第72図 藤内式土器 個体別分布



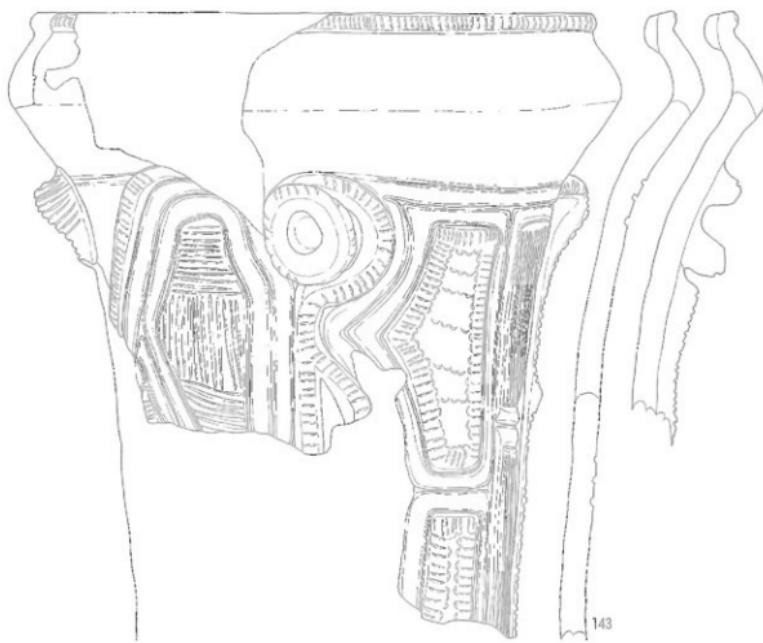
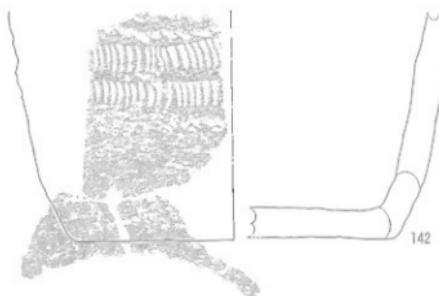
第73図 中期 縄文土器およびその他の土器 個体別分布

第74图 新石器时代晚期陶器 (1)

10cm
0



第5章 新石器时代的陶器与漆器



第75図 藤内式土器（2）

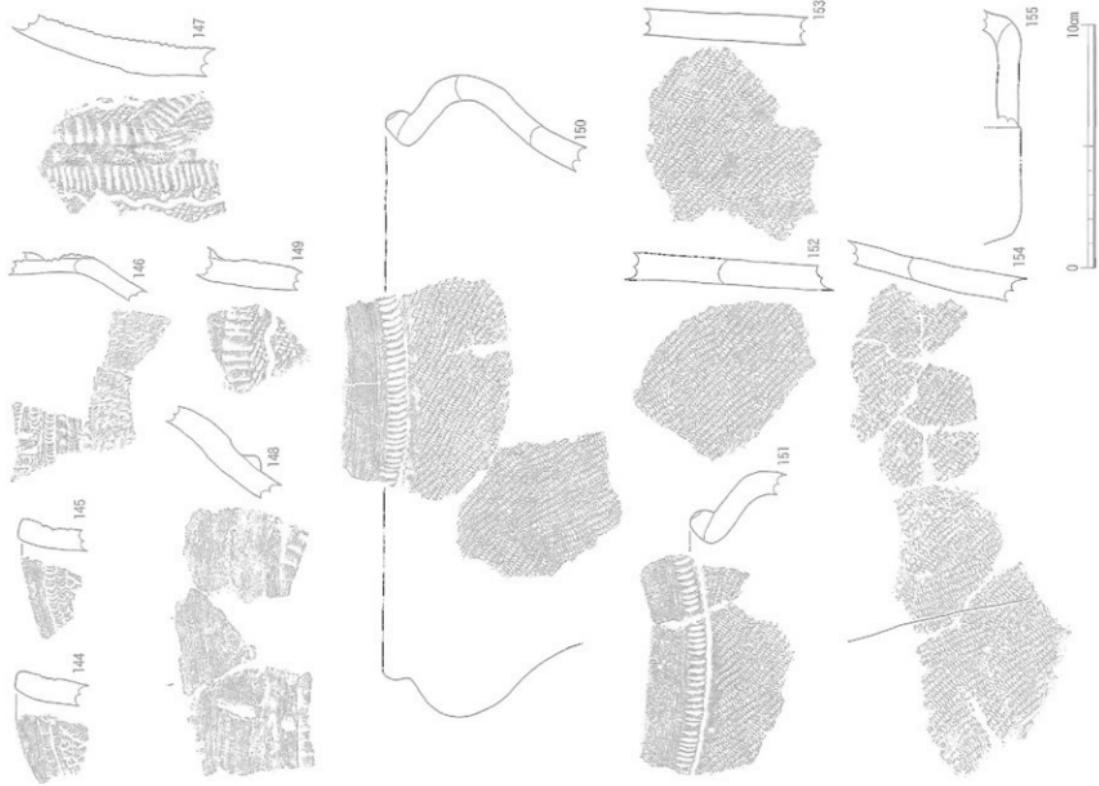
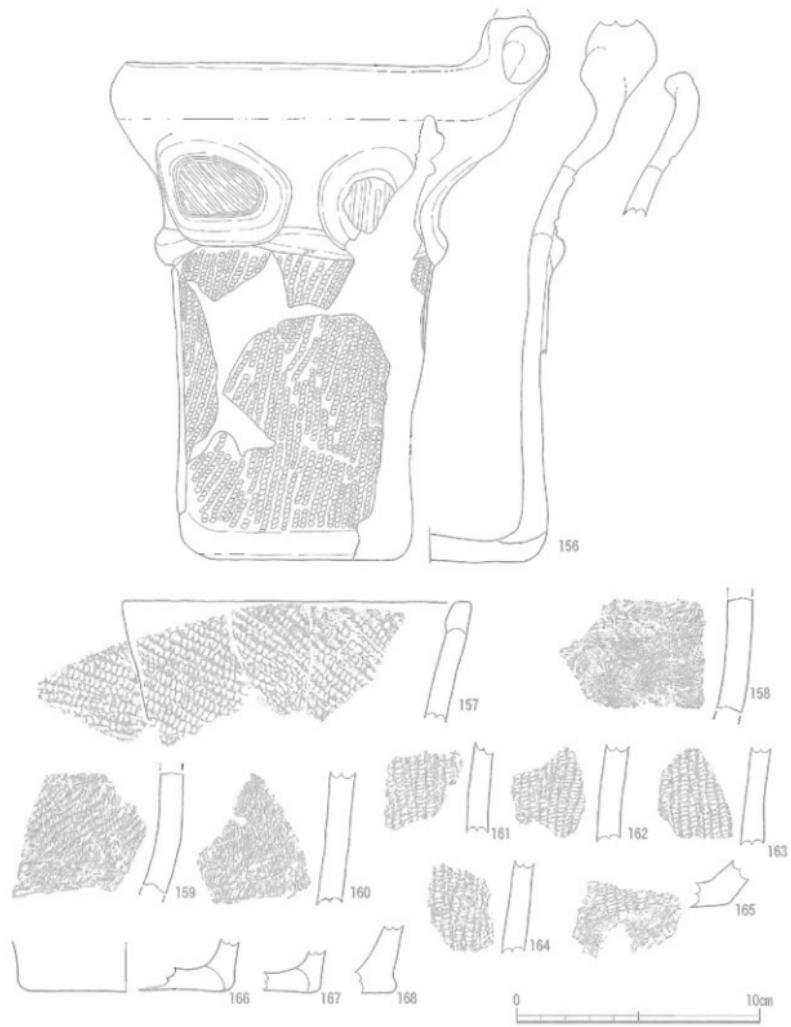


図76図 藤内式土器（3）



第77図 藤内式土器（4） 繩文土器 その他の土器

第5節 縄文時代草創期から中期の石器群

概要

縄文時代石器群は総点数3805点(礫を除く)で、剥片石器類3494点、石核44点、石斧7点、礫石器類260点を組成し、YLU最上部(有舌尖頭器の主要な包含層)から新期スコリア包含層までに広く包含される。

尖頭器類と、これと関連のありそうなガラス質黒色安山岩製の石器集中はおそらく縄文時代草創期に帰属するが、その他の石器群の時期は、いくつかの集中部を形成している反面、よくわからなかった。そこで、以下では草創期に帰属する可能性の高い尖頭器類を先に提示し、次いで石器集中を中心とする4箇所(DEF5-8グリッド、EFG13-16グリッド、CDE19-21グリッド、HIJK6-11グリッド)を抽出し、それについて報告する。

表13 縄文時代 剥片石器類の石材組成

	黒曜石										ガラス質 黒色 安山岩		
	霧防 黒台 群	蓼科 山群	和田 山群	和田美留 谷群	箱根 畠中群	箱根 鎌治屋群	箱根 黒岩群	天城 柏崎群	神奈島 恩恵島群	推定 不可	測定 不可	未分析	
尖頭器												1	
有舌尖頭器	1											1	
石核	30	1	1	1	19	1		12	15	2		6	
影器												1	
石錐					1							1	
楔形石器												5	
抉入削器												1	
削器											2	5	
打製石斧												13	
二次加工剥片						2						3	
微細剥離痕剥片		1									7	2	
石刃												1	
縄石刃												1	
削片												1	
剥片	27		5		2			10	4	1	646	13	
碎片	162		29	4	12			9	2	69	158	1	
石核	1				1						35	3	
計	162	1	35	6	27	1	1	31	23	72	199	2913	
												35	
	輝石 安山岩	細粒 安山岩	玉髓	流紋岩	緑色 凝灰岩	テイ サイト	縄紋 斑レイ 岩	ホルン フェルス	頁岩	珪質 頁岩	硬質 頁岩	チャ ート	計
尖頭器										2	1		4
有舌尖頭器										1			4
石錐					1					2			84
影器													1
石錐													2
楔形石器													5
抉入削器													1
削器													9
打製石斧	5		1		1								7
二次加工剥片						2							18
微細剥離痕剥片							1						10
石刃													1
縄石刃													1
削片	2				1		1	7	1	2			724
剥片			1										2629
碎片													44
石核	7	1	1	2	3	1	1	13	1	6	1	1	3545

表14 縄文時代 磬石器類の石材組成

	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	角閃石 安山岩	玄武岩 立武岩	多孔質 玄武岩	粗粒 玄武岩	閃綠岩	テイ サイト	細粒 班レイ 岩	珪質 粘板岩	細粒 砂岩	中粒 砂岩	粗粒 砂岩	ひん岩	計
磨-敲石	12				7				1							20
磨石	54	5	4	2	25	5	2		7	1						106
敲石	28	1			7	3		1			5	6	1	2		52
砾石片										1						1
台石	36	1	1		10				1							49
台石片	6				1											7
石皿	8	1			3	1										13
四石					1											1
縫器	6				3											9
鉢石																2
計	151	8	5	1	57	10	2	1	9	1	1	3	6	3	2	260

(1) 尖頭器類（第82図）

尖頭器類はその他の石器群と時期が異なる可能性が高いので、抽出してここに纏めておく。

尖頭器類にはホルンフェルスとガラス質黒色安山岩、それに黒曜石などが利用される。ホルンフェルスとガラス質黒色安山岩は愛鷹鶴根地域における尖頭器石器群の最も一般的な石材である。黒曜石は主として中部高地産、伊豆箱根産、神津島産を特徴とする。神津島産は最近検出例が増加し始め、草創期の尖頭器石器群の石材として珍しいものではなくなってきている。

有舌尖頭器（1-4）

4点すべてを図示した。

1はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。小型で薄作りである。尖端部は折損する。

2は諭訪星ヶ台産黒曜石製の有舌尖頭器である。発掘時の欠損も含めて複数箇所を激しく損傷しており、全体形状は不明瞭である。

3は神津島恩馳島産黒曜石製の有舌尖頭器である。2と同じく、尖端部と基部が損傷している。器体の最大幅は基部直上のかえし部分ではなく、中位にある。

4はガラス質黒色安山岩製有舌尖頭器である。灰色に風化している。

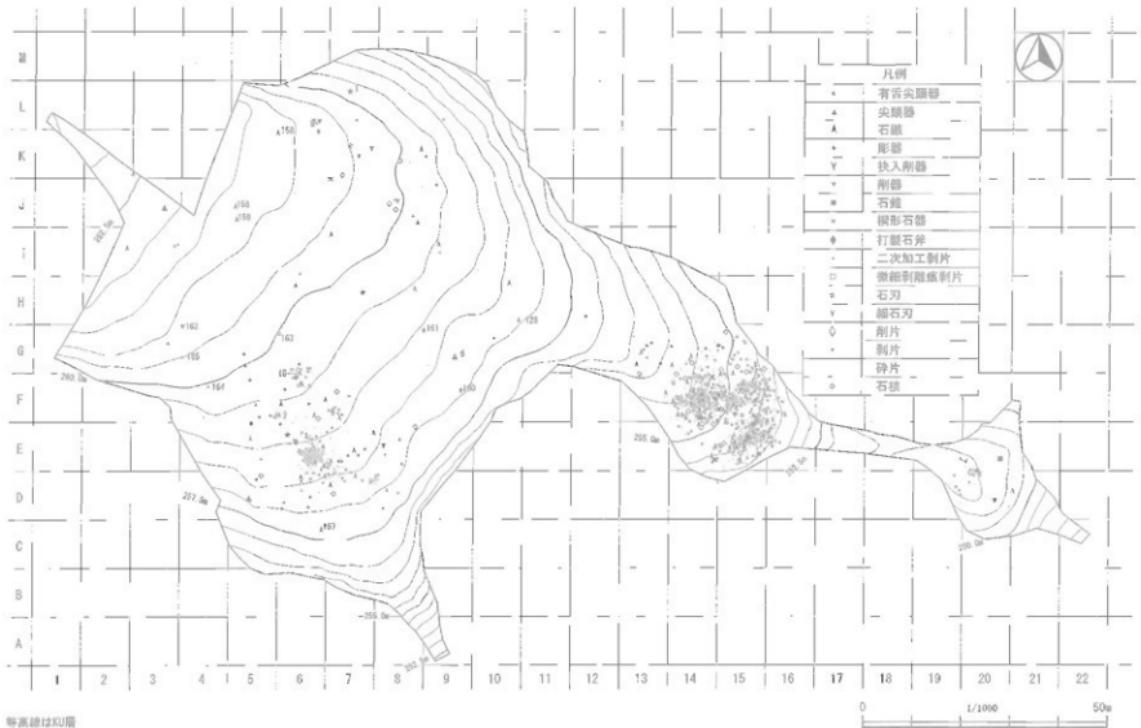
尖頭器（5-7）

3点すべてを図示した。

5は硬質頁岩製両面加工尖頭器である。赤褐色の硬質頁岩は本遺跡で他に例がない。形態的には旧石器時代に類例が見当たらないので、縄文時代草創期に帰属させた。

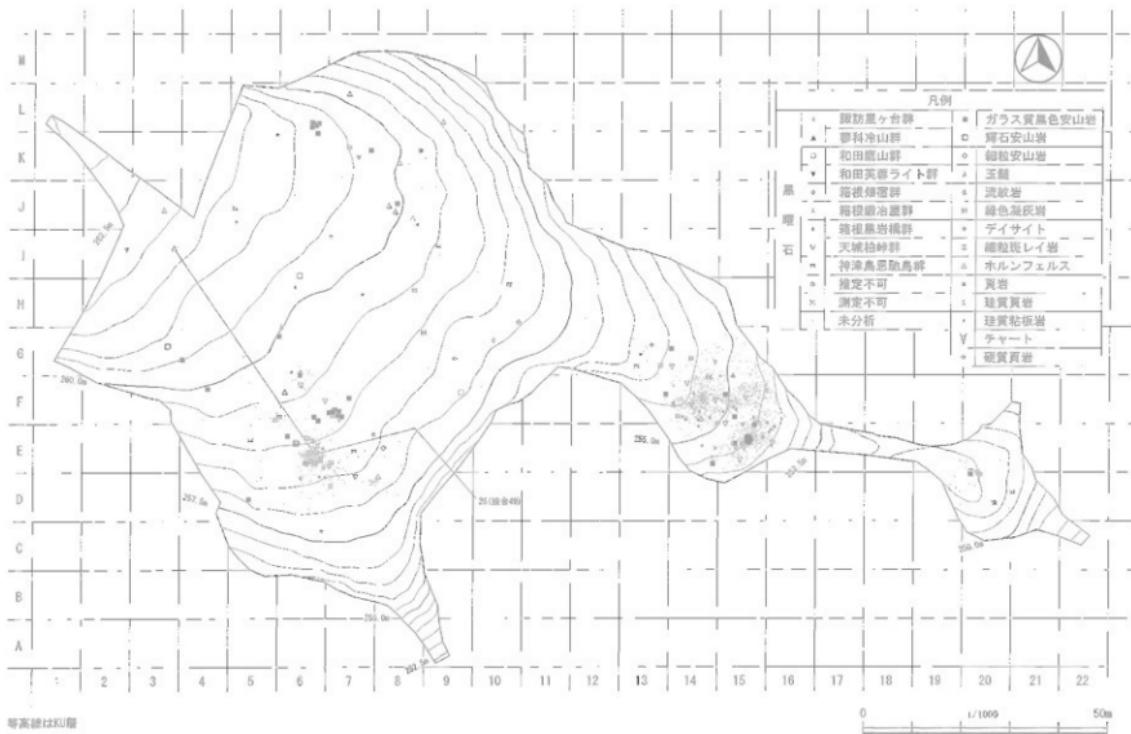
6はガラス質黒色安山岩製両面加工尖頭器である。最大幅が基部付近にある縄文時代草創期に特徴的な形態である。表面は黄褐色に風化している。

7はホルンフェルス製である。基部が折れているので断言できないが、両側縁が平行に近いこと、幅が狭い割に中央部に厚みをもつことから、有舌尖頭器の可能性もある。

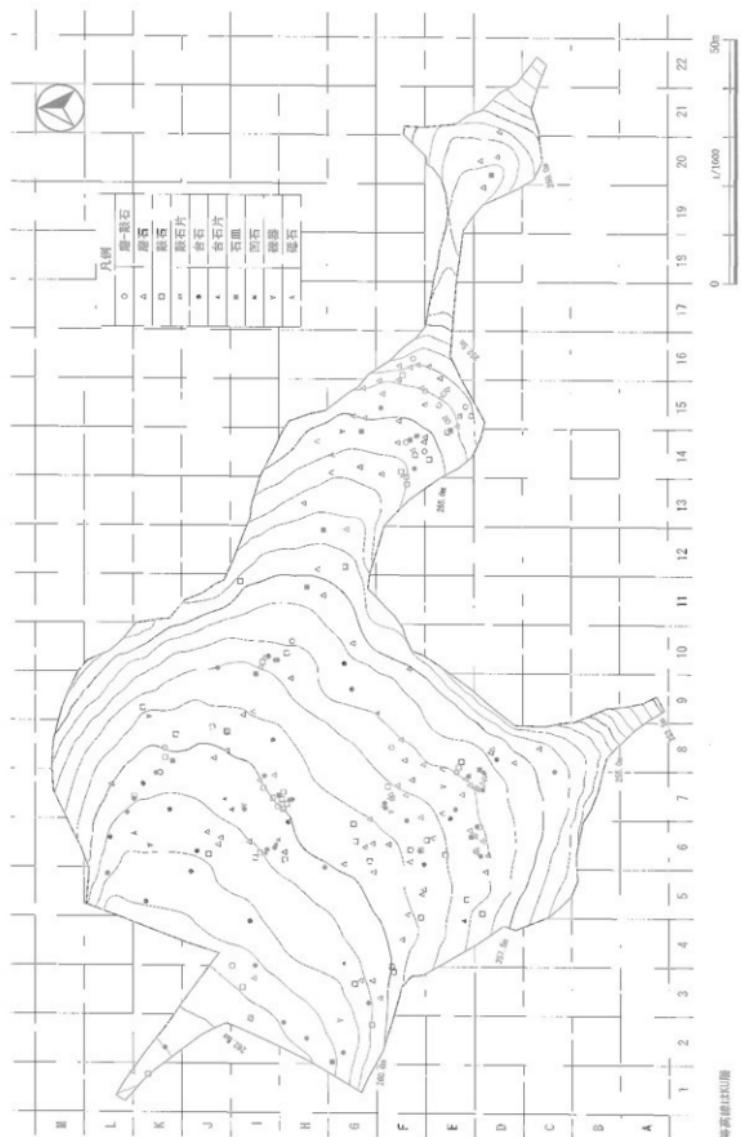


等高線は40層

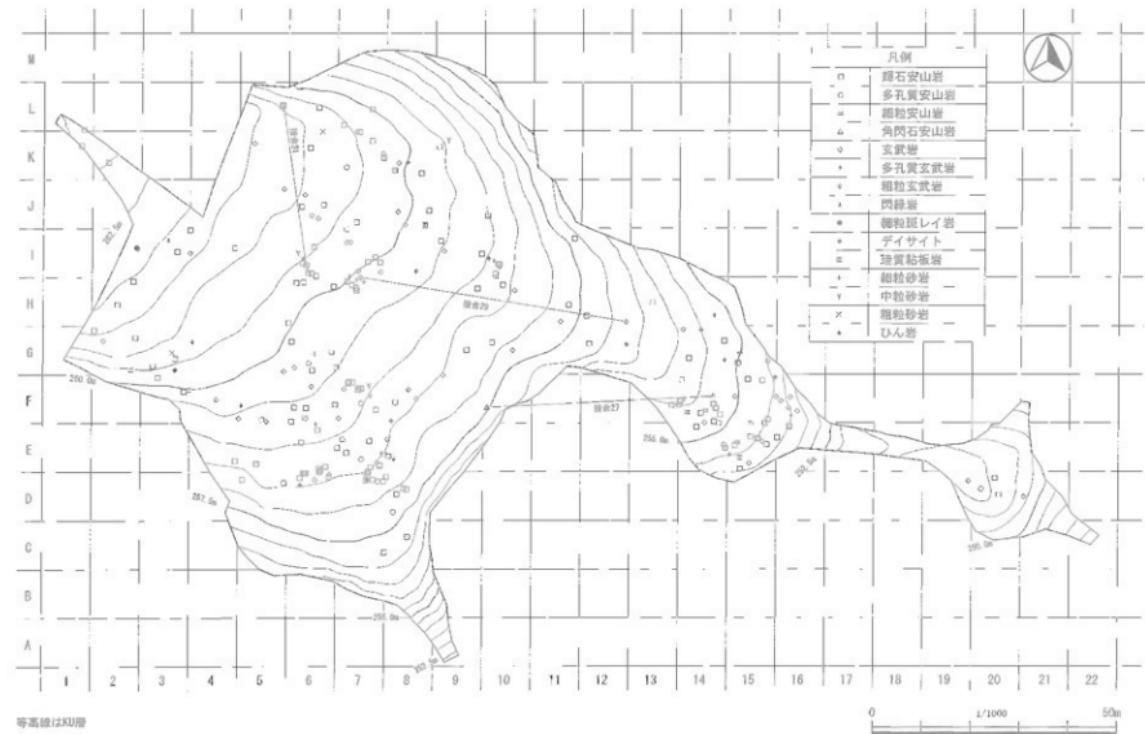
第78図 縄文時代 剥片石器類の器種別分布



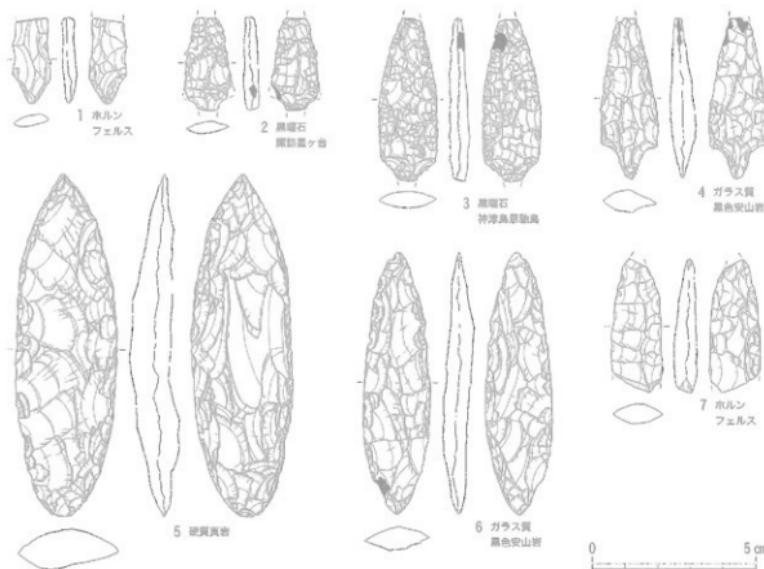
第79図 繩文時代 剥片石器類の石材別分布



第80図 繩文時代 磚石器類の器種別分布



第81図 縄文時代 磚石器類の石材別分布



第82図 繩文時代 尖頭器類

(2) DEF 5-8 グリッドの石器群 (第83-91図、表15/16/32)

1. 石器集中

調査区南西部のグリッドである。疎を除く石器の総点数は1160点で、疎石器類72点 (6.2%) を含む。草創期から前期後半の石器群が重複したものである。

E 6 グリッド東南部を中心に分布する黒曜石の集中を主体にして、この周間にいくつかの小集中が分布する。特に目付くのは以下の5箇所である。

① E 6 グリッド 黒曜石集中

本グリッドのなかで点数が最も多い集中である。E 6 グリッドにおけるZN以上の検出数869点を層位別にみると、以下となる。

層位	点数	比率
----	----	----

KU	329点	37.9%
----	------	-------

FB	532点	61.2%
----	------	-------

ZN	3点	0.3%
----	----	------

ZNからの出土点数は非常に少なく、FBを中心にしつつもKUにも多いことが分かる。繩文時代草創期の石器群が含まれることの多いYLUからZNの検出はたいへん少ない。このことから、石器群の大半は早期後半に帰属すると思われる。

その大部分は黒曜石の碎片 (15mm未満) である。おそらく石器生産の痕跡と推測されるが、肝心の石器は最も密度の高い集中部ではなく、周囲に散漫に分布する。製品の多くは持ち出されてしまったのか

もしれない。重複分布している石鐵1点（第86図17）は珪質頁岩製である。

②F6/7グリッド ガラス質黒色安山岩集中

FBを中心として12点が含まれる。同石材の小型石鐵を2点（第86図19/20）伴う。

③D7/8グリッド 黒曜石・礫石器類集中

FBを中心に含まれる。礫石器類は重複分布する茅山下層式土器よりも30cm余り下位に分布するものが多い。また、①との比較でも明らかに低い。すると、早期前半あたりに帰属する可能性を考えられるが、本遺跡では押型文土器が検出されていないので、早期前半撫系文期か、それ以前の時期に帰属するだろう。

④E6グリッド 石斧集中

5点のうち4点がほぼ同一個体（輝石安山岩）の剥片を素材とし（第87図）、折り重なった状態で検出された（第85図）。意図的に集積されたものと考えられる。KU（おそらく上半部）に含まれていた。図にあるように、茅山下層式土器（茅山下層1）よりも約30cm上位で、上ノ坊式土器（上ノ坊1）が伴うので、前期前半に帰属するものと推定される。

⑤F/G6グリッド 黒曜石集中

DEF5-8の範囲内とはいえないが、一応採り上げておく。黒曜石製調片と碎片を中心として、ガラス質黒色安山岩製石鐵（第86図18）を組成する。KUが殆どであるから年代が新しいと考えられる。ただし礫石器類はFBを中心なので、剥片類よりも古いだろう。

以上5箇所の石器集中は、個別に見ると濃集層準が異なるので、必ずしも同一時期のものではなさそうである。それぞれの形成年代は、層位的に③が最も古く、これに②が続き、④⑤が最も新しいと考えられる。④⑤は前期に帰属するので、これよりも下位の石器群、特に②③は早期を中心とするだろう。FBを中心している①もそれに近いと思われる。

土器群については、早期前半撫系文土器、同後半沈線文土器、条痕文土器、前期前半上ノ坊式土器、前期後半諸種b式土器がみられた。最も多いのは条痕文土器で、これには野島式、茅山下層式、打越式が、それぞれ1または2個体ずつある。撫系文土器は少なく、またDEF5-8よりも西方にあることから、上記石器群との関連は薄そうである。したがって、FB層を中心とする石器群は早期後半に帰属する可能性が高い。

以上の検討結果をまとめると、尖頭器石器群→③→①②→④⑤の順で残される石器群の帰属時期は、石器群と土器群の年代が対応関係にあるとの前提で、草創期前半→草創期から早期前半→早期後半→前期に対応するものと推測できる。

2. 出土石器の検討（第86-91図）

■ 二次加工石器類

石鐵（8-20）

石鐵に利用される石材は黒曜石が多く、神津島恩馳島産5点、天城柏崎産4点、箱根畠宿産3点、諏訪星ヶ台産4点、である。これに加えてガラス質黒色安山岩3点、珪質頁岩2点がみられる。産地の偏りがなく分散する傾向がある。

20点中13点を図示した。8と14は尖端部両側縁がやや内湾して基部に緩やかな肩部を作り出す特徴的な形態を呈する。これは未実測の箱根畠宿産黒曜石製石鐵（遺物番号4349；ただし破損品）や後述の「EFG13-16グリッド」に含まれる天城柏崎産黒曜石製の76にも共通し、近傍産石材にみられる特徴といえるのかもしれない。

表15 DEF 5-8 グリッド 剥片石器類の石材組成

種類 星ヶ台 群	黒曜石					ガラス質 黑色 安山岩	輝石 安山岩	粗粒 安山岩	緑色 凝灰岩	ホルン フェルス	珪質頁岩	計	
	箱根 群	天城 柏崎群	神津島 恩馳島群	測定不可	未分析								
尖頭器						1						1	
有舌尖頭器						1						1	
石刀	4	3	4	5		2					2	20	
彫器						1						1	
削器									1			1	
打製石斧							4		1			5	
二次加工剥片						3						5	
微細剥離痕剥片						2						2	
削片						1						1	
刮片	2	1		2		99	9				3	2	115
砂片		1		1	1	922					2	2	927
石核						7	1						8
計	6	5	4	8	1	1035	14	4	1	1	3	6	1088

表16 DEF 5-8 グリッド 碓石器類の石材組成

安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	粗粒 玄武岩	ディイ サイト	中粒砂岩	計
肩-敲石	3		1			4	
磨石	22	4	8	1	2	3	40
敲石	6		2	2		1	11
台石	12		1				13
石鑿	2						2
礪器	1		1				2
計	46	4	13	3	2	5	72

8-10は神津島恩馳島産黒曜石製である。11と12は調査星ヶ台産黒曜石製である。13は天城柏崎産黒曜石製である。14と15は箱根烟宿産黒曜石製である。16と17は珪質頁岩製である。18-20はガラス質黒色安山岩製である。18はG 6 グリッド出土だが、F 6 グリッドを中心とするガラス質黒色安山岩の石器集中に含まれるのでここで掲示する。いずれも黒曜石製にくらべて小型である。

打製石斧 (21-25)

5点出土した。すべてE 6 グリッドの石斧集中（第85図）に含まれる。前期前半に帰属する。

21は緑色凝灰岩製である。器体の幅と厚さを考慮すると、刃部側は半分以上失われていると推測される。

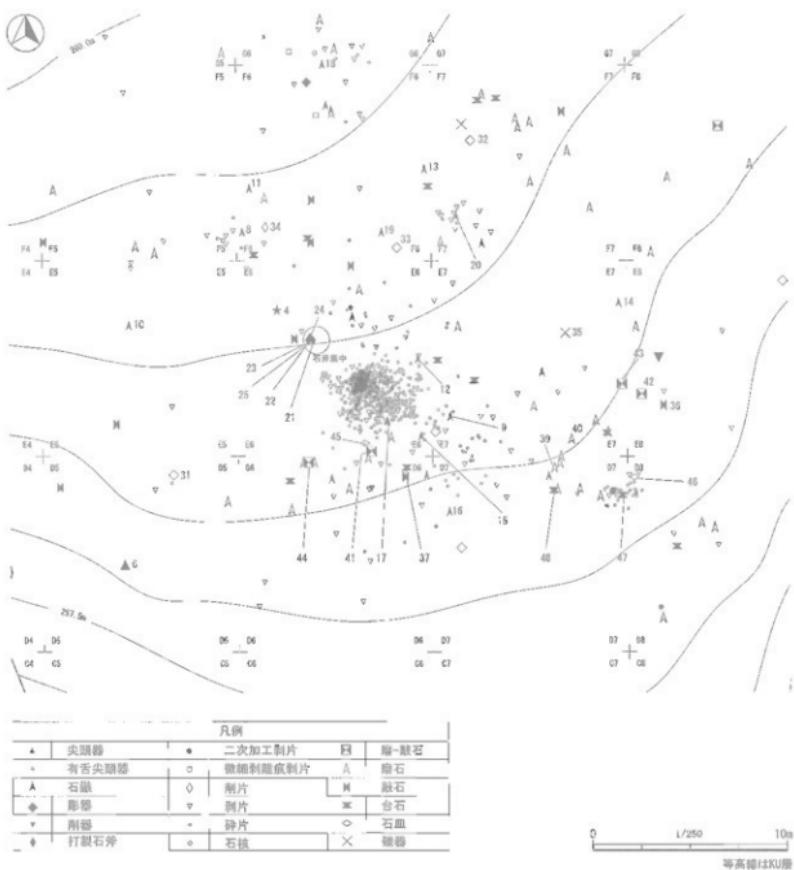
22は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を、基部側にむかって少し細くなる短冊状に整形する。刃部はやや内湾している。使用履歴があるのだろう。

23は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を、基部と刃部に向かってやや外湾するように整形する。刃部は外湾して凸状を呈する。

24は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を基部と刃部に向かってやや外湾するように整形する。刃部形状は22とよく類似している。仮に22と25も機能が類似するなら、これもやはり使用履歴を示す可能性がある。大きさは石斧集中で最大である。

25は輝石安山岩製である。石材の節理を利用して剥離した大型剥片を基部と刃部に向かってやや外湾するように整形する。刃部が斜めになっており、使用履歴を示しているのかもしれない。

上記のうち4点は個体も同一の可能性が高い輝石安山岩で製作され、1点だけが緑色凝灰岩製（21）である。この石材の違いは、集中の検出状況と遺存状態に対応し、すなわち前者は大きな破損痕跡もなく、方向を崩しており重ねてあったのに対して、後者は半分以上を失った状態で少し離されていた。共通点を挙げるとするなら、製作痕跡が全く見られないことだけである。



第83図 DEF 5-8 グリッド 器種別分布

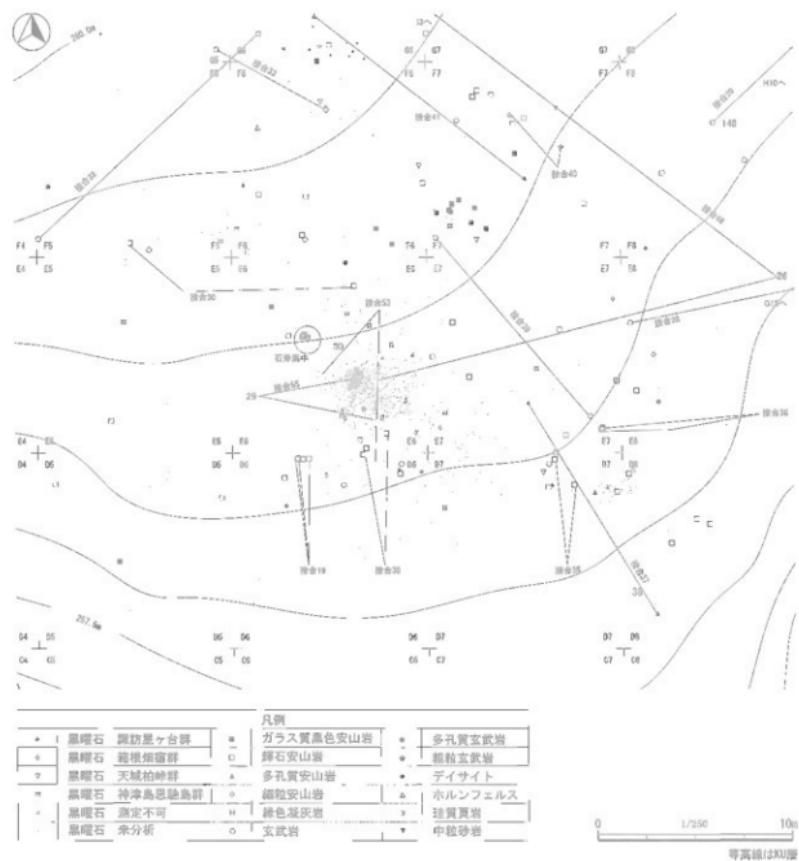
■ 剥片/石核類

接合資料 (26-30)

砾以外で16例を確認し、このうち3例が剥片石器・石核類のもので、他は砾石器類のものである。

26-28は黒曜石3点の接合資料（接合49）とその部品である。黒曜石は産地分析していないが、箱根烟宿産に類似して見える。接合資料の内訳は、二次加工剥片（27）、石核（28）である。大型剥片が分割してできた角錐状剥片の分断面を打面、主剥離面を作業面として底面の付く幅広剥片を剥離する。剥片剥離の際に石核は中央から割れた（28は接合した状態で石核）。剥離した剥片は左側縁の裏面に微細な二次的剥離痕が連続する。使用痕かもしれない。

29は黒曜石2点の接合資料（接合55）である。天城柏崎産黒曜石に類似する非常に小型扁平な原石を



第84図 DEF 5-8 グリッド 石材別分布

長軸方向に数回剥離する。

30は黒曜石2点の接合資料（接合53）である。黒曜石は産地分析していないが、箱根烟宿産に類似して見える。接合する石器はともに剥片である。

石核（31-33）

31は黒曜石の石核である。産地分析は行っていないが、不透明で光沢がなく斑晶が少ないので神津島恩馳鳥産か箱根烟宿産にみえる。自然面の残る剥片の背・腹面で剥片剥離する。この際、主要な打面は共有される。

32は黒曜石の石核である。産地分析していないが、調査星ヶ台群に近似してみえる。遺存状態はほぼ原石に近く、作業面は有効な剥片を得るためにものとも思われないので、これは石質を確かめるために入れられたのだろう。大きさからして当初は石器生産を目的としていたに違いない。

33はガラス質黒色安山岩の石核である。大きく自然面の付いた分厚い剥片の腹面を作業面として数回の剥片剥離を行い、さらにこの作業面の一部を打面として、背面側でも剥片をとる。

削片 (34)

34は黒曜石製（未分析）である。肉眼では神津島恩馳島産に類似して見える。厚手剥片の打面部付近から縁辺を取り込みながら剥離する。

■ 碓石器類

礫器 (35)

出土した2点のうち1点を図示した。35は輝石安山岩製である。扁平礫の隣り合う二辺に片刃を作出して尖頭形を呈する。

敲石/磨石類 (36-44)

36は多孔質玄武岩製敲石である。正面観が梢円形をなしていないと推測される扁平礫の表裏中央部と両側部に敲打痕が付き、一端を欠損する。欠損部は敲打による可能性が高いが、器種名は形態分類上で敲-片刃礫器ともいいう。

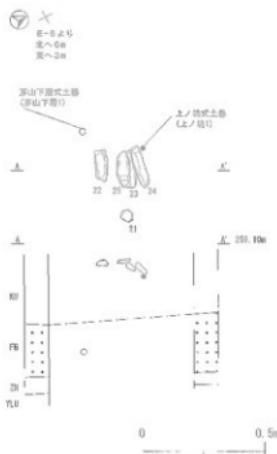
37は輝石安山岩製敲石である。亜円礫の側部のほぼ全縁に敲打痕が付く。

38は多孔質安山岩製磨石である（接合37）。正面観がほぼ円形を呈する扁平礫の表裏および側部に稜が形成されるほど著しい研磨痕が付く。

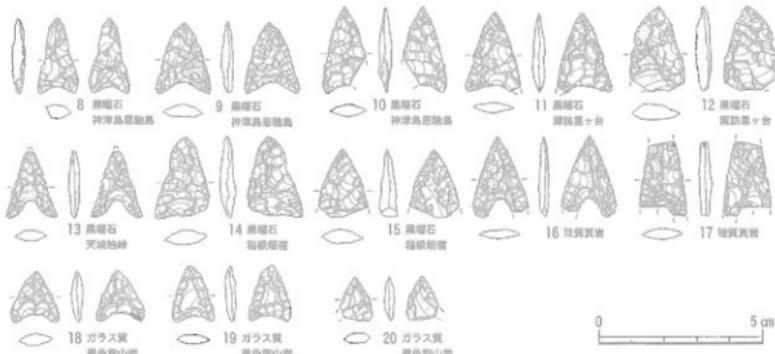
39は玄武岩製磨石である。亜円礫の表裏に研磨痕が付く。

40は輝石安山岩製磨石である。正面観が梢円形を呈する扁平礫の表裏に研磨痕が付く。

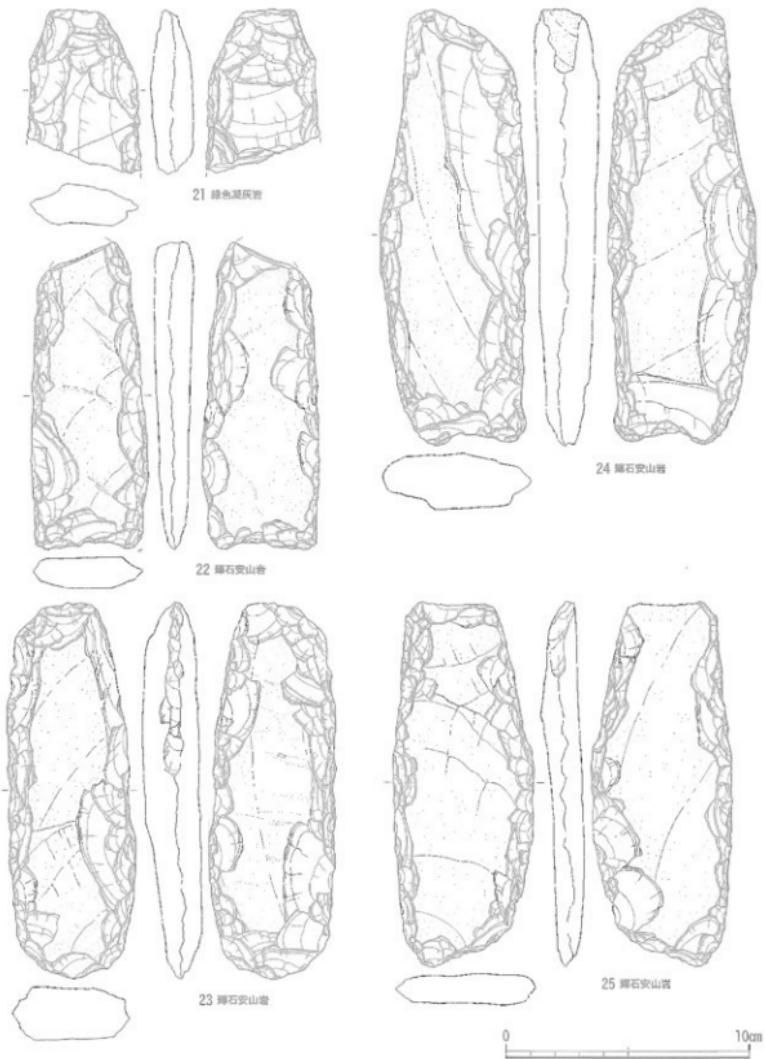
41は輝石安山岩製磨-敲石である。亜円礫の側部の半分程度に幅広く敲打痕、片面に研磨痕が付く。黒塗り部分は発掘時に擦った欠損部である。



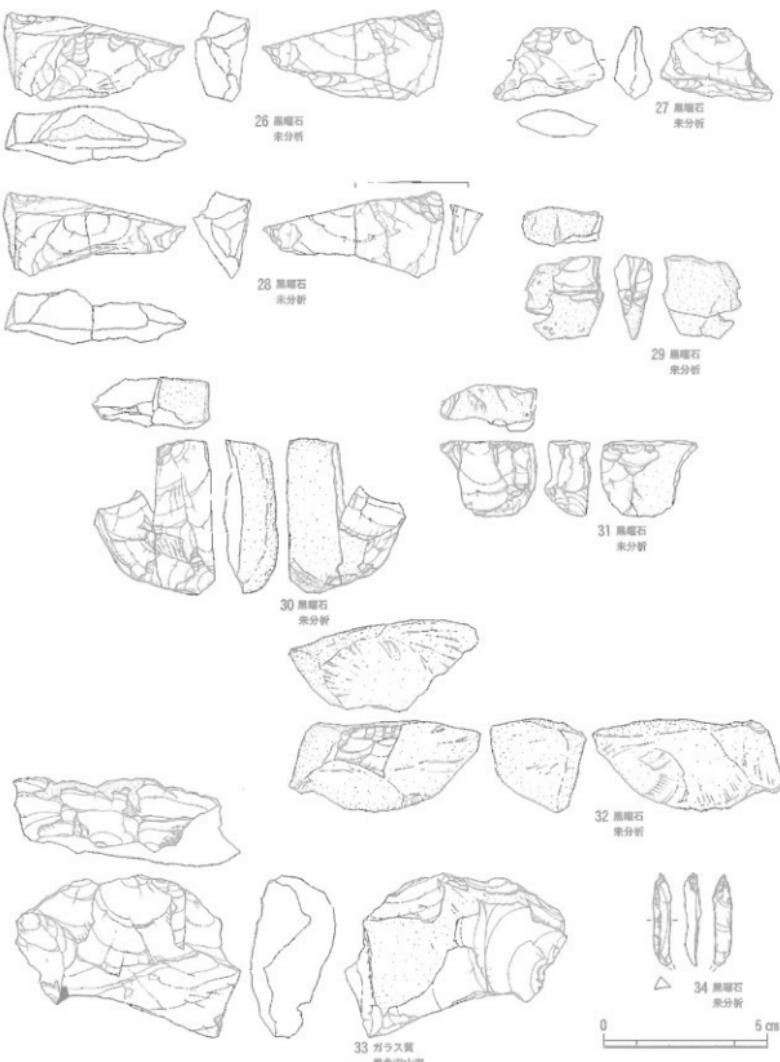
第85図 石斧集中



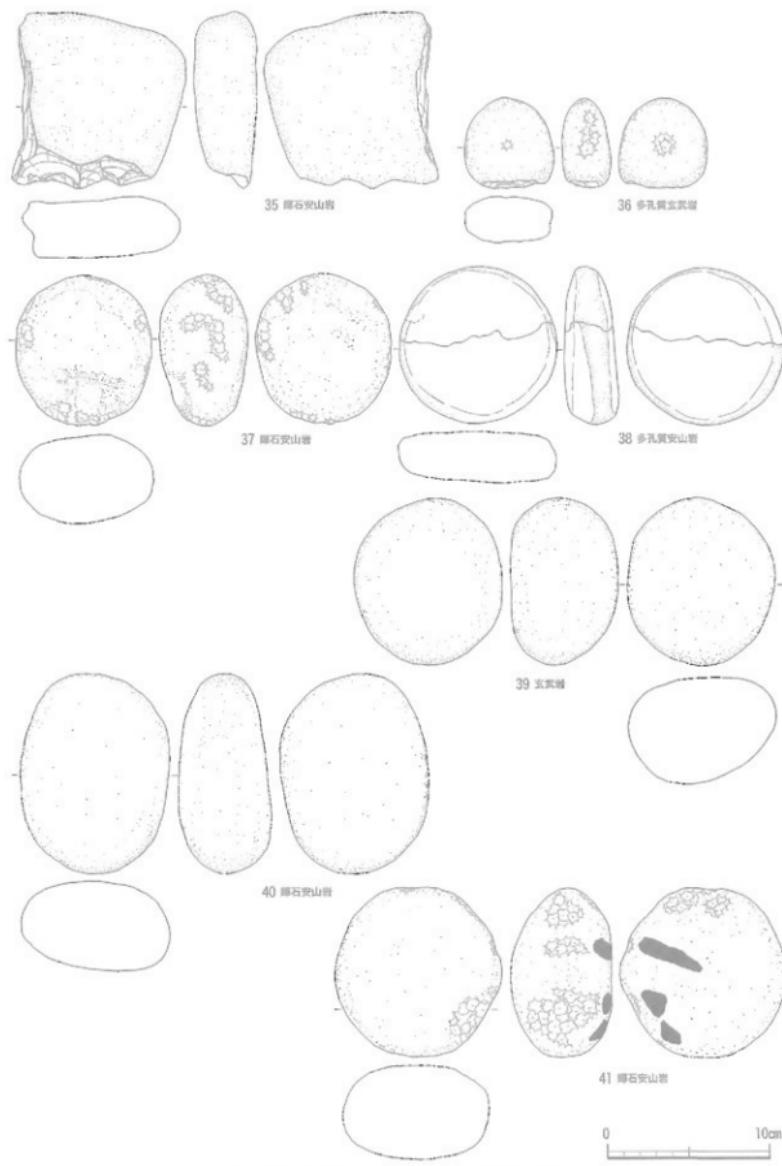
第86図 DEF 5-8 グリッドの石器群 (1)



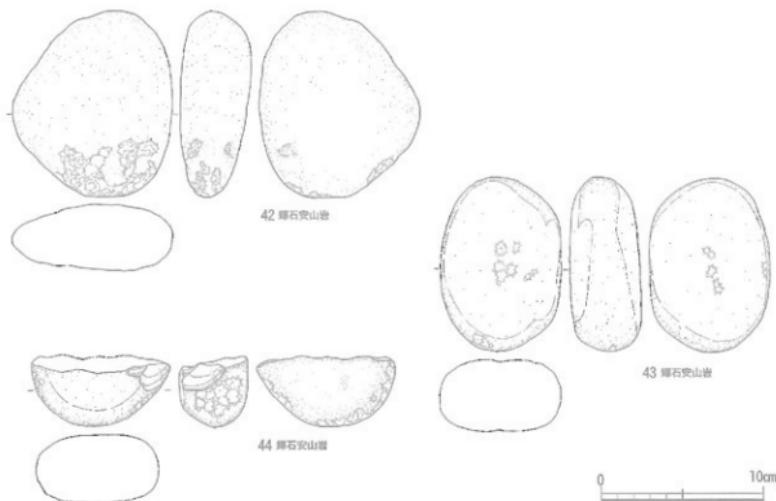
第87図 DEF 5-8 グリッドの石器群 (2)



第88図 DEF 5-8 グリッドの石器群（3）



第89図 DEF 5-8 グリッドの石器群 (4)



第90図 DEF 5-8 グリッドの石器群（5）

42は輝石安山岩製磨-敲石である。扁平礫の端部に集中的な敲打痕、裏面に研磨痕が付く。

43は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平礫の表裏に稜が形成されるほど著しい研磨痕、また、それぞれの中央部および端部と側部の一部に敲打痕が付く。

44は輝石安山岩製磨-敲石である。原形不明の礫の端部に敲打痕、正面に研磨痕が付く。

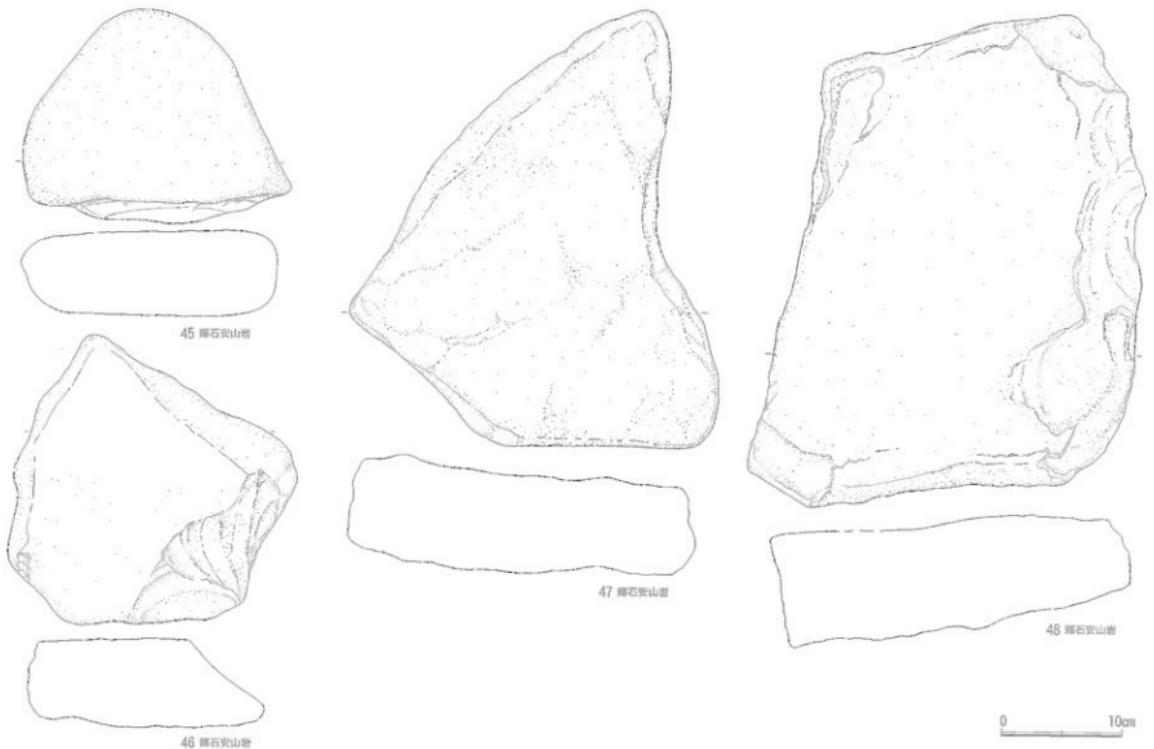
台石/石皿類（45-48）

45は輝石安山岩製石皿である。大型扁平礫の片面に研磨痕が付く。図上の下部は切り立った剥離面である。

46は輝石安山岩製石皿である。周囲が切り立つ大型亜角礫の片面に研磨痕が付く。

47は輝石安山岩製台石である。大型亜角礫である。明確な敲打痕は認められなかったが、搬入の行動的背景を考慮して機能的に分類した。このため、研磨痕が形成されない石皿や、炉石の可能性もある。

48は輝石安山岩製台石である。風化の著しく進行した大型亜角礫である。明確な敲打痕は認められなかったが、周囲を整形している可能性と搬入の行動的背景を考慮して機能的に分類した。このため、研磨痕が形成されない石皿や炉石の可能性もある。



第91図 DEF 5-8 グリッドの石器群（6）

(3) EFG13-16グリッドの石器群（第92-98図、表17-20/32）

1. 石器集中

総点数2403点、剥片石器2321点、石核29点、礫石器類53点が検出された（縄を除く）。層別点数は次の通りである。

層位	点数	比率
SNZ	2点	0.1%以下
KGP	157点	6.5%
KU	1075点	44.7%
FB	687点	28.6%
ZN	472点	19.6%
YLU	1点	0.1%以下
遺構内	9点	0.4%

これを見ると、半数近くがKUから検出され、下位に行くほど漸減していることがわかる。逆に上位のKGPとSNZには大変少ない。KUの比率が先述のE6グリッドの黒曜石集中より高いことは、相対的に年代が下る石器群が多く含まれることを意味している。また、ZNの検出数も多いことから、草創期から早期前半に帰属する石器群の存在も示唆されよう。

剥片石器類（石核を含める）は99.4%が黒曜石である。ZNから出土した黒曜石470点の産地分析結果は、多い方から順に、諏訪星ヶ台127点、和田鷹山35点、天城柏峠19点、箱根畠宿14点、和田芙蓉ういと4点、神津島恩馳島2点、箱根黒岩橋1点、推定不可70点、測定不可（碎片がほとんど）198点だった。FB以上の産地分析は石鐵以外ほとんど行っていないのでわからぬ。以上の産地を地域別に纏めると、中部高地産166点（35.3%）、伊豆箱根產34点（7.2%）、神津島産2点（0.4%）となり、中部高地産のものが他を圧倒している。神津島恩馳島産が大部分を占める早期末から前期の一般性とは異なっている。

■ E15グリッドとその付近の石器集中（表19/20）

当該グリッドの石器群はいくつかの小石器集中が複合したものであり、小石器集中間には時期差があるものと予想された。なかでもE15グリッドを中心に分布する石器群は、他の小石器集中とは際立って異なる特徴がみられるので、ここで採り上げてみたい。

特に集中していると思われる場所（1373点）を抽出した。石器の検出数を層別に見ると、YLUには0点、ZNに471点（34.3%）、FBに415点（30.2%）、KUに388点（28.3%）、KGPに99点（7.2%）含まれている。ZNの高い割合が目を引く。EFG13-16グリッドのZN出土の石器群は全部で472点であるから、ほぼ全てがこの小石器集中に分布することになる。

この小石器集中（1373点）の内訳は、剥片石器類1337点、石核11点、礫石器類25点である（表19）。剥片石器類には石鐵22点が含まれており、このうち18点が黒曜石製である。集中部を形成する黒曜石のまとまった消費は石鐵生産に伴うように見える。しかし、ZNに限ってみると、黒曜石製石鐵は和田鷹山産1点、礫石器類もまた1点と、たいへん少ない（表20）。よってZNの石器群は、大部分の石鐵及び礫石器類よりも古い時期に帰属している可能性が高い。しかも、黒曜石の消費から窺われるよう、石鐵生産との関連は予想されるものの、その製品はほとんど残されずに持ち出されたとともに推測される。この様相はFB以上の石器群とは対照的である。よって、この石器集中は複数の時期の石器生産が重疊したものと推測され、石鐵廃棄頻度の少ない下層の時期と、礫石器利用と石鐵廃棄頻度の高い上層

表17 EFG13-16グリッド 剥片石器類の石材組成

	黒曜石											
	西防 基ヶ台群	夢科 冷山群	和田 巖山群	和田 美琴 ライト群	箱根 箱宿群	箱根 御治巖群	箱根 黒岩機群	天城 柏崎群群	神津島 恩蛇島群	惟定 不可	測定 不可	未分析
尖頭器												
石鏨	19	1	1		5	1		8	5	1		
楔形石器											4	
抉入削器											1	
削器											1	
二次加工剥片						1					8	
微細剥離痕剥片											5	
石刃											1	
縫石刃												
剥片	24		5		1			10	2	1	1	524
碎片	102		29	4	11			9	1	69	197	1255
石核	1				1		1				26	
計	146	1	35	4	19	1	1	27	8	71	198	1825

	ガラス質 黒色 安山岩	緑色 凝灰岩	デイ サイト	ホルン フェルス	珪質 粘板岩	チャート	頁岩	計
尖頭器				1				1
石鏨	3				1			45
楔形石器								4
抉入削器								1
削器	1							2
二次加工剥片	2							11
微細剥離痕剥片								5
石刃			1					1
縫石刃								1
剥片	1	1		1		1	1	573
碎片								1677
石核								29
計	7	1	1	2	1	1	1	2350

表18 EFG13-16グリッド 磔石器類の石材組成

	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	角閃石 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	デイ サイト	珪質 粘板岩	中粒砂岩	計
磨-敲石	5				4					10
磨石	11		4	1	6	2	2			25
敲石	5	1			1				1	8
敲石片							1			1
台石	1		1							2
石皿	2				1	1				4
礫器	2								1	2
計	27	1	5	1	12	3	2	1	1	53

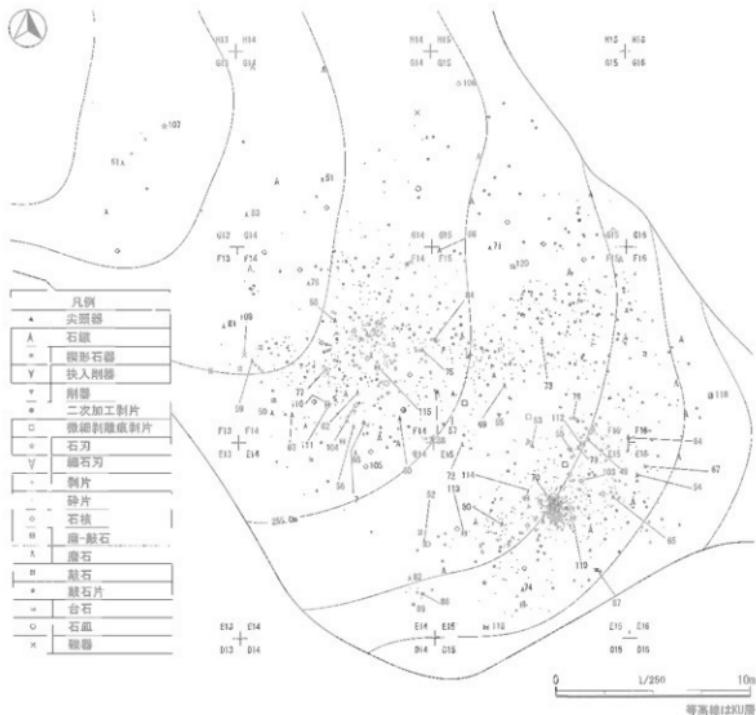
表19 E15グリッド石器集中 石器石材組成 (ZN-SNZ)

	黒曜石										
	鹿防 三ヶ台群	和田 鹿山群	和田英馨 ライト群	轟根 畠窪群	轟根 黒岩標群	轟根 轟ヶ群	天城 柏野群	神津島 恩馳鳥群	推定不可	測定不可	未分析
石標	8	1		3	1		2	1	2		
楔形石器										2	
二次加工剝片				1						4	
微細剝離痕剝片										4	
鋸石刃										1	
剝片	23	5		1			10	1	1	1	194
鉗片	102	29	4	11			9	1	69	197	643
石核	1			1		1					8
磨-敲石											
磨石											
敲石											
敲石片											
石皿											
計	134	35	4	17	1	1	21	3	72	198	856

	ガラス質 黒色 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	細粒 安山岩	玄武岩 安山岩	多孔質 玄武岩	頁岩	珪質 粘板岩	計
石標	3					1			22
楔形石器									2
二次加工剝片	1								6
微細剝離痕剝片									4
鋸石刃								1	
剝片					1				237
鉗片									1065
石核								11	
磨-敲石	6			3					9
磨石	4		3	1	3				11
敲石	1	1							2
敲石片						2			2
石皿			1					1	
計	4	11	1	3	5	3	1	3	1373

表20 E15グリッド石器集中 石器石材組成 (ZN)

	黒曜石										輝石 安山岩	珪質 粘板岩	計
	鹿防 三ヶ台群	和田 鹿山群	和田英馨 ライト群	轟根 畠窪群	轟根 黒岩標群	轟根 轟ヶ群	天城 柏野群	神津島 恩馳鳥群	推定不可	測定不可			
石標		i									1	2	
二次加工剝片				1								1	
剝片	23	5		1			10	1	1	1		42	
鉗片	102	29	4	11			9	1	69	197		422	
石核	1			1	1							3	
磨石										1		1	
計	126	35	4	14	1	19	2	79	198	1	1	471	



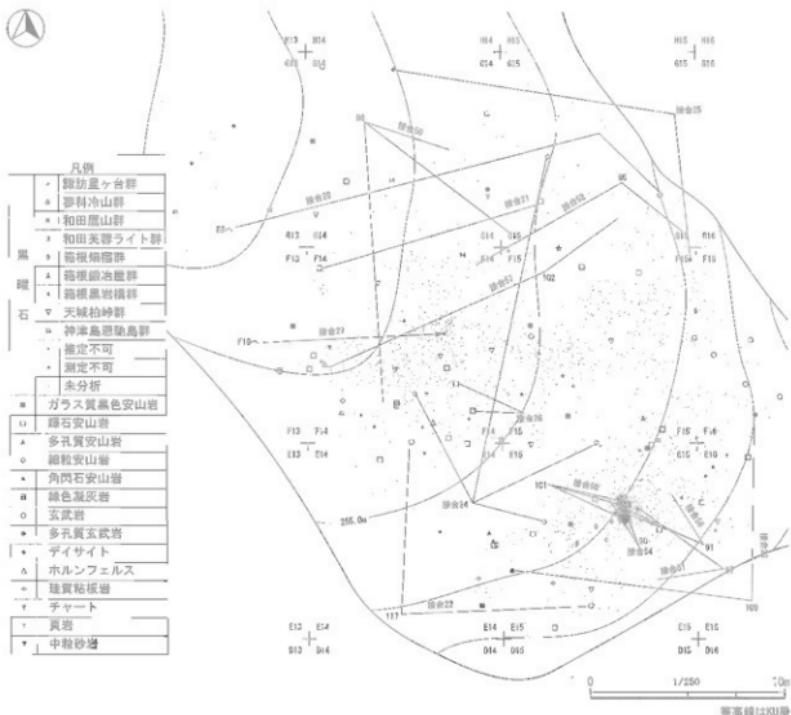
第92図 EFG13-16グリッド 器種別分布

の時期の、少なくとも2つ以上の石器群形成時期があったと推測される。

その時期とはいつだろうか。まず、ZNから出土した下層石器群は縄文時代草創期の可能性が考慮される。しかし、YLUから出土した石器はなく尖頭器石器群の出土もない。縄文石器群の時期決定には土器型式を援用するほかない。この地点の土器を時期順に列記すると下のようになる。

撫糸文土器	1個体
型式不明の沈線文土器	4個体
判ノ木山西式土器	3個体
茅山下層式土器	1個体
型式不明の条痕文土器	4個体
諸磯b式土器	2個体
型式不明の前期土器	2個体
型式不明の中期土器	2個体

土器の個体組成は早期後半のものが多く、石器群もこの時期が多い可能性が考えられる。しかし、DEF 5-8の早期後半と思われる石器群よりは明らかに層位が低いことから、草創期から早期前半の資



第93図 EFG13-16グリッド 石材別分布

料を高い比率で組成しているものと考えておきたい。製品と石核の組成頻度の低さは、この時期における石材消費状況の一端を表すのかもしれない。

FB以上にある上層石器群は周囲の小石器集中との共通点が多い。しかし予算と時間の制限から、产地分析が石鐵を除くFB以上の石器群に及んでおらず、わからない部分も多かった。黒曜石製石鐵8点の产地推定結果は、諏訪星ヶ台産2点、天城柏崎産2点、箱根畠宿産3点、推定不可1点である。石鐵に利用される黒曜石はZNのように諏訪星ヶ台等の中部高地産ではなく、伊豆箱根産が中心といえる。しかし、本グリッドの剥片の個体分類を行ったところでは、149点のうち39点が伊豆箱根に類似するものに分類され、この結果は製品と剥片類の产地構成比が対応していない可能性を示唆している。よって伊豆箱根産の生産は他所で行われたのかもしれない。

この石器群には多くの礫石器類が伴う。しかし、住居跡や石皿・台石を伴わないので、一時的な潜在中に簡便な加工作業を行った結果と推定される。土器をみると、推測される時期は早期後半から中期と幅広い。

2. 出土石器の検討（第94-98図）

■ 二次加工石器類

石鏃（49-83）

49-78と83は黒曜石製である。分析産地を単位に配列した。出土総数36点の内訳は、諏訪星ヶ台産/蓼科冷山産/和田鷹山産といった中部高地の黒曜石が計21点（58.3%）、箱根鍛冶屋産/天城柏崎産といった伊豆箱根の黒曜石が計9点（25.0%）、神津島恩馳島産の黒曜石が5点（13.9%）、その他（産地推定不可）1点である。6割近くが中部高地産で、逆に神津島産が少ないと注意したい。

49-51は神津島恩馳島産である。5点中3点を図示した。

52と54-69は諏訪星ヶ台産である。19点中17点を図示した。53は黒曜石製（推定不可）である。1点出土した。70は和田鷹山産である。1点出土した。71は蓼科冷山産である。1点出土した。72-77と83は天城柏崎産である。8点中7点を図示した。78は箱根鍛冶屋産である。1点出土した。

79-82は黒曜石製以外の石鏃である。

79-81はガラス質黒色安山岩製である。82は珪質粘板岩製である。この石材は珪質分が多くチャートにもみえるが、薄く剥がれやすい性質をもつ。この珪質粘板岩製の細身扁平で基部の抉りが浅い石鏃は本地域の遺跡でよく見られる。珪質粘板岩製にこのような形態が多いのは、その性質により薄手の素材剥片を得やすい反面、基部を抉入状に整形する二次加工がしにくいかからだろう。いまのところ、愛鷹・箱根地域でまとまった素材生産等が行われた遺跡は確認されていない。森嶋富士夫によると、この石材が富士川上流の釜無川で採取されたとのことであるから、中部高地産黒曜石製石鏃の高い組成率とあわせ、その消費の密接な関連が暗示されよう。

削器（84/85）

84は黒曜石製（産地未分析）である。僅かに灰色がかった縞があり、透光性があり、斑晶がないので、中部高地産だろう。バルブの発達しない主剥離面の状態からみて、素材剥片は両極剥離によって生じたと推測される。右縁辺の表裏に連続する平坦剥離を施して刃部を作出する。

85はガラス質黒色安山岩製である。自然面を打面として剥離された、やや縦長の剥片の左側縁の末端寄りにやや大振りだが平坦な二次加工痕を施す。また、右側縁の背面に微細剥離痕が連続的に付く。

楔形石器（86-88）

86黒曜石製（産地未分析）である。黒い縞があり、透光性があり、斑晶がないので、中部高地産か神津島産だろう。大きく自然面の残る小型原石を挟み撃ちにしたものと思われる。

87は黒曜石製（産地未分析）である。黒みが強く、透光性がなく、斑晶が多いので、箱根畠宿産だろう。小型幅広剥片製で、打面が折れ、末端は石核底面を取り込んで切り立つ面となっている。それぞれの面を打面として表裏に微細な剥離痕が連続する。

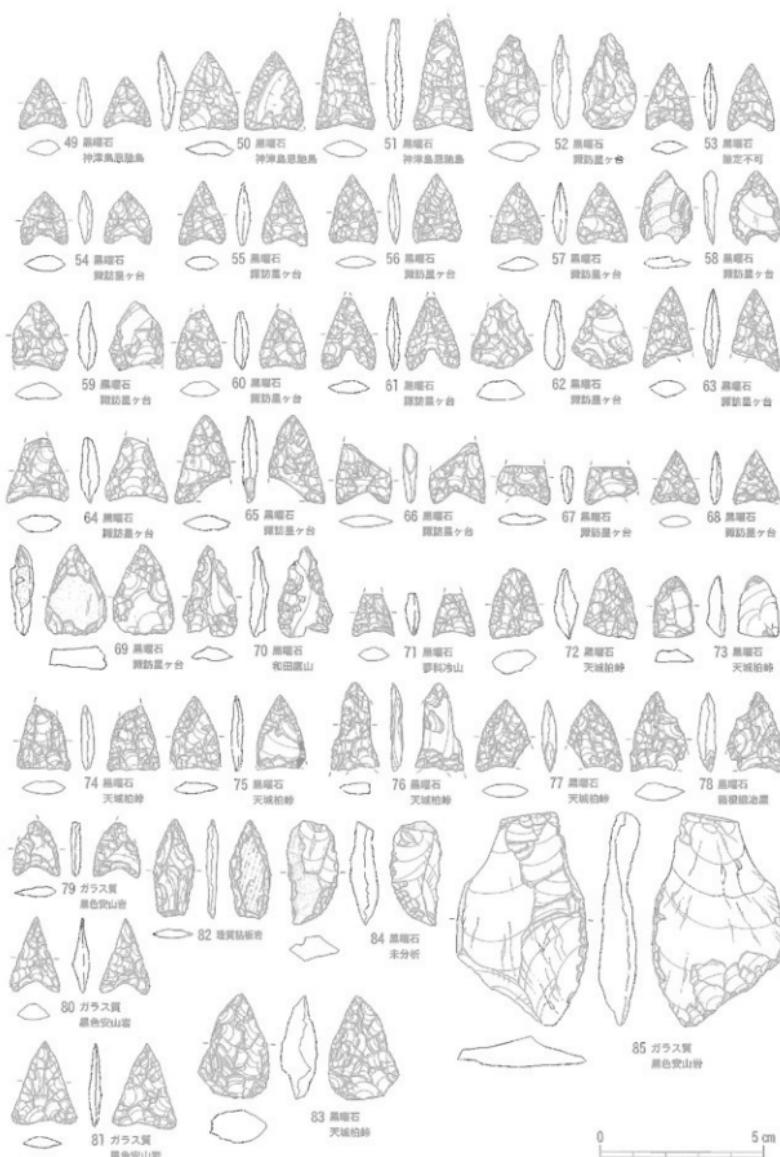
88黒曜石製（産地未分析）である。灰色がかり、透光性がなく、斑晶が多いので、天城柏崎産の可能性が高い。小型扁平な原石を四方から挟み撃ちにしたものと思われる。

二次加工剥片（89）

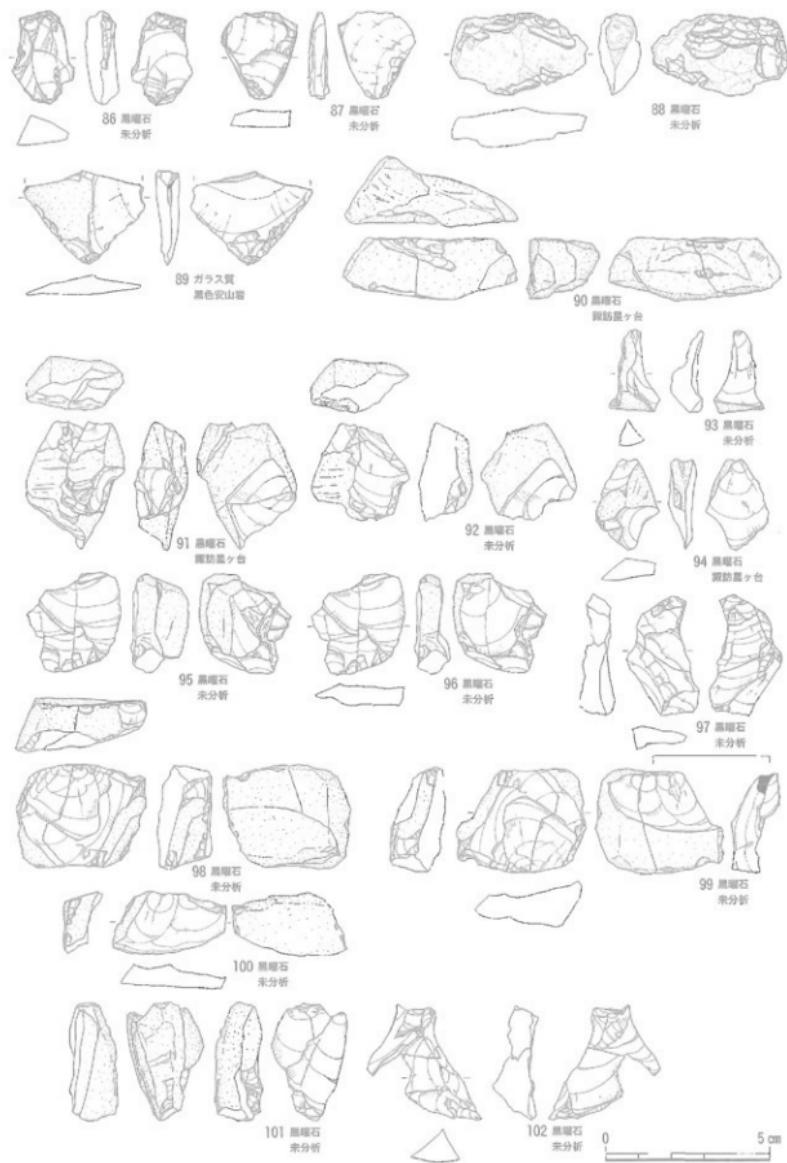
89はガラス質黒色安山岩製である。自然面が残る折れた剥片の末端裏面に小型剥離痕が連続する。使用痕の可能性も考慮される。

■ 剥片・石核類（90-107）

90は諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片1点と石核2点の接合資料である（接合54）。白ないし黄色がかった節理がみられる原石状態に復元された。これも諏訪星ヶ台産黒曜石の搬入実態を示す重要な資料である。



第94図 EFG13-16グリッドの石器群（1）



第95図 EFG13-16グリッドの石器群（2）

91は諏訪星ヶ台産黒曜石製剥片2点と石核1点の接合資料である（接合56）。非常に小型の原石の表裏に対抗方向からの剥片剥離痕が見られる。これも、天城柏崎産黒曜石と同様、両極剥離による小型剥片（おそらくは石鎚の素材剥片）生産を主要な目的として搬入された石材と推測される。

95と96は黒曜石製（産地未分析）剥片（95）と楔形石器（もしくは石核）（96）の接合資料である（接合52）。黒曜石は接合54と56に近似しており、おそらく諏訪星ヶ台産と思われる。これも両極剥離によって小型剥片生産を企図したものだろう。

97は黒曜石製（産地未分析）剥片の接合資料である（接合51）。半ばで折れた面が接合する。バルブが発達せず、間隔が詰まったリングの特徴は両極剥離で生産されたことを示唆する。

98-100は黒曜石製（産地未分析）接合資料である（接合50）。やや灰色かかり透光性がなく、少ない斑晶が入る。天城柏崎産の可能性がある。98は接合状態、99は100から剥離された剥片で、100が石核である。小型原石を両極剥離で消費し、小型剥片生産を行ったようである。99はさらに分割されたが、100から剥離されたときに衝撃で割れたものかもしれない。

101は黒曜石製（産地未分析）剥片3点の接合資料である（接合58）。白ないし黄色がかかった節理がみられる特徴は接合54等に共通するので、諏訪星ヶ台産の可能性が高い。ただし、主剥離面の状態等からして、両極剥離とはことなる剥離技法で小型剥片が生産されていると推測される。

102は黒曜石製（産地未分析）の折れた剥片の接合資料である（接合57）。雲がかかったような黒色で、透光性が低く、少ない斑晶が入る。

103は黒曜石製（産地未分析）である。黒色で透光性がなく斑晶が多いので箱根烟宿産だろう。小型石核の作業面に微細剥離痕が連続する。加工工具かもしれない。

104は黒曜石製（産地未分析）である。光沢はあるが透光性が低く、少ない斑晶が入るので神津島恩馳島産と思われる。小型剥片の周辺から半求心剥離で小型剥片を生産する。

105は黒曜石製（産地未分析）である。灰色で透光性がなく斑晶が非常に多いので天城柏崎産に違いない。作業面は対抗方向からの剥片剥離によって形成されている。この石核も106と同じく両極剥離が関与しているだろう。

106は黒曜石製（産地未分析）である。灰色で透光性がなく斑晶が多いので天城柏崎産に違いない。小型原石の一面に作業面がみられ、また注意深く見ると、対面の下にも対抗方向からの小さな剥離痕が見られる。両極剥離が関与した可能性が高い。サイズからいって、生産剥片は石鎚の素材となるものと予測可能である。先の105も併せ、このような例は天城柏崎産黒曜石の獲得と消費の実態を示唆する資料として重要である。

107はデイサイト製である。第IV文化層にも同質石材の消費痕跡が確認されていることから、それと何か関連するかもしれないが、出土層準（KU）を優先して繩文時代の石器として扱った。

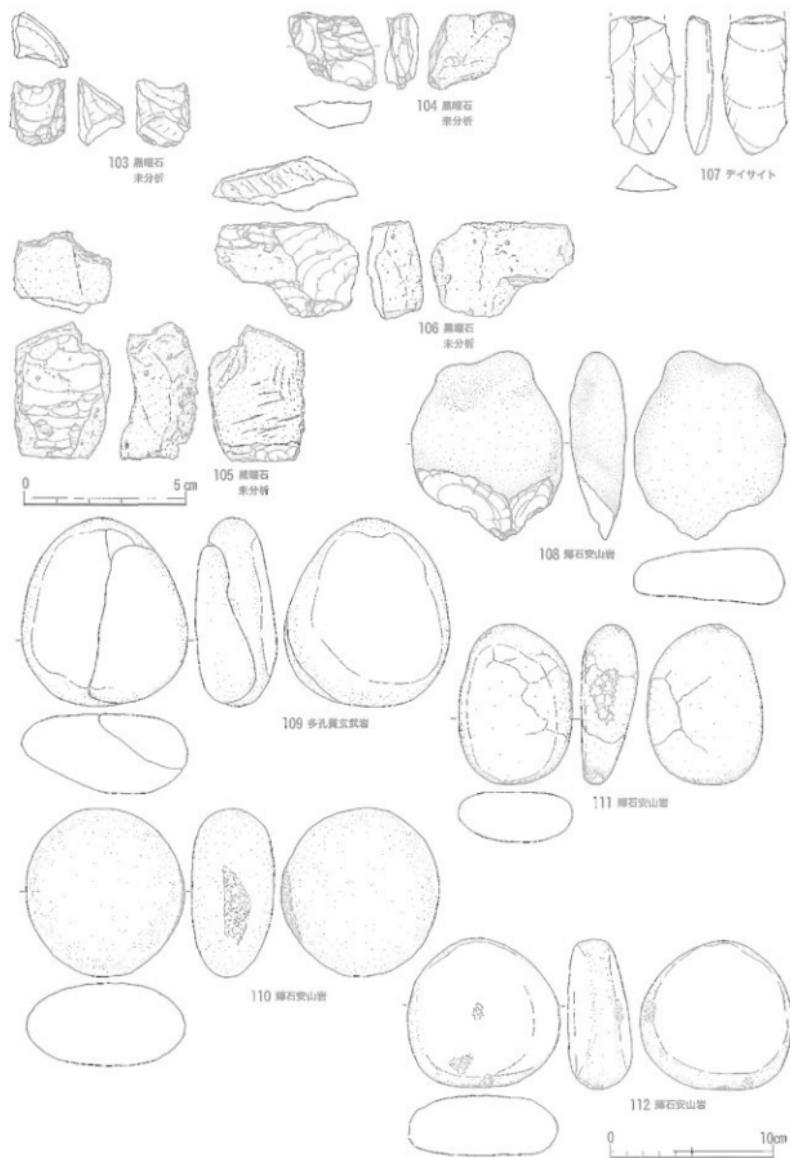
■ 碓石器類

礫器（108）

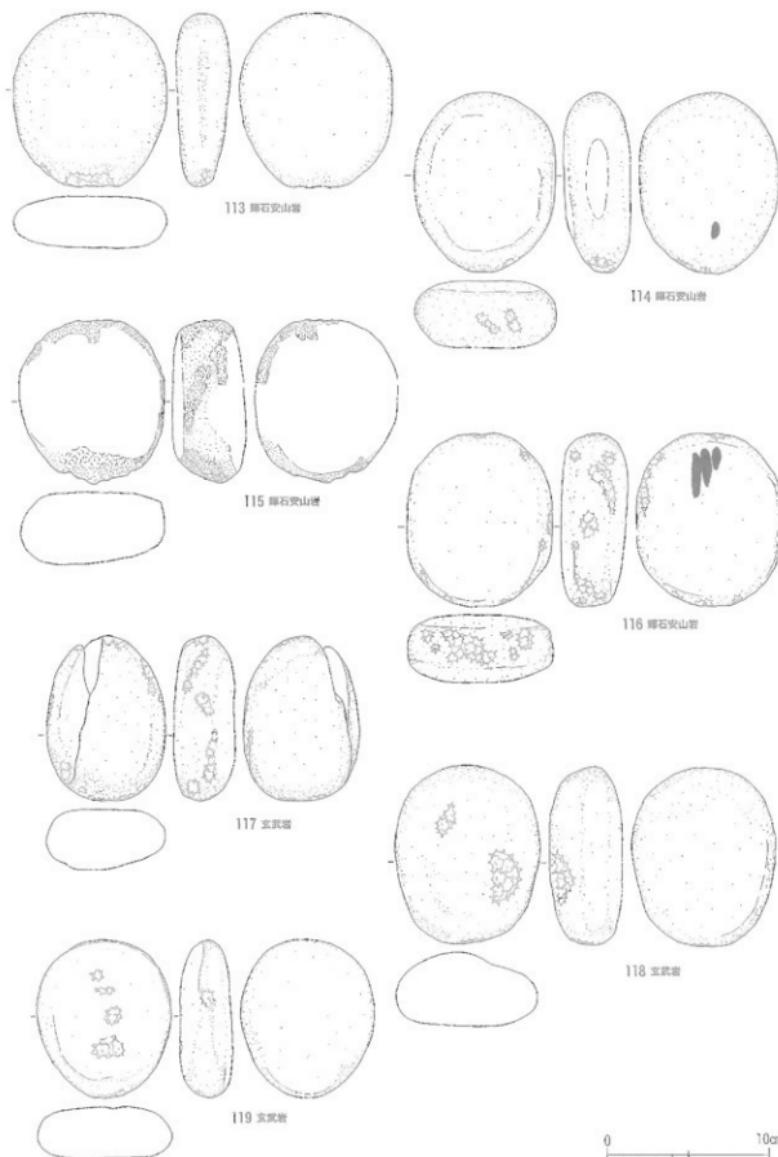
108は輝石安山岩製片刃礫器である。扁平礫の端部に大振りの剥離を隣り合わせて施し、尖状の刃部を整形する。

磨石（109）

109（接合23）は多孔質玄武岩製磨石である。正面観がやや非対称の橢円形を呈する扁平礫の表裏に研磨痕が付く。



第96図 EFG13-16グリッドの石器群（3）



第97図 EFG13-16グリッドの石器群（4）

敲石 (110)

110は輝石安山岩製敲石である。正面観が円形を呈する扁平疊の一端に敲打痕が付く。

磨-敲石 (111-119)

111は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平疊の側部と端部に敲打痕、片面に研磨痕が付く。

112は輝石安山岩製の磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平疊の中央と側部の所々に敲打痕、両面の広範囲に研磨痕が付く。著しい研磨痕によって、両面には稜が形成されている。

113は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平疊の一端に敲打痕、表裏に研磨痕が付く。

114は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平疊の端部に敲打痕、片面と側部の一部に研磨痕が付く。著しい研磨痕により一部に稜が形成されている。

115は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平疊の周囲全体に敲打痕、表裏のほぼ全面に著しい研磨痕が付く。

116は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平疊の周囲全体に敲打痕、両面に研磨痕が付く。著しい研磨痕のため、表裏に稜が形成されている。

117（接合22）は玄武岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平疊の側部の大部分と両端部に敲打痕が付き、片面に研磨痕が付く。

118は玄武岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平疊の片面と端部に敲打痕、反対の面に研磨痕が付く。図中の右下には著しい研磨により稜が形成されている。

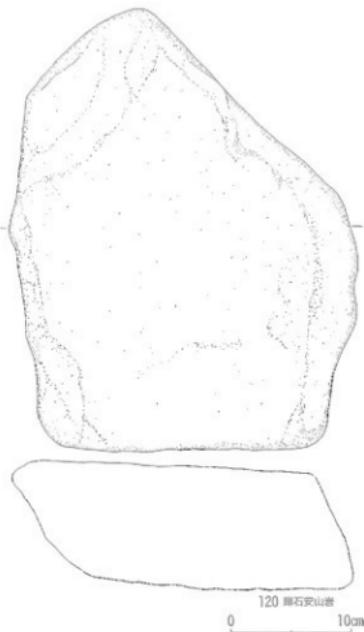
119は玄武岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平疊の片面中央と側部の一部に敲打痕、表裏に研磨痕が付く。

台石 (120)

120は輝石安山岩製大型扁平疊であるが、搬入の行動的背景と全体形状から推測される機能とから台石に分類した。よって、石皿や炉石等の可能性も当然ある。

(4) CDE19-21グリッドの石器群（第99-101図、表21）

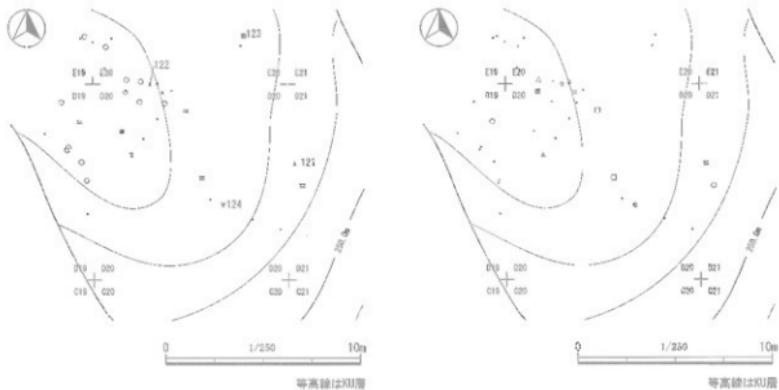
調査区西部に伸びる尾根の僅かな平坦面に位置する石器群である（第99/100図）。検出石器数は38点で、礫石器類5点を含む（表21）。石鏸は4点検出され、その内訳は神津島恩馳島産黒曜石製2点、箱根銀宿産黒曜石製2点である。出土層準がKGPに偏ること（52.6%）から、ほかのグリッドと比較して新しい時期に形成された石器群と推定される。集石3基（3、4、10号）がFBからKUを中心に検出されたが、土器が出土しなかったので時期は分からない。



第98図 EFG13-16グリッドの石器群（5）

表21 CDE19-21グリッド 石器石材組成

	黑曜石	ガラス質 黒色 安山岩	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	流紋岩	玄武岩	細粒 アレイ岩	計
絆根畠宿群	2	2						4
神津島恩馳島群			1					1
未分析					1			1
石錐	2							2
石錐			1					1
削器					1			1
二次加工剥片		1						1
剥片		10				1		11
鉢片		14						14
石核			1					1
磨石				2		2		4
石皿					1			1
計	2	2	25	1	2	1	2	38



第99図 CDE19-21グリッド 器種別分布

出土石器の検討（第101図）

石錐 (121/122)

121は神津島恩馳島産黒曜石製石錐である。

122は箱根畠宿産黒曜石製石錐である。

石錐 (123)

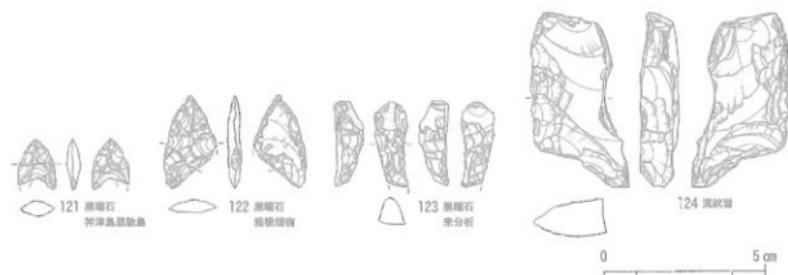
123は黒曜石製（产地未分析）の石錐である。自然面の残る剥片を素材にして、打面とバルブを残して急角度な剥離を施し角錐状に整形する。刃部は使用のためか折れている。

削器 (124)

124は流紋岩製の削器である。分厚い剥片の打面を残して周囲全体に不整形な剥離を施して刃部を整形する。単独個体である。

第100図 CDE19-21グリッド 石材別分布

凡例	
■ 黒曜石	△ 輝石安山岩
■ 神津島恩馳島群	▲ 多孔質安山岩
● 石錐	● 流紋岩
● 未分析	○ 玄武岩
◆ ガラス質黒色安山岩	△ 細粒アレイ岩
▲ 剥片	▲



第101図 CDE19-21グリッドの石器群

(5) HIJK 6-11グリッドの石器群（第102-109図、表22/23）

総点数106点で、うち76点（71.7%）までもが礫石器類である。石器群の分布はたいへん散漫である。黒曜石の消費も少なく、石器生産痕跡も相対的に低調である。複数の時期を包摂している可能性が高く、実際、この内部にある有舌尖頭器と石器集中1箇所は縄文時代草創期に帰属する。I32-I35、I38-140、152はこの集中を構成する石器である。

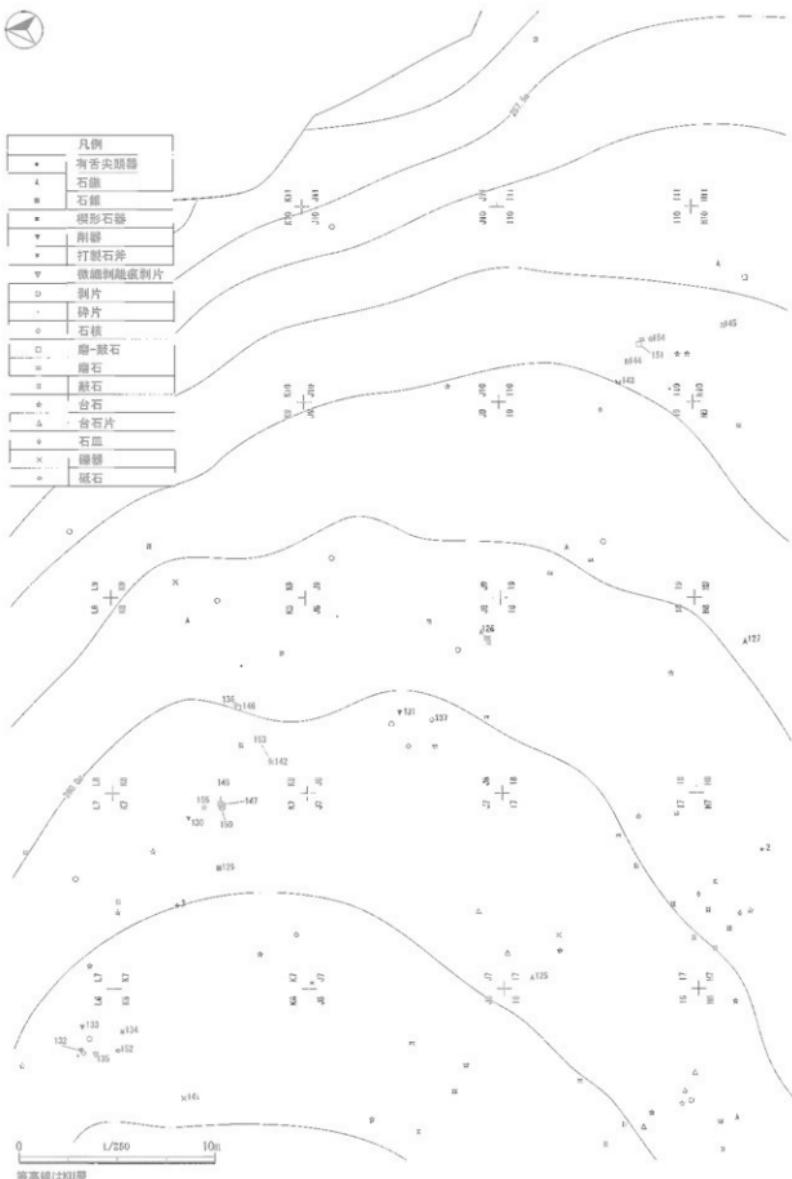
礫石器類の帰属時期については検討が及ばなかった。ただし、その一部についてでは、中期の土器よりも明らかに低い層準から検出されていることが分かった。殆どは早期後半に帰属するものと予測している。

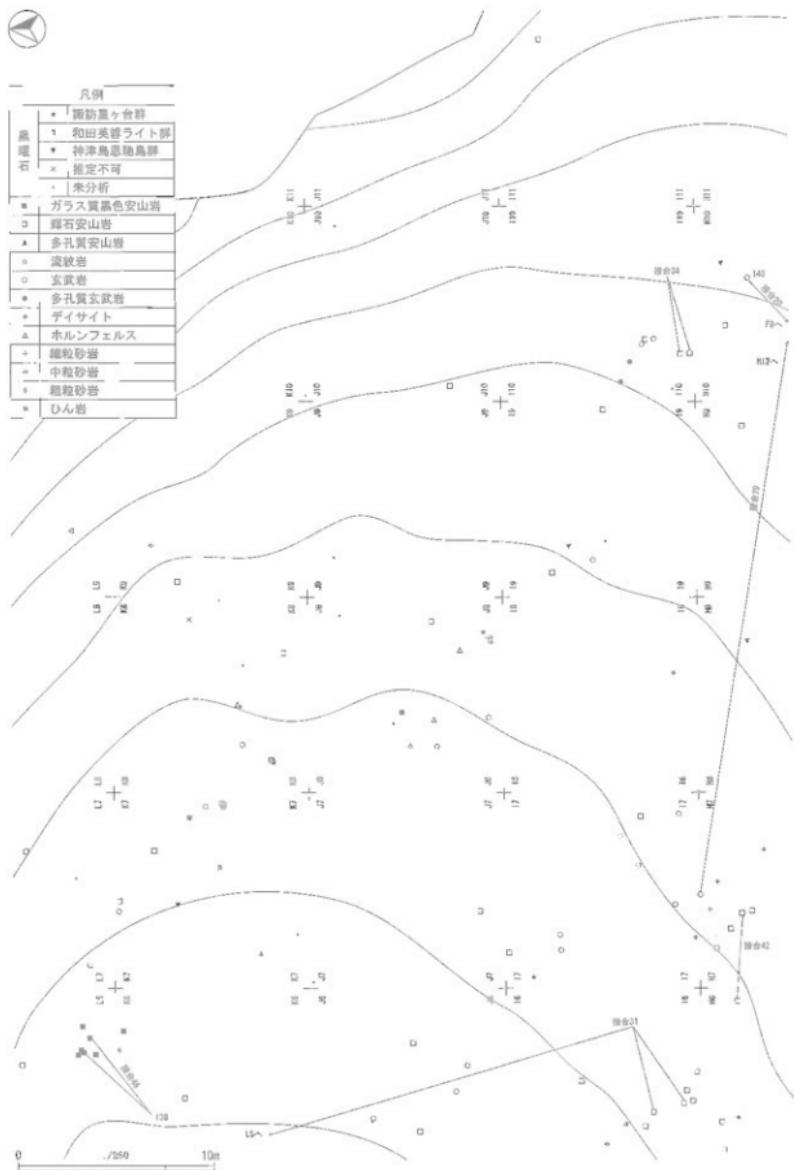
表22 HIJK 6-11グリッド 剥片石器類の石材組成

	黒曜石			ガラス質 黒色 安山岩		輝石 安山岩	流紋岩	ホルン フェルス	計
	雨防 藍ヶ台群	和田美智 ライト群	神津島 思恋島群	推定不可	未分析				
有舌尖頭器	1		1						2
石鏃	3		3	1			1		8
石鎌		1							1
楔形石器				1					1
削器					2				2
打製石斧					1				1
剥片				5		1		1	7
砂片				4					4
石核				1				3	4
計	4	1	4	1	11	3	1	1	30

表23 HIJK 6-11グリッド 磕石器類の石材組成

	輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玄武岩	多孔質 玄武岩	デイサイト	細粒砂岩	中粒砂岩	粗粒砂岩	ひん岩	計
磨-敲石	3		2		1					6
磨石	8		7	1						16
敲石	10		2	1		2	4		2	21
台石	11	1	5		1					13
台石片	5									5
石皿	3		1							4
礫器	2		2							4
砥石	42	1	10	2	2	2	4	2	2	76





第103図 HIJK 6-11グリッド 石材別分布

出土石器の検討（第104-109図）

二次加工石器類

石鎌（125/126）

125と126は瀬戸内海産黒曜石製石鎌である。127は神津島・恩馳島産黒曜石製石鎌である。基部がやや外湾する三角形鎌である。128は白色風化する流紋岩製石鎌である。

石錐（129）

129は和田芙蓉ライト産黒曜石製の石錐である。剥片の周縁を急角度な剥離で連続的に二次加工し、打面側に刃部を作出する。風化が著しいので、旧石器時代に帰属する可能性もあるが、ほかに検討できる材料は得られていない。

削器（130-133）

130はガラス質黒色安山岩製削器（側削器）である。側縁の収束するやや縦に長い剥片の末端の刃部と、左縁辺に直線的な刃部を作出する。

131はガラス質黒色安山岩製の削器（側削器）である。両極剥離によって得られた可能性のある剥片の左側縁に使用痕も含む二次的剥離痕が連続する。右側縁は、両極剥離のためか、彫刻刀面のような繊状の剥離面が形成されている。

132はガラス質黒色安山岩製削器である。分厚い剥片の左縁辺に微細剥離痕が連続する。右縁辺は急角度になっているが、これを打面として表裏にみられる二次的な剥離面は刃部ではなく、挟み撃ちによる潰れ痕であろう。

133はガラス質黒色安山岩製の削器（尖頭削器）である。大型剥片の左縁辺の末端に収斂するように、尖頭器のそれと類似する平坦剥離で整形する。右縁辺は折れているが、こちらにも刃部が作出されている可能性がある。調整加工技術の特徴は両面加工石器のそれと共通する。

打製石斧（134/135）

134はガラス質黒色安山岩製打製石斧である。分厚い剥片なし石核を素材として、端部に微弱な二次加工を施す。全体形状は嘴状を呈する。

135はガラス質黒色安山岩製である。尖端に向けて収斂する剥片の左右縁辺に微細剥離痕が連続する。縄文時代草創期の石器である。YLU出土である。

■ 剥片・石核類および接合資料

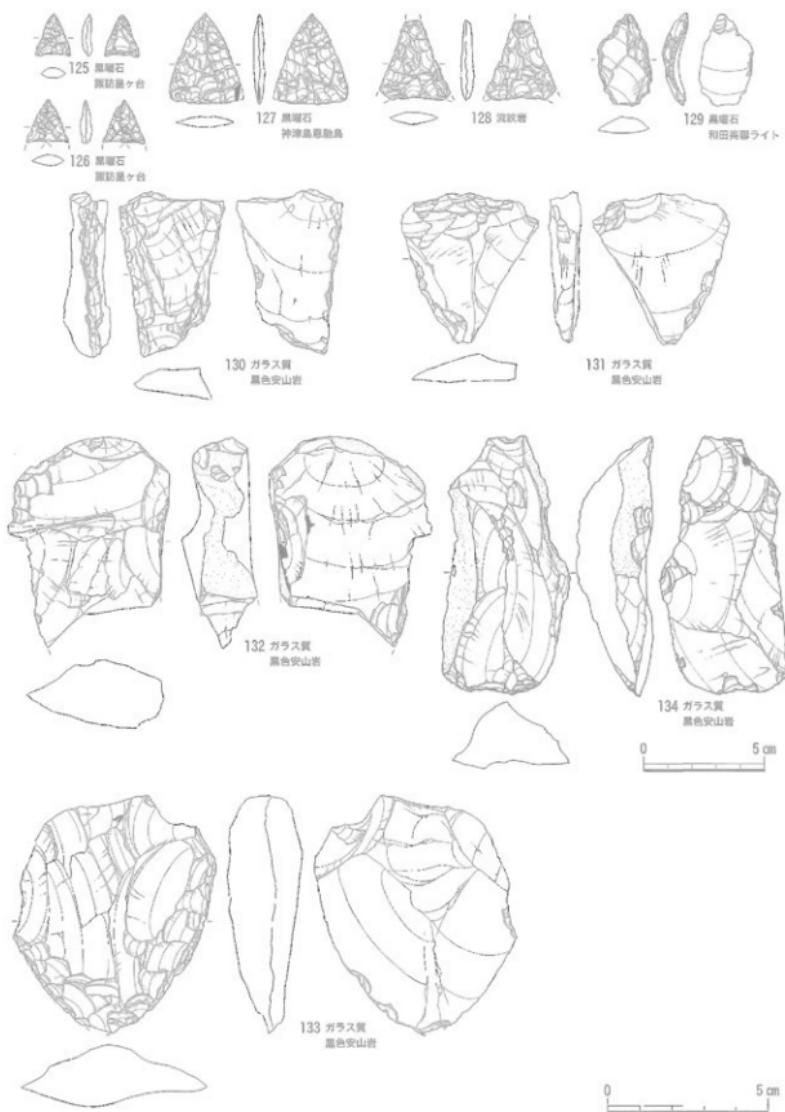
石核（136/137）

136はホルンフェルス製の石核である。ただし、石質が本地域における一般的なホルンフェルスと異なり、むしろ砾石器類の石材に近いことから、片刃砾器の可能性がある。

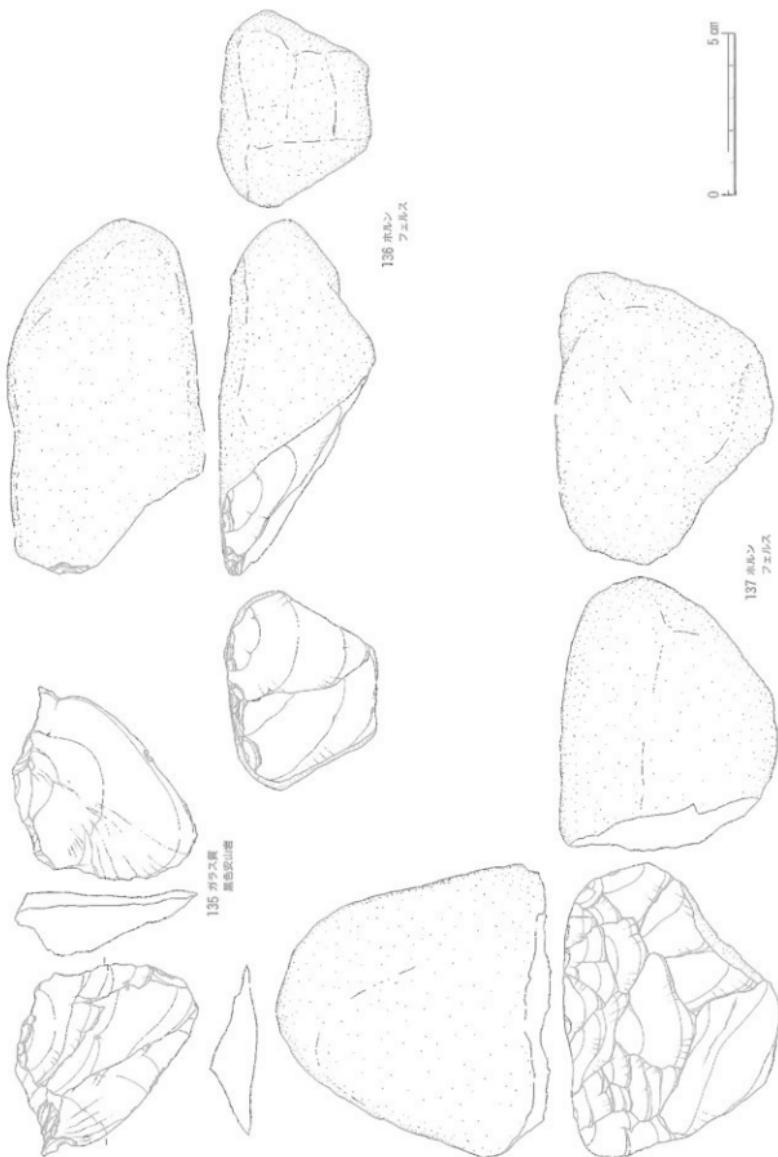
137はホルンフェルスの石核である。拳二つ分くらいの亜円礫の一端から同一方向へ連続して加撃し、幅広剥片を得るが、大型のまま放棄される。

接合資料（138-140）

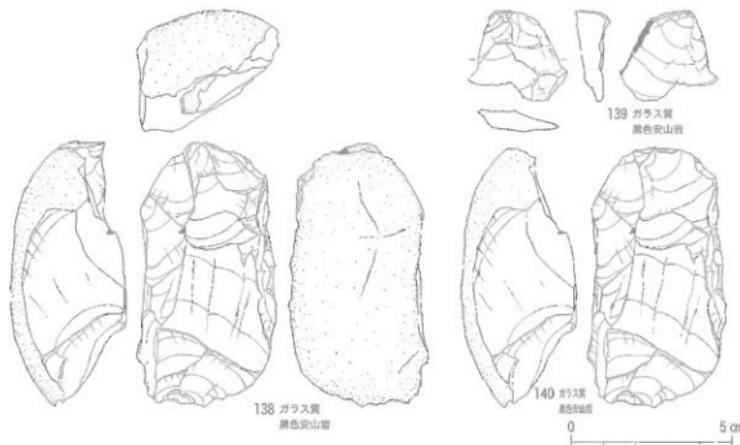
138-140はガラス質黒色安山岩の接合資料（接合46）とその部品である。亜円礫の自然面を大きく取り込む分厚い剥片（140）に両極的な打撃を加え、腹面から剥片（139）をとる。



第104図 HIJK 6 - 11グリッドの石器群 (1)



第105図 HJK 6-11グリッドの石器群 (2)



第106図 Hijk 6-11グリッドの石器群（3）

■ 磔石器類

礫器（141/142）

141は輝石安山岩製礫器（片刃礫器）である。正面観が略台形を呈する扁平な自然石の端部に数回の打撃を加えて片刃を作出する。

142は玄武岩製礫器（片刃礫器）である。扁平な自然石の尖頭状端部対面に大振りの二次加工を施して片刃を作出する。

磨石（143）

143は多孔質玄武岩製磨石である。正面観が円形に近い扁平盤の片面に研磨痕が付く。

敲石（144/145）

144は多孔質玄武岩製敲石である。正面と長軸端部に著しい敲打痕が付く。

145は輝石安山岩製敲石である。側面と長軸端に著しい敲打痕が付く。

磨-敲石（146-151）

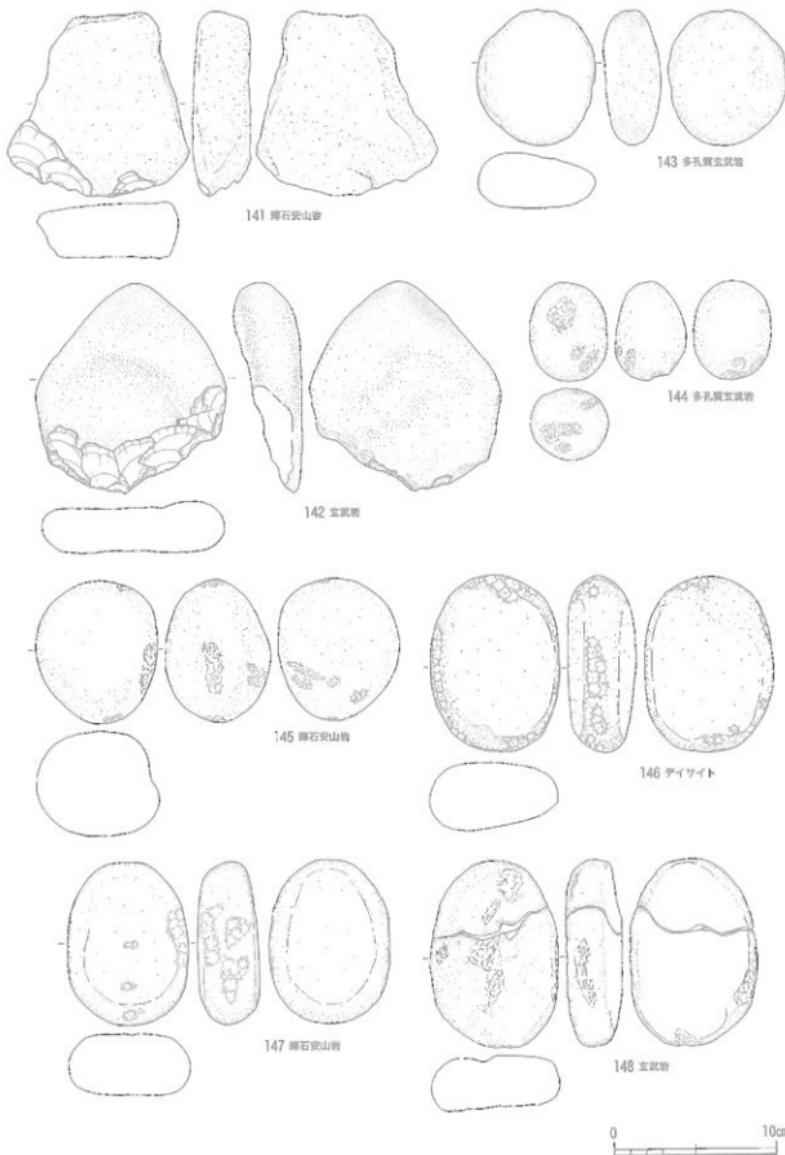
146はデイサイト製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平盤の周縁全体にわたって著しい敲打痕が付き、また表裏に平坦面と稜を形成するほど著しい研磨痕が付く。

147は輝石安山岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平盤の両側面に著しい敲打痕、表裏に研磨痕が付く。著しい使用の結果、研磨痕と側面との間には稜が形成されている。

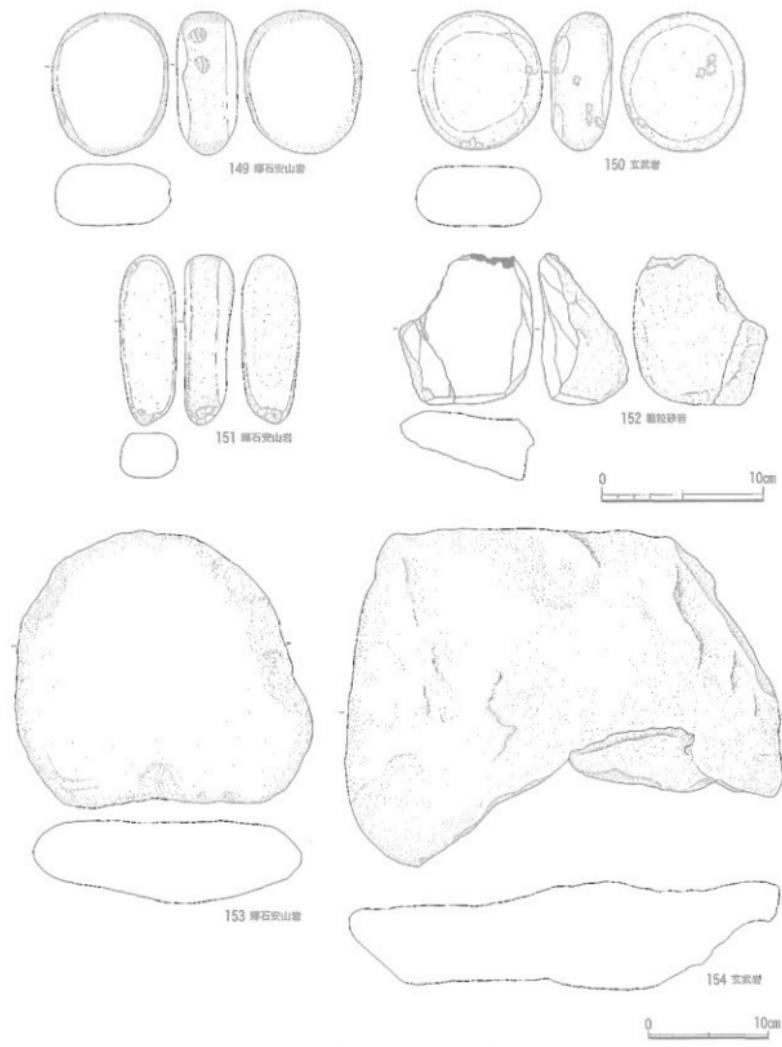
148（接合20）は玄武岩製磨-敲石である。正面観が梢円形を呈する扁平盤の中央と側面に著しい敲打痕、裏面には著しい研磨痕が付く。少なくとも2種の機能が複合する石器である。

149は輝石安山岩製の磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平盤の側面の所々に敲打痕が付き、また表裏の広範囲には、稜を形成するほど著しい研磨痕が付く。

150は玄武岩製磨-敲石である。正面観が円形に近い扁平盤の所々に敲打痕が付き、また表裏の広範囲に研磨痕が付く。場所によって、研磨痕同士が切り合い、稜を形成している部分も見られる。



第107図 HIJK 6-11グリッドの石器群 (4)



第108図 HIJK 6-11グリッドの石器群（5）

151は輝石安山岩製の磨-敲石である。棒状礫の端部に著しい敲打痕が付き、表裏の広範囲に研磨痕が付く。

砥石 (152)

152は粗粒砂岩製である。表裏と左右側面に複数の平滑な研磨痕が付き、研磨痕同士が接してしばしば稜をなす。YLU出土である。

石皿 (153)

153は輝石安山岩製石皿である。正面観が円形に近い大型扁平礫に研磨痕が付く。

台石 (154/155)

154は玄武岩製台石と推測される。大型の扁平礫である。明確に敲打痕といえる部位は認められなかった。

155は玄武岩製台石と推測される。大型の扁平礫である。明確に敲打痕といえる部位は認められなかつたが、平坦面の周辺に自然状態と区別の難しい凹みが多数認められた。

{e) その他の石器群 (第78/79図) (156-165)

以上に提示したグリッドに含まれなかつた石器群をここにまとめた。総点数は98点で、砾石器類54点を含む。

156は神津島恩馳島産黒曜石製石鎌である。形態は「獣形鎌」といわれるものに近い。J5 グリッド出土。

157-159は諏訪星ヶ台産黒曜石製石鎌である。159はかえしの部分が折れているので不明確だが、他2点は基盤に近い形態をとる。それぞれ、C6、K5、J5 グリッド出土。

160は輝石安山岩製打製石斧である。素材は、表裏に自然面が残っていることから、細長く扁平な礫であろう。F9 グリッド出土。

161は緑色凝灰岩製打製石斧である。基部の背面に自然面を残して周縁全体に荒っぽい平坦剥離を施し、部分的に敲打して約文字状に整形する。G8 グリッド出土。

162は黒曜石製削器である。周縁全体の表裏を平坦剥離で整形し刃部を作出する。产地は未分析だが、半透明で斑晶がないので諏訪周辺と想定される。素材剥片となっている石刀の表面と二次加工部の表面の風化の度合いが著しく異なり、おそらく旧石器時代に剥離された石刀を後代の人間が拾い上げて再利用したものと推測される。G4 グリッド出土。

163はガラス質黒色安山岩製微細剥離痕剥片である。左縁辺に微細剥離痕が連続する。末端は折れている。G6 グリッド出土。



第109図 HIJK 6-11グリッドの石器群 (6)

表24 その他のグリッド 石器石材組成

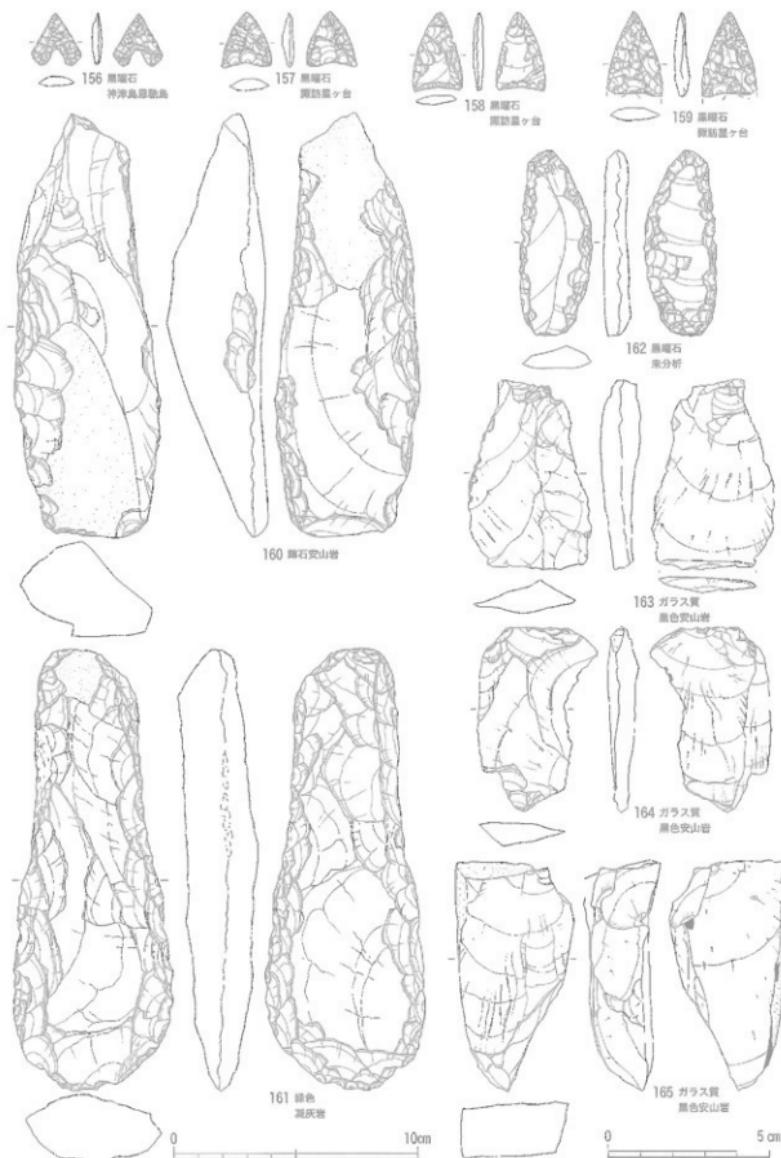
	黒曜石			ガラス質 黒色 安山岩			輝石 安山岩	多孔質 安山岩	玉髓	緑色 凝灰岩	玄武岩
	斐防	和田芙蓉	箱根	神津島							
	星ヶ台群	ライト群	烟宿群	恩馳島群	未分析						
尖頭器											
有舌尖頭器											
石鏃	4	1		1			1				
削器							1	2			
打製石斧									1		
二次加工剥片			1		1						
微纖割離痕剥片	1						2				
剥片	1			8	3	1					
碎片				5	1				1		
石核				1	1						
磨石							12	1		3	
敲石							7			2	
台石							12			4	
台石片							1			1	
石皿							1			4	
凹石											
礫器								1			
計	6	1	1	1	16	10	36	1	1	1	11
<hr/>											
	多孔質 玄武岩	閃緑岩	デイ サイト	細粒斑 レイ岩	ホルン フェルス	硬質頁岩	細粒砂岩	粗粒砂岩	計		
尖頭器					1	1				2	
有舌尖頭器					1					1	
石鏃										7	
削器										3	
打製石斧										2	
二次加工剥片										2	
微纖割離痕剥片										3	
剥片				2						15	
碎片										7	
石核										2	
磨石	1		2	1						20	
敲石		1					1	1		12	
台石										16	
台石片										2	
石皿										2	
凹石	1									1	
礫器										1	
計	2	1	2	1	4	1	1	1		98	

164はガラス質黒色安山岩製剥片である。両極剥離によったためか、打面付近に表裏におよぶ小型剥離痕が多数観察される。

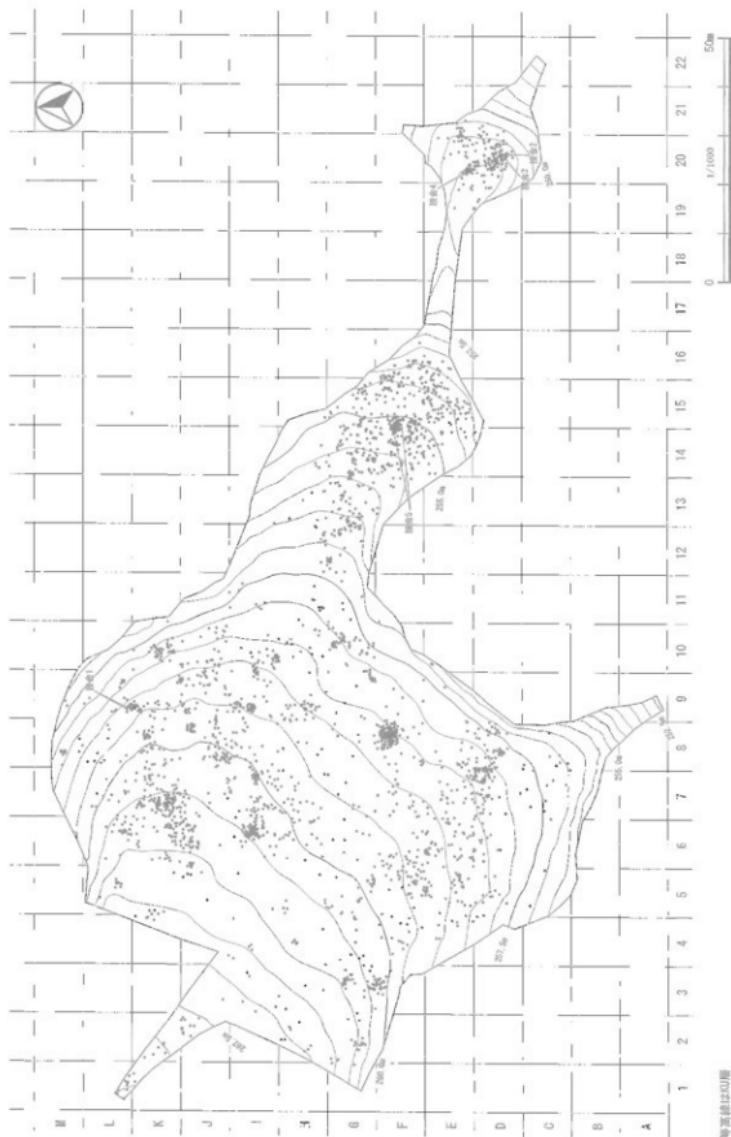
165はガラス質黒色安山岩製剥片である。打面の深いところを打撃して得られており、分厚い。右側縁には二次的に剥離された可能性もある剥離面が見られる。石核かもしれない。

(7) 表採資料

輝石安山岩製の磨-敲石1点、同石材製の台石1点、および礫2点が回収された。



第110図 その他の石器群



第111図 繩文時代 遺物分布

第6節 縄文時代の遺構

縄文時代のものと思われる焼土1箇所、集石33基、土坑29基が検出された。遺構別に分布をみると、集中域が異なっている。集石は調査区北部(IJKLM 6-9グリッド)と南部(DRG 5-8グリッド)を中心とし、緩やかに分かれる枝尾根の頂部に立地するのに対して、土坑は調査区北西部(GHIJKL 2-8グリッド)を中心とし、尾根の中でも燃り幅のある平坦部に立地する。両者の機能的な相違が反映するからであろう。

以下、焼土、集石、土坑の順で図と所見を提示する。なお、各遺構は、分布図上で以下の略号と番号をもって表している。その略号は、焼土：FP、集石：SY、土坑：PFで、番号は調査された順に01から始まる。ただし、文中ではこれを次のように読み替えて表記する； 例えは、分布図上の「SY01」は文章上で「1号集石」とする。

1. 焼土（第112/113図）

K7グリッドのKU上部で検出された。上部に炭化物が少量混じっている。梢円形を呈し、最大長1.34m、最大幅0.92m、最大深0.18mである。大型の台石1点を伴う。時期は早期後半よりも層位からみると新しいだろう。

2. 集石（第112/114-124図、表28）

33基が検出された。すべて縄文時代のものと思われる。それぞれの時期は、共伴すると判断された土器や、層位的な上下にある土器との関係から推定され、その結果、早期前半1基、早期後半8基、早期のいずれかの時期1基、前期前半2基、中期2基、不明17基である。不明なものが半数以上と多いが、判明したものについては早期後半が多い。この結果は、時期ごとの土器個体数と整合的である。

集石の形態を区分するのは困難だが、通常は、集石の周囲や下位に掘り込みがあるかどうかで分けられる。掘り込みを伴うかどうかは調理方法の違いによるものといわれている。掘り込みを伴うものは6/8/9/23/26/27/32/33号の計8基、伴わないものはそれ以外の25基だった。

■ 掘り込みを伴う集石

32号（第114図） I7グリッドに分布し、FBで検出された。礫151点で構成され、炭化物1点を伴う（年代測定と樹種同定は行っていない）。

27号（第115図） I9グリッドに分布し、FB上部で検出された。礫40点で構成される。

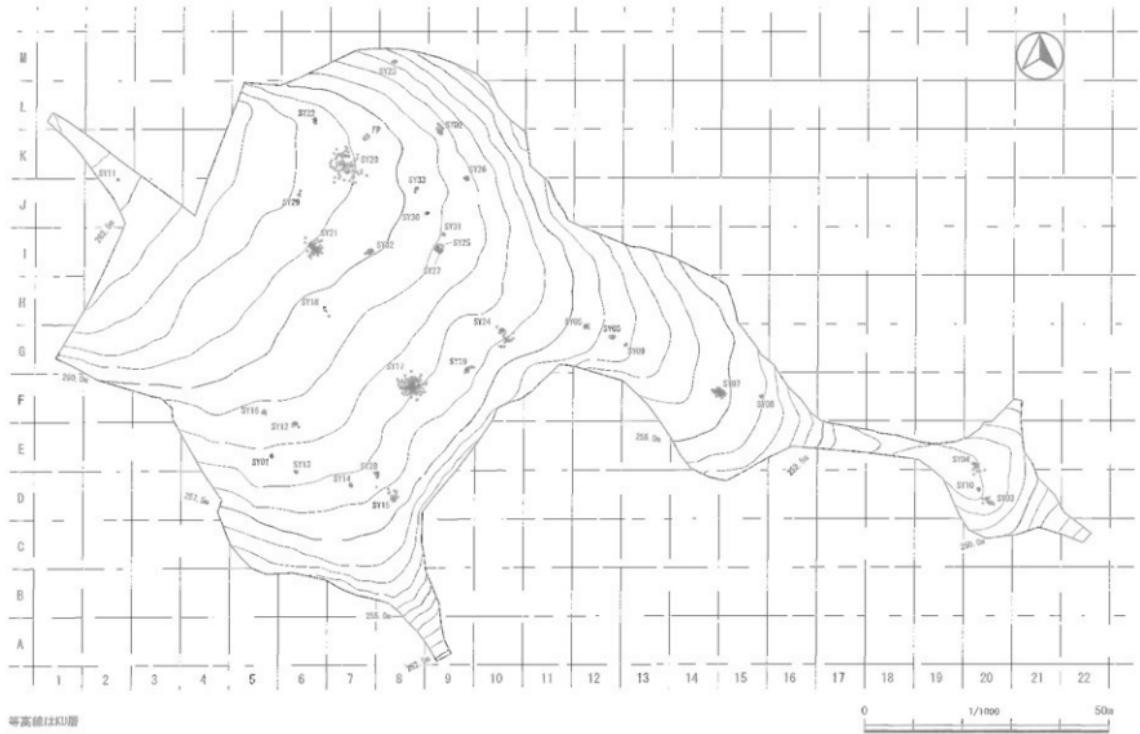
23号（第115図） M8グリッドに分布し、KU下面で検出された。礫39点で構成される。

6号（第115図） G12グリッドに分布し、KU下面で検出された。礫11点で構成される。

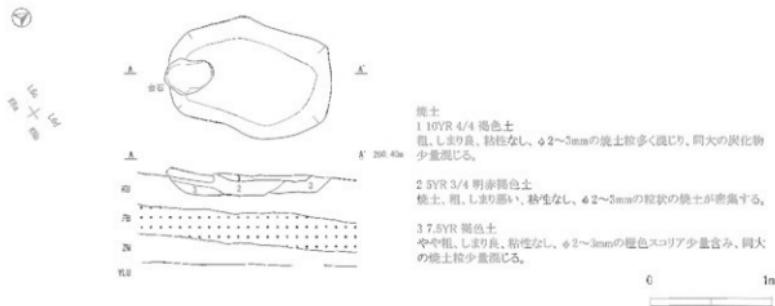
26号（第115図） K9グリッドに分布し、KU上部で検出された。層位的には中期の可能性が高い。礫63点で構成される。

33号（第116図） J8グリッドに分布し、FBで検出された。礫22点で構成され、条痕文土器（その他の条痕文）破片2点が伴う。

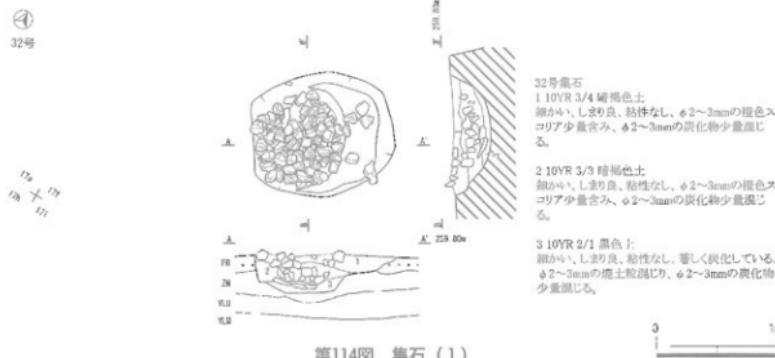
8号（第116図） F15グリッドに分布し、FB上面で検出された。掘り込みには上位のKUが落ち込んでいた。付近で検出された諸磯b式土器（諸磯b4/5）よりも下位で、沈線文土器（沈線文I）とほぼ同層準に包含される。礫9点で構成され、黒曜石製剝片1点と碎片7点を伴う。



第112図 集石・焼土分布



第113図 燃土



第114図 集石(1)

9号(第116図) G13グリッドに分布し、FB上面で検出された。縄11点で構成される。掘り込みには上位のKUが落ち込んでいた。

■ 掘り込みを伴わない集石

掘り込みを伴わないものは、検出面の低い方を先に図示し、高い方をあとにした。層位別の検出数と該当する集石番号は以下の通り。

FBが検出面となるもの	:	5基	7/11/28/29/31号
FBからKUが検出面となるもの	:	5基	3/4/10/21/30号
KUが検出面となるもの	:	14基	1/5/12-20/22/24/25号
KGPが検出面となるもの	:	1基	2号

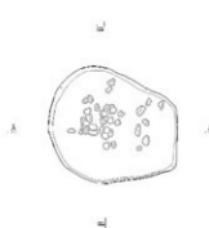
28号(第116図) D 7/8グリッド北部に分布し、FBで検出された。付近から出土した諸磯b式土器(諸磯b1-5)よりも下位で、茅山下層式土器(茅山下層1)とほぼ同層準に包含される。縄19点で構成され、1mほど離れた同層準に台石1点が分布していた。

29号(第116図) J6グリッド北部に分布し、FBで検出された。台石1点と黒曜石の碎片2点が伴う。

- 11号（第117図） J2 グリッド北部に分布し、FB上部で検出された。礫6点で構成される。
- 31号（第117図） I9 グリッドに分布し、FBで検出された。茅山下層式土器（茅山下層1）破片2点が伴う。礫6点で構成される。
- 7号（第117図） F14/15グリッドに分布し、FB上面で検出された。付近で検出された判ノ木山西式土器（判ノ木山西3）と茅山下層式土器（茅山下層1）はほぼ同層準に包含される。多数の接合資料を含む礫107点で構成される。
- 3号（第118図） D20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準の上部で検出された。接合資料を含む礫29点で構成される。
- 4号（第118図） D/E20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準の上部で検出された。接合資料を含む礫21点で構成される。
- 10号（第119図） D20グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準で検出された。礫17点で構成される。
- 30号（第119図） J8/9 グリッドに分布し、KUを主体に一部がFBに及んで検出された。付近で検出された茅山下層式土器（茅山下層2/3）よりも下位に包含される。礫14点で構成される。
- 21号（第119図） J6 グリッドに分布し、FBからKUに相当する層準で検出された。礫125点で構成され、時期と型式の分からぬ土器片1点を伴う。磨石1点を伴う。
- 14号（第120図） D7 グリッドに分布し、KU下部で検出された。礫25点で構成される。
- 12号（第120図） E/F6 グリッドに分布し、KUで検出された。付近で検出された上ノ坊式土器（上ノ坊2）とほぼ同層準に包含される。礫24点で構成され、黒曜石の碎片1点を伴う。
- 5号（第120図） G/H12グリッドに分布し、KUで検出された。礫18点で構成される。
- 22号（第120図） L6 グリッドに分布し、KUで検出された。付近に藤内式土器（藤内2）が分布するが、地形がねじれた斜面で堆積も薄く、上ノ坊式土器と藤内式土器が同層準に包含されるなどでやや混亂しているので、上下関係の比較は難しかった。礫19点で構成される。
- 18号（第120図） H6/7 グリッドに分布し、KUで検出された。礫6点で構成される。
- 24号（第121図） G10グリッドに分布し、KUに包含される。礫5点で構成され、玄武岩製磨石1点を伴う。
- 19号（第121図） F/G9 グリッドに分布し、KUで検出された。礫25点で構成される。
- 13号（第121図） D/E6 グリッドに分布し、KUで検出された。礫11点で構成され、磨石3点と磨-敲石1点（第90図44）を伴う。
- 17号（第122図） F/G8 グリッドに分布し、KU下部で検出された。礫212点で構成され、野島式土器（野島3）破片63点、早期と思われる土器片2点、磨-敲石1点（第107図148）、磨石1点を伴う。
- 15号（第123図） D8 グリッドに分布し、KUで検出された。礫31点で構成され、磨石2点と台石1点を伴う。
- 25号（第123図） I9 グリッドに分布し、KUで検出された。礫37点で構成され、茅山下層式土器の茅山下層1と2の破片をそれぞれ2点、玄武岩製磨石1点を伴う。
- 16号（第123図） F5 グリッドに分布し、KUで検出された。付近に分布する早期の縄文土器（早期縄文4）と打越式土器（打越1）よりも上位で、上ノ坊式土器（上ノ坊1）とほぼ同層準に包含される。礫11点で構成される。
- 20号（第124図） J/K7 に分布し、KUで検出された。礫112点で構成され、多孔質安山岩製台石1点を伴う。前期の土器（前期その他1）を伴う。
- 1号（第124図） E5 グリッドに分布し、KU上部で検出された。礫20点で構成される。

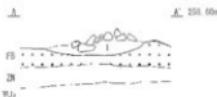
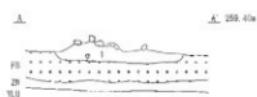
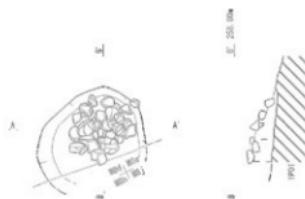
Ⓐ

27号



Ⓐ

23号

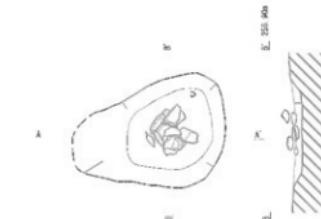


27号集石
17.5VR 4/4 棕色土
やや粗、しまり良、粘性なし、φ2~3mmの褐色スコリア含む。

23号集石
110VR 4/4 棕色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2~3mmの褐色スコリア含む、白色
バニス少量含む。

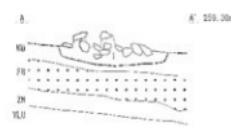
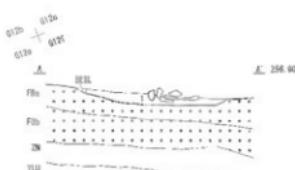
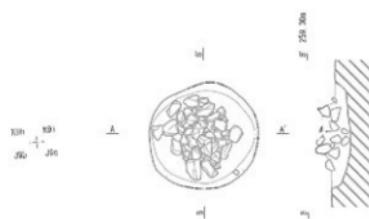
Ⓐ

6号



Ⓐ

26号



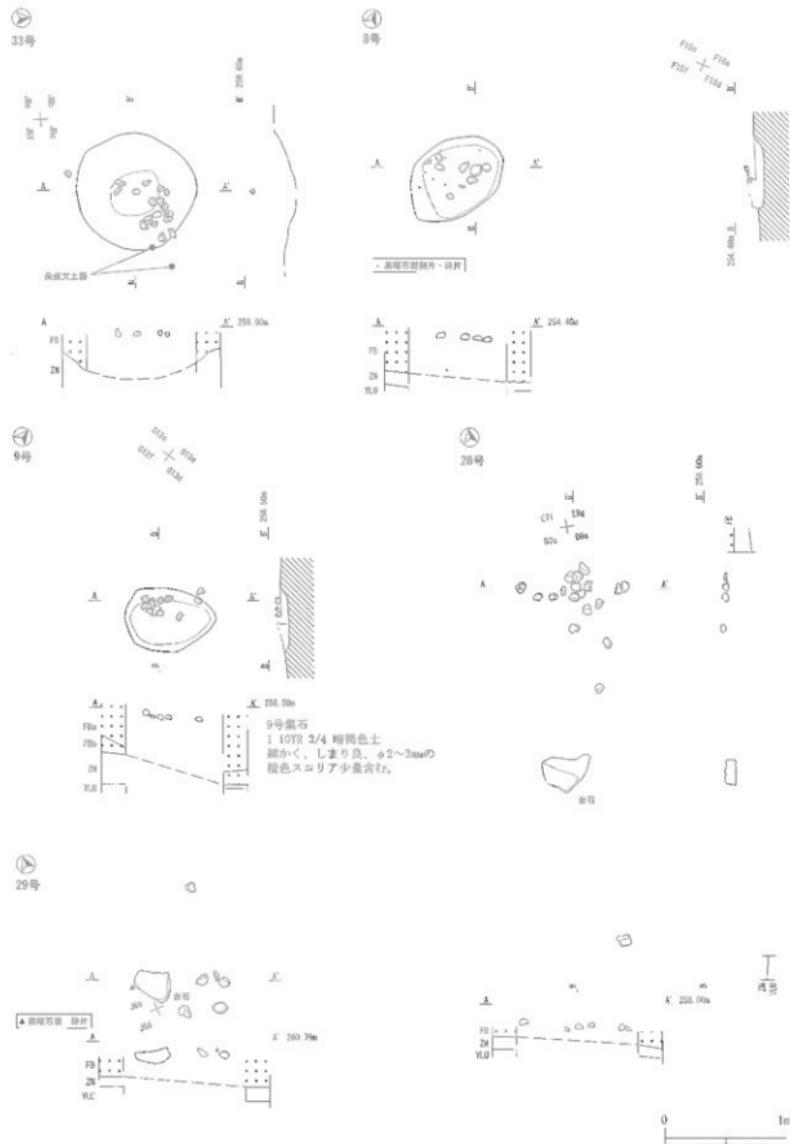
6号集石
110VR 4/4 棕色土
やや粗、しまり良、φ2~3mmの褐色スコリア少量含み、φ2~
3mmの灰化物少量混じる。

26号集石
110VR 4/4 棕色土
細かく、しまり良、粘性なし、φ2~3mmの褐色スコリア含む



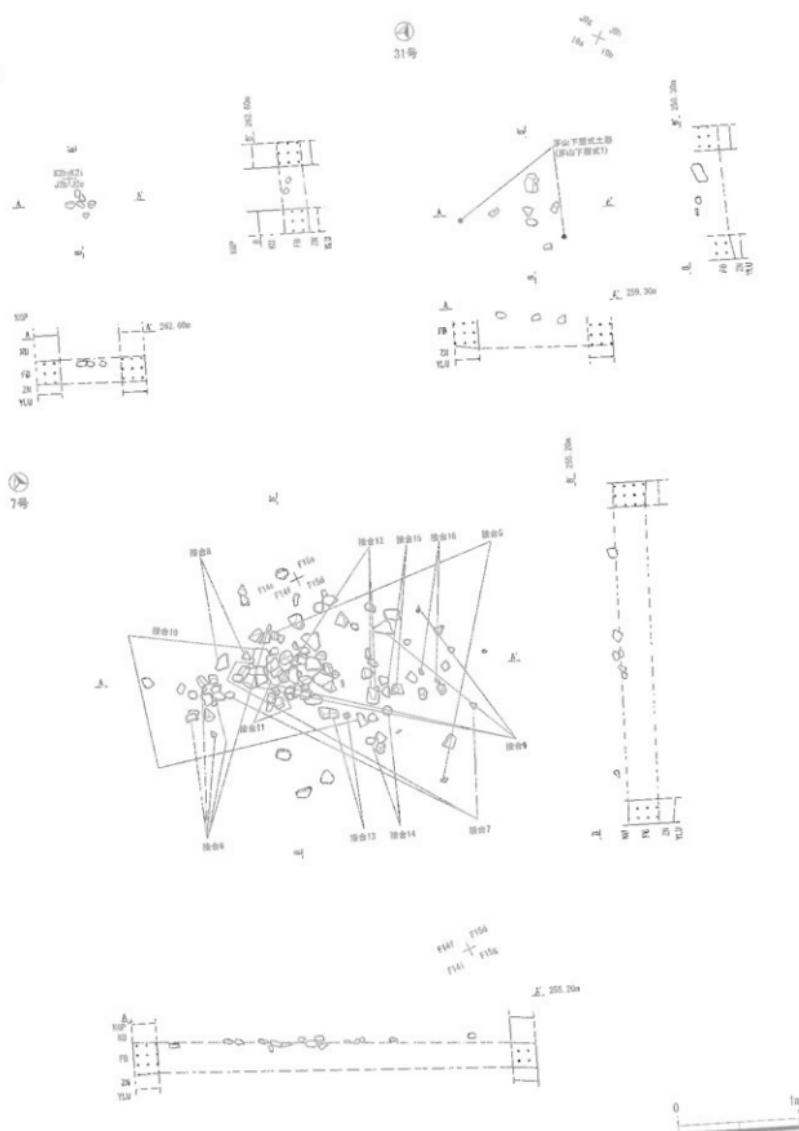
第115図 集石（2）

2号（第124図）K/L9グリッドに分布し、KGP下部で検出された。層位的には、本遺跡で最も上位にある集石である。礫34点で構成される。

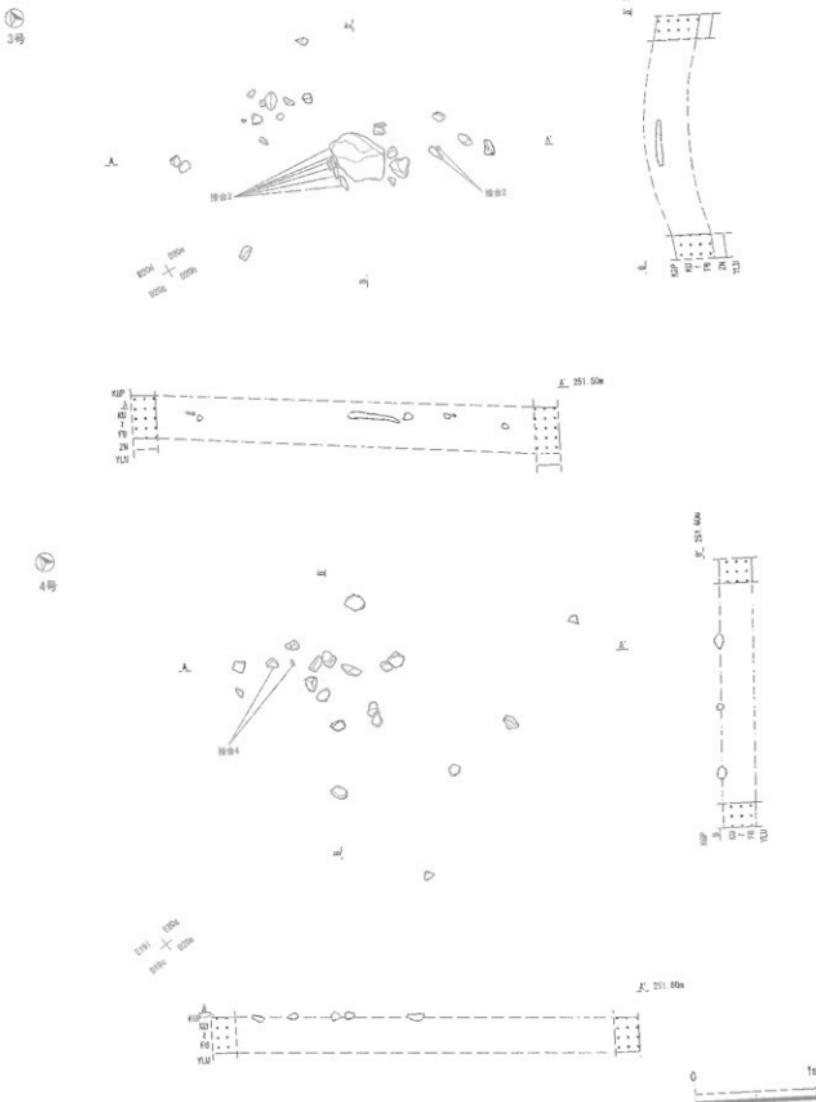


第116図 集石 (3)

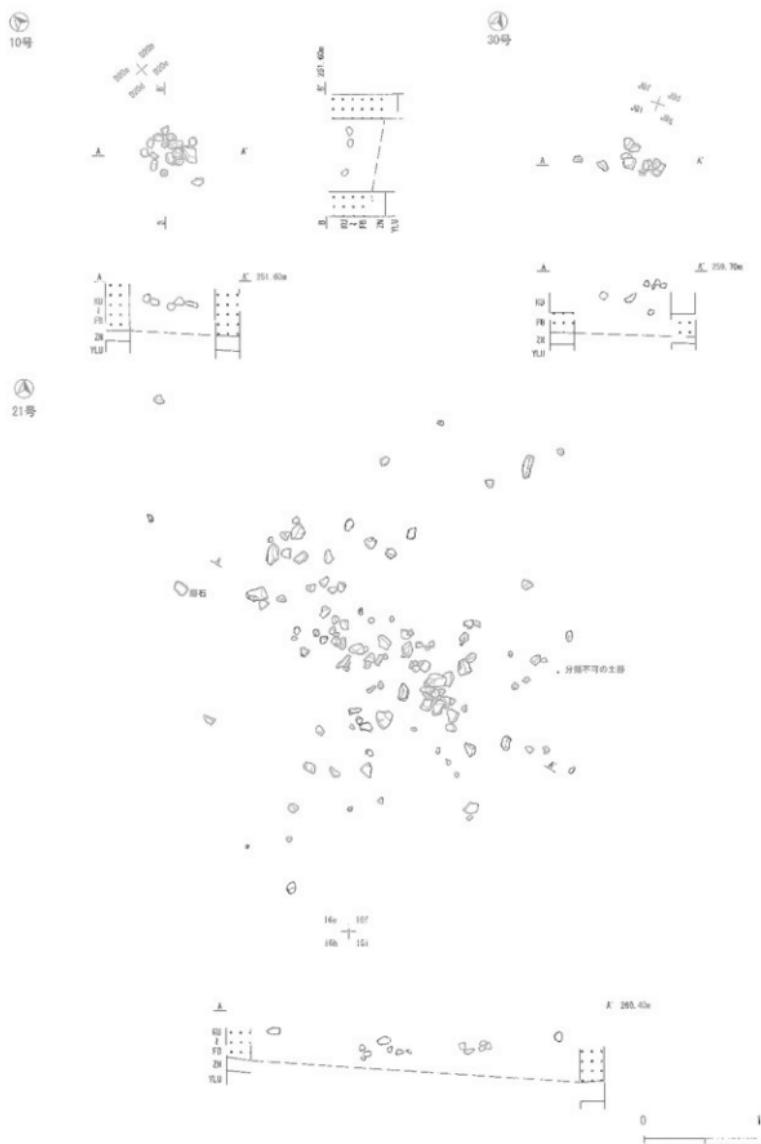
11号



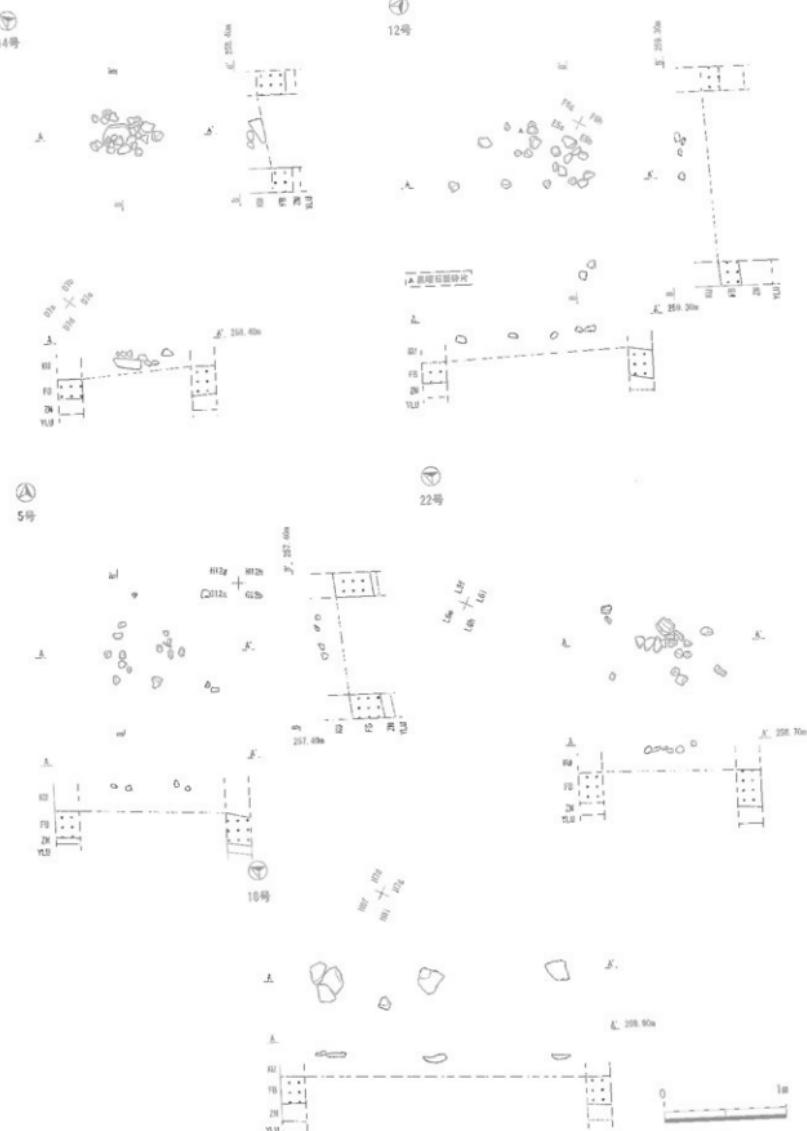
第117図 集石 (4)



第118図 集石(5)



第119図 集石 (6)



第120図 集石(7)

7

24号



a

O 集石

◎

D

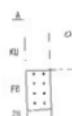


L



D

K. 258.25a



7

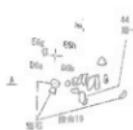
19号

A.



A

13号



J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

K. 258.25a

D

F

Z

Y

X

W

V

U

T

S

R

Q

P

O

N

M

L

K

J

I

H

G

F

E

D

C

B

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

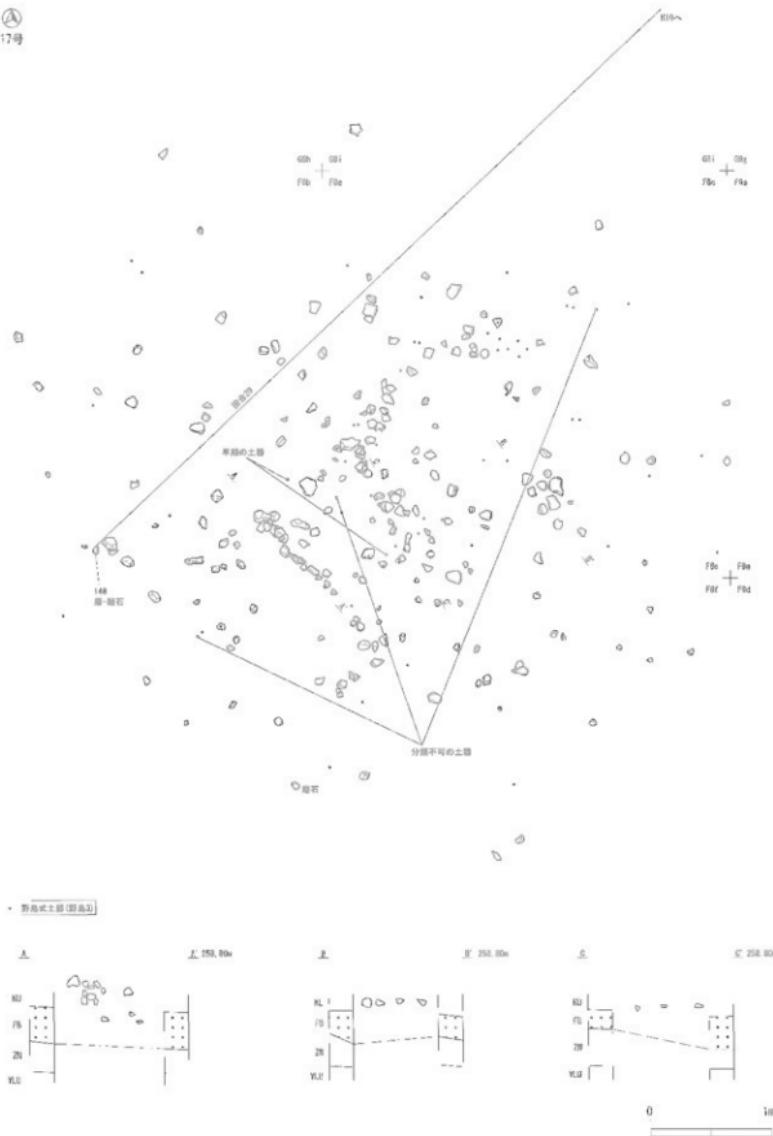
M

N

O

P

Ⓐ
17号





第123図 集石 (10)

Ⓐ

20号

$$\begin{matrix} \text{K3} & \text{K4} \\ \text{J3c} & \text{J3d} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7b} & \text{K7c} \\ \text{J7b} & \text{J7c} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7b} & \text{K7c} \\ \text{J7b} & \text{J7c} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K3f} & \text{K3g} \\ \text{J3f} & \text{J3g} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7d} & \text{K7e} \\ \text{J7d} & \text{J7e} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7b} & \text{K7c} \\ \text{J7b} & \text{J7c} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K3} & \text{K7b} \\ \text{J3c} & \text{J7c} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7b} & \text{K7c} \\ \text{J7b} & \text{J7c} \end{matrix}$$

$$\begin{matrix} \text{K7b} & \text{K7c} \\ \text{J7b} & \text{J7c} \end{matrix}$$


Ⓑ

1号

$$\begin{matrix} \text{K3e} & \text{K3f} \\ \text{J3e} & \text{J3f} \end{matrix}$$

A.



B.



2号



C.

D.

E.

F.

G.

H.

I.

J.

K.

L.

M.

N.

O.



第124図 集石 (11)

3. 土坑（第125-136図、表25/26/29）

縄文時代に帰属するものが29基検出された。調査区の北西部に集中し、一部が中央部に散在する。西南部における希薄さは、尾根の主稜線かそうでないかとの違いと対応する。

土坑の形態分類は、まず検出面の最大幅に対する最大長の比によって、大略3つに区分される。①1:1.2以下、②1:1.7以下、③1:1.7以上、である。他の遺跡も加えた多数の類例から閾値を知りたいところだが、ここではなしえない。

平面形態には円形から長方形が主体であるが、ひょうたん形などの特殊な形態を呈するものはない。円形・橢円形と方形・長方形の分類は発掘精度の違いに左右されやすいので、ここでは間わないことにする。上で挙げた幅と長さの比に従って、順に、円型（円形から方形）、橢円型（橢円形から長方形）、長椭円型（橢円型よりも幅と長さの比が大きい橢円形から長方形）と呼んでおく。

次いで小穴の有無で細分される。以上の2段階分類に従うと、老平遺跡の縄文時代土坑は表25のようにな集計される。これをみると、長椭円型に著しく偏って小穴が認められることが明らかである。

縄文時代の土坑には竪穴住居、墓坑、貯蔵穴、陥し穴などの機能が想定されるが、この遺跡の場合その形態と周囲の遺構及び遺物の時期などからみて陥し穴とみられる。土坑内の小穴は一般に陥し穴の上部構造を支える柱穴や陥れた動物の身動きを制限する、あるいは殺傷するなどの機能をもつ逆茂木を敷設した痕跡である。逆茂木痕の有無が平面形態の違いと明らかな相関を示しているとすれば、常識的にはその背後に陥し穴としての機能に相違があると見なしうる。

陥し穴の円型と長椭円型（溝型と呼ばれるものに近い）は、対象動物とその行動生態に応じて設置場所や組み合わせの方法が異なるとされる。具体的な証拠が得られていない対象動物はさておき、前者は山地丘陵部の幅広い地形に対応して、大規模に群集する傾向があるとされ、後者は谷底か尾根上で、高低差のある方向を長軸として、列をなす傾向が強いといわれている。谷底の場合は谷の上下流方向を長軸とし、尾根上の場合は等高線に直行するという。

この視点から、本遺跡の長椭円型16基を等高線との角度で直行型と平行型に二分してみると、直行型7基（36/37/47/28/42/41/40号）、平行型9基である。ここでは平行型の方がやや多いので、例外的なのかもしれない。念のため、個々の長椭円型が等高線に直行して配置される傾向が強く、そうした陥し穴が横列を構成するという仮説に従って観察すると、感覚的には47-46-37という列と28-42-41-40-27という線が見えなくもない。しかし、検出面は前者がYLU-FB-KUとバラバラで、後者はKU-YLU-YLU-YLU-KUと中央3基と両端とでは層位が異なる。42-41-40の列だけが組み合わされている可能性を辛うじて指摘できる。

平面形態と掘り込み面の相関関係はあるだろうか。集計結果は表26のようになった。

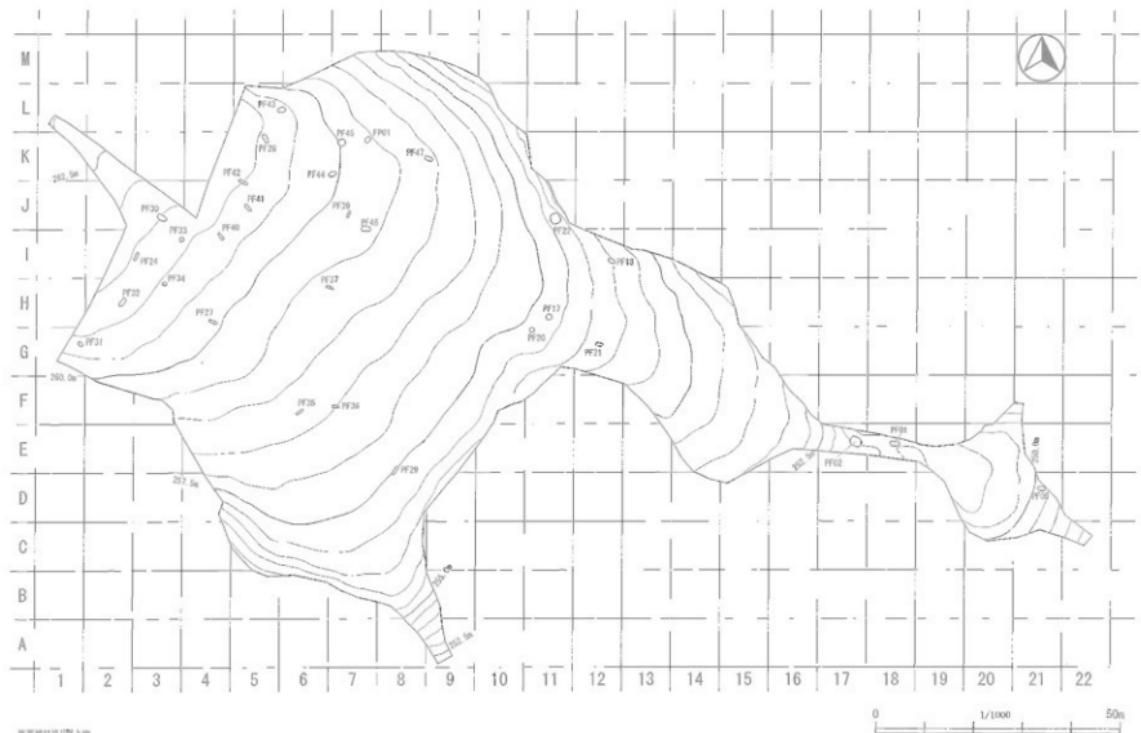
これを分布上でみると、調査区南部に散漫に分布する長椭円形の一群はすべてKUを掘り込み面としている。27/37/35/36/29号がこれにあたる。北部では少なく、28と24号があるだけだ。これらがすべて長椭円型であることに注意したい。KUを掘り込み面とするものは長椭円型に特化し、空間を尾根の主稜線から外れた場所に配置されている傾向が指摘できる。

各土坑の帰属時期を直接検討するのは困難である。29号土坑に諸磯b式土器が伴ったほかは、覆土に土器が検出された例がないからである。上表を見ると、YLUを掘り込み面としているものが多くなっている。YLUは後期旧石器時代後半期の尖頭器石器群や細石刃石器群が検出される層準であるとともに、縄文時代草創期石器群の下限層準でもある。よって、以上の結果からはその時期の土坑が多いかのようにみえるが、しかし検出精度の低さも影響しているため、ある程度は差し引いてみなければならぬ。現在のところ、旧石器時代に、長椭円型を含む土坑群がまとまってみつかったという信頼のおける事例は知られていないので、おそらくは草創期以降のものと推測される。

しかし、他方で、掘り込み面の出現頻度がYLUとKUに離れてピークを迎える点は、2時期以上の土坑製作期があったと推測する材料とみなしうる。帰属時期はどうしても土器型式に依存せざるを得ないが、それに従うなら、YLUのものは草創期の可能性が低く、早期後半条痕文土器期に帰属する可能性が高い。KUのものは前期から中期という曖昧な位置づけしかできない。中間層準のものはさらに分からない。

以下、各土坑に関して実測図を掲示し、簡単な記載を添えておく。

- 17号（第126図） H11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 20号（第126図） G11グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 45号（第126図） K7グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 33号（第127図） I3グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 34号（第127図） H3グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。梢円形に近い円形を呈する。
- 18号（第127図） II2グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。梢円形を呈する。
- 31号（第127図） G1グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。梢円形を呈する。
- 30号（第128図） J3グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。梢円形を呈する。
- 43号（第128図） L5/6グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形に近い梢円形を呈する。
- 5号（第129図） D21グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。本遺跡で最も東に位置する土坑である。逆茂木痕らしきものが認められたが積極的には評価しがたかった。
- 21号（第129図） G12グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。梢円形を呈する。
- 22号（第130図） J11グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。円形ないし隅丸方形を呈する。
- 27号（第130図） H4グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長梢円ないし隅丸長方形を呈する。
- 40号（第130図） I4グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長梢円ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線とほぼ直交する。
- 29号（第131図） D/E8グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。隅丸長方形を呈する。底部に長軸と平行して1列をなす4箇所の逆茂木痕が検出された。また、覆土内から、諸磯b式土器の諸磯bIと同4破片が1点ずつ出土した。
- 24号（第131図） I2/3グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長梢円ないし隅丸長方形を呈する。
- 2号（第132図） E17グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が確認された。ただし、立地が瘦せ尾根であり、確認調査で掘削したトレーナーの断面で認められたように、YLU以上の堆積は不十分だった。上部が梢円形を呈するが、下がるとともに段を付けてすぼまり、底部は細い長方形を呈する。
- 41号（第132図） J5グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長梢円形ないし隅丸長方形を呈する。底部の長軸両端に逆茂木痕が1箇所ずつ検出された。長軸は等高線とほぼ直交する。
- 32号（第133図） H2グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が確認された。長梢円形ないし隅丸長方形を呈する。北東側の壁だけが緩やかに傾斜する。逆茂木痕が底部中央付近に1箇所検出された。長軸は等高線と平行に近い。
- 37号（第133図） H6/7グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。底部に5箇所の逆茂木痕が検出された。長軸は等高線とほぼ直交する。



第125図 繩文時代 土坑分布

47号（第133図）K8 / 9グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。底部中央に2箇所の逆茂木痕が1列土坑の長軸に並行して検出された。長軸は等高線と斜交する。

36号（第133図）F7グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。底部に5箇所の逆茂木痕が長軸と平行して1列検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

1号（第134図）E18グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。底部に4箇所の逆茂木痕が長軸と平行して1列検出された。長軸と平行に長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。痩せ尾根の頂部付近に位置する。

46号（第134図）I/J7グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。中央に並んだ二つの逆茂木痕が検出された。

42号（第134図）J/K5グリッドに分布し、YLUで掘り込み面が検出された。長軸両端の底部に逆茂木痕が1箇所ずつ検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

39号（第135図）J7グリッドに分布し、FBで掘り込み面が検出された。底部にややバラツキのある7箇所の逆茂木痕が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線とほぼ直交する。

28号（第135図）K5グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線と斜交する。

35号（第136図）F6グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。長軸の両端近くに、それぞれ2箇所と3箇所の逆茂木痕が検出された。長楕円形ないし隅丸長方形を呈する。長軸は等高線にはば平行する。

44号（第136図）K6 / 7グリッドに分布し、ZNで掘り込み面が検出された。底部中央に1箇所のやや大型の小穴が検出された。楕円形を呈する。

表25 土坑の平面形態と小穴の有無

総数（小穴のあるもの）	
円型	6 (3)
横円型	7 (1)
異形円型	16 (11)
計	29 (12)

表26 土坑の平面形態と掘り込み面の層位

	KGP	KU	FB	ZN	YLU	計
円型	1			1	4	6
横円型				1	2	4
異形円型				6	2	1
計	1	6	3	3	16	29

④

17号

$$\begin{matrix} \text{Hf1d} & \text{Hf1e} \\ \text{Hf1g} & \text{Hf1h} \end{matrix}$$

17号土坑

17.5VR 4/4 棕色土

非常に粗、しまり良、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色のスコリア、 $\phi 5\text{mm}$ の砂漠スコリア、 $\phi 10\text{mm}$ の仙石スコリア多く含み、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の炭化物少量混じる。

2 10VR 3/4 暗褐色土

細かく、しまり良、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含む。

3 10VR 4/4 棕色土

細かく、しまり良、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含む。

1層土が互層に混じる、比率は1:1層の混合土。

4 10VR 4/6 棕色土

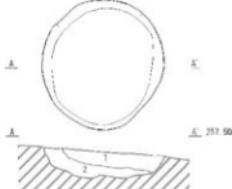
細かく、しまり良、 $\phi 5\text{mm}$ の黒色スコリア少量含む。

5 10VR 4/6 棕色土

細かく、しまり良、硬質、粘性やや有り、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア、 $\phi 5\text{mm}$ の黒色スコリア少量含む。

上

JL 200.00m

⑤
20号
$$\begin{matrix} \text{Hf1d} & \text{Hf1e} \\ \text{Hf1g} & \text{Hf1h} \end{matrix}$$


上

JL 250.50m

⑥

45号



K'

$$\begin{matrix} \text{K1a} & \text{K1b} \\ \text{K1d} & \text{K1e} \end{matrix}$$

45号土坑

1 10VR 2/3 黑褐色土

粗、しまり良、粘性なし、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含み、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の炭化物少量混じる。

2 7.5VR 3/4 暗褐色土

やや粗、しまり良、粘性なし、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含み、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の炭化物少量混じる。

上

JL 250.20m

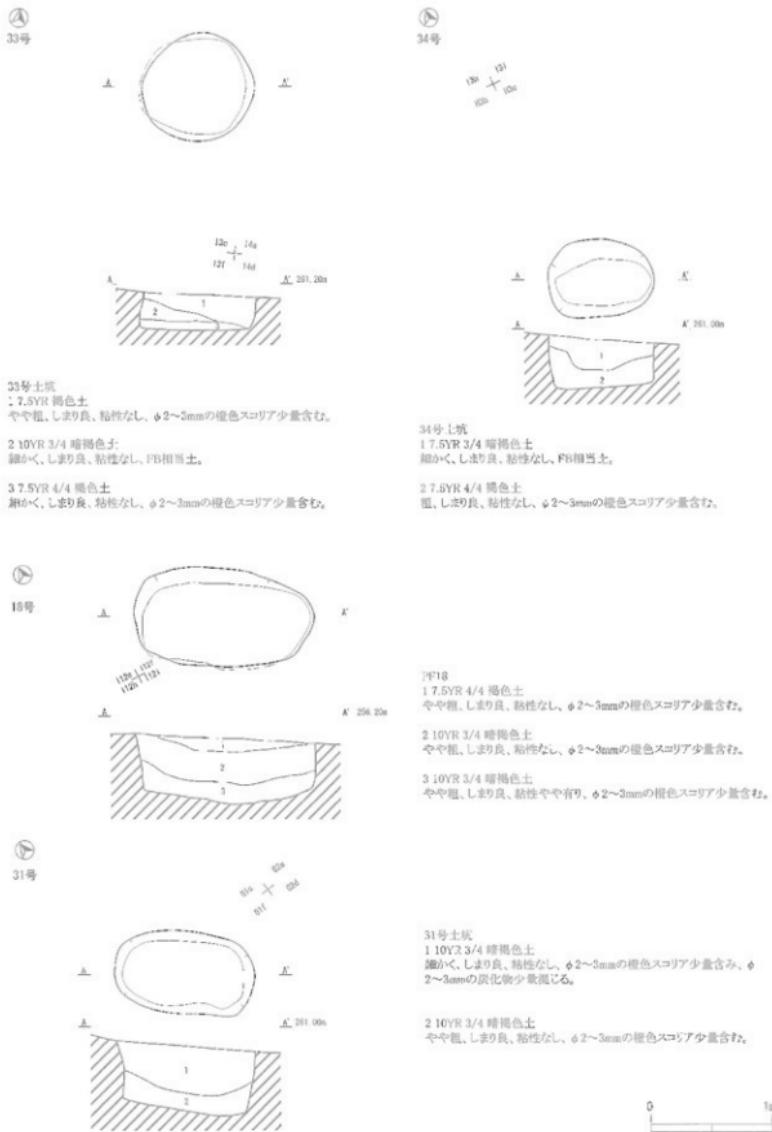
2 10VR 3/4 暗褐色土

粗、しまり良、粘性なし、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含み、 $\phi 2\sim10\text{mm}$ の炭化物少量混じる。

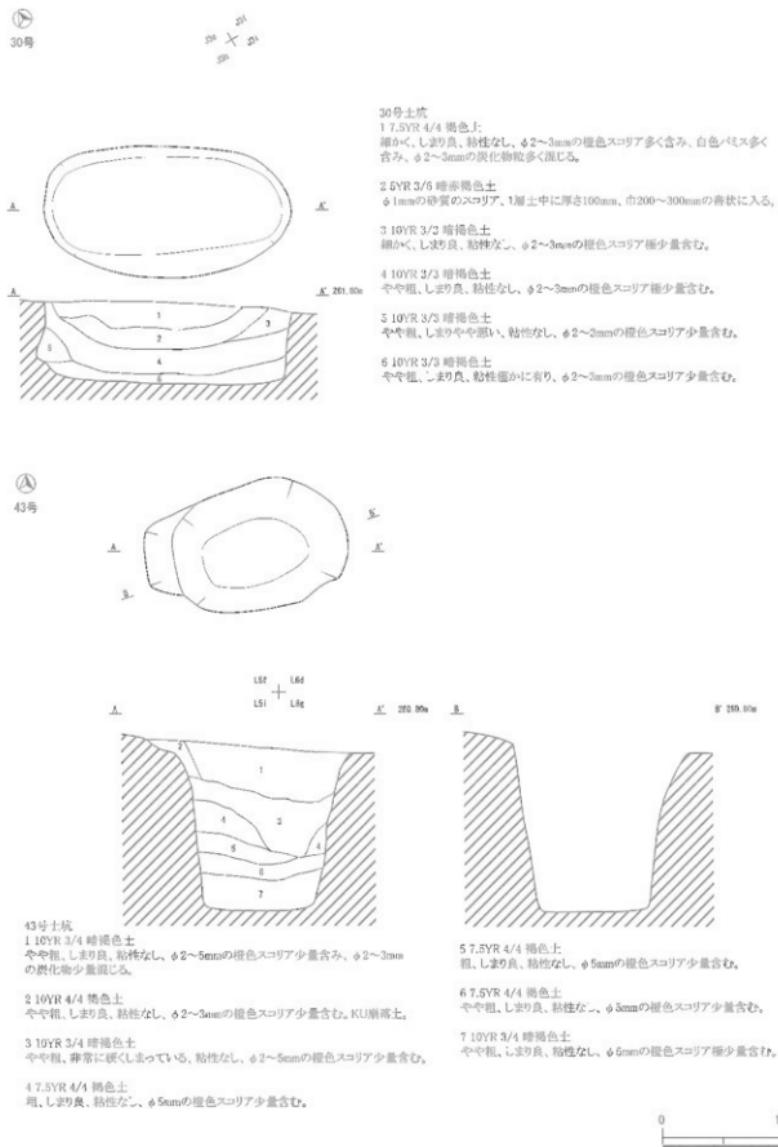
3 10VR 3/4 暗褐色土

やや粗、しまり良、粘性なし、 $\phi 2\sim3\text{mm}$ の褐色スコリア少量含む。

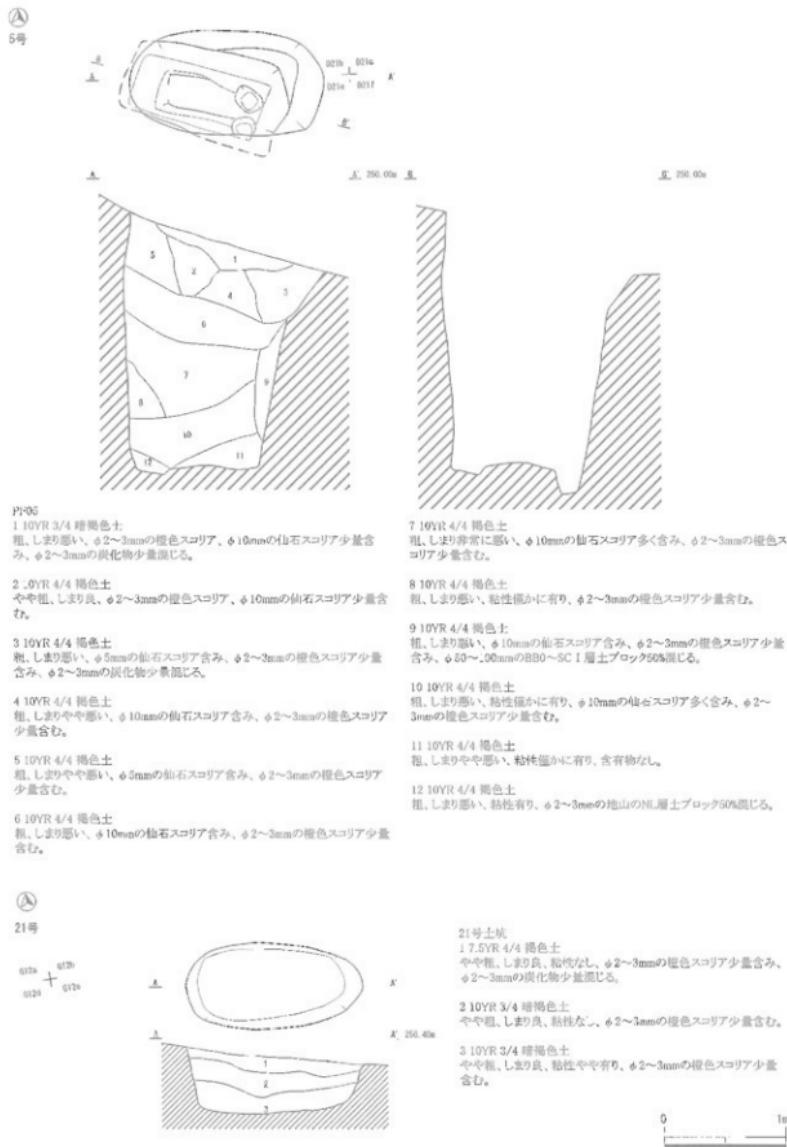
第126図 繩文時代 土坑（1）



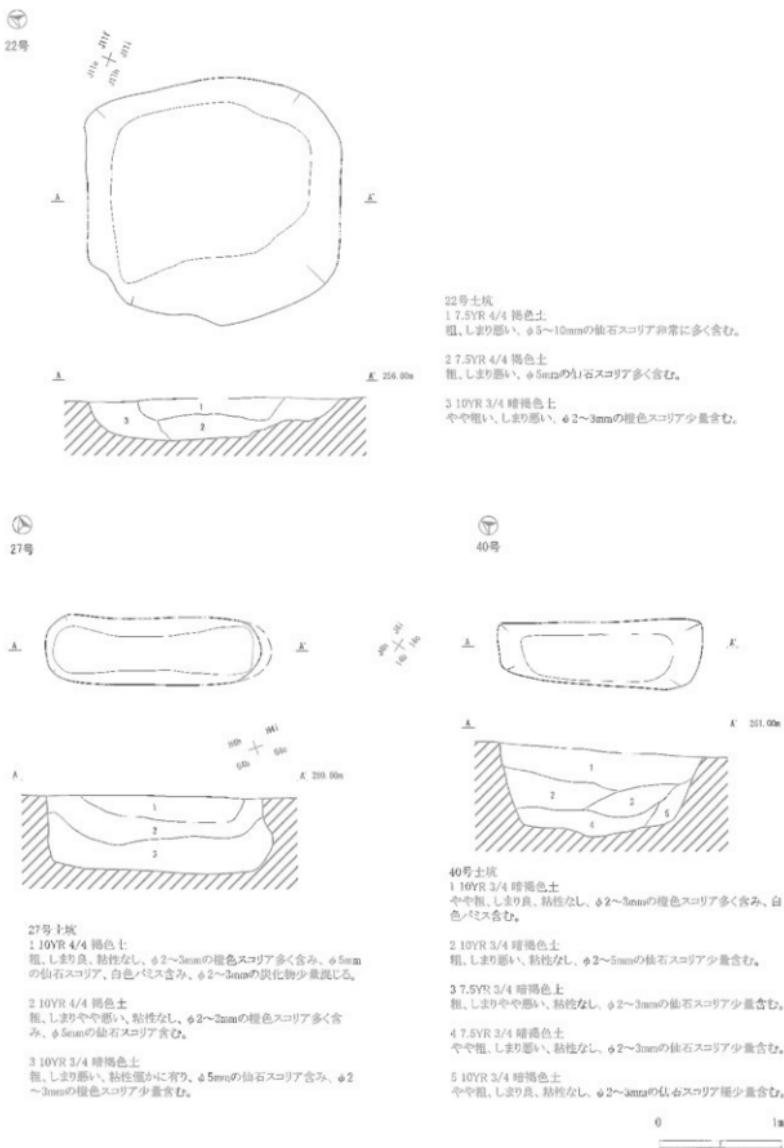
第127図 縄文時代 土坑（2）



第128図 繩文時代 土坑（3）



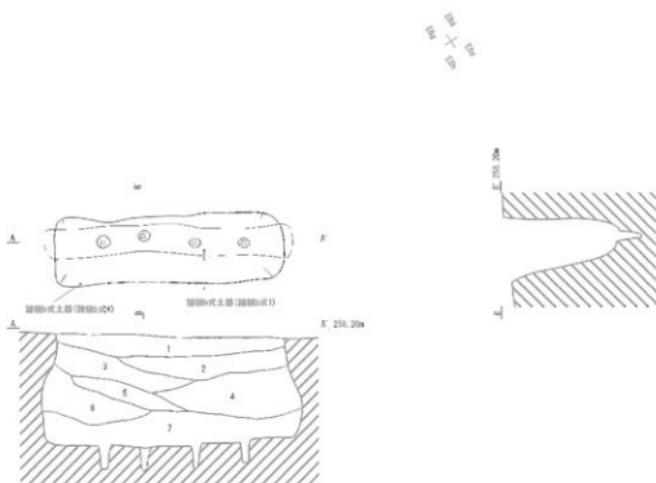
第129図 縄文時代 土坑（4）



第130図 繩文時代 土坑（5）

⑦

29号



29号土坑

1 7.5YR 黄褐色土

粗、しまりやや良、粘性なし、 $\phi 2\sim3mm$ の橙色スコリア多く含み、 $\phi 6mm$ の仙石スコリア含み、白色バニス少量含み、 $\phi 2\sim3mm$ の炭化物少量混じる。

2 7.5YR 4/4 黄褐色土

粗、しまり非常に悪い、粘性なし、 $\phi 2\sim3mm$ の橙色スコリア含み、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア含む。

3 7.5YR 4/4 黄褐色土

粗、しまり非常に悪い、粘性なし、 $\phi 2\sim3mm$ の橙色スコリア含み、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア多く含む。

4 7.5YR 4/4 黄褐色土

非常に粗、しまり非常に悪い、粘性なし、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア含む。

5 10YR 3/4 單褐色土

やや粗、しまり良、粘性なし、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア少量含む。

6 7.5YR 極褐色土

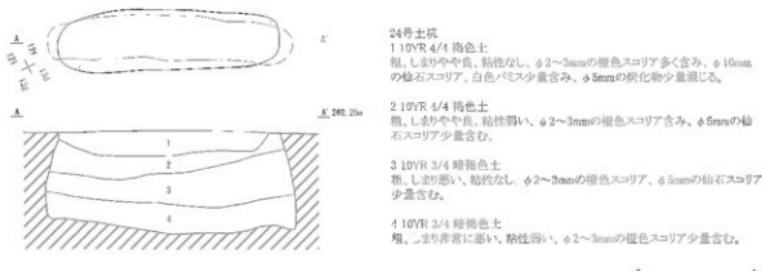
非常に粗、しまり非常に悪い、砂質粘性なし、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア含む。

7 7.5YR 4/4 單褐色土

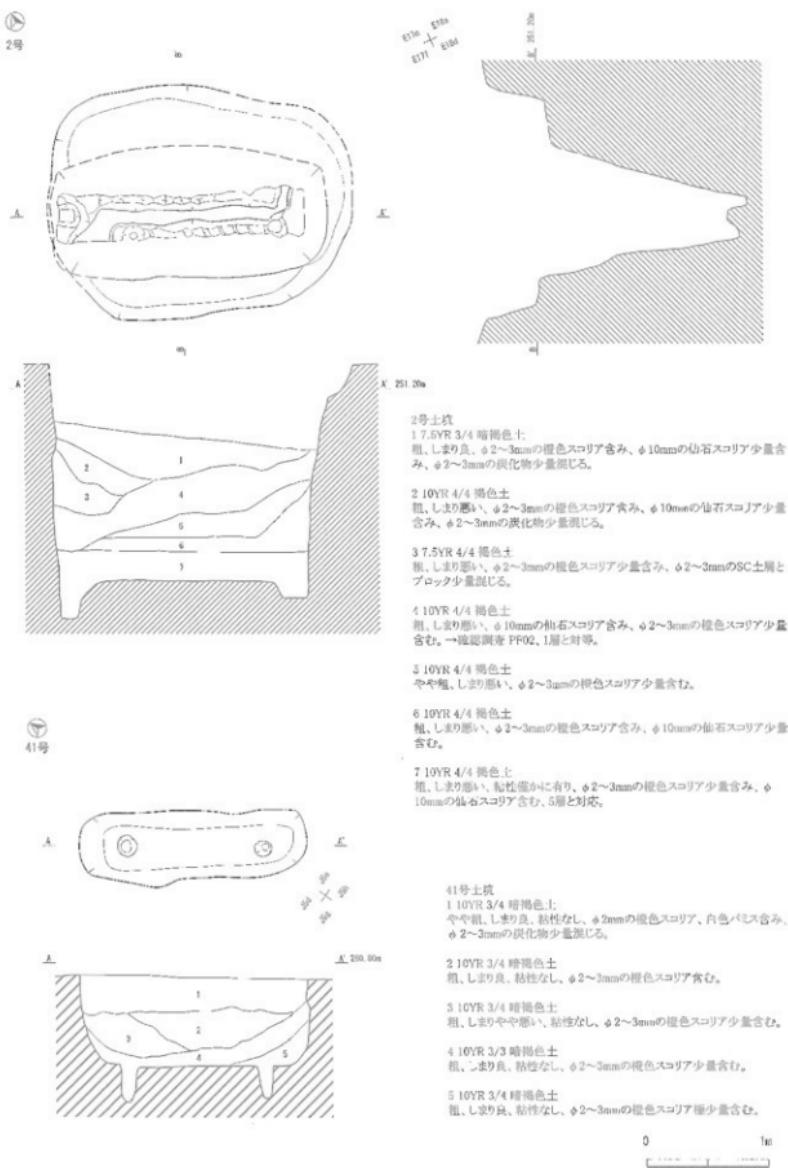
粗、しまり非常に悪い、粘性なし、 $\phi 5mm$ の仙石スコリア少量含む。

⑦

24号

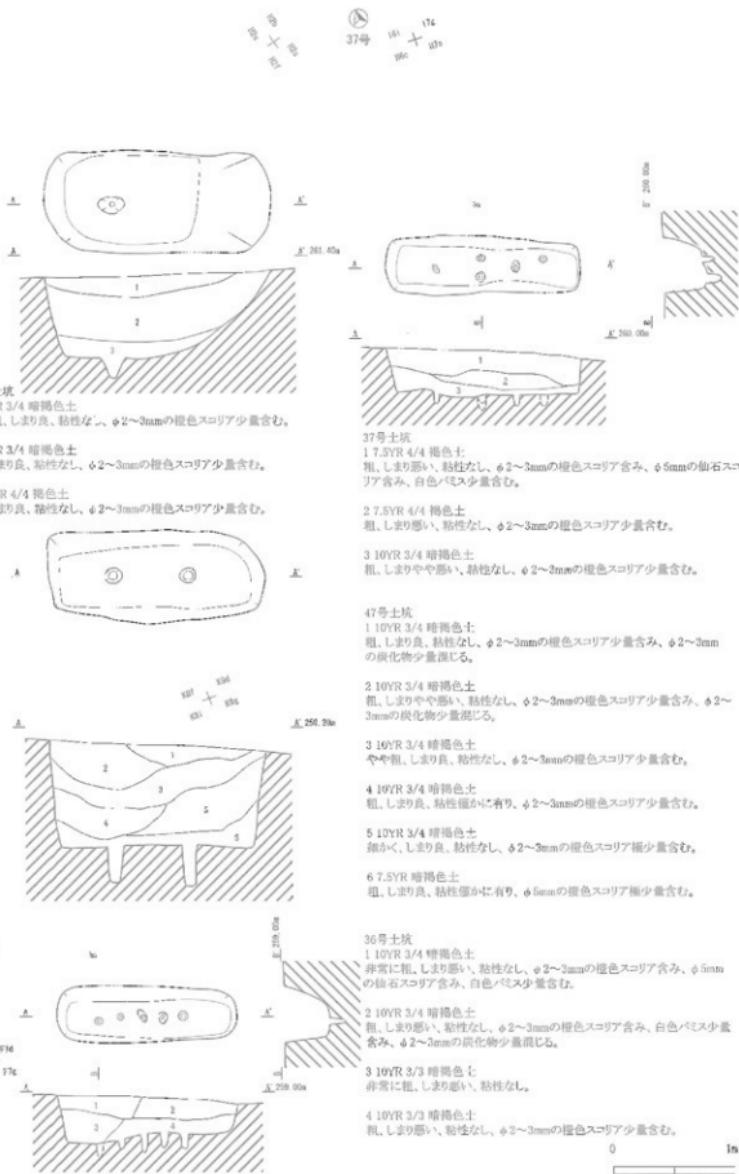


第131図 繩文時代 土坑（6）

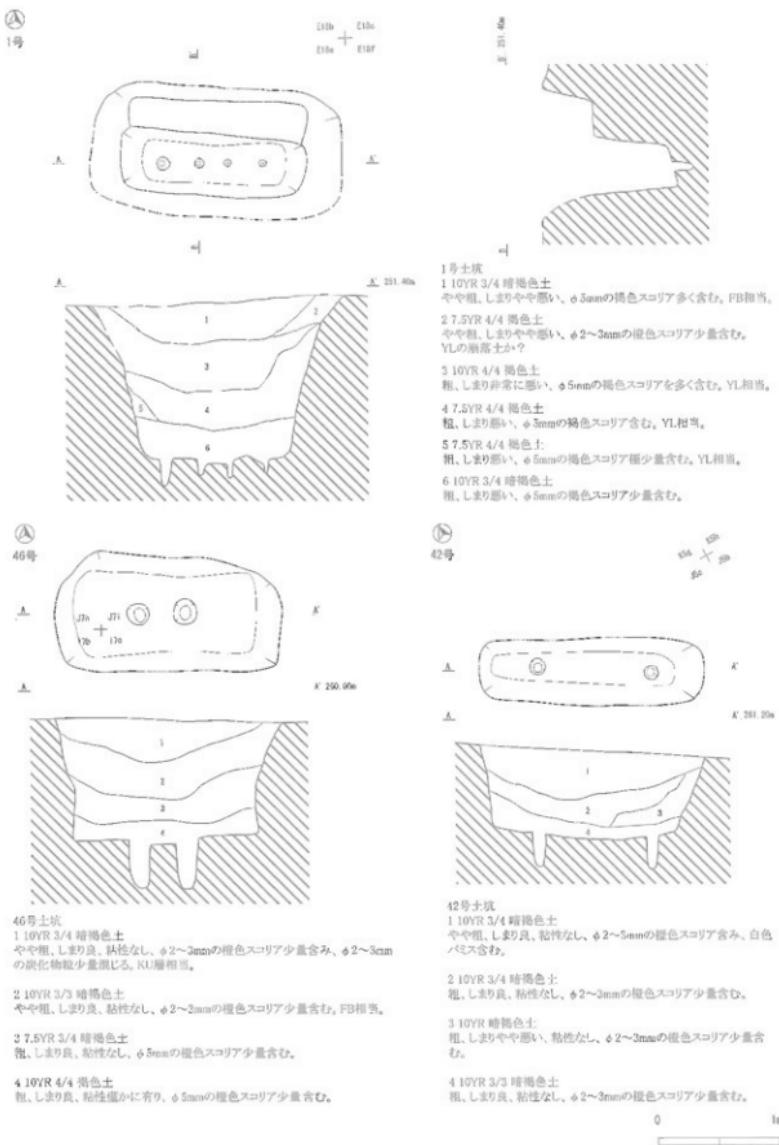


第132図 繩文時代 土坑（7）

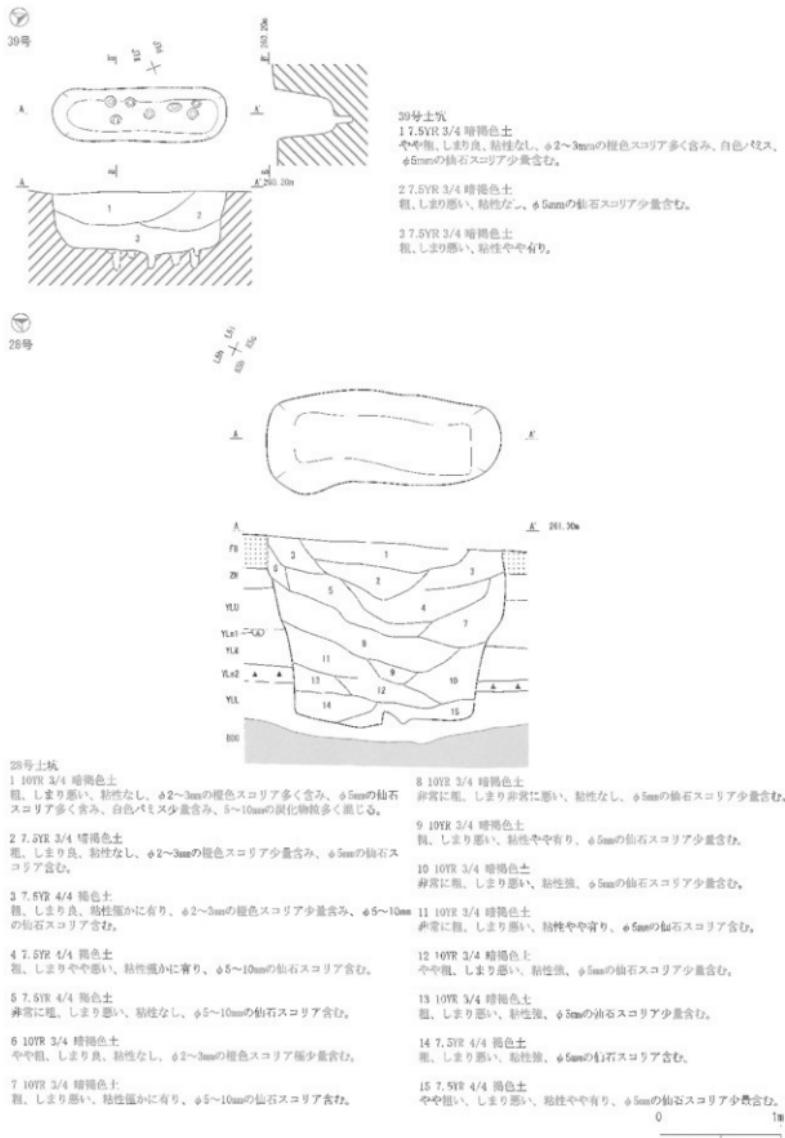
32号
土坑



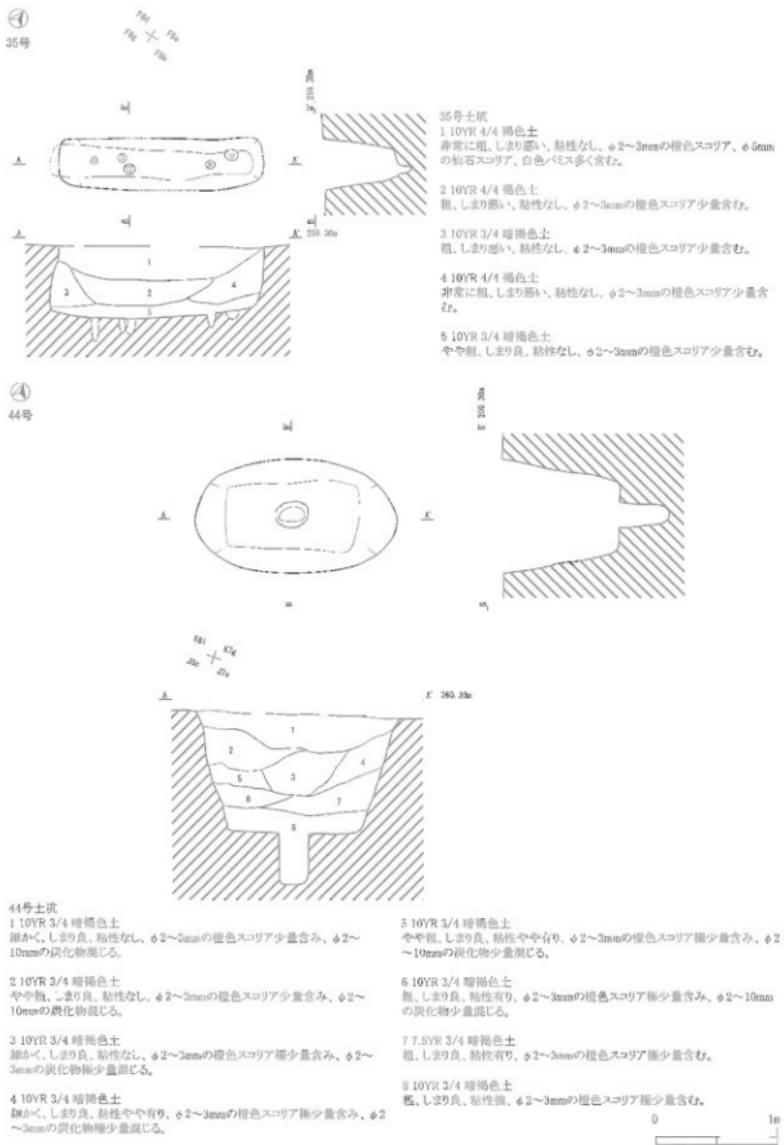
第133図 編文時代 土坑（8）



第134図 繩文時代 土坑 (9)



第135図 繩文時代 土坑 (10)



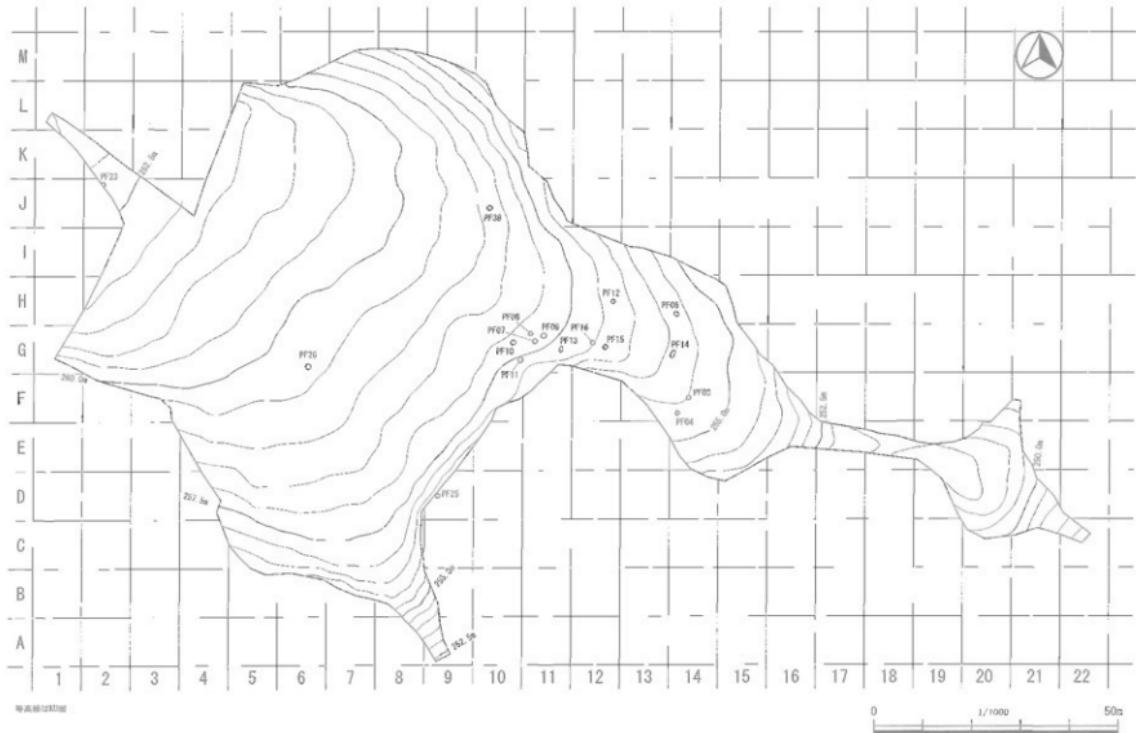
第136図 繩文時代 土坑 (11)

第6章 時期不明の土坑

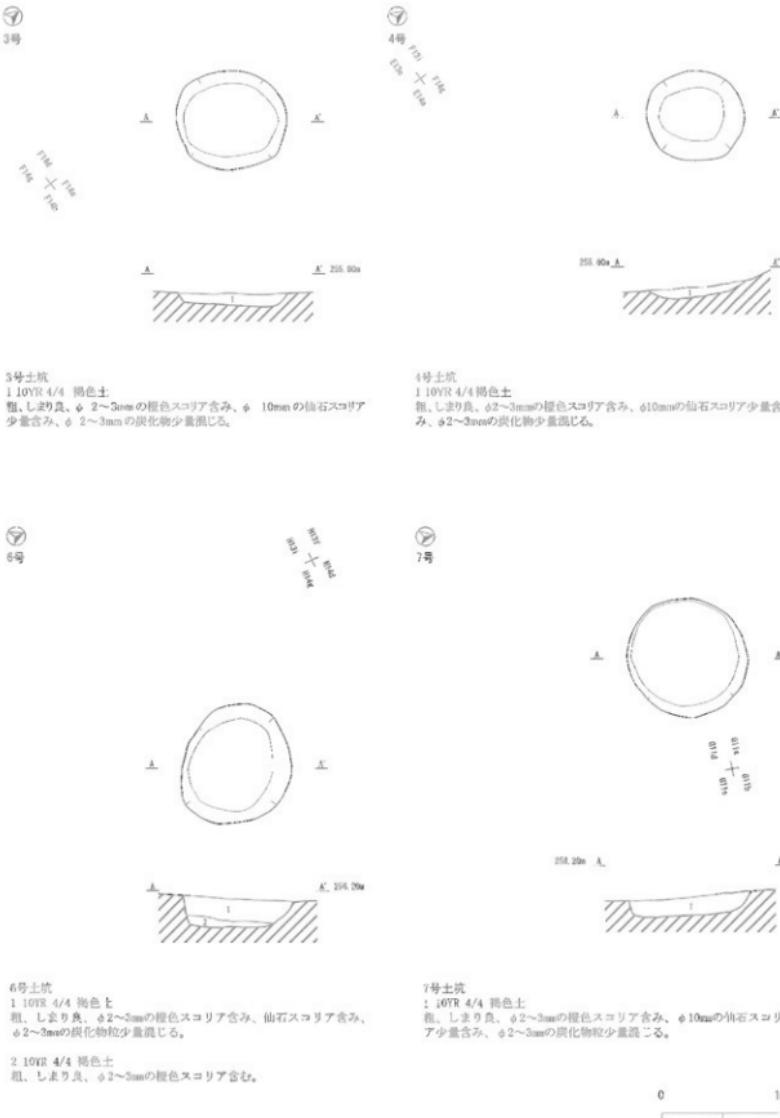
縄文時代以外の土坑は総数17基である。殆どが円形を呈している。これらの土坑は、縄文時代のものとは異なり、掘り込み面がKU上部からSNZにあり、円形で浅く、掘り鉢状になるものが多い。しかし、KUにあるものは掘り込み面が不明確になることも多く、しばしば縄文時代のものと区別が曖昧になることもあるため、時期の判別は必ずしも容易ではない。

時期不明土坑の多くは調査区の中央部、西から東へ尾根が急速に細くなる括れ部分、その南側斜面の落ち際にあり、調査区西部の平坦面に集中していた縄文時代の土坑とは、立地のうえでも対照的な分布を示している（第137図）。

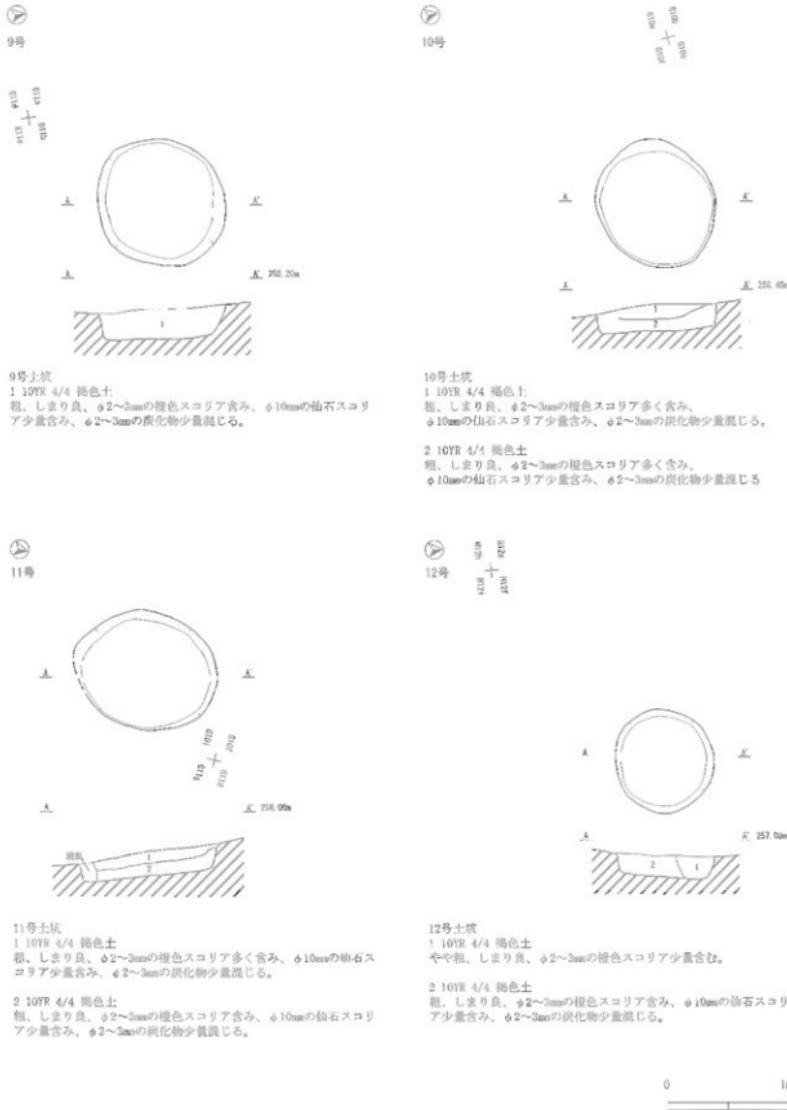
- 3号（第138図） F14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 4号（第138図） F14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 6号（第138図） H14グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 7号（第138図） G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 9号（第139図） G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 10号（第139図） G10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 11号（第139図） G10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 12号（第139図） H12グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 15号（第140図） G12グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 16号（第140図） G12グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 23号（第140図） J2グリッドに分布し、NSCで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 25号（第140図） D9グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 26号（第141図） G6グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 38号（第141図） J10グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。円形を呈する。
- 8号（第141図） G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。不整円形を呈する。
- 14号（第141図） G13/14グリッドに分布し、KUで掘り込み面が検出された。隅丸長方形を呈する。覆土から19世紀以降と推測される陶磁器片が1点出土した。
- 13号（第141図） G11グリッドに分布し、KGPで掘り込み面が検出された。橢円形を呈する。



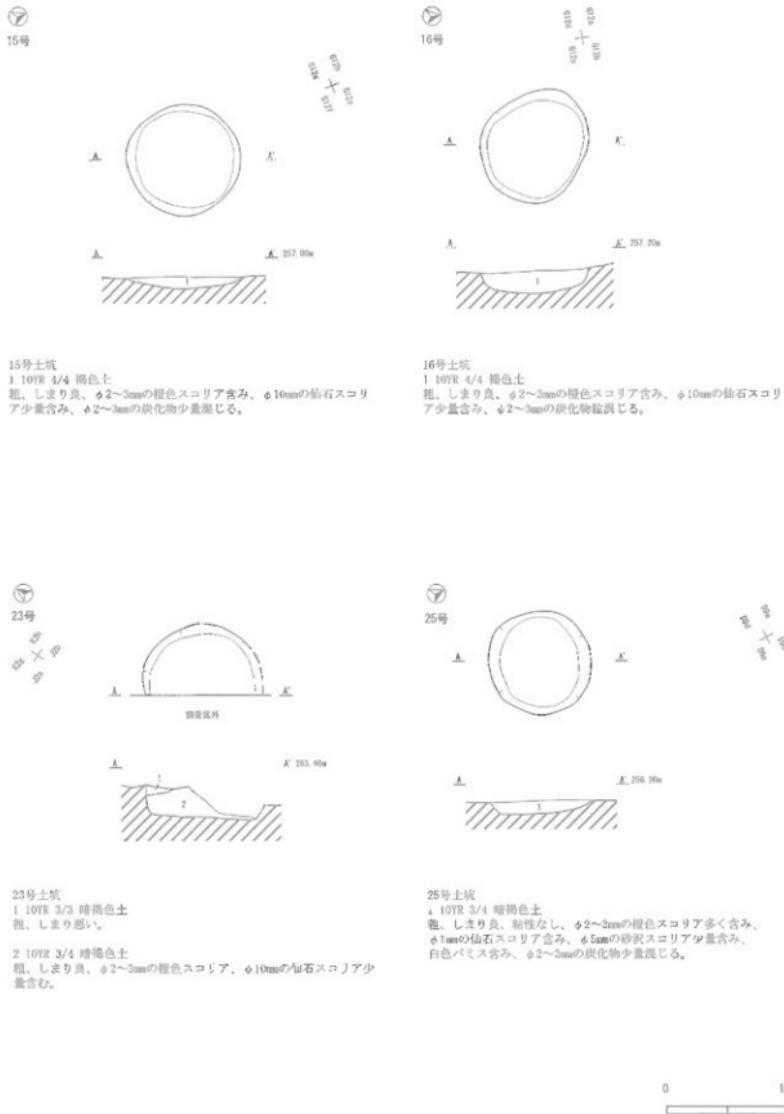
第137図 時期不明 土坑分布



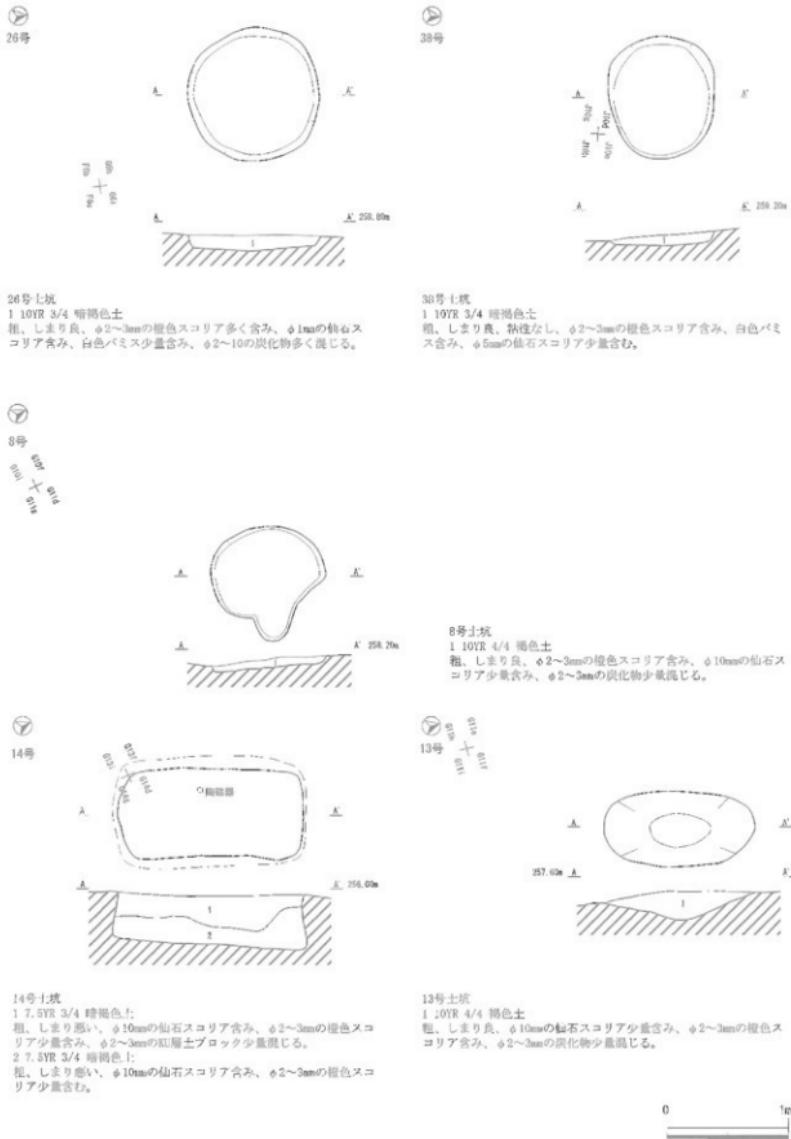
第138図 時期不明 土坑 (1)



第139図 時期不明 土坑（2）



第140図 時期不明 土坑（3）



第141図 時期不明 土坑 (4)

第7章 まとめ

後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期の石器群とその評価

本遺跡では、後期旧石器時代後半期に帰属する4枚の文化層と縄文時代草創期に帰属する石器群を確認し、縄文時代早期から中期に帰属する可能性の高い石器群（第142図）および土器群と各種の遺構群を検出した。

旧石器時代各文化層および縄文時代遺構・遺物の詳細な内容に関しては各章を参照願うとして、本章では、各章で不足していた事項、特に石器群内容に関して追補するとともに、それぞれについての評価を付すことにしたい。

愛鷹箱根地域の後期旧石器時代石器群編年は、大略5期に区分されている。その第1期と第2期はATバミス包含層準（ニセローム下部）の下位にあり、第3期から第5期が同上位にある。この5期区分は研究者間で概ね共有されおり、それを基礎に最近提出された高尾好之（2006）の編年はその代表例といえる。そのほかにも重要な諸見解があるので、これらも適宜参照する。

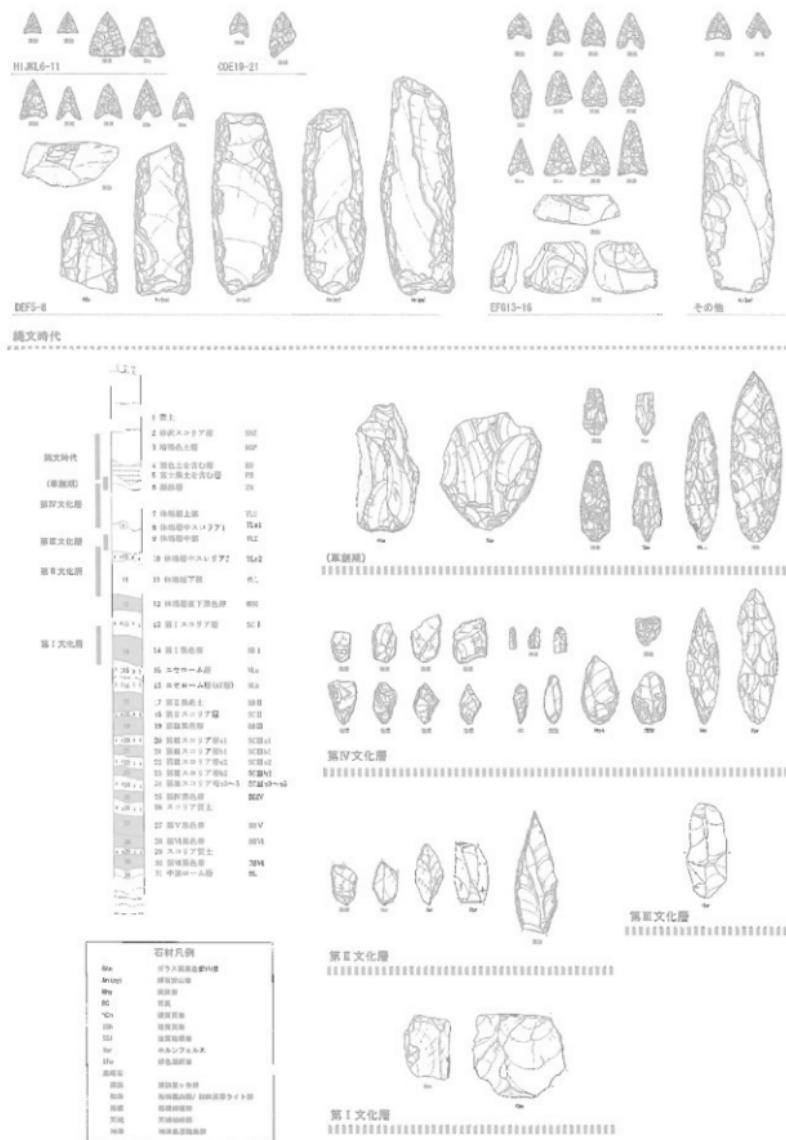
高尾（前掲）は第3期をa/b/c段階に細分し、笹原千賀子（2004）が寺林遺跡の報告に伴って提起した「c'段階」を加える案を肯定的にとらえている。次の第4期については、高尾は前半と後半とに分割し、中村雄紀（2005・2006）は第3期を前半と後半に2分して、さらに前半と後半のそれぞれについて古相と新相に細分し、都合4段階を想定している。高尾と中村の編年は共に第3期を4段階、第4期を2段階に区分する点でよく類似するが、編年の指標となる遺跡（石器群）の包含層準や集中部の取り扱いや、更なる段階細分にしばしば歩み寄りがたい相違がみられるので、同じには扱えない。しかしながら、これらの編年によく「砂川期」などの呼称が引用されていることからも分かるように、愛鷹箱根編年は基本的に武藏野編年等を念頭にして構築されており、したがって、おおよそ次のような対応関係を想定することも可能と思われる。

基本層序	愛鷹箱根編年	武藏野台地の編年
BBI-SCI	第3期 a段階	V層下部段階
BBO-YLL	第3期 b段階	V層上部-IV層下部 古段階
YLL-YLM	第3期 c段階	V層上部-IV層下部 新段階
	第3期 c'段階	V層上部-IV層下部 最新段階
YLM-YLU	第4期前半	IIb期前半（「砂川期」）
YLU	第4期後半	IIb期後半（ナイフ形石器群「終末期」）

基本層序と石器群編年の対応はもちろん厳密なものではない。しかし、周辺地域を含めた対比でも概ね支持されているようにみうけられるので、本遺跡の各文化層の位置づけについても援用してみたい。

(1) 第1文化層の石器群

第1文化層は第1黒色帯から第1スコリア帯（BBI-SCI）で検出された石器群である。諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型剥片と碎片、ガラス質黒色安山岩製の剥片が検出された。どちらも消費途中にあった石材を限定的に消費して残されたものである。検出された石器は、黒曜石製が相対的に小さく、安山岩製



第142図 老平遺跡における旧石器時代から縄文時代の石器群編年

がより大きい。前者は中部高地、後者は富士川流域を採取地としている可能性が高いので、サイズの違いは産出地からの距離を反映しているのかもしれない。石器総数5点と大変少ないので、全体像は不明である。3期前半の遺跡がこの層準にあることが多いといわれている。

(2) 第II文化層の石器群

第II文化層は休場層下部から休場層中部(YLL-YLM)に包含される。石器濃集層準は休場層下部(YLL)にある。石器集中はホルンフェルスを第I石材とする2箇所が確認された。総点数19点と小規模ながら、ホルンフェルス製ナイフ形石器6点、諏訪星ヶ台産黒曜石製石刃製ナイフ形石器1点、箱根烟宿産黒曜石製切出形石器(幾何形)1点を含み、製品組成率が高い。

本文化層の特徴は、近傍に産地のある箱根産黒曜石製の小型剥片製石器群、中部高地産黒曜石製の石刃石器群という対照的な石器群と、この中间的な構成としてホルンフェルス製の小型石刃/剥片製石器群が共存することである。対照的な石器群の共存関係は後期旧石器時代前半期から踏襲されてきた構造性のあらわれであり、3期全体の特徴でもある。中村によると、3期前半はそうした対照性が加工部位や全体形状というより石器の大きさに対応し、3期後半は器種と石材の結びつきに表れる。3期後半では、BB0を中心としてナイフ形石器に小型品が多い古相の石器群と、YLLを中心として尖頭器や滴溜形のナイフ形石器が加わる新相の石器群に区分でき、新相の石器群には信州系黒曜石が多いとされる。この区分に従えば、第II文化層の石器群は、層位的にも内容的にも3期後半新相の石器群と考えられる。

(3) 第III文化層の石器群

第III文化層は疊群の検出層準によって抽出された石器群で、休場層中部(YLM)のなかでも下部を基準とする。掲示した石器実測図が石刃1点しかないことからも分かるように、同層準で検出された石器は極めて少ない。この石刃はホルンフェルス製である。ホルンフェルスは本地域の石器群にとって最もポピュラーな消費石材のひとつである。

(4) 第IV文化層の石器群

第IV文化層は休場層上部(YLU)を主要な検出層準とする石器群と疊群で構成される。石器の一部は休場層中部(YLM)に及んでいるが、疊群は安定的で、第III文化層の疊群との層位差も明瞭である。

石器群は、①小型剥片製石器群、②石刃製石器群、③尖頭器石器群、④細石刃石器群にわけられる。異なる時期の石器群が混在している可能性も推測されたが、徹底して行った層位的な検討でも有意な結果は得られなかったので、同文化層として扱うこととした。

上記①-④は主要な消費石材種が異なり、①は箱根烟宿産黒曜石、②は諏訪星ヶ台産黒曜石に偏りをみせ、③は安山岩、ホルンフェルス、諏訪星ヶ台産黒曜石と多様である。④は、厳密にいうと1点のみだが、神津島恩馳島産黒曜石に対応する。このような関係は各石器群が背景とする行動特性が反映した結果とみられるが、それはどういうことか。以下では、この4者にわけて検討する。

① 小型剥片製石器群

素材を横に用いる例が多く、二側縁を二次加工して斜刃を残すものが多い。全体形状は台形や三角形の幾何形を呈するタイプと基部の片側が内湾する切出形を呈するタイプがある(両者は連続性をもつので、分類名称はとりあえず切出形石器に括った)。一般に、このような小型剥片製石器群は石刃石器群や両面体石器群にくらべて便宜性の高い、つまり石器の場当たり的な消費行動によって特徴づけられることが見なされており、形態的に細かな変異のあるものを多く含む。かえしの付いたものなどは異なる機

能をもつ道具としてつくり分けられたものに違いないが、微妙な変異がとくに付度されているようには見えないものが多い。

本遺跡の小型剥片製石器群もおそらく基本的にそのような行動によって特徴づけられると推測される。しかしながら、出土状況は明らかに素材剥片なし製品の持ち込みを支持しており、場当たり的行動特性とは相反するかのような、寧ろ管理的な道具扱いを想起させる。遊動域内の特定地点への原石搬入ないし一括消費と、その他の作業地点への個別石器の持ち込みが特徴となるのは4期後半の様相に特徴的とされている（中村前掲）。このような行動は、中部高地産黒曜石製石刃製石器群や両面打体石器群によくみられるが、小型剥片製石器群にもそうした作用が及んでいるのかもしれない。

② 石刃製石器群

石刃製石器群（ここでは縦長剥片製もそう呼んでおく）は背部加工ナイフ形石器が主体である。諏訪星ヶ台産黒曜石製が主体で、細身の小型品と涙滴形の中型品が2点ずつ出土した。これに水晶製が1点加わる。注目すべきは、縦長剥片を素材として魚鱗状の二次加工で整形する涙滴形のナイフ形石器（第27図26）である。この石器と似たナイフ形石器が調査区の東部D19グリッドで検出されている（同図24）。後者の整形には、魚鱗状剥離ではなく、素材を切り取る急斜度剥離が採用されているが、全体形状は涙滴形を呈する。他の石器を殆ど伴わないので具体的な関連は不明と謂わざるをえないが、石槍と推定される両者の間に背部加工から両面加工への変換を読み取るのは不可能ではない。ともに諏訪星ヶ台産であることは、この変換が彼の地で媒介されたことを暗示する。このような涙滴形を呈する特徴があるナイフ形石器は第4期後半に特徴的とされている。

③ 尖頭器石器群

尖頭器石器群には、諏訪星ヶ台産黒曜石製の小型品が1点（25）、ガラス質黒色安山岩製1点（27）、ホルンフェルス製1点（28）がある。後2者は相対的にサイズが大きい。諏訪星ヶ台産黒曜石製とガラス質黒色安山岩製は第IV文化層石器群の集中域に比較的近くに分布していたが、ホルンフェルス製の尖頭器は遠くはなれて検出されていたので、遺棄/廃棄に至る経路は異なっていた可能性が高い。ただし、3点はそれぞれ同一母岩が見当たらない単体資料であり、共伴関係を勘案できる情報は殆どない。

愛鷹箱根地域における尖頭器石器群の具体的な様相はまだよくわからない部分が多い。主要な包含層準は休場層中部から上部（YLM-YLU）にあるが、縄文時代草創期の尖頭器石器群がその直上層である漸移層から富士黒色土層（ZN-FB）に含まれるために、境界域にあたるZNとその上下で旧石器時代と縄文時代の尖頭器石器群が混在し、時期判別が難しいことも理由の一つである。

現在の資料による限り、愛鷹箱根地域で最も深いところから出土したとされる尖頭器石器群は、西大曲遺跡Ⅰ'文化層と、疊群が休場層直下黒色帯なし休場層下部（BB0-YLL）で検出された寺林遺跡第Ⅲ文化層（浜原2003）であり、ともに第3期後半という位置づけがなされている（中村前掲）。西大曲遺跡では信州系黒曜石製1点、寺林遺跡では流紋岩製と信州系黒曜石製が1点ずつ組成する。少ない資料ながら、尖頭器の消費石材に信州系黒曜石がよく利用される傾向は指摘しうる。

第3期の遺跡に尖頭器が組成される事例は極めて少なく、より一般的に認められるのは休場層中部から上部（YLM-YLU）に含まれる石器群である第4期、そのなかでも後半期になってからである。老平遺跡の第IV文化層は疊群を含めて休場層上部に含まれ、同中部（YLM）の下部を底面とする第Ⅲ文化層の疊群と明らかな層位差があった。この点から、まず、第4期の中でも比較的新しい年代の石器群である可能性が考慮される。

④ 細石刃石器群

4点提示しておいたが、全て同質のものというわけではない。水晶製（28）のものは、ナイフ形石器（23）の生産に関連するもので、その素材と同様に小型石刃の量産に伴うものと思われ、押圧剥離によ

る組織的な細石刃石器群とは異なる。中部高地産に類似する35と37もそれに近いだろう。他方、神津島恩馳島産黒曜石製は、背面に残る数条の平行剝離痕から、組織的な細石刃生産であることは明らかである。当地域の細石刃石器群の石材が神津島恩馳島産に著しく偏ることは既に周知の如くであり、これによく合致している。

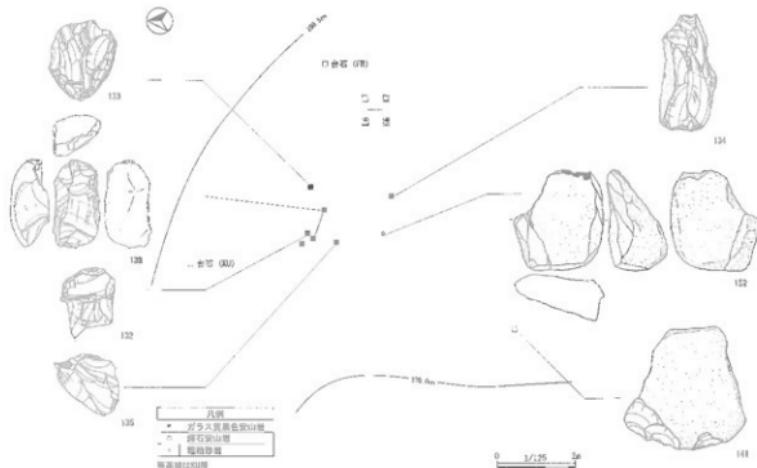
以上、第IV文化層の石器群を生産過程に応じて大別し、それぞれについて概観した。まず本文化層は、愛鷹箱根地域の基本層序のYLUを主要な包含層として、YLMとは年代が異なることが確認された。また、伊豆箱根産黒曜石を中心石材とする小型剥片製石器群が主体を占め、これに中部高地産黒曜石を中心とする石刃製石器群が伴い、中部高地産を含む両面加工尖頭器が付加された状況が看取された。神津島産黒曜石の細石刃は、少なすぎて分からぬが、少なくともナイフ形石器群との共伴は不確実なので、ここでは控除しておこう。

従来から謂われているように、第4期後半の石器群は遺跡間の変異が大きく、上記①、②、③は遺跡によって比率が異なっていることが多い。これらの変異をそのまま時期的変化として捉える考えもが提示されているが、いまのところそれを保証するに十分な根拠はみあたらない。

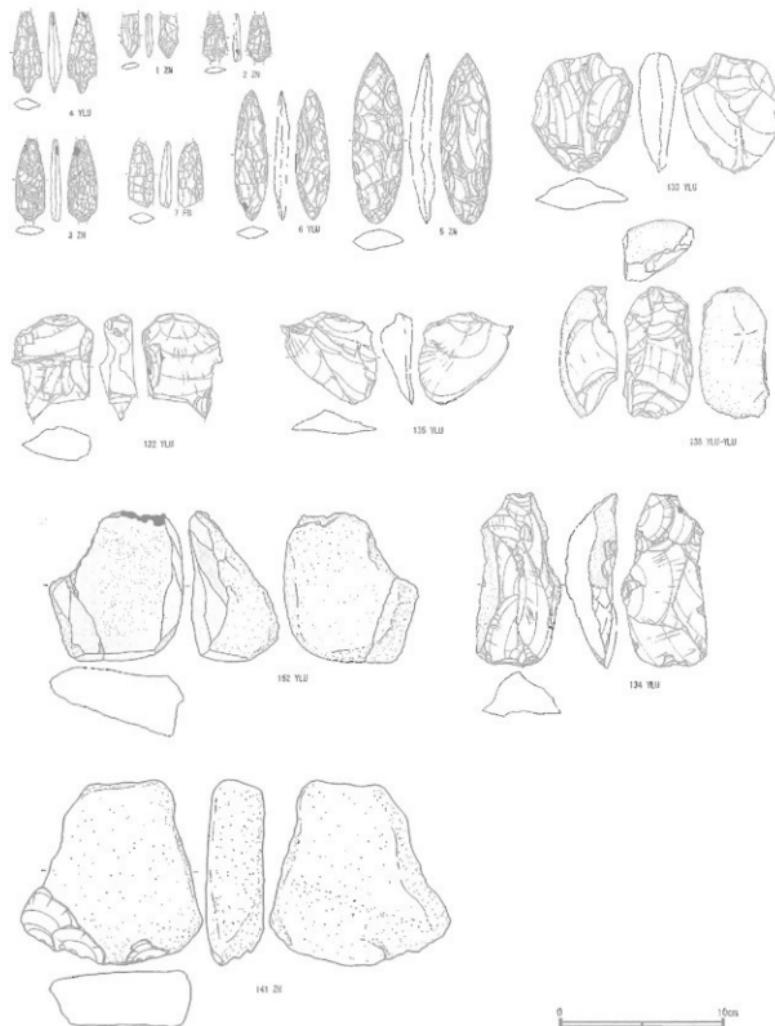
ここで結論としては、包含層準と、小型剥片製石器群の運用形態の特徴、涙滴形ナイフ形石器と両面加工尖頭器の特徴から、第4期後半に帰属するものと理解しておく。

(5) 繩文時代草創期

繩文時代草創期の石器群は従来、富士黒色土層(FB)が主要な包含層準とみなされてきたが、老平遺跡の近くに立地する下ノ大窪遺跡と佛ヶ尾遺跡で漸移層(ZN)に包含されることが確認されており、本遺跡でも共通の傾向が捉えられた。また、後出の早期土器群をみると、その包含層はFBを中心としてKUに及ぶ例は枚挙にいとまがないが、しかし逆にZNに包含される例は皆無に近いこともわかつてきた。このことから、少なくとも愛鷹山東麓の裾野市域ではZNに繩文草創期、FB以上を中心に繩文早



第143図 繩文時代草創期の石器集中



期の遺構・遺物が包含されるものと理解することができる。裾野市域の土壌は沼津市域よりも厚く堆積していることに注意されたい。

本遺跡では、こうした背景を考慮して、ZNとその上下に堆積するFBおよびYLUに包含される石器群、とくに有舌尖頭器の出土地点に近い石器群について、その包含層準を隈無く検査し、繩文草創期に帰属する可能性の高い15点の石器群を抽出することができた（第144図。石器の番号は第5章の掲載番号と同じで、アルファベットは検出層をあらわす）。

抽出した草創期石器群の内訳は、有舌尖頭器4点（第144図1-4）、尖頭器3点（5-7）、打製石斧1点（134）、削器2点（132/133）、微細剥離痕剥片1点（135）、剥片1点（138の一部）、碎片1点、石核1点（138の一部）、砥石1点（152）、礫器1点（141）である。検出層準は、YLUが10点、ZNが5点、FBが1点である。このうち碎片1点を除く14点を第144図に掲示する。

YLUで検出された石器集中1箇所（第143図）を第IV文化層ではなく草創期に帰属させたのは、有舌尖頭器がZNを主要な包含層準とし、YLUに及ぶことが明らかにされたうえ、その構成内容に打製石斧、砥石、魚鱗状剥離で調整する尖頭削器（133）、両極剥離による小型剥片生産を示す接合資料（138）といった、愛鷹・箱根地域における後期旧石器時代後半期的一般性とは異質な石器群が含まれていたからである。

現在、愛鷹箱根地域で発見されている草創期の遺跡は数十箇所と推測されるが、このうち住居址が発見されたのは葛原沢第IV遺跡と大鹿窪遺跡の2遺跡しかない。この2遺跡を除くと、土器の出土した遺跡が数箇所あるほかは、ほぼ全て有舌尖頭器を含む尖頭器石器群の出土遺跡である。石器群の動態は移動・居住の実態に接近するために不可欠であることはいまさら謂うまでもないが、しかし石器製作過程を跡づけられるような材料はまだまだ不十分な状況にあることは否めない。我々に課せられていることはまずこのような基本的な現象を説明することであり、そのためには今後も該期の単位的石器群の地道な抽出と蓄積が肝要となろう。老平遺跡の上述の石器群は草創期の単位石器群のひとつにすぎないが、将来を見据えれば住居跡の検出に偏重しない今後の研究に与するはずである。

参考文献

- 泡谷信之 2006 「環中部高地における黒蠟石流通と原産地開発」『黒蠟石文化研究』第4号、161-171頁。
 笹原千賀子 2004 「愛鷹・箱根山麓第3期の石器群—第3期から第4期へ、寺林遺跡の縦年的位置—」『静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』、73-86頁。
 高尾好之 2006 「東海地方の地域縦年」安斎正人・佐藤宏之（編）『旧石器時代の地域縦年研究』、62-102頁。
 中村雄紀 2005 「愛鷹・箱根山麓における「ナイフ形石器終末期」の遺跡群」『石器文化研究』12、121-146頁。
 中村雄紀 2006 「後期旧石器時代後半期の居住形態の地域的様相—愛鷹・箱根第3期・第4期の遺跡群—」『東京大学考古学研究室紀要』第20号、1-36頁。

掲載遺構属性表 掲載遺物属性表

注

1. 黒曜石产地
望月明彦氏の蛍光X線分析にもとづく。产地名の「群」は省略した。
「I」から「IV」は旧石器時代の文化層。
2. 文化層
「草創期」は縄文時代草創期の可能性が高いもの。
「縄文」は縄文時代であるが時期の分からぬるもの。
3. 接合番号
接合資料の番号。碑の接合番号とその他の石器の接合番号は連番。

表27 碑群属性

遺構番号	グリッド	検出層位	文化層	構成障数	出土遺物数
1号	K5	Y1L	IV	6	石器2
2号	C7	Y1L	IV	5	
3号	I06/7	Y1M	III	23	

表28 集石属性

遺構番号	グリッド	検出層位	平面形態	主Theta方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	構成障数	出土遺物数
1号	E5	KU						20	
2号	K/L9	KGP						34	
3号	D20	FB-KU						29	
4号	O/E20	FB-KU						21	
5号	G/H12	KU						18	
6号	G12	KU	不規則円	西北西	1.25	0.90	0.13	11	
7号	F14/15	FB						107	
8号	F15	FB	椭円	北東	0.56	0.60	0.12	9	石器8
9号	G13	FB	椭円	北東	0.75	0.52	0.07	11	
10号	D30	FB-KU						17	
11号	J/K2	FB						6	
12号	E/F6	KU						24	石器1
13号	D7/D6	KU						11	石器4
14号	D7	KU						25	
15号	D8	KU						31	石器3
16号	P5	KU						11	
17号	F/G8	KU						212	石器2 土器85
18号	F/H7	KU						6	
19号	F/G9	KU						25	
20号	J/K7	KU						112	石器1
21号	B6	FB-KU						125	石器1 土器1
22号	L6	KU						19	
23号	M8	KU	不規則円	東	0.94	0.94	0.0055	30	
24号	G10	KU						6	石器1
25号	I9	KU						37	石器1 土器3
26号	K9	KU	円		0.90	0.86	0.25	63	
27号	I9	FB	不規則円		1.05	0.95	0.18	40	
28号	D7/S	FB						19	石器1
29号	J6	FB						5	石器3
30号	J/J9	FB-KU						14	
31号	I9	FB						6	土器2
32号	I7	FB	椭円	北北東	1.22	1.04	0.31	151	炭化物1
33号	J8	FB						22	土器2

表29 土坑属性（縄文時代）

遺構番号	グリッド	被出層位	平面形態	主軸方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	小穴数	出土遺物数
1号	E18	YLU	圓丸長方形	西	2.90	1.05	1.56	4	
2号	E17	YLU	圓丸長方形	西北西	2.15	1.91	2.16		
5号	D21	YLU	橢円形	西北西	1.55	0.68	0.25		
17号	H11	KGP	円形		1.21	1.18	1.36		
18号	H2	YLU	橢円形	西北西	1.48	0.60	0.58		
20号	G11	YLU	円形		1.06	1.00	0.25		
21号	G12	YLU	橢円形	西	1.45	0.69	0.35		回1
22号	J11	YLU	圓丸方形	北北西	2.07	2.01	0.35		
24号	I2/3	KU	圓丸長方形	北北東	1.82	0.49	0.08		回1
27号	H4	KU	圓丸長方形	西北西	1.77	0.55	0.05		
28号	K5	KU	圓丸長方形	北北東	1.93	0.74	1.66		
29号	D/EB	KU	圓丸長方形	北東	1.89	0.54	0.11	4	十三?
50号	J3	FB	橢円形	西北西	2.03	1.08	0.69		
51号	G1	ZN	橢円形	北西	1.15	0.68	0.94		
32号	H2	YLU	圓丸長方形	北東	1.86	0.83	0.86	1	
33号	I3	YLU	円形		0.95	0.80	0.31		
34号	I2/3	YLU	円形	西北西	0.37	0.63	0.45		
35号	F6	KU	圓丸長方形	東北東	1.68	0.42	0.76	5	
36号	P7	KU	圓丸長方形	西	1.43	0.46	0.50	5	
37号	H6/7	KU	圓丸長方形	西北西	1.90	0.46	0.50	5	
39号	J7	FB	圓丸長方形	北北東	1.43	0.43	0.64	7	
40号	H4	YLU	圓丸長方形	西北	1.66	0.62	0.77		
41号	J5	YLU	圓丸長方形	北西	1.89	0.54	1.02	2	回1
42号	J/K5	YLU	圓丸長方形	西北西	1.93	0.58	1.04	2	
43号	L5/6	YLU	橢円形	東	1.66	1.00	1.45		
44号	K6/7	ZN	橢円形	東北東	1.65	0.94	1.41	1	回1
45号	K7	ZN	円形		1.47	1.44	0.57		回9
46号	L/7	FB	圓丸長方形	西	1.86	0.97	1.40	2	回2
47号	K8/9	YLU	圓丸長方形	西北西	1.76	0.75	1.18	2	

表30 土坑属性（時期不明）

遺構番号	グリッド	被出層位	平面形態	主軸方位	最大長(m)	最大幅(m)	最大深(m)	出土遺物数
3号	F14	KGP	円形		0.91	0.81	0.11	
4号	F14	KGP	円形		0.81	0.74	0.15	
6号	H14	KGP	円形		0.94	0.90	0.26	
7号	G11	KGP	円形		1.00	0.97	0.21	回1
8号	G11	RGP	不整円形		0.95	0.93	0.13	
9号	G11	KGP	円形		1.04	1.00	0.29	
10号	G10	KGP	円形		1.04	0.99	0.24	
11号	G10	KGP	円形		1.18	0.96	0.31	
12号	H12	KGP	円形		0.94	0.81	0.21	
13号	G11	KGP	橢円形	北北東	1.24	0.62	0.22	
14号	G13/14	KU	圓丸長方形	北北東	1.02	0.71	0.47	
15号	G12	KU	円形		0.94	0.91	0.10	
16号	G12	KU	円形		0.97	0.82	0.21	
23号	J2	NSC	橢円形		0.97	0.58	0.28	
25号	D9	KGP	円形		0.85	0.80	0.12	
26号	G6	KGP	円形		1.10	1.08	0.13	
30号	J10	KGP	円形		1.00	0.65	0.12	

表31 提升十器属性

摄取进样属性表 摄取进物属性表

機器 番号	機器 名	機器 基盤	個体番号	機種	濃度	層位	探測	距離高 (m)	口幅 (m)	幅差 (m)	最大深 (m)	色調	地土	機械
76 152	中掘	面内 5	透鉗	KGP	削離破片							SYR5/5 明赤鉄	石炭小中少、細石、金銀母少	真
76 153	中掘	面内 5	透鉗	KGP	削離破片							SYR5/5 明赤鉄	石炭小中少、細石、金銀母少	真
76 154	中掘	面内 5	透鉗	KUJ/KGP	削離1/3							SYR5/5 明赤鉄	石炭小中少、細石、金銀母少	真
76 155	中掘	面内 5	透鉗	KUJ	削離1/2			1.5	7.0			SYR5/5 明赤鉄	石炭小中少、細石、金銀母少	真
77 156	中掘	面内 6	透鉗	KUJ/PB	OB複文8,面内2/3,SYR5A	22.3	15.3	8.1				SYR5/5 細	石炭、金銀母少、細石、白色粒子	真
77 157	中掘	透鉗	中掘透支 1	透鉗	KUJ	CB削離1/2						SYR5/5 細	石炭、明石少	真
77 158	中掘	透支	中掘透支 2	透鉗	KGP	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭、明石、白色粒子少、金銀母少	真
77 159	中掘	透支	中掘透支 2	透鉗	KUJ	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭、明石、白色粒子少、金銀母少	真
77 160	中掘	透支	中掘透支 2	透鉗	KGP	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭、明石、白色粒子少、金銀母少	真
77 161	中掘	透支	中掘透支 3	透鉗	KUJ	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭多、明石、金銀母、白色粒子少	真
77 162	中掘	透支	中掘透支 3	透鉗	KUJ	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭多、明石、金銀母、白色粒子少	真
77 163	中掘	透支	中掘透支 3	透鉗	PB	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭多、明石、金銀母、白色粒子少	真
77 164	中掘	透支	中掘透支 3	透鉗	KGP	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭多、明石、金銀母、白色粒子少	真
77 165	中掘	透支	中掘透支 3	透鉗	KUJ	削離破片						SYR5/5 明赤鉄	石炭多、明石、金銀母、白色粒子少	真
77 166	中掘	その他	中掘その他 1	透鉗	KGP	削離1/4		2.0	8.0			SYR5/5 細	石炭、明石少、白色粒子	真
77 167	中掘	その他	中掘その他 1	透鉗	KGP	削離破片						SYR5/4 細	石炭、明石少、白色粒子	真
77 168	中掘	その他	中掘その他 2	透鉗	KGP	削離破片						SYR5/4 明赤鉄	石炭、明石、金銀母	真

表32 掘載石器属性（旧石器-縄文時代）

序号	出土地点	地层	層相	石材	周辺石器	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	文化層	石器種別 グリッド	遺物番号	組合番号	又選標準	Y座標	Z座標
10	1 KU1 西側			ガラス質黒色岩山砂岩	38.5	59.4	16.1	72.0	2	1	3645	-9403.130	3503.864	258.360		
10	2 KU1 西側			ガラス質黒色岩山砂岩	51.1	57.5	17.3	36.9	1	1	3652	-9403.174	3502.108	258.096		
15	3 YLL 現在の砂地			黒曜石	24.5	16.9	4.5	1.6	12	15	3654	-9403.345	3500.02	258.332		
15	4 YLL サイフ石器			ホシノフクルス	15.5	10.6	3.4	0.7	11	2	3655	-9403.380	3503.378	258.219		
5	5 YLL サイフ石器			ホシノフクルス	26.4	15.4	4.0	1.6	3	2	3657	-9403.254	3501.477	258.135		
15	6 YLL サイフ石器			ホシノフクルス	37.7	17.7	7.3	1.1	8	2	3658	-9403.178	3501.156	258.147		
6	7 YLL サイフ石器			黒曜石	75.5	26.2	9.6	3.4	1	15	3614	-9403.440	3501.182	258.740		
15	8 YLL サイフ石器			ホシノフクルス	32.1	21.0	3.8	7.9	8	2	3615	-9403.525	3501.870	258.929		
9	9 YLL 6号			ホシノフクルス	55.5	24.0	10.0	4.7	10	10	204	-9403.844	3502.451	257.095		
21	10 YLL 6号			黒曜石	15.0	12.6	6.3	1.1	IV	5	3623	-9403.556	3502.347	257.076		
21	11 YLL 6号			黒曜石	29.1	17.2	7.1	2.0	IV	15	3618	-9403.075	3502.311	256.269		
27	12 KU1 遠古の砂地			黒曜石	25.9	16.5	6.0	1.1	IV	14	3594	-9403.288	3503.579	256.526		
27	13 KU1 遠古の砂地			黒曜石	20.9	20.5	6.2	4.0	IV	10	3595	-9403.000	3500.160	256.900		
27	14 YLL サイフ石器			黒曜石	20.4	15.5	4.7	1.1	IV	4	3709	-9403.152	3505.564	256.712		
27	15 YLL サイフ石器			黒曜石	25.6	12.5	4.2	1.9	IV	5	3652	-9403.072	3505.587	256.632		
27	16 YLL サイフ石器			黒曜石	36.7	17.0	8.3	2.0	IV	14	3643	-9403.722	3501.461	256.572		
27	17 ZN1 サイフ石器			黒曜石	25.8	14.5	8.9	2.2	IV	5	3644	-9403.597	3500.282	256.554		
27	18 YLL サイフ石器			黒曜石	16.0	14.5	4.9	1.2	IV	5	3659	-9403.525	3500.294	256.467		
27	19 YLL サイフ石器			黒曜石	25.0	18.2	5.0	1.1	IV	17	3621	-9403.247	3502.370	256.356		
27	20 YLL サイフ石器			黒曜石	21.1	15.6	5.6	1.2	IV	14	3613	-9403.702	3504.776	256.362		
27	21 YLL サイフ石器			黒曜石	30.0	18.0	5.0	1.1	IV	5	3652	-9403.188	3505.547	257.759		
27	22 YLL サイフ石器			黒曜石	72.2	15.7	4.0	1.1	IV	5	3672	-9403.436	3505.768	256.231		
27	23 YLL サイフ石器			水晶	25.0	9.1	4.6	0.6	IV	15	3715	-9403.155	3504.201	256.441		
27	24 YLL サイフ石器			水晶	41.7	20.5	10.4	6.4	IV	D9	3626	-9403.166	3503.393	251.363		
27	25 YLL サイフ石器			黒曜石	16.0	15.5	6.5	1.6	IV	5	3679	-9403.556	3501.353	256.332		
27	26 YLL サイフ石器			黒曜石	26.0	21.4	6.6	3.5	IV	16	3651	-9403.743	3504.465	252.221		
27	27 YLL サイフ石器			ガラス質黒色岩山砂岩	71.4	20.2	9.7	11.0	IV	17	3653	-9403.82	3504.569	257.321		
27	28 YLL お銀鉢			ホシノフクルス	83.4	24.5	10.6	23.3	IV	L7	3627	-9403.111	3502.560	258.119		
27	29 YLL 長曲狀石器			黒曜石	25.5	16.7	8.5	2.8	IV	F7	3636	-9403.361	3503.175	256.214		
27	30 YLL 亂拂			黒曜石	28.0	20.4	6.9	2.2	IV	E6	3605	-9403.162	3502.206	257.308		
27	31 YLL 亂拂			ホシノフクルス	53.1	57.3	16.5	35.9	IV	B6	3605	-9403.079	3500.928	256.347		
27	32 YLL 亂拂			ホシノフクルス	77.8	36.6	18.4	65.9	IV	G	3698	-9403.160	3500.945	256.306		
27	33 YLL 亂拂			周辺安山岩	25.5	57.4	20.7	81.2	IV	D6	3699	-9403.371	3504.664	254.504		
28	34 YLL 横曲狀石器			黒曜石	60.9	67.1	8.0	58.4	IV	G4	3612	-9403.282	3504.587	256.924		
28	35 FB1 破片			黒曜石	13.8	2.9	1.5	0.1	IV	G2	4095	-9403.477	3507.696	256.477		
28	36 YLL 破片			黒曜石	12.1	6.1	4.4	0.2	IV	3	4054	-9403.099	3501.580	256.396		
28	37 FB2 破片			黒曜石	16.5	7.5	3.0	0.2	IV	18	4095	-9403.256	3503.412	256.462		
28	38 YLL 破片			水晶	13.1	6.5	2.9	0.3	IV	H5	3717	-9403.204	3503.619	255.346		
28	39 YLL 二本角山・岡崎			黒曜石	23.7	12.5	2.7	2.7	IV	C7	3555	-9403.118	3506.745	256.953		
28	40 YLL 亂拂			黒曜石	45.0	14.0	8.7	1.0	IV	D6	3642	-9403.743	3506.889	257.333		
41	41 YLL 亂拂			ホシノフクルス	48.2	27.4	8.6	19.2	IV	6	3692	-9403.565	3505.948	255.410		
42	42 YLL 亂拂			ガラス質黒色岩山砂岩	56.0	25.5	12.1	14.4	IV	5	3655	-9403.261	3501.163	258.050		
43	43 YLL 亂拂			ホシノフクルス	71.5	23.0	21.0	53.1	IV	C3	3901	-9403.146	3506.942	256.477		
44	44 YLL 亂拂			ホシノフクルス	41.0	24.5	26.2	12.8	IV	E7	3693	-9403.304	3500.680	257.735		
45	45 YLL 合成状態			ガラス質黒色岩山砂岩	71.2	45.8	23.2	46.7	IV	5	3641	-9403.182	3506.565	258.369		
46	46 YLL 亂拂			周辺安山岩	111.1	108.0	41.6	60.1	IV	C7	3610	-9403.803	3502.551	256.644		
47	47 YLL 亂拂			禪神安山岩	87.5	78.1	27.0	30.2	IV	D9	3667	-9403.634	3507.287	256.560		
52	53 ZN1 香呑美濃			ホシノフクルス	35.4	12.0	4.7	1.3	頭骨	L7	4055	-9403.149	3505.542	256.429		
52	54 ZN1 香呑美濃			黒曜石	25.5	15.0	5.0	1.2	頭骨	H7	4020	-9403.532	3507.142	250.180		
52	55 ZN1 香呑美濃			黒曜石	35.4	12.0	4.7	1.3	頭骨	L7	4056	-9403.532	3507.142	250.180		
52	56 ZN1 香呑美濃			黒曜石	45.7	18.1	8.0	9.5	頭骨	E9	3746	-9403.152	3506.528	256.343		
52	57 ZN1 香呑美濃			黒曜石	100.2	31.6	16.0	45.8	頭骨	G9	3662	-9403.642	3505.275	257.893		
52	58 FB1 頭骨			ホシノフクルス	84.3	21.0	10.2	13.4	頭骨	D6	3605	-9403.445	3500.143	257.592		
52	59 FB1 頭骨			ホシノフクルス	41.4	16.3	7.3	3.2	頭骨	F14	3646	-9403.947	3506.442	254.056		
55	60 YLL 亂拂			黒曜石	25.0	12.1	4.0	0.2	頭骨	15	4034	-9403.137	3502.216	256.227		
55	61 YLL 亂拂			黒曜石	25.0	12.1	4.0	0.2	頭骨	17	4047	-9403.137	3502.216	256.227		
55	62 YLL 亂拂			黒曜石	25.0	12.1	4.0	0.2	頭骨	17	4048	-9403.137	3502.216	256.227		
56	63 FB1 亂拂			黒曜石	25.5	13.0	4.5	0.9	頭骨	15	4055	-9403.210	3504.420	256.726		
56	64 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	13.0	4.0	1.1	頭骨	F9	4056	-9403.245	3503.056	256.176		
56	65 FB1 亂拂			黒曜石	26.4	12.4	3.3	1.7	頭骨	H6	3796	-9403.062	3503.270	256.363		
56	66 FB1 亂拂			黒曜石	25.5	15.5	2.9	0.5	頭骨	I6	4077	-9403.116	3502.500	258.409		
56	67 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	11.0	5.0	1.4	頭骨	F7	4044	-9403.116	3502.500	258.409		
56	68 FB1 亂拂			黒曜石	25.3	15.5	3.6	1.5	頭骨	27	7147	-9403.060	3508.414	256.309		
56	69 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	17.0	4.0	1.0	頭骨	17	4044	-9403.057	3502.216	256.227		
56	70 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	17.5	3.0	1.1	頭骨	17	7000	-9402.806	3503.847	256.040		
56	71 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	15.5	4.5	1.4	頭骨	E9	4062	-9403.175	3501.400	258.651		
56	72 FB1 亂拂			黒曜石	25.5	15.0	4.0	0.6	頭骨	G6	4039	-9403.163	3504.420	259.312		
56	73 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	13.0	3.5	0.7	頭骨	F6	4057	-9403.543	3507.430	258.343		
56	74 FB1 亂拂			黒曜石	25.0	15.0	3.5	0.4	頭骨	27	4052	-9403.691	3503.268	258.792		
57	58 壁上 打削石片			周辺安山岩	47.0	16.5	12.8	15.8	闊面	69	4076	-9404.060	3503.374	258.958		
57	59 壁上 打削石片			周辺安山岩	125.2	47.8	16.1	33.0	闊面	68	4072	-9404.469	3503.930	259.314		
57	60 壁上 打削石片			周辺安山岩	125.6	52.6	15.8	265.0	闊面	69	4074	-9403.976	3503.707	255.955		

番号	園芸番号	層位	種類	石材	埋蔵石底地	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	直角 (°)	文化層	石器類中 クリップ	遺物番号	組合番号	X座標	Y座標	Z座標
87	24	褐土	打削石器	輝石安山岩		178.1	61.0	26.0	205.8	縄文	E5 (7件組)	4075	-9043.939	35613.732	256.963	
87	25	褐土	打削石器	輝石安山岩		140.5	57.3	17.4	186.6	縄文	E5 (7件組)	4072	-9044.610	35613.267	256.963	
88	26	PB	嵌合状器	輝石岩	赤砂質	27.1	55.8	17.6	10.5	縄文	E5 E8 E9	7983 4058 4058	-9041.615 -9044.221 -9043.573	35638.948 35638.948 35688.324	257.655 256.432 261.667	
88	27	KU	二次加工片	輝石岩	赤砂質	22.2	34.0	10.6	5.4	縄文	E5 E8 E9	4056 7983 7983	-9041.570 -9044.221 -9043.573	35630.281 35617.639 35617.639	256.657 256.432 256.432	
89	28	PB	嵌合状器	輝石岩	赤砂質	25.9	55.5	16.3	12.1	縄文	E5 E8 E9	7980 7980 7980	-9041.510 -9044.221 -9043.573	35638.048 35638.048 35638.048	257.655 256.432 256.432	
89	29	KU	嵌合状器	輝石岩	赤砂質	23.8	24.2	1.4	5.1	縄文	E5 E8 E9	4050 6643 6643	-9040.234 -9048.217 -9048.217	35616.949 35617.192 35617.192	256.655 256.432 256.432	
90	30	KU	嵌合状器	輝石岩	赤砂質	47.5	36.4	14.7	2.6	縄文	E5 E8 E9	4049 7980 7980	-9040.417 -9045.893 -9045.893	35647.598 35644.632 35644.632	256.655 256.432 256.432	
90	31	PB	石核	輝石岩	赤砂質	23.5	29.2	12.9	8.3	縄文	E5 E8 E9	4049 7980 7980	-9040.417 -9045.893 -9045.893	35647.598 35644.632 35644.632	256.655 256.432 256.432	
90	32	PB	石核	輝石岩	赤砂質	27.3	30.2	27.0	40.4	縄文	E5 E8 E9	7974 7974 7974	-9045.893 -9045.893 -9045.893	35644.632 35644.632 35644.632	256.432 256.432 256.432	
90	33	PB	石核	輝石岩	赤砂質	50.6	65.5	35.0	30.7	縄文	E5 E8 E9	7973 7973 7973	-9040.417 -9045.893 -9045.893	35617.339 35617.339 35617.339	256.655 256.432 256.432	
90	34	KU	傾斜	輝石岩	赤砂質	28.4	6.3	2.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6654 6654 6654	-9045.580 -9045.580 -9045.580	35617.192 35617.192 35617.192	256.655 256.432 256.432	
90	35	PB	傾斜	輝石岩	赤砂質	108.6	99.1	30.5	39.6	縄文	E5 E8 E9	6650 6650 6650	-9039.417 -9039.417 -9039.417	35617.339 35617.339 35617.339	256.655 256.432 256.432	
90	36	KU	傾斜	輝石岩	赤砂質	55.0	54.3	28.1	10.0	縄文	E5 E8 E9	6651 6651 6651	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35644.632 35644.632 35644.632	256.655 256.432 256.432	
90	37	KU	傾斜	輝石岩	赤砂質	90.2	82.2	35.5	39.6	縄文	E5 E8 E9	6652 6652 6652	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35644.632 35644.632 35644.632	256.655 256.432 256.432	
90	38	KU	傾斜	多孔火成岩		94.1	94.3	32.0	37.6	縄文	E5 E8 E9	6653 7972 7972	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35611.772 35611.772 35611.772	257.655 257.655 257.655	
90	39	KU	傾斜	火成岩		101.3	61.1	18.2	74.0	縄文	E5 E8 E9	6654 7973 7973	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35611.772 35611.772 35611.772	257.655 257.655 257.655	
90	40	KU	傾斜	輝石安山岩		121.3	97.4	53.3	79.1	縄文	E5 E8 E9	6655 7974 7974	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
90	41	KU	傾斜	輝石岩		106.0	103.0	63.5	106.0	縄文	E5 E8 E9	6656 7975 7975	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
90	42	KU	傾斜	輝石岩		112.7	96.1	42.3	57.0	縄文	E5 E8 E9	6657 7976 7976	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
90	43	KU	傾斜	輝石岩		105.1	73.3	45.5	97.0	縄文	E5 E8 E9	6658 7977 7977	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
90	44	KU	傾斜	輝石岩		42.1	84.5	45.1	10.0	縄文	E5 E8 E9	7978 7978 7978	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	45	KU	工具	輝石岩		173.5	217.0	40.1	70.0	縄文	E5 E8 E9	6659 7979 7979	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	46	KU	工具	輝石岩		237.0	21.0	81.0	55.0	縄文	E5 E8 E9	6660 7980 7980	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	47	KU	工具	輝石岩		357.0	25.0	95.0	130.0	縄文	E5 E8 E9	6661 7981 7981	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	48	KU	工具	輝石岩		385.0	28.0	93.0	201.0	縄文	E5 E8 E9	6662 7982 7982	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	49	KU	工具	輝石岩		15.9	14.5	4.2	8.7	縄文	E5 E8 E9	6663 7983 7983	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	50	KU	工具	輝石岩		2.5	18.3	5.0	1.0	縄文	E5 E8 E9	6664 7984 7984	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	51	KU	工具	輝石岩		23.6	17.8	5.0	2.0	縄文	E5 E8 E9	6665 7985 7985	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	52	KU	工具	輝石岩		20.1	17.0	6.0	2.2	縄文	E5 E8 E9	6666 7986 7986	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	53	KU	工具	輝石岩		21.3	14.5	4.0	6.8	縄文	E5 E8 E9	6667 7987 7987	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	54	KU	工具	輝石岩		16.0	14.3	4.2	8.8	縄文	E5 E8 E9	6668 7988 7988	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	55	KU	工具	輝石岩		20.0	14.0	4.0	0.9	縄文	E5 E8 E9	6669 7989 7989	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	56	KU	工具	輝石岩		30.7	14.0	3.7	8.9	縄文	E5 E8 E9	6670 7990 7990	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	57	KU	工具	輝石岩		18.0	16.0	4.0	1.0	縄文	E5 E8 E9	6671 7991 7991	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	58	KGP	石核	輝石岩		18.5	17.0	4.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6672 7992 7992	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	59	KU	工具	輝石岩		21.4	17.0	6.0	1.5	縄文	E5 E8 E9	6673 7993 7993	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	60	KU	工具	輝石岩		15.5	14.0	4.5	1.0	縄文	E5 E8 E9	6674 7994 7994	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	61	KU	工具	輝石岩		25.0	17.0	4.0	1.0	縄文	E5 E8 E9	6675 7995 7995	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	62	KU	工具	輝石岩		21.0	19.0	2.0	2.0	縄文	E5 E8 E9	6676 7996 7996	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	63	KU	工具	輝石岩		25.0	15.0	5.0	1.2	縄文	E5 E8 E9	6677 7997 7997	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	64	KU	工具	輝石岩		20.0	19.0	6.5	1.7	縄文	E5 E8 E9	6678 7998 7998	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	65	KU	工具	輝石岩		27.0	17.0	5.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6679 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	66	KU	工具	輝石岩		13.0	13.0	4.5	0.6	縄文	E5 E8 E9	6680 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	67	KU	工具	輝石岩		22.0	17.0	7.5	1.9	縄文	E5 E8 E9	6681 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	68	KU	工具	輝石岩		20.0	16.0	4.2	1.1	縄文	E5 E8 E9	6682 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	69	KU	工具	輝石岩		20.0	16.0	4.2	1.1	縄文	E5 E8 E9	6683 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	70	KU	工具	輝石岩		23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6684 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	71	KU	工具	輝石岩		23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6685 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	72	KU	工具	輝石岩		23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6686 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	73	KU	工具	輝石岩		23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6687 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	74	PB	工具	輝石岩		20.0	16.0	4.2	1.1	縄文	E5 E8 E9	6688 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	75	KU	工具	輝石岩		23.0	15.5	3.5	1.1	縄文	E5 E8 E9	6689 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	76	KGP	工具	輝石岩		26.0	22.0	11.5	2.9	縄文	E5 E8 E9	6690 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -9040.360	35625.193 35625.193 35625.193	256.327 256.327 256.327	
91	77	KU	工具	輝石岩		22.0	16.0	6.0	3.6	縄文	E5 E8 E9	6691 7999 7999	-9040.360 -9040.360 -90			

湯瀬遭構属性表 掘出遺物属性表

番号	西番号	層級	種類	石材	黒曜石属性	横寸 (mm)	高 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	文化層	岩器番号 +グリッド	遺物番号	巡回番号	又番号	Y番号	Z番号	
05	92	KGP	E級	黒曜石	未分析	29.5	36.0	13.2	5.2	縄文	G15	461	59	-30485.027	35708.087	254.354	
05	93	KU	鉢	黒曜石	未分析	25.2	18.4	8.0	1.6	縄文	B15	926	68	-30485.041	35708.491	254.394	
05	94	ZIN	鉢	黒曜石	御前原サッカ	27.0	19.2	7.0	4.9	縄文	B15	3077	50	-30485.364	35708.259	254.230	
05	95	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	30.0	28.6	16.6	11.2	縄文	G15	1430	22	-30485.173	35708.325	254.374
05	96	FB	板合状器	黒曜石	未分析	30.0	28.6	16.3	6.8	縄文	F14	2776	55	-30478.001	35698.731	254.481	
05	97	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	37.2	22.2	11.5	5.5	縄文	E15	3021	51	-30485.141	35708.981	254.390
05	98	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	31.5	20.6	15.0	32.1	縄文	G14	1049		-30484.994	35607.340	255.313
05	99	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	32.1	20.0	13.2	17.0	縄文	F14	1110	50	-30477.915	35698.381	255.396
05	100	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	10.7	36.1	11.2	5.1	縄文	G15	154		-30486.333	35708.364	255.143
05	101	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	30.0	23.5	14.2	9.3	縄文	E15	154	50	-30484.994	35607.340	255.313
05	102	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	25.5	35.0	11.5	5.1	縄文	G15	320	57	-30486.022	35708.449	254.490
05	103	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	20.0	16.8	12.4	3.7	縄文	F14	1314		-30478.102	35698.381	255.385
05	104	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	24.1	27.0	9.4	8.6	縄文	F14	1095		-30485.525	35708.489	254.374
05	105	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	20.0	44.1	16.1	17.1	縄文	G16	3413		-30481.229	35698.384	254.393
05	106	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	41.9	28.2	21.2	20.2	縄文	S14	643		-30486.525	35708.442	254.470
05	107	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	42.1	28.1	21.5	6.7	縄文	G15	1487		-30486.325	35606.255	255.386
05	108	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	115.6	94.9	34.1	480.0	縄文	F14	2554		-30473.553	35698.251	255.246
05	109	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	112.6	102.2	48.5	85.6	縄文	F16	308	25	-30478.547	35718.008	253.394
05	110	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	101.4	94.6	45.7	74.0	縄文	E15	540		-30486.470	35708.470	254.480
05	111	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	95.9	89.1	24.3	30.1	縄文	F14	1050		-30486.525	35708.470	254.480
05	112	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	98.8	92.4	36.2	43.0	縄文	F15	2736		-30478.547	35713.008	253.344
05	113	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	102.5	93.3	33.1	43.0	縄文	E15	545		-30486.525	35708.470	254.480
05	114	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	110.9	96.4	43.0	63.0	縄文	E15	2741		-30478.547	35713.008	253.344
05	115	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	95.4	87.0	44.6	99.0	縄文	F14	1063		-30486.525	35708.470	254.480
05	116	KU	FD	板合状器	黒曜石	未分析	108.3	99.0	42.4	68.0	縄文	E15	2755		-30478.547	35713.008	253.344
05	117	KGP	立刀	玄武岩	未分析	100.1	71.8	27.5	348.4	縄文	G15	474	22	-30478.941	35698.236	255.152	
05	118	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	107.5	58.5	44.9	580.0	縄文	P16	974		-30477.516	35714.236	253.700
05	119	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	95.5	81.4	32.2	380.0	縄文	E15	623		-30486.325	35708.122	254.347
05	120	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	30.0	29.0	56.8	1680.0	縄文	F15	2641		-30471.011	35604.131	254.385
05	121	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	15.6	12.3	4.3	0.5	縄文	D11	1524		-30478.545	35708.125	255.343
05	122	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	30.0	16.0	4.0	1.4	縄文	D10	2509		-30486.305	35708.974	254.402
05	123	KGP	立刀	玄武岩	未分析	25.7	10.5	9.5	2.1	縄文	E10	360		-30486.517	35702.746	251.338	
05	124	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	41.3	30.3	12.0	16.6	縄文	D10	2671		-30478.186	35678.643	251.351
05	125	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	12.0	11.0	2.0	0.5	縄文	D	4855		-30474.442	35608.623	260.355
05	126	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	15.8	12.6	3.6	0.6	縄文	J	6234		-30478.607	35698.263	258.461
05	127	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	25.2	21.2	4.0	1.7	縄文	H10	1812		-30478.545	35678.787	266.352
05	128	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	25.0	22.0	4.0	1.6	縄文	H10	589		-30478.509	35698.265	258.285
05	129	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	25.6	18.0	7.9	2.0	縄文	K7	3039		-30478.627	35626.218	266.305
05	130	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	30.8	32.5	16.5	21.7	縄文	K7	9269		-30478.622	35628.744	266.196
05	131	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	41.2	35.4	9.9	15.5	縄文	J8	5661		-30474.794	35614.140	258.368
05	132	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	48.9	50.5	22.5	6.6	縄文	L6	3075		-30478.528	35654.545	253.940
05	133	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	73.1	67.4	2.0	5.9	縄文	L6	8076		-30478.528	35654.545	253.940
05	134	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	206.1	51.6	31.5	153.6	縄文	S16	9277		-30478.545	35617.945	258.314
05	135	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	36.8	59.6	18.4	26.2	縄文	L6	8679		-30478.621	35626.850	266.830
05	136	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	47.5	61.0	10.9	30.3	縄文	K8	5627		-30478.626	35634.552	258.778
05	137	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	67.0	99.2	85.1	621.0	縄文	N30B	4906		-30478.445	35633.777	258.746
05	138	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	81.0	43.6	12.0	32.9	縄文	L6	9744		-30478.528	35654.545	253.940
05	139	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	27.3	30.9	32.2	4.3	縄文	F16	5664	46	-30478.528	35654.545	253.940
05	140	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	70.4	43.0	8.7	138.0	縄文	L6	8074	46	-30478.430	35645.752	260.615
05	141	ZIN	FD	立刀	玄武岩	未分析	112.0	110.0	30.7	97.6	縄文	S16	9072		-30478.513	35614.435	256.413
05	142	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	127.0	14.2	32.8	230.0	縄文	S16	45		-30478.185	35603.612	256.364
05	143	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	915.0	285.0	333.0	276.0	縄文	I10	5705		-30478.607	35626.028	256.881
05	144	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	26.2	45.1	42.5	12.0	縄文	I10	5796		-30478.627	35626.023	256.792
05	145	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	86.7	73.0	9.9	96.6	縄文	H10	5800		-30478.621	35626.020	256.813
05	146	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	106.2	79.2	42.1	95.8	縄文	K9	5628		-30478.621	35626.020	256.813
05	147	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	99.6	72.1	42.0	651.1	縄文	K7	5217		-30478.621	35626.020	256.813
05	148	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	112.8	77.1	32.5	376.0	縄文	H10	5800	30	-30472.115	35624.764	256.366
05	149	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	67.1	62.5	38.0	370.0	縄文	F16	5704		-30478.528	35654.545	253.940
05	150	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	33.3	75.2	27.0	348.2	縄文	K7	5216		-30478.621	35626.311	256.390
05	151	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	105.5	34.5	38.7	196.0	縄文	I10	5797		-30478.271	35602.952	256.608
05	152	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	92.2	92.5	47.7	256.5	縄文	K8	8678		-30478.627	35626.023	256.792
05	153	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	221.0	241.0	31.0	3000.0	縄文	K8	45		-30478.511	35604.412	256.762
05	154	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	271.0	253.0	38.0	1198.0	縄文	I10	5504		-30478.853	35653.231	256.329
05	155	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	406.0	367.0	125.0	2790.0	縄文	K7	5633		-30474.743	35626.025	256.300
05	156	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	16.0	15.9	3.0	0.3	縄文	J6	4069		-30475.743	35610.052	261.081
05	157	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	17.5	15.4	3.4	0.7	縄文	C9	6062		-30478.021	35618.327	257.599
05	158	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	21.5	15.5	2.6	1.0	縄文	K5	4736		-30478.601	35650.599	252.047
05	159	KU	FD	立刀	玄武岩	未分析	26.0	17.0	4.8	1.7	縄文	K5	4707		-30478.200	35601.275	256.974
05	160	KGP	打刃G鉈	白石山	玄武岩	未分析	173.1	35.6	40.0	360.0	縄文	P9	4745		-30472.571	35647.302	258.102

番号	施設番号	部位	器種	石材	基面石磨耗	底名 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g.)	文化層	石割御中 グリット	遺物番号	混合番号	X座標	Y座標	Z座標
110	301	KUL	打頭瓦片	泥分粘灰岩		136.6	35.3	32.1	437.1	陶瓦	G6	5107	-00010.303	35030.713	258.821	
110	302	KUL	瓦器	泥分粘		57.4	22.3	7.8	16.8	陶瓦	G4	3806	-00000.528	35030.382	260.963	
110	303	KUL	地表面遮蔽瓦片	ガラス質黄色砂岩		58.7	35.0	12.0	22.7	陶瓦	G6	5313	-00010.382	35040.167	259.762	
110	304	KUL	瓦片	ガラス質黄色砂岩		56.5	37.0	8.5	15.6	陶瓦	P4	5202	-00012.382	35095.981	259.851	
110	305	P4	瓦片	ガラス質黄色砂岩		71.6	36.5	36.0	72.3	陶瓦	G4	4101	-00046.767	35030.464	259.325	

附編

老平遺跡出土黒曜石の産地分析

望月明彦（沼津高等専門学校）

分析法 エネルギー分散蛍光X線分析法(EDX)

分析装置 セイコーアンスツルメンツ車上型蛍光X線分析計 SEA-2110L

分析条件

管電圧 50kV

管電流 自動設定

測定時間 240sec

雰囲気 真空

照射径 10mm

検出器 Si(Li) 半導体検出器

測定元素 Al(アルミニウム)、Si(ケイ素)、K(カリウム)、Ca(カルシウム)、Ti(チタン)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)

分析法の特徴

長所 非破壊分析 多元素同時分析 前処理不要(ただし洗浄は必要)迅速分析 操作が簡単

短所 微量分析は不得意

表面分析

→試料を破壊せずに測定するため、分析結果は表面を測定したことになる。

→そのため、汚れた試料、風化した試料は汚れ、風化を測定したことになり、正確でない。

類似した組成の標準試料が必要。

試料の洗浄

5分間(汚れがひどい場合は15分間)超音波洗浄器で洗浄。

さらに汚れを拭き取ってから測定。

測定不可能な試料

- ・風化した試料(ただし破壊すれば可能)
- ・汚れがとれない試料(ただし破壊すれば可能)
- ・厚さが1mm以下の試料
- ・大きさ5mm以下の試料
- ・遺物番号などの書き込みで測定できる面がない試料

産地推定可能な石材

上記の条件をクリアしていれば、以下の分析が可能。

- ・現在は黒曜石(日本全国)と下呂石
 - ・ガラス質安山岩は分類可能。
- ただし、原石データが不足しているため、産地推定は不可能。
- 現在、原石データを収集中
- ・その他の石材(特に堆積岩)は分類不可能。

産地推定法

得られた蛍光X線スペクトル強度を元素記号で表すとする。

二つの方法とも以下の指標を用いる。

指標

Sum=Rb+Sr+Y+Zr とする。

Rb分率=Rb/Sum

Sr分率=Sr/Sum

分率=Zr/Sum

Mn * 100/Fe

log (Fe/K)

産地のシートに上げた黒曜石産地から、産地原石を探集し、測定する。

測定結果から上記の指標を算出する。

以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

下記の二つの方法で産地推定を行う。

①判別図法

用いる指標

横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe

横軸：Sr分率、縦軸：log (Fe/K)

特長

簡単な計算であり、誰にでも作成可能

視覚的に確認でき、分かりやすい。

推定方法

遺跡出土試料を蛍光X線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった原石産地を推定結果とする。

②判別分析（推定結果表参照）

用いる指標

算出された指標全て

特長

各産地との類似度を距離で算出

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法。未知の産地の判別はできない。

推定方法

判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

この産地は試料と2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

推定結果表

判別法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室 年齢性別	分析番号	遺物番号	推定地	判別法による推定結果			
				第1候補地		第2候補地	
				判別群	確率	判別群	確率
MOK4-6046	L145-1	3251	天城前時群	AGKT	AGKT 6.7	HNKT	88.02 0
MOK4-6047	L145-2	3398	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 5.26	SBY	95.87 0
MOK4-6048	L145-3	3390	奥田原山群	WDTY	WDTY 0.75	WDHY	7.15 0.0001
MOK4-6049	L145-4	3391	御北原山群	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6050	L145-5	3392	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6051	L145-6	3393	奥田原山群	WDTY	WDTY 6.24	WDHY	18.35 0.0019
MOK4-6052	L145-7	3394	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 13.77	SBY	88.06 0
MOK4-6053	L145-8	3395	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6054	L145-9	3397	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 1.55	SBY	98.01 0
MOK4-6055	L145-10	3398	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6056	L145-11	3399	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 17.73	SBY	77.87 0
MOK4-6057	L145-12	3400	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6058	L145-13	3401	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6059	L145-14	3402	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 12.77	SBY	53.85 0
MOK4-6060	L145-15	3403	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6061	L145-16	3404	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6062	L145-17	3405	奥田原山群	WDTY	WDTY 4.78	0.9999	WDHY 22.16 2.0001
MOK4-6063	L145-18	3406	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6064	L145-19	3407	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6065	L145-20	3408	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 4.55	WDTN	80.27 0
MOK4-6066	L145-21	3409	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6067	L145-22	3410	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6068	L145-23	3411	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6069	L145-24	3412	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 14.2	SBY	82.25 0
MOK4-6070	L145-25	3413	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6071	L145-26	3414	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6072	L145-27	3415	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 2.31	SBY	95.12 0
MOK4-6073	L145-28	3416	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 21.59	SBY	52.9 0
MOK4-6074	L145-29	3417	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 4.22	SBY	65.67 0
MOK4-6075	L145-30	3418	天城前時群	AGKT	AGKT 3.49	HNKT	123.62 0
MOK4-6076	L145-31	3419	天城前時群	AGKT	AGKT 3.91	HNKT	135.41 0
MOK4-6077	L145-32	3420	天城前時群	AGKT	AGKT 3.06	HNKT	108.1 0
MOK4-6078	L145-33	3421	天城前時群	AGKT	AGKT 2.44	HNKT	112.15 0
MOK4-6079	L145-34	3422	天城前時群	AGKT	AGKT 2.65	HNKT	89.35 0
MOK4-6080	L145-35	3424	天城前時群	AGKT	AGKT 8.06	HNKT	112.79 0
MOK4-6081	L145-36	3425	天城前時群	AGKT	AGKT 3.18	HNKT	106.78 0
MOK4-6082	L145-37	3426	天城前時群	AGKT	AGKT 4.27	HNKT	140.23 0
MOK4-6083	L145-38	3427	天城前時群	AGKT	AGKT 2.22	HNKT	124.73 0
MOK4-6084	L145-39	3428	天城前時群	AGKT	AGKT 7.14	HNKT	91.95 0
MOK4-6085	L145-40	3429	天城前時群	AGKT	AGKT 3.81	HNKT	129.75 0
MOK4-6086	L145-41	3430	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6087	L145-42	3431	天城前時群	AGKT	AGKT 1.79	HNKT	102.68 0
MOK4-6088	L145-43	3432	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 7.45	SBY	62.14 0
MOK4-6089	L145-44	3433	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6090	L145-45	3434	奥田原山群	WDTY	WDTY 1.54	WDHY	28.51 0
MOK4-6091	L145-46	3435	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6092	L145-47	3436	御前星ヶ台群	HNNJ	HNNJ 3.46	HNKT	140.74 0
MOK4-6093	L145-48	3437	奥田原山群	WDTY	WDTY 6.75	WDWB	51.29 0
MOK4-6094	L145-49	3438	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6095	L145-50	3439	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6096	L145-51	3440	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 5.89	SBY	100.77 0
MOK4-6097	L145-52	3441	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6098	L145-53	3442	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 9.82	SBY	55.34 0
MOK4-6099	L145-54	3443	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6100	L145-55	3444	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6101	L145-56	3445	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6102	L145-57	3446	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6103	L145-58	3447	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 4.79	SBY	98.53 0
MOK4-6104	L145-59	3448	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 12.68	SBY	105.23 0
MOK4-6105	L145-60	3449	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6106	L145-61	3450	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6107	L145-62	3451	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6108	L145-63	3452	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6109	L145-64	3453	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6110	L145-65	3454	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 15.58	SBY	88.49 0
MOK4-6111	L145-66	3455	天城前時群	AGKT	AGKT 6.44	HNKT	106.58 0
MOK4-6112	L145-67	3456	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 5.39	SBY	44.22 0
MOK4-6113	L145-68	3457	天城前時群	AGKT	AGKT 9.6	HNKT	107.55 0
MOK4-6114	L145-69	3458	天城前時群	AGKT	AGKT 7.43	HNKT	87.86 0
MOK4-6115	L145-70	3459	御前星ヶ台群	HNNJ	HNNJ 12.38	HNKT	125.45 0
MOK4-6116	L145-71	3460	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 12.88	SBY	73.41 0
MOK4-6117	L145-72	3461	奥田原山群	WDTY	WDTY 1.79	0.9996	WDHY 16.1 0.0002
MOK4-6118	L145-73	3462	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6119	L145-74	3463	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6120	L145-75	3464	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6121	L145-76	3465	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可
MOK4-6122	L145-77	3466	御前星ヶ台群	SWHD	SWHD 9.43	SBY	77.85 0

研究區 年齡組番	分類番號	選物番號	確定地點	判別分析						
				黑1 條紋姬地 距離 距離		黑2 條紋姬地 距離 距離				
MOK4-6123	L145-78	3467	謝訪星ヶ台群	SWHD	19.23	0.9999	SBY	31.65	0.9664	
MOK4-6124	L145-29	3468	測定不可	SWHD	18.03	—	測定不可	WDITN	63.04	0
MOK4-6125	L145-93	3469	謝訪星ヶ台群	SWHD	20.71	—	SWHD	26.05	—	
MOK4-6126	L145-81	3470	謝訪星ヶ台群	SWHD	9.59	—	SWHD	53.96	0	
MOK4-6127	L145-92	3471	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6128	L145-93	3472	謝訪星ヶ台群	WDITY	12.5	—	WDITY	35.26	0	
MOK4-6129	L145-94	3473	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6130	L145-95	3474	和田照山群	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6131	L145-96	3475	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6132	L145-87	3476	謝訪星ヶ台群	SWHD	8.18	—	SWHD	109.87	0	
MOK4-6133	L145-68	3477	謝訪星ヶ台群	SWHD	11.64	—	SWHD	53.97	0	
MOK4-6134	L145-69	3478	謝訪星ヶ台群	SWHD	1.97	—	SWHD	91.35	0	
MOK4-6135	L145-90	3479	謝訪星ヶ台群	SWHD	3.56	—	SWHD	106.79	0	
MOK4-6136	L145-31	3480	測定不可	SWHD	2.61	—	SWHD	85.54	0	
MOK4-6137	L145-92	3481	謝訪星ヶ台群	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6138	L145-23	3482	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6139	L145-34	3483	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6140	L145-35	3484	謝訪星ヶ台群	SWHD	15.31	—	SWHD	57.87	0	
MOK4-6141	L145-36	3485	謝訪星ヶ台群	SWHD	13.81	—	SWHD	60.19	0	
MOK4-6142	L145-37	3486	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6143	L145-58	3487	謝訪星ヶ台群	SWHD	1.14	—	SWHD	90.23	0	
MOK4-6144	L145-59	3488	和田照山群	WDITY	9.88	0.9899	WDITY	15.32	0.6191	
MOK4-6145	L145-70	3489	謝訪星ヶ台群	SWHD	16.34	—	SWHD	43.17	0	
MOK4-6146	L145-30	3490	謝訪星ヶ台群	SWHD	11.22	—	SWHD	67.11	0	
MOK4-6147	L145-32	3491	和田照山群	WDITY	8.42	0.9981	WDITY	18.37	0.9019	
MOK4-6148	L145-43	3492	和田照山群	WDITY	4.79	—	WDITY	26.52	0	
MOK4-6149	L145-364	3493	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6150	L145-495	3494	謝訪星ヶ台群	SWHD	12.44	—	SWHD	71.5	0	
MOK4-6151	L145-96	3495	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6152	L145-97	3496	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6153	L145-36	3497	和田照山群	WDITY	4.82	0.9887	WDITY	11.33	0.0113	
MOK4-6154	L145-39	3498	謝訪星ヶ台群	SWHD	15.19	—	SWHD	81.97	0	
MOK4-6155	L145-10	3499	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6156	L145-30	3500	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6157	L145-11	3501	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6158	L145-12	3502	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6159	L145-13	3503	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6160	L145-115	3504	謝訪星ヶ台群	SWHD	2.08	—	SWHD	80	0	
MOK4-6161	L145-15	3505	謝訪星ヶ台群	SWHD	16.12	—	SWHD	29.73	0	
MOK4-6162	L145-151	3506	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6163	L145-117	3507	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6164	L145-118	3508	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6165	L145-20	3509	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6166	L145-121	3510	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6167	L145-122	3511	謝訪星ヶ台群	SWHD	14.4	—	SWHD	88.92	0	
MOK4-6168	L145-123	3512	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6169	L145-124	3513	天城前野群	AGCT	20.22	—	AGCT	93	0	
MOK4-6170	L145-125	3514	天城前野群	AGCT	5.67	—	AGCT	112.47	0	
MOK4-6171	L145-126	3515	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6172	L145-127	3516	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6173	L145-128	3517	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6174	L145-129	3518	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6175	L145-130	3519	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6176	L145-131	3520	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6177	L145-132	3521	謝訪星ヶ台群	SWHD	6.97	—	SWHD	92.2	0	
MOK4-6178	L145-133	3522	謝訪星ヶ台群	SWHD	5.03	—	SWHD	60.77	0	
MOK4-6179	L145-134	3523	和田照山群	HNKL	1.61	—	HNKL	46.71	0	
MOK4-6180	L145-135	3524	謝訪星ヶ台群	SWHD	12.97	—	SWHD	136.27	0	
MOK4-6181	L145-136	3525	謝訪星ヶ台群	SWHD	15.98	—	SWHD	65.47	0	
MOK4-6182	L145-137	3526	和田照山群	WDITY	4.99	—	WDITY	25.09	0	
MOK4-6183	L145-138	3527	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6184	L145-139	3528	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6185	L145-140	3529	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6186	L145-141	3530	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6187	L145-142	3531	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6188	L145-143	3532	謝訪星ヶ台群	HNKL	8.81	—	HNKL	54.37	0	
MOK4-6189	L145-144	3533	測定不可	HNKL	—	—	HNKL	—	—	
MOK4-6190	L145-145	3534	鶴肥宿泊群	HNKL	7.53	—	HNKL	77.78	0	
MOK4-6191	L145-146	3535	謝訪星ヶ台群	SWHD	0.51	—	SWHD	94.19	0	
MOK4-6192	L145-147	3536	謝訪星ヶ台群	SWHD	14.89	—	SWHD	49.09	0	
MOK4-6193	L145-148	3537	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6194	L145-149	3538	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6195	L145-150	3539	測定不可	SWHD	—	—	SWHD	—	—	
MOK4-6196	L145-151	3540	謝訪星ヶ台群	WDITY	7.59	—	WDITY	65.56	0	
MOK4-6197	L145-152	3541	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6198	L145-153	3542	謝訪星ヶ台群	WDITY	2.59	—	WDITY	103.35	0	
MOK4-6199	L145-154	3543	謝訪星ヶ台群	WDITY	4.62	—	WDITY	91.84	0	
MOK4-6200	L145-155	3544	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	
MOK4-6201	L145-156	3545	和田照山群	WDITY	10.51	0.9987	WDITY	19.53	0.0033	
MOK4-6202	L145-157	3550	測定不可	WDITY	—	—	WDITY	—	—	

研究區 年間通番	分析番号	遺物番号	埋藏環境	判別群 判別群			判別群 判別群			
				群1 機械耕作地 施肥			群2 機械耕作地 施肥			
				判別群	施肥	確率	判別群	施肥	確率	
MOK4-6203	L145-158	3651	施肥耕作群	HNNJ	HNNJ	6.03	1	HNK1	130.73	0
MOK4-6204	L145-159	3652	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6205	L145-160	3653	和田熊山群	WDTY	WDTY	10.7	0.9597	WDHY	20.41	0.0443
MOK4-6206	L145-161	3654	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6207	L145-162	3655	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	9.28	1	SBIY	82.99	0
MOK4-6208	L145-163	3656	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6209	L145-164	3658	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6210	L145-165	3659	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	13.83	1	SBIY	38.33	0
MOK4-6211	L145-166	3661	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6212	L145-167	3662	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	2.05	1	SBIY	84.11	0
MOK4-6213	L145-168	3663	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	11.87	1	SBIY	56.11	0
MOK4-6214	L145-169	3664	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	6.75	1	SBIY	66.67	0
MOK4-6215	L145-170	3665	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6216	L145-171	3666	天城の跡群	AGKT	AGKT	6.15	1	HNK1	92.79	0
MOK4-6217	L145-172	3667	和田熊山群	WDTY	WDTY	17.88	0.9698	WDHY	36.04	0.0306
MOK4-6218	L145-173	3668	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	4.35	1	SBIY	66.15	0
MOK4-6219	L145-174	3669	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6220	L145-175	3670	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	3.88	1	WDTN	87.88	0
MOK4-6221	L145-176	3671	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6222	L145-177	3672	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6223	L145-178	3673	和田熊山群	WDTY	WDTY	1.76	1	WDHY	19.66	0
MOK4-6224	L145-179	3674	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	3.91	1	SBIY	45.87	0
MOK4-6225	L145-180	3675	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	2.1	1	SBIY	98.78	0
MOK4-6226	L145-181	3677	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	15.44	1	SBIY	46.31	0
MOK4-6227	L145-182	3678	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6228	L145-183	3679	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	9.87	1	WDTN	68.8	0
MOK4-6229	L145-184	3680	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	9.83	1	SBIY	94.62	0
MOK4-6230	L145-185	3681	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	7.75	1	SBIY	60.29	0
MOK4-6231	L145-186	3682	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	4.72	1	SBIY	76.67	0
MOK4-6232	L145-187	3683	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6233	L145-188	3684	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6234	L145-189	3685	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6235	L145-190	3686	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	1.51	1	WDTN	90.59	0
MOK4-6236	L145-191	3687	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	2.77	1	SBIY	73.06	0
MOK4-6237	L145-192	3688	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	12.1	1	SBIY	39.22	0
MOK4-6238	L145-193	3689	和田熊山群	WDTY	WDTY	14.4	0.9995	WDHY	29.35	0.0005
MOK4-6239	L145-194	3690	施肥耕作群	HNNJ	HNNJ	8.18	1	HNK1	63.41	0
MOK4-6240	L145-195	3691	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6241	L145-196	3692	施肥耕作群	HNNJ	HNNJ	22.52	1	HNK1	70.62	0
MOK4-6242	L145-197	3693	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6243	L145-198	3694	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6244	L145-199	3695	新耕植群	HNNJ	HNNJ	4.41	1	HNK1	126.39	0
MOK4-6245	L145-200	3696	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6246	L145-201	3697	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6247	L145-202	3698	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	16.69	1	SBIY	86.04	0
MOK4-6248	L145-203	3699	和田熊山群	WDTY	WDTY	12.78	0.9942	WDHY	20.64	0.0056
MOK4-6249	L145-204	3700	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	6.59	1	SBIY	81.69	0
MOK4-6250	L145-205	3701	施肥耕作群	HNNJ	HNNJ	2.95	1	HNK1	114.75	0
MOK4-6251	L145-206	3702	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6252	L145-207	3703	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	2.28	1	SBIY	73.74	0
MOK4-6253	L145-208	3704	和田熊山群	WDTY	WDTY	3.49	1	WDHY	22.7	0
MOK4-6254	L145-209	3705	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	15.84	1	SBIY	99.92	0
MOK4-6255	L145-210	3706	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6256	L145-211	3707	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	3.58	1	WDTN	118.98	0
MOK4-6257	L145-212	3708	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	12.88	1	SBIY	82.43	0
MOK4-6258	L145-213	3709	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	10.42	1	SBIY	82.19	0
MOK4-6259	L145-214	3710	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	8	1	SBIY	84.22	0
MOK4-6260	L145-215	3711	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6261	L145-216	3712	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6262	L145-217	3713	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	12.75	1	SBIY	108.31	0
MOK4-6263	L145-218	3714	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	2.54	1	SBIY	78.8	0
MOK4-6264	L145-219	3715	和田熊山群	WDTY	WDTY	5.23	0.9997	WDHY	11.45	0.0153
MOK4-6265	L145-220	3716	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6266	L145-221	3717	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	13.59	1	SBIY	38.29	0
MOK4-6267	L145-222	3718	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6268	L145-223	3719	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	5.47	1	SBIY	76.6	0
MOK4-6269	L145-224	3720	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6270	L145-225	3721	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6271	L145-226	3722	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6272	L145-227	3723	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6273	L145-228	3724	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6274	L145-229	3725	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6275	L145-230	3726	測定不可	測定不可	測定不可	-	測定不可	測定不可	-	-
MOK4-6276	L145-231	3727	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	4.09	1	SBIY	70.79	0
MOK4-6277	L145-232	3728	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6278	L145-233	3729	施肥耕作群	HNNJ	HNNJ	19.11	1	HNK1	68.8	0
MOK4-6279	L145-234	3730	測訪呈ヶ台群	SWHD	SWHD	16.44	1	SBIY	64.95	0
MOK4-6280	L145-235	3731	鑑定不可	鑑定不可	鑑定不可	-	鑑定不可	鑑定不可	-	-
MOK4-6281	L145-236	3732	和田熊山群	WDTY	WDTY	6.27	0.9297	WDHY	19.86	0.0003
MOK4-6282	L145-237	3733	和田熊山群	WDTY	WDHY	18.37	0.7588	WDTY	18.51	0.3412

研究室 年鑑番号	分析番号	植物番号	被定地	判別群 判別群		判別群 判別群			
				第1候補地 距離	確率	第2候補地 距離	確率		
MOKA-6283	L145-238	3634	測定不可	WDTY	8.19	0.999	WDHY	16.35	0.999
MOKA-6284	L145-239	3635	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6285	L145-240	3636	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6286	L145-241	3637	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6287	L145-242	3639	和田熊山群	WDTY	8.19	0.999	WDHY	16.35	0.999
MOKA-6288	L145-243	3640	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6289	L145-244	3641	諭語星ヶ台群	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6290	L145-245	3642	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6291	L145-246	3645	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6292	L145-247	3646	諭語星ヶ台群	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6293	L145-248	3647	諭語星ヶ台群	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6294	L145-249	3648	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6295	L145-250	3649	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6296	L145-251	3650	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6297	L145-252	3651	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6298	L145-253	3652	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6299	L145-254	3653	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6300	L145-255	3654	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6301	L145-256	3655	諭語星ヶ台群	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6302	L145-257	3656	諭語星ヶ台群	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6303	L145-258	3657	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6304	L145-259	3658	測定不可	SWHD	7.56	1	SHY	52.75	0
MOKA-6305	L145-260	3659	和田熊山群	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6306	L145-261	3660	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6307	L145-262	3661	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6308	L145-263	3662	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6309	L145-264	3663	和田熊山群	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6310	L145-265	3664	和田熊山群	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6311	L145-266	3665	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6312	L145-267	3666	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6313	L145-268	3667	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6314	L145-269	3668	和田英鶴ワイルド群	-WDTY	4.36	0.9509	WDTY	8.32	0.3291
MOKA-6315	L145-270	3669	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6316	L145-271	3670	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6317	L145-272	3671	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6318	L145-273	3672	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6319	L145-274	3673	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6320	L145-275	3674	和田熊山群	WDTY	4.04	0.9998	WDHY	30.6	0.0002
MOKA-6321	L145-276	3675	測定不可	SWHD	11.88	1	SHY	69.85	0
MOKA-6322	L145-277	3676	測定不可	SWHD	11.88	1	SHY	69.85	0
MOKA-6323	L145-278	3677	神奈島里見鳥群	KZOB	5.86	1	KZSN	41.99	0
MOKA-6324	L145-279	3678	測定不可	SWHD	11.88	1	SHY	69.85	0
MOKA-6325	L145-280	3679	和田英鶴ワイルド群	-WDTY	7.8	0.6627	WDTY	8.87	0.3963
MOKA-6326	L145-281	3680	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6327	L145-282	3681	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6328	L145-283	3682	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6329	L145-284	3684	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6330	L145-285	3685	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6331	L145-286	3686	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6332	L145-287	3687	諭語星ヶ台群	SWHD	3.08	1	WDTN	87.49	0
MOKA-6333	L145-288	3688	測定不可	WDTY	4.79	0.0004	WDHY	8.73	0.0006
MOKA-6334	L145-289	3689	和田熊山群	WDTY	4.11	0.9595	WDHY	17.03	0.9603
MOKA-6335	L145-290	3690	測定不可	WDTY	4.11	0.9595	WDHY	17.03	0.9603
MOKA-6336	L145-291	3691	諭語星ヶ台群	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6337	L145-292	3692	測定不可	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6338	L145-293	3693	測定不可	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6339	L145-294	3694	測定不可	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6340	L145-295	3695	測定不可	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6341	L145-296	3696	諭語星ヶ台群	SWHD	8.40	1	SHY	85.87	0
MOKA-6342	L145-297	3697	測定不可	WDTY	12.77	0.9991	WDHY	17.36	0.0226
MOKA-6343	L145-298	3698	和田熊山群	WDTY	2.6	1	WDHY	30.16	0
MOKA-6344	L145-299	3699	和田熊山群	WDTY	2.6	1	WDHY	30.16	0
MOKA-6345	L145-300	3700	諭語星ヶ台群	SWHD	9.52	1	WDHY	18.17	0
MOKA-6346	L145-301	3701	測定不可	WDTY	1.31	0.9999	WDHY	35.05	0
MOKA-6347	L145-302	3702	和田熊山群	WDTY	1.31	0.9999	WDHY	35.05	0
MOKA-6348	L145-303	3703	測定不可	WDTY	1.31	0.9999	WDHY	35.05	0
MOKA-6349	L145-304	3704	和田熊山群	WDTY	1.31	0.9999	WDHY	35.05	0
MOKA-6350	L145-305	3705	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6351	L145-306	3706	和田熊山群	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6352	L145-307	3706	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6353	L145-308	3708	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6354	L145-309	3709	諭語星ヶ台群	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6355	L145-310	3711	諭語星ヶ台群	SWHD	23.92	1	SHY	30.84	0
MOKA-6356	L145-311	3712	諭語星ヶ台群	SWHD	23.92	1	SHY	30.84	0
MOKA-6357	L145-312	3713	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6358	L145-313	3714	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6359	L145-314	3715	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6360	L145-315	3716	測定不可	WDTY	4.77	0.9998	WDHY	17.04	0.0001
MOKA-6361	L145-316	3717	諭語星ヶ台群	SWHD	26.29	0.9999	SHY	21.37	0.0001
MOKA-6362	L145-317	3718	測定不可	SWHD	26.29	0.9999	SHY	21.37	0.0001

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別用 判別群		明細分析		
				第1種類産地		道草	第2種類産地	
				判別群	距離		判別群	距離
MOKA-4-303	L145-318	3719	和田熊山群	WDTY	WDTY 8.48	I	WDNB	37.36 0
MOKA-4-304	L145-319	3720	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-305	L145-320	3721	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-306	L145-321	3722	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-307	L145-322	3723	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-308	L145-323	3724	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 12.5	I	SBIY	61.66 0
MOKA-4-309	L145-324	3725	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-310	L145-325	3726	和田美原タト群	-WDTY	WDHY 4.17 0.0022	I	WDTY	8.12 0.3176
MOKA-4-311	L145-326	3727	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-312	L145-327	3728	飛鳥細鈎群	HNHJ	HNHJ 18.21	I	HNKI	30.42 0
MOKA-4-313	L145-328	3729	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-314	L145-329	3730	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-315	L145-330	3731	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 13.52	I	SBIY	63.75 0
MOKA-4-316	L145-331	3732	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-317	L145-332	3733	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-318	L145-333	3734	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 20.33	I	SBIY	80.94 0
MOKA-4-319	L145-334	3735	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 13.05	I	WDTN	80.29 0
MOKA-4-320	L145-335	3736	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 13.66	I	WDTN	111.94 0
MOKA-4-321	L145-336	3737	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-322	L145-337	3738	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-323	L145-338	3739	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 10.41	I	SBIY	47.1 0
MOKA-4-324	L145-339	3740	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 13.97	I	SBIY	83.95 0
MOKA-4-325	L145-340	3741	和田熊山群	WDTY	WDTY 8.3 0.9997	I	WDHY	13.2 0.0002
MOKA-4-326	L145-341	3742	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-327	L145-342	3743	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 1.12	I	SBIY	74.4 0
MOKA-4-328	L145-343	3744	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-329	L145-344	3745	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 17.21	I	SBIY	74.17 0
MOKA-4-330	L145-345	3746	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 7.59	I	SBIY	61.35 0
MOKA-4-331	L145-346	3747	測尾星ヶ台群	HNHJ	HNHJ 18.22	I	HNKI	204.77 0
MOKA-4-332	L145-347	3748	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-333	L145-348	3749	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-334	L145-349	3750	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-335	L145-350	3751	測尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 5.59	I	SBIY	71.06 0
MOKA-4-336	L145-351	3752	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-337	L145-352	3753	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 4.3	I	SBIY	56.55 0
MOKA-4-338	L145-353	3754	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-339	L145-354	3755	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 6.25	I	SBIY	75.32 0
MOKA-4-340	L145-355	3756	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-341	L145-356	3757	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-342	L145-357	3758	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-343	L145-358	3759	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-344	L145-359	3760	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-345	L145-360	3761	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-346	L145-361	3762	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-347	L145-362	3763	葬尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 14.36	I	SBIY	76.41 0
MOKA-4-348	L145-363	3764	葬尾星ヶ台群	SWHD	SWHD 22.13	I	WDTN	110.09 0
MOKA-4-349	L145-364	3765	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-350	L145-365	3766	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-351	L145-366	3767	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-352	L145-367	3768	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-353	L145-368	3769	和田熊山群	WDTY	WDTY 1.12	I	WDTN	21.47 0
MOKA-4-354	L145-369	3770	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-355	L145-370	3771	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-356	L145-371	3772	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 7.55	I	SBIY	116.04 0
MOKA-4-357	L145-372	3773	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-358	L145-373	3774	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-359	L145-374	3775	和田熊山群	WDTY	WDTY 4.41	I	WDKB	25.76 0
MOKA-4-360	L145-375	3776	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-361	L145-376	3777	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 7.61	I	WDTN	73.24 0
MOKA-4-362	L145-377	3778	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-363	L145-378	3779	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-364	L145-379	3780	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-365	L145-380	3781	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-366	L145-381	3782	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-367	L145-382	3783	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-368	L145-383	3784	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 13.43	I	SBIY	46.02 0
MOKA-4-369	L145-384	3785	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-370	L145-385	3786	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-371	L145-386	3787	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-372	L145-387	3788	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-373	L145-388	3789	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-374	L145-389	3790	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 12.53	I	SBIY	46.12 0
MOKA-4-375	L145-390	3791	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-376	L145-391	3792	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-377	L145-392	3793	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-378	L145-393	3794	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-379	L145-394	3795	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-380	L145-395	3796	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-381	L145-396	3797	測定不可	測定不可	測定不可		測定不可	
MOKA-4-382	L145-397	3798	測訪尾ヶ台群	SWHD	SWHD 10.30	I	WDTN	107.32 0

研究室 年間通過番	分析番号	置物番号	置物場所	判別分析			
				第1構造異地		第2構造異地	
判別因 判別群	判別群	距離	判別群	距離	距離	距離	距離
MOA-4-643	L145-298	3802	測定不可				
MOA-4-644	L145-299	3803	測定不可				
MOA-4-645	L145-300	3804	測定星ヶ台群				
MOA-4-646	L145-301	3805	測定不可				
MOA-4-647	L145-302	3806	測定不可				
MOA-4-648	L145-303	3807	測定不可				
MOA-4-649	L145-304	3808	測定不可				
MOA-4-650	L145-305	3809	測定不可				
MOA-4-651	L145-306	3810	測定不可				
MOA-4-652	L145-307	3811	測定不可				
MOA-4-653	L145-308	3812	測定不可				
MOA-4-654	L145-309	3813	測定不可				
MOA-4-655	L145-310	3814	測定不可				
MOA-4-656	L145-311	3815	測定不可				
MOA-4-657	L145-312	3816	測定不可				
MOA-4-658	L145-313	3817	測定不可				
MOA-4-659	L145-314	3818	測定不可				
MOA-4-660	L145-315	3819	測定不可				
MOA-4-661	L145-316	3820	測定不可				
MOA-4-662	L145-317	3821	測定不可				
MOA-4-663	L145-318	3822	測定不可				
MOA-4-664	L145-319	3823	測定不可				
MOA-4-665	L145-320	3824	測定不可				
MOA-4-666	L145-321	3825	測定不可				
MOA-4-667	L145-322	3826	測定不可				
MOA-4-668	L145-323	3827	測定不可				
MOA-4-669	L145-324	3828	測定不可				
MOA-4-670	L145-325	3829	測定星ヶ台群				
MOA-4-671	L145-326	3830	測定不可				
MOA-4-672	L145-327	3831	測定不可				
MOA-4-673	L145-328	3832	測定星ヶ台群				
MOA-4-674	L145-329	3833	測定不可				
MOA-4-675	L145-330	3834	測定星ヶ台群				
MOA-4-676	L145-331	3835	測定不可				
MOA-4-677	L145-332	3836	測定不可				
MOA-4-678	L145-333	3837	測定星ヶ台群				
MOA-4-679	L145-334	3838	測定不可				
MOA-4-680	L145-335	3839	測定星ヶ台群				
MOA-4-681	L145-336	3840	測定不可				
MOA-4-682	L145-337	3841	測定不可				
MOA-4-683	L145-338	3842	測定不可				
MOA-4-684	L145-339	3843	測定不可				
MOA-4-685	L145-340	3844	測定不可				
MOA-4-686	L145-341	3845	測定星ヶ丘群				
MOA-4-687	L145-342	3846	測定不可				
MOA-4-688	L145-343	3847	測定不可				
MOA-4-689	L145-344	3848	測定不可				
MOA-4-690	L145-345	3849	測定不可				
MOA-4-691	L145-346	3850	測定不可				
MOA-4-692	L145-347	3851	測定不可				
MOA-4-693	L145-348	3852	測定不可				
MOA-4-694	L145-349	3853	測定星ヶ台群				
MOA-4-695	L145-350	3854	測定不可				
MOA-4-696	L145-351	3855	測定不可				
MOA-4-697	L145-352	3856	測定不可				
MOA-4-698	L145-353	3857	測定不可				
MOA-4-699	L145-354	3858	測定不可				
MOA-4-700	L145-355	3859	測定星ヶ台群				
MOA-4-701	L145-356	3860	測定不可				
MOA-4-702	L145-357	3861	測定不可				
MOA-4-703	L145-358	3862	測定不可				
MOA-4-704	L145-359	3863	測定星ヶ台群				
MOA-4-705	L145-360	3864	測定不可				
MOA-4-706	L145-361	3865	測定不可				
MOA-4-707	L145-362	3866	測定不可				
MOA-4-708	L145-363	3867	測定不可				
MOA-4-709	L145-364	3868	測定星ヶ台群				
MOA-4-710	L145-365	3869	測定星ヶ台群				
MOA-4-711	L145-366	3870	測定鳥島星ヶ台群				
MOA-4-712	L145-367	3871	測定不可				
MOA-4-713	L145-368	3872	測定不可				
MOA-4-714	L145-369	3873	測定星ヶ台群				
MOA-4-715	L145-370	3874	測定不可				
MOA-4-716	L145-371	3875	測定不可				
MOA-4-717	L145-372	3876	測定不可				
MOA-4-718	L145-373	3877	測定星ヶ台群				
MOA-4-719	L145-374	3878	測定不可				
MOA-4-720	L145-375	3879	測定不可				
MOA-4-721	L145-376	3880	測定不可				
MOA-4-722	L145-377	3881	測定不可				

研究室 年齢選査	分析番号	測定番号	被験者地	判別分析					
				判別群 判別群	第1判別確度 確率	第2判別確度 確率	被験者		
MOK-0523	L145-478	3082	測定不可	KZOB	12.34	1	KZSN	35.58	0
MOK-0524	L145-479	3087	沖縄島恩地部屋	KZOB	6.39	1	WDTN	96.15	0
MOK-0525	L145-490	4070	測定不可・台群	HNUH	0.88	1	HNKI	89.65	0
MOK-0536	L145-461	5241	測定不可・台群	SWHD	17.43	1	SBY	100.81	0
MOK-0537	L145-462	7155	測定不可・台群	SWHD	7.1	1	SBY	62.99	0
MOK-0538	L145-483	7250	測定不可・台群	KZOB	3.24	1	KZSN	37.62	0
MOK-0529	L145-484	7556	沖縄島恩地部屋	SWHD	13.19	1	SBY	66.11	0
MOK-0530	L145-485	7783	測定不可・台群	HNUH	8.09	1	HNKI	142.87	0
MOK-0531	L145-486	7784	測定不可・台群	SWHD	13.07	1	SBY	84.95	0
MOK-0532	L145-487	7820	測定不可	SWHD	13.49	1	SBY	100.81	0
MOK-0533	L145-488	7805	測定不可・台群	HNUH	7.29	1	HNKI	69.24	0
MOK-0534	L145-490	7945	沖縄島恩地部屋	KZOB	6.09	1	KZSN	49.75	0
MOK-0535	L145-491	8074	測定不可・台群	HNUH	11.59	1	HNKI	78.82	0
MOK-0536	L145-492	8230	測定不可・台群	SWHD	8	1	SBY	89.26	0
MOK-0538	L145-493	8382	沖縄島恩地部屋	KZOB	9.5	1	KZSN	40.64	0
MOK-0539	L145-494	8555	沖縄島恩地部屋	THAY	1.04	1	NYHA	120.84	0
MOK-0540	L145-495	8561	測定不可・台群	SWHD	13.49	1	SBY	101.73	0
MOK-0541	L145-496	8600	測定不可・台群	HNUH	4.93	1	HNKI	107.95	0
MOK-0542	L145-497	8612	測定不可・台群	HNUH	2.8	1	HNKI	115.85	0
MOK-0543	L145-498	8613	測定不可・台群	SWHD	17.91	1	SBY	79.45	0
MOK-0544	L145-499	8614	測定不可・台群	KZOB	5.3	1	KZSN	35.28	0
MOK-0545	L145-500	8617	沖縄島恩地部屋	HNUH	4.59	1	HNKI	99.1	0
MOK-0546	L145-501	8618	測定不可・台群	HNUH	9.2	1	HNKI	172.69	0
MOK-0547	L145-502	8626	測定不可・台群	HNUH	1.29	1	HNKI	95.95	0
MOK-0548	L145-503	8637	測定不可・台群	KZOB	2.27	1	KZSN	46.9	0
MOK-0549	L145-504	8642	沖縄島恩地部屋	AGKT	11.4	1	HNKT	121.15	0
MOK-0550	L145-505	8645	天城村姫群	HNUH	0.52	1	HNKT	117.94	0
MOK-0551	L145-506	8650	測定不可・台群	SWHD	8.68	1	SBY	79.27	0
MOK-0552	L145-507	8651	測定不可・台群	SWHD	2.45	1	SBY	100.22	0
MOK-0553	L145-508	8652	測定不可・台群	HNUH	3.77	1	HNKT	97.23	0
MOK-0554	L145-509	8653	測定不可・台群	KZOB	5.33	1	KZSN	41.76	0
MOK-0555	L145-510	8654	沖縄島恩地部屋	TSTY	1.04	1	TSHG	15.84	0.0001
MOK-0556	L145-511	8665	測定不可・山群	AGKT	24.94	1	HNKT	141.08	0
MOK-0557	L145-512	8667	天城村姫群	SWHD	8.15	1	SBY	87.09	0
MOK-0558	L145-513	8668	測定不可・台群	HNUH	6.27	1	HNKT	152.92	0
MOK-0559	L145-514	8669	測定不可・台群	HNUH	19.14	1	HNKT	205.64	0
MOK-0560	L145-515	8672	測定不可・台群	SWHD	3.26	1	WDTN	87.98	0
MOK-0561	L145-516	8687	天城村姫群	AGKT	2.13	1	HNKT	92.6	0
MOK-0562	L145-517	8688	測定不可・台群	SWHD	5.94	1	SBY	112.19	0
MOK-0563	L145-518	8689	測定不可・台群	HNUH	5.29	1	HNKT	93.52	0
MOK-0564	L145-519	8690	測定不可・台群	SWHD	23.16	1	SBY	112.72	0
MOK-0565	L145-520	8695	測定不可・台群	SWHD	10.56	1	SBY	47.46	0
MOK-0566	L145-521	8706	測定不可・台群	SWHD	6.08	1	SBY	107.28	0
MOK-0567	L145-522	8708	測定不可・台群	HNKT	6.85	1	HNKT	80.09	0
MOK-0568	L145-523	8709	測定不可・台群	HNUH	4.8	1	HNKT	138.22	0
MOK-0569	L145-525	8715	測定不可・台群	AGKT	2.47	1	HNKT	122.99	0
MOK-0570	L145-524	8716	測定不可・台群	KZOB	10.08	1	KZSN	46.41	0
MK07-4445	L145-525	181	天城村姫群	HNUH	7.27	1	HNKT	114.54	0
MK07-4447	L145-526	234	沖縄島恩地部屋	SWHD	9.98	1	WDTN	128.54	0
MK07-4448	L145-527	258	測定不可・台群	AGKT	2.48	1	HNKT	121.34	0
MK07-4449	L145-528	259	測定不可・台群	AGKT	0.68	1	HNKT	110.55	0
MK07-4450	L145-529	260	天城村姫群	KZOB	7.08	1	KZSN	49.00	0
MK07-4451	L145-530	269	沖縄島恩地部屋	SWHD	15.57	1	SBY	108.31	0
MK07-4452	L145-531	308	測定不可・台群	SWHD	12.47	1	SBY	99.06	0
MK07-4453	L145-532	346	測定不可・台群	SWHD	8.4	1	SBY	60.41	0
MK07-4454	L145-533	513	測定不可・台群	SWHD	11.42	1	SBY	117.5	0
MK07-4455	L145-534	609	測定不可・台群	SWHD	7.04	1	WDTN	101.12	0
MK07-4456	L145-535	827	測定不可・台群	SWHD	14.52	1	SBY	129.92	0
MK07-4457	L145-537	828	測定不可・台群	HNKT	5.21	1	HNKT	116.11	0
MK07-4458	L145-538	829	測定不可・台群	AGKT	3.69	1	HNKT	145.54	0
MK07-4460	L145-539	830	測定不可・山群	HNKT	1.0	1	HNKT	15.57	0.0001
MK07-4461	L145-540	831	天城村姫群	SWHD	6.27	1	SBY	82.43	0
MK07-4462	L145-541	832	測定不可・台群	SWHD	17.53	1	SBY	134.06	0
MK07-4463	L145-542	836	天城村姫群	AGKT	0.97	1	HNKT	111.36	0
MK07-4464	L145-543	837	測定不可・台群	SWHD	12.29	1	SBY	98.14	0
MK07-4465	L145-544	838	測定不可・台群	SWHD	7.6	1	SBY	116.97	0
MK07-4466	L145-545	839	測定不可・台群	SWHD	5.82	1	SBY	116.11	0
MK07-4467	L145-546	994	測定不可・山群	TSTY	0.67	1	TSHG	15.57	0.0001
MK07-4468	L145-547	655	天城村姫群	SWHD	1.3	1	SBY	84.07	0
MK07-4469	L145-548	715	测定不可・台群	HNUH	3.72	1	HNKT	127.07	0
MK07-4470	L145-549	106	测定不可・台群	SWHD	6.17	1	SBY	76.29	0
MK07-4471	L145-549	110	测定不可・台群	SWHD	11.21	1	SBY	118.73	0
MK07-4472	L145-550	1219	测定不可・台群	HNUH	6.36	1	HNKT	145	0
MK07-4472	L145-551	1237	测定不可・台群	SWHD	5.82	1	HNKT	116.11	0
MK07-4473	L145-552	1335	测定不可・台群	TSTY	0.67	1	TSHG	15.57	0.0001
MK07-4474	L145-553	1394	测定不可・台群	SWHD	1.3	1	HNKT	138.42	0
MK07-4475	L145-554	1466	测定不可・台群	SWHD	2.52	1	SBY	88.02	0
MK07-4476	L145-555	1494	冲縄島恩地部屋	KZOB	5.58	1	KZSN	61.87	0
MK07-4477	L145-556	1496	测定不可・台群	HNUH	12.38	1	HNKT	142.94	0
MK07-4478	L145-557	1509	天城村姫群	AGKT	1.71	1	HNKT	102.17	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	種属地	判別器		判別器	
				第1 植物遺地 距離		第2 植物遺地 距離	
				判別器	確率	判別器	確率
MK07-4493	L145-558	1624	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	12.47	1 KZSN 67.37 0
MK07-4490	L145-559	1637	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	1.42	1 SHY 58.49 0
MK07-4461	L145-560	1914		KZOB	KZOB	11.35	1 KZSN 54.05 0
MK07-4463	L145-561	2473	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	3.05	1 KZSN 25.75 0
MK07-4463	L145-562	2502	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	1.97	1 SHY 88.3 0
MK07-4464	L145-563	2577	天城島々台群	AGKT	AGKT	3.31	1 HNKT 125.03 0
MK07-4465	L145-564	2584	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	5.08	1 KZSN 28.87 0
MK07-4489	L145-565	2749	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	1.12	1 SHY 86.53 0
MK07-4467	L145-566	2908	洞庭島々台群	HNUJ	HNUJ	1.35	1 HNKT 93.24 0
MK07-4488	L145-567	2909	洞庭島々台群	HNUJ	HNUJ	4.24	1 HNKT 106.01 0
MK07-4495	L145-568	3057	洞庭島々台群	HNUK	HNUK	9.21	0.9999 HNKT 22.44 0.0004
MK07-4490	L145-569	3250	天城島々台群	AGKT	AGKT	1.41	1 HNKT 115.05 0
MK07-4491	L145-570	3034	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	2.09	1 KZSN 60.29 0
MK07-4492	L145-571	4069	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	5.29	1 KZSN 31.17 0
MK07-4493	L145-572	4077	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	2.26	1 SHY 78.1 0
MK07-4494	L145-573	4032	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	2.51	1 SHY 91.84 0
MK07-4495	L145-574	4033	和田大瀬ウトノ	WDHY	WDHY	3.05	1 WDTY 40.41 0
MK07-4496	L145-575	4214	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	9.91	1 KZSN 48.48 0
MK07-4497	L145-576	4226	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	3.38	1 SHY 95.98 0
MK07-4498	L145-577	4247	天城島々台群	AGKT	AGKT	2.68	1 HNKT 101.35 0
MK07-4499	L145-578	4343	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	4.47	1 KZSN 25.08 0
MK07-4500	L145-579	4349	洞庭島々台群	HNUJ	HNUJ	9.35	1 HNKT 152.09 0
MK07-4501	L145-580	4407	天城島々台群	AGKT	AGKT	0.58	1 HNKT 87.89 0
MK07-4602	L145-581	4736	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	3.84	1 SHY 118.66 0
MK07-4503	L145-582	4744	洞庭島々台群	HNUJ	HNUJ	5.54	1 HNKT 135.71 0
MK07-4504	L145-583	4756	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	1.27	1 SHY 45.73 0
MK07-4505	L145-584	4853	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	2.32	1 SHY 75.77 0
MK07-4506	L145-585	4855	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	6.43	1 SHY 92.29 0
MK07-4507	L145-586	4997	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	7.35	1 KZSN 29.42 0
MK07-4508	L145-587	5100	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	9	1 KZSN 72.59 0
MK07-4509	L145-588	5450	推定不可				確定不可
MK07-4510	L145-589	6002	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	9.51	1 SHY 103.7 0
MK07-4511	L145-590	6356	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	16.97	1 SHY 92.75 0
MK07-4512	L145-591	6975	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	9.54	0.9999 KZSN 21.25 0.0009
MK07-4513	L145-592	5578	天城島々台群	AGKT	AGKT	0.09	1 HNKT 126.43 0
MK07-4514	L145-593	6584	天城島々台群	AGKT	AGKT	3.52	1 HNKT 135.2 0
MK07-4515	L145-594	7147	洞庭島々台群	HNUJ	HNUJ	5.91	1 HNKT 78.76 0
MK07-4515	L145-595	7257	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	13.49	1 KZSN 33.61 0
MK07-4517	L145-596	7696	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	0.28	1 SHY 81.43 0
MK07-4518	L145-597	8009	和田大瀬ウトノ	WDHY	WDHY	1.41	1 WDTY 35.89 0
MK07-4519	L145-598	8168	神津島恩地鳥群	KZOB	KZOB	6.09	1 KZSN 53.57 0
MK07-4520	L145-599	8234	洞庭島々台群	SWHD	SWHD	1.7	1 SHY 74.12 0
MK07-4621	L145-600	3263	和田大瀬ウトノ	WDHY	WDHY	2.76	0.9999 WDTY 29.18 0.0006

写真図版



NLa及びYLU全景



テストピット全景

図版 2



深掘り範囲全景



完掘全景



テストピット31遺物出土状況



遺物検出状況（北から）

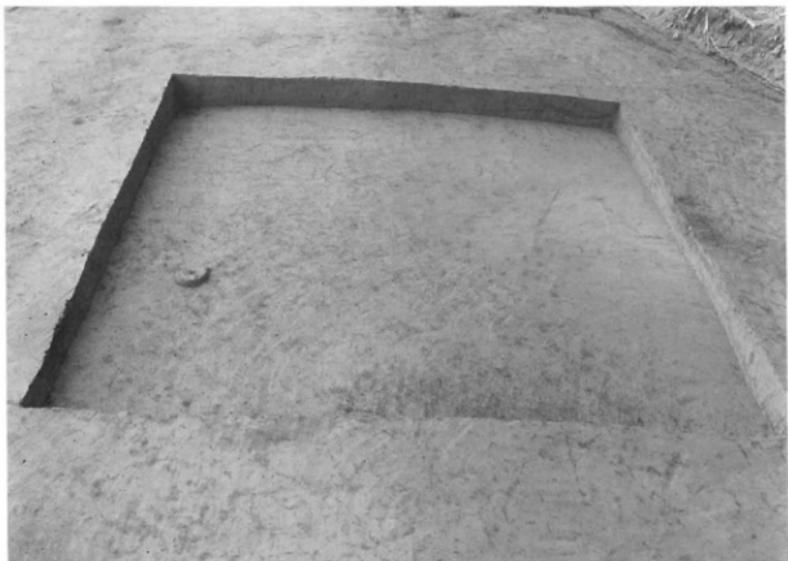
図版 4



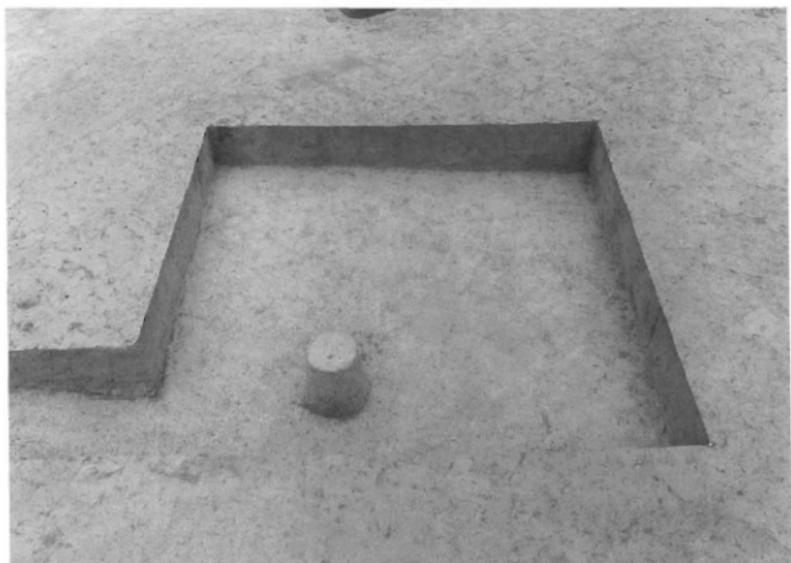
遺物検出状況（北東から）



テストピット22遺物検出状況

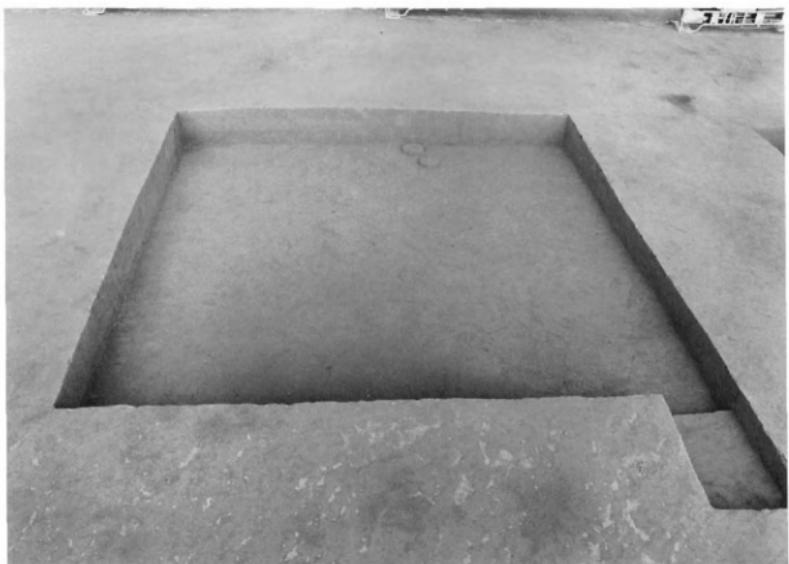


テストピット27遺物出土状況



テストピット34遺物出土状況

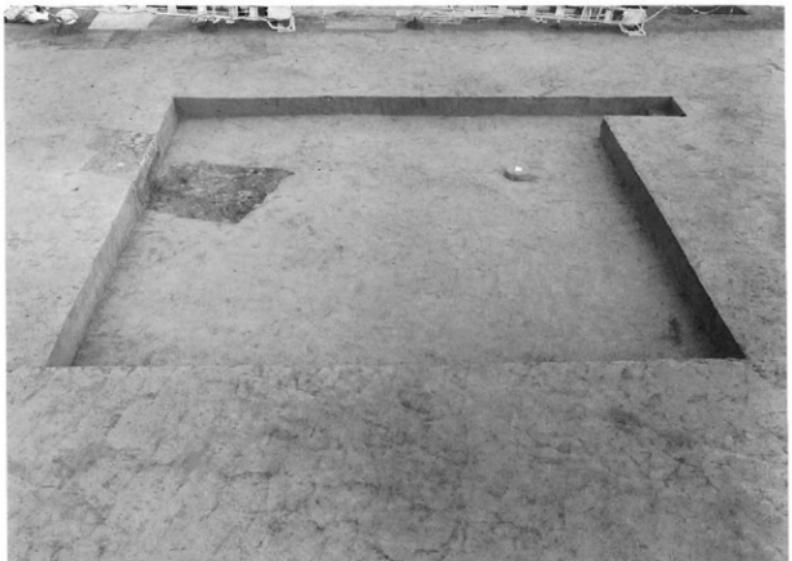
図版 6



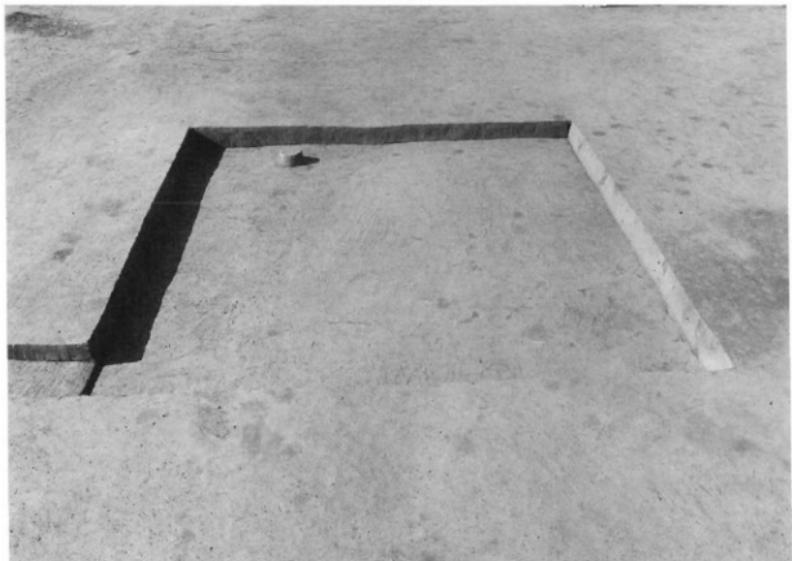
テストピット46遺物出土状況



テストピット47遺物出土状況



テストピット48遺物出土状況



テストピット49遺物出土状況

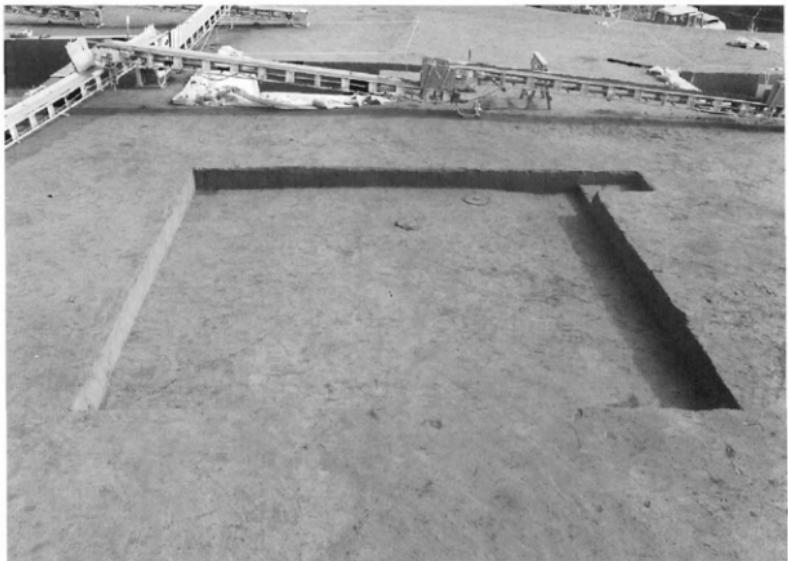
図版 8



テストピット53遺物出土状況（東から）



テストピット53遺物出土状況（西から）



テストピット58遺物出土状況



テストピット62遺物出土状況

図版10



H5 グリッド遺物出土状況



K/L 6 グリッド遺物出土状況（南東から）



K/L 6 グリッド遺物出土状況（東から）



K 6 / 7 グリッド遺物出土状況

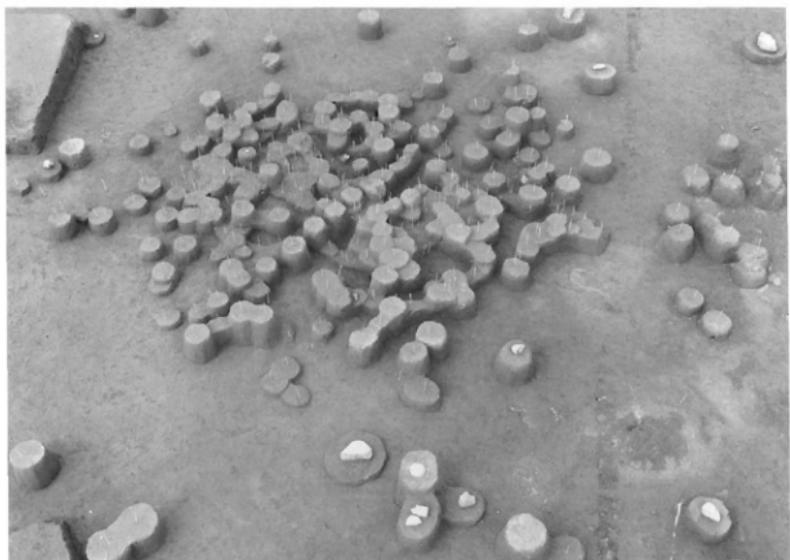
図版12



1号礫群検出状況



2号礫群検出状況



E6 グリッド黒曜石集中検出状況



石斧集中検出状況



焼土完掘状況



1号集石検出状況



2号集石検出状況



3号集石検出状況



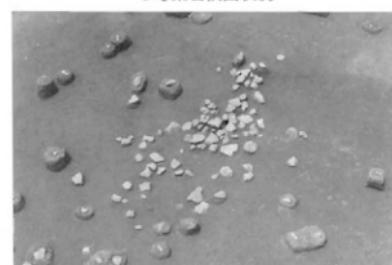
4号集石検出状況



5号集石検出状況



6号集石出土状況

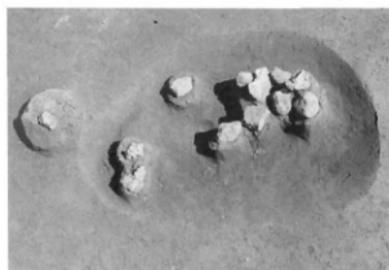


7号集石検出状況



8号集石出土状況

図版14



9号集石出土状況



10号集石検出状況



11号集石検出状況



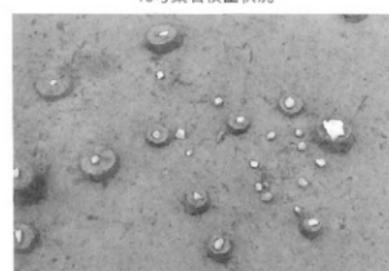
12号集石検出状況



13号集石検出状況



14号集石検出状況



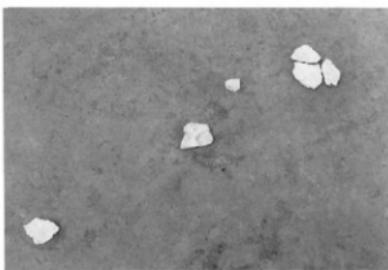
15号集石検出状況



16号集石検出状況



17号集石検出状況



18号集石検出状況



19号集石検出状況



20号集石検出状況



21号集石検出状況



22号集石検出状況



23号集石検出状況



24号集石検出状況

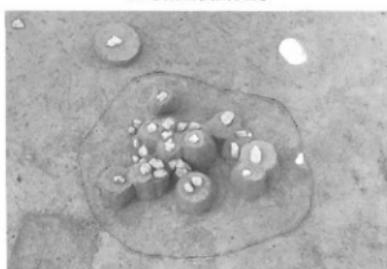
图版16



25号集石検出状況



26号集石出土状況



27号集石検出状況



28号集石検出状況



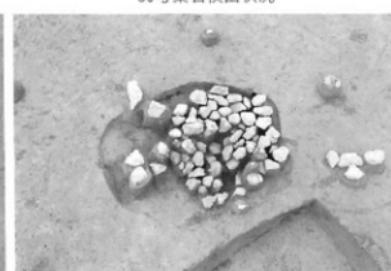
29号集石検出状況



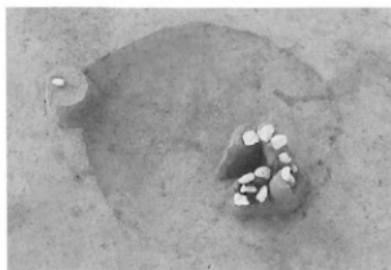
30号集石検出状況



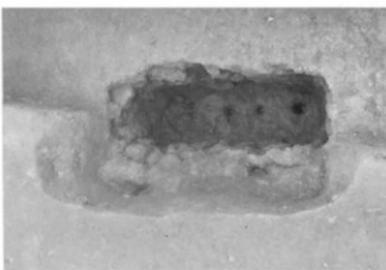
31号集石検出状況



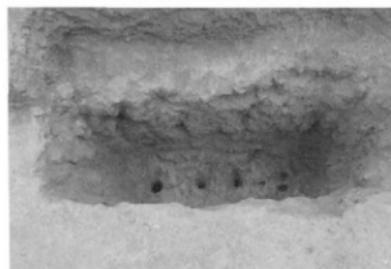
32号集石出土状況



33号集石検出状況



1号土坑完掘状況



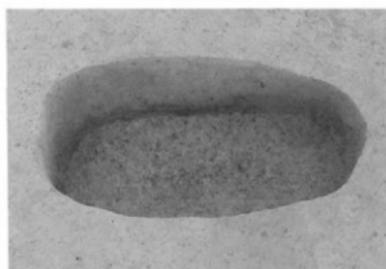
1号土坑底面の状況



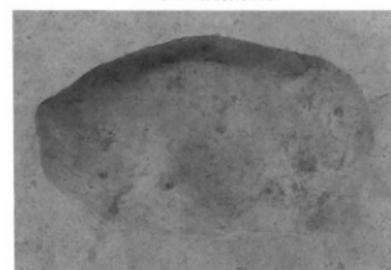
4号土坑完掘状況



17号土坑完掘状況



18号土坑完掘状況

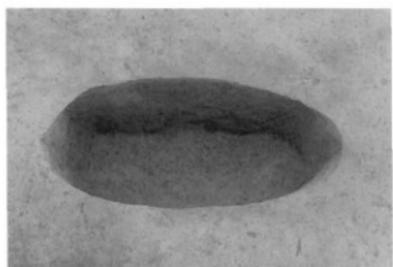


19号土坑完掘状況

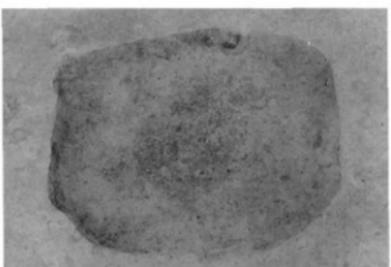


20号土坑完掘状況

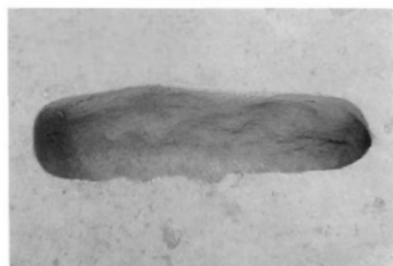
図版18



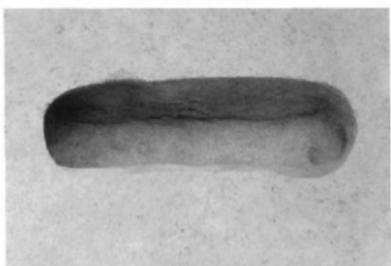
21号土坑完掘状況



22号土坑完掘状況



24号土坑完掘状況



27号土坑完掘状況



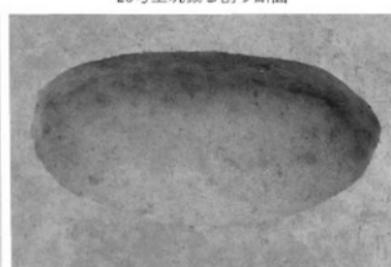
28号土坑完掘状況



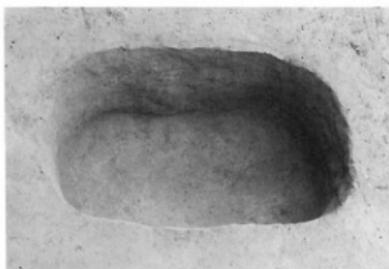
28号土坑裁ち割り断面



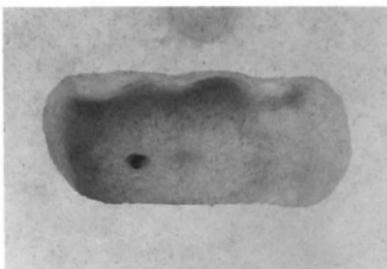
29号土坑完掘状況



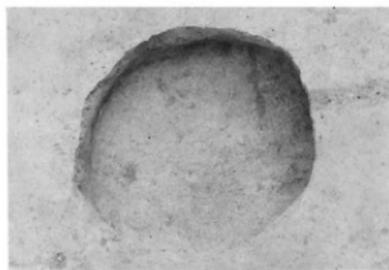
30号土坑完掘状況



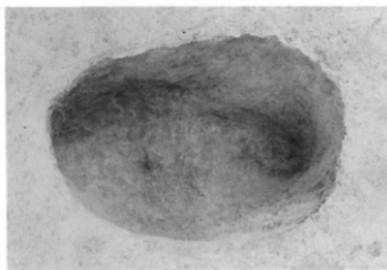
31号土坑完掘状况



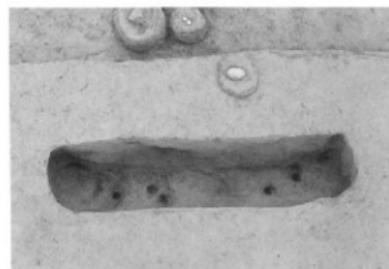
32号土坑完掘状况



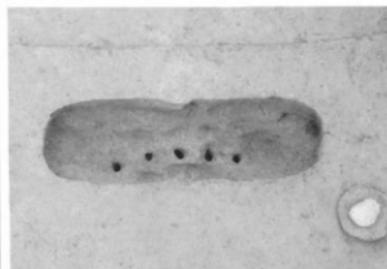
33号土坑完掘状况



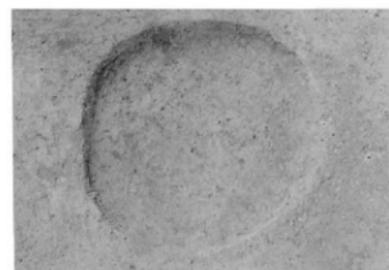
34号土坑完掘状况



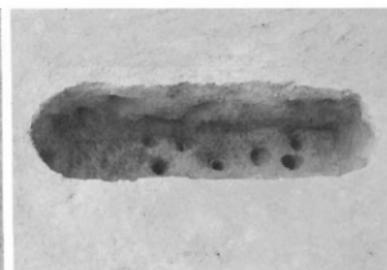
35号土坑完掘状况



36号土坑完掘状况

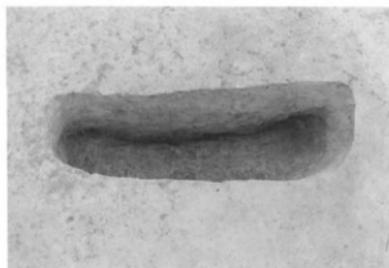


38号土坑完掘状况

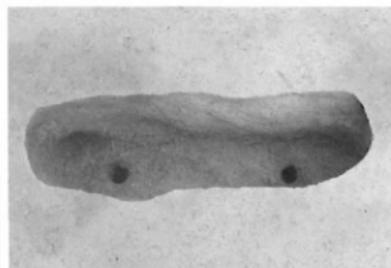


39号土坑完掘状况

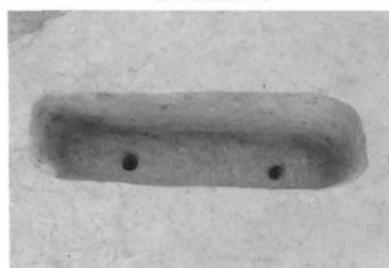
图版20



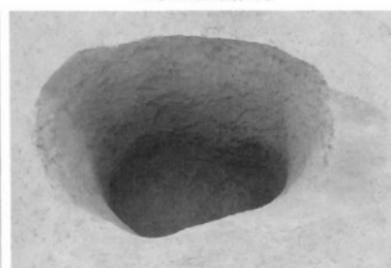
40号土坑完掘状况



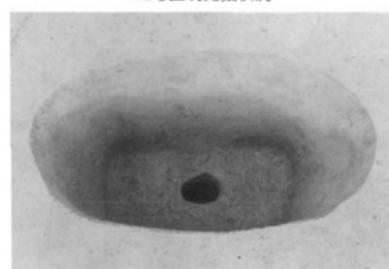
41号土坑完掘状况



42号土坑完掘状况



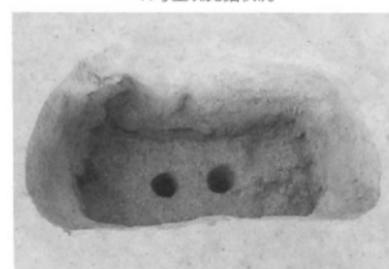
43号土坑完掘状况



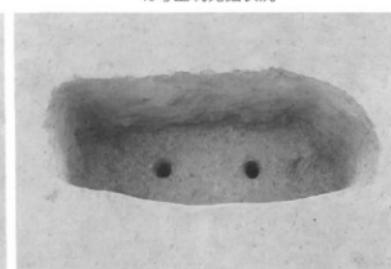
44号土坑完掘状况



45号土坑完掘状况



46号土坑完掘状况



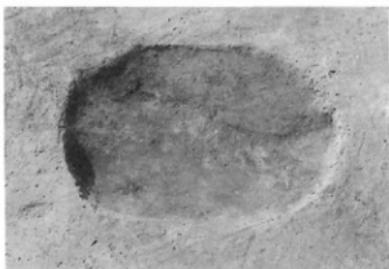
47号土坑完掘状况



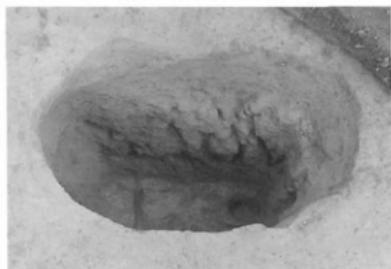
2号土坑完掘状況



2号土坑底面の状況



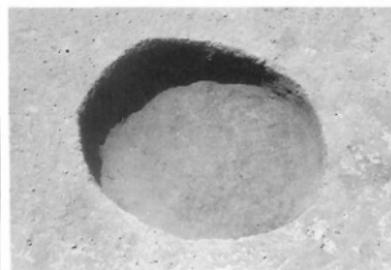
3号土坑完掘状況



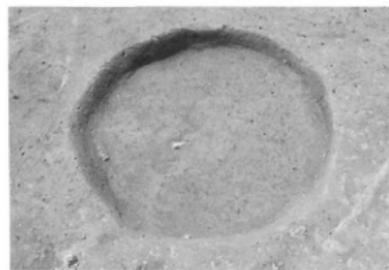
5号土坑完掘状況



5号土坑底面の状況



6号土坑完掘状況

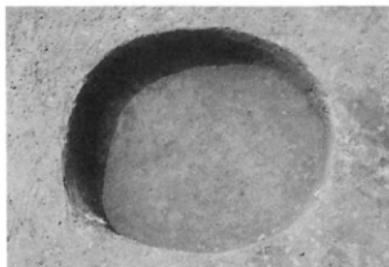


7号土坑完掘状況

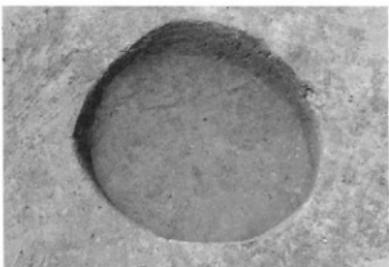


8号土坑完掘状況

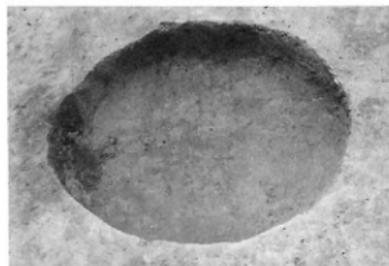
図版22



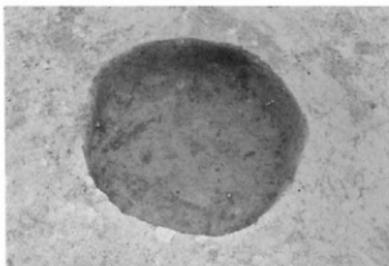
9号土坑完掘状况



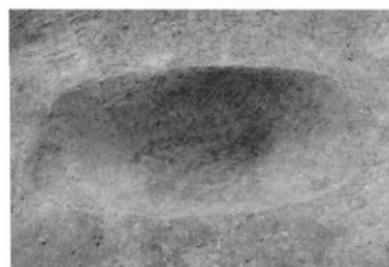
10号土坑完掘状况



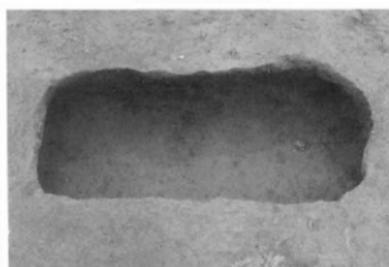
11号土坑完掘状况



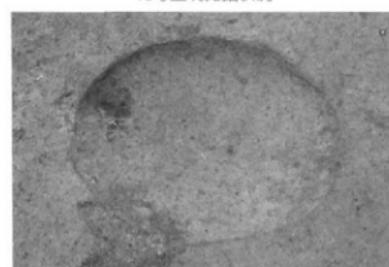
12号土坑完掘状况



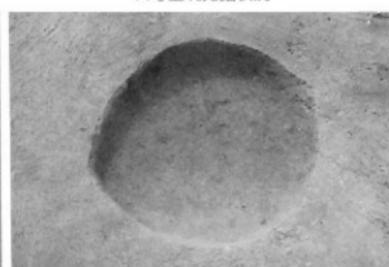
13号土坑完掘状况



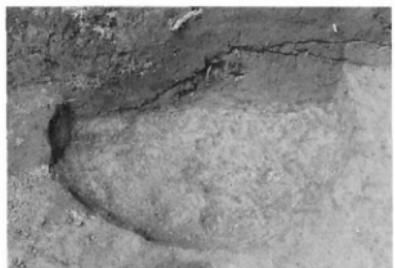
14号土坑完掘状况



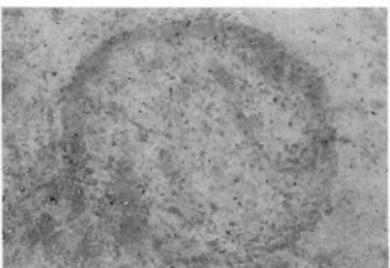
15号土坑完掘状况



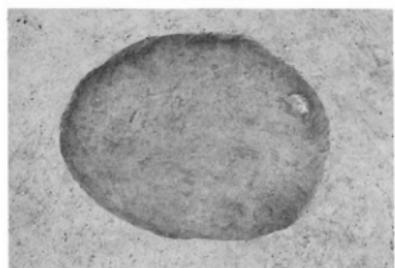
16号土坑完掘状况



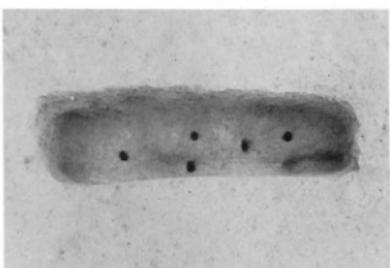
23号土坑完掘状况



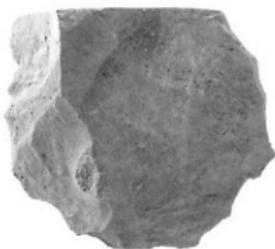
25号土坑完掘状况



26号土坑完掘状况



37号土坑完掘状况



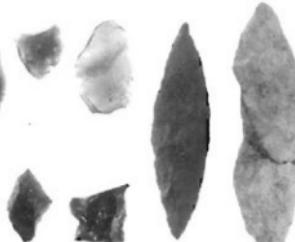
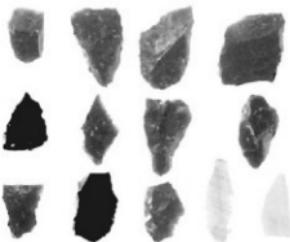
第Ⅰ文化層の石器群

第Ⅱ文化層の石器群



第Ⅲ文化層の石器

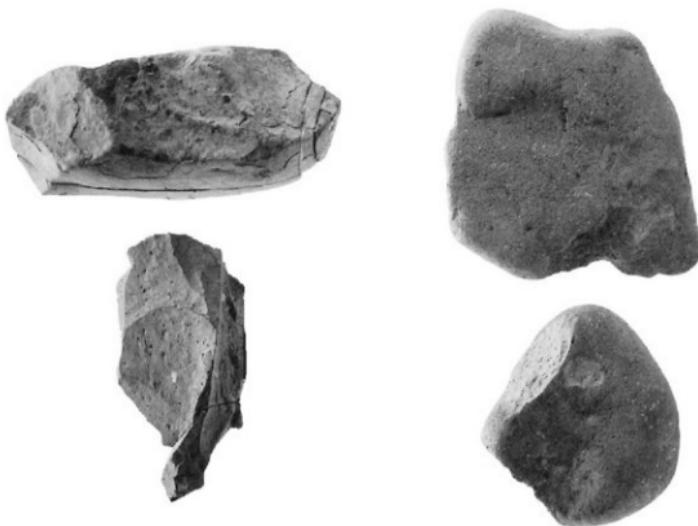
第Ⅳ文化層の石器群（1）



第Ⅳ文化層の石器群（2）

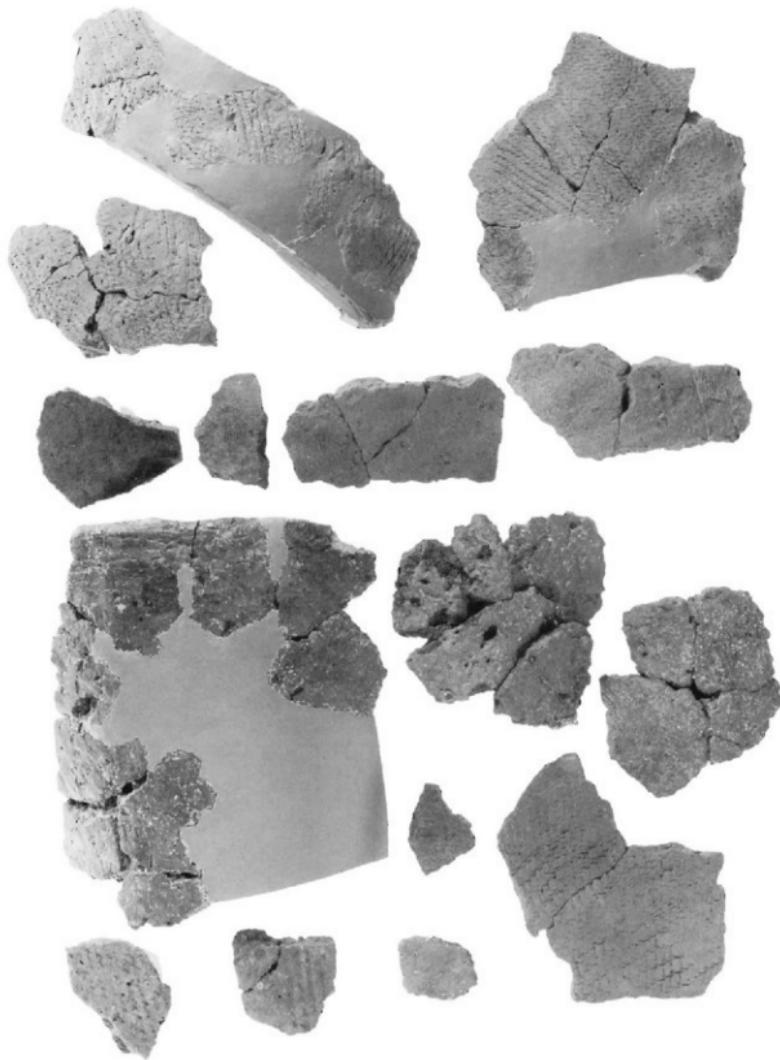


第IV文化層の石器群（3）

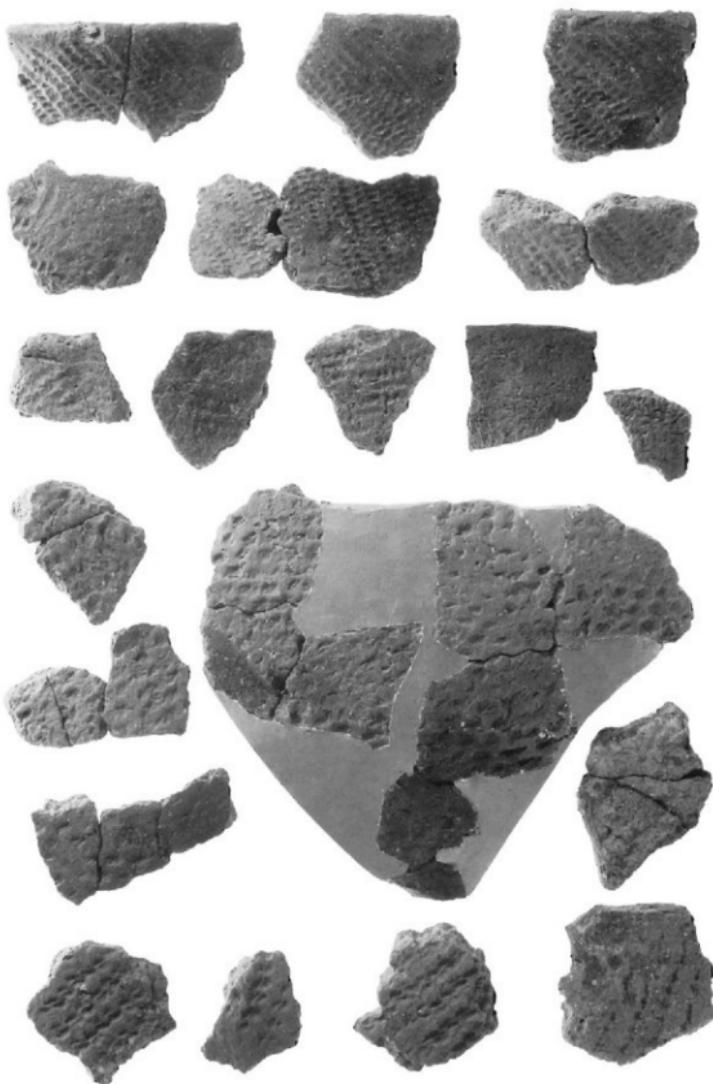


第IV文化層の石器群（4）

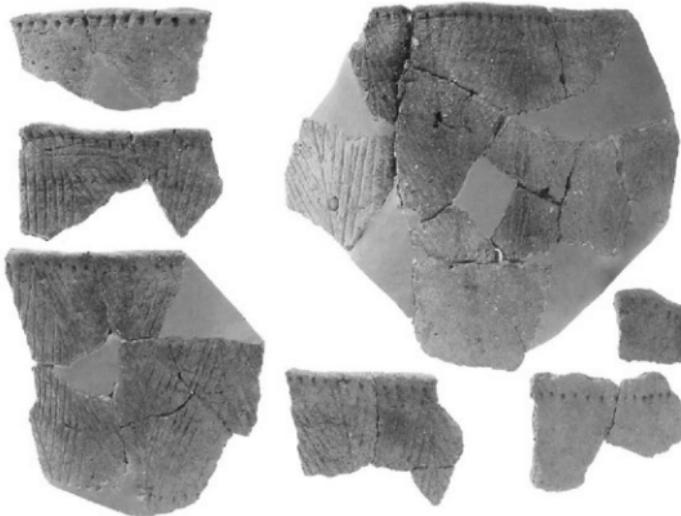
第IV文化層の石器群（5）



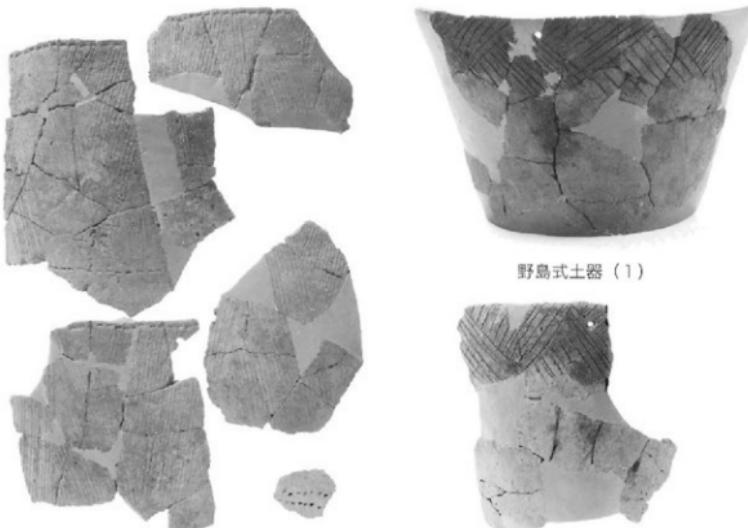
撚糸文土器



早期 繩文土器



判ノ木山西式土器（1）



野島式土器（1）

判ノ木山西式土器（2）

野島式土器（2）



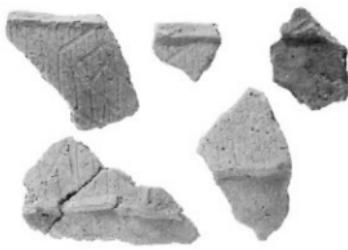
野島式土器（3）



野島式土器（4）



野島式土器（5）



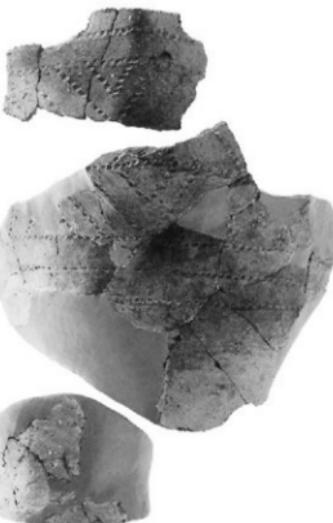
野島式土器（6）



茅山下層式土器（1）



茅山下層式土器（2）



茅山下層式土器（3）

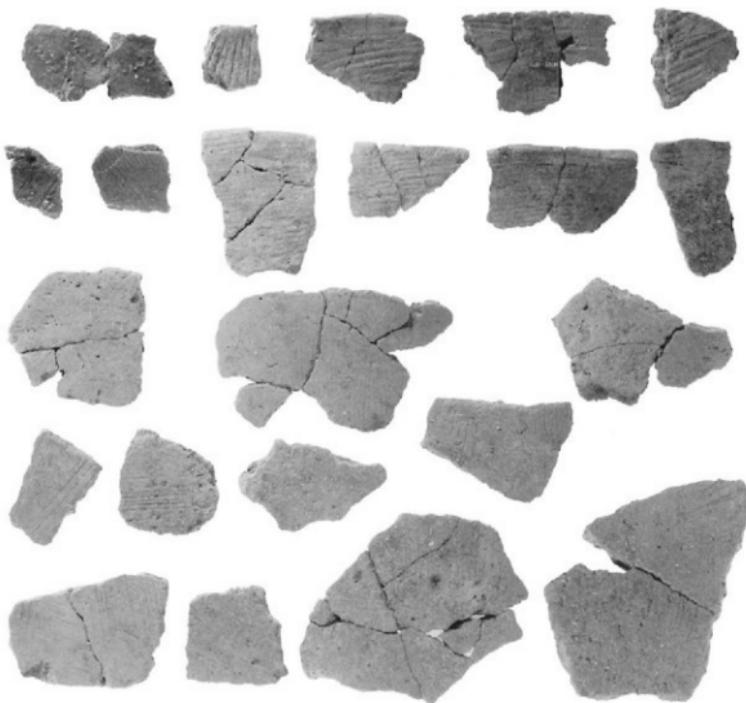


打越式土器（1）



打越式土器（2）

打越式土器（3）



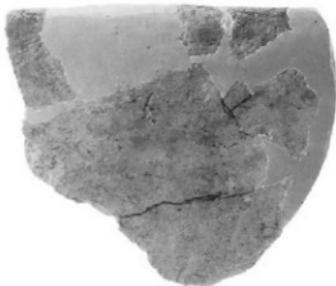
打越式土器（4） その他の沈線文土器（1） その他の条痕文土器 判ノ木山西式土器（3）



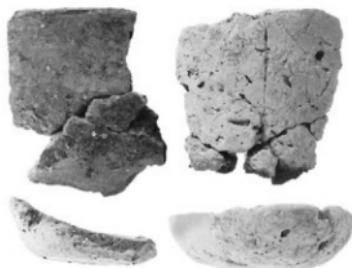
その他の沈線文土器（2）



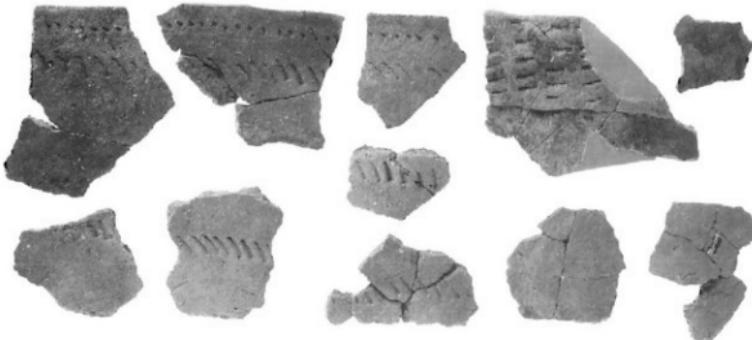
早期 その他の土器（1）



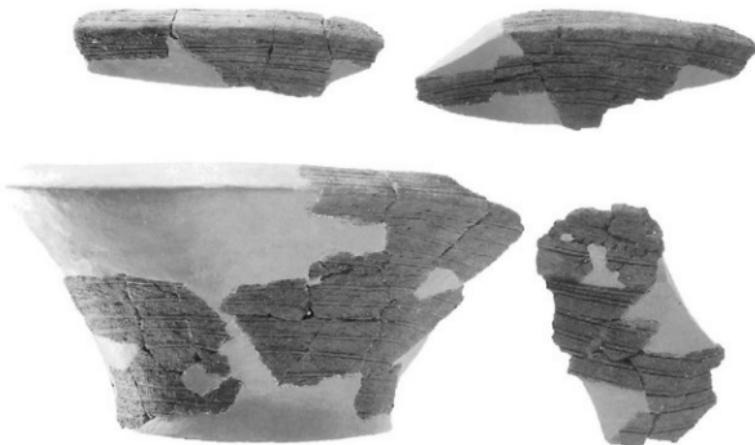
早期 その他の土器（2）



早期 その他の土器（3）



上ノ坊式土器



諸磯b式土器（1）



諸磯b式土器（2）

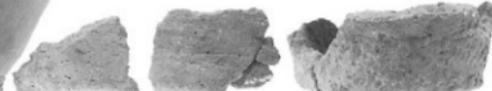
諸磯b式土器（3）



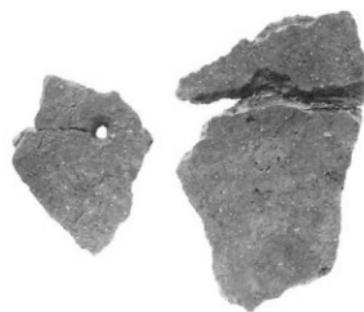
諸磯 b 式土器 (4)



諸磯 b 式土器 (5)



前期 縄文土器



前期 その他の土器 (1)



前期 その他の土器 (2)



新道式土器（1）



新道式土器（2）



藤内式土器（1）



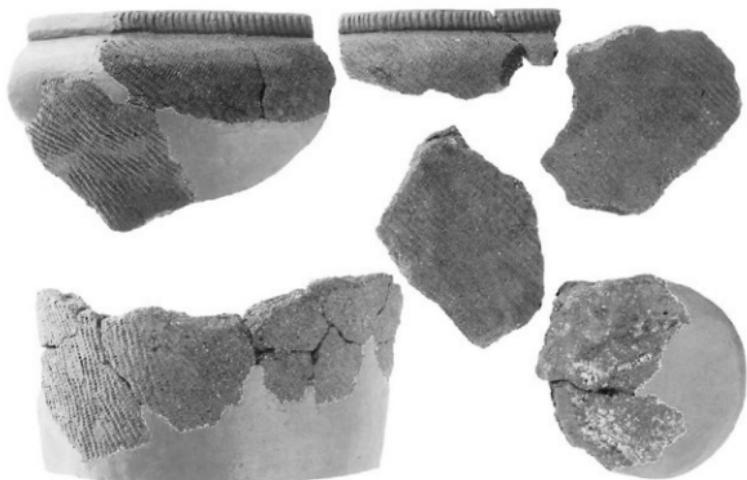
藤内式土器（2）



藤内式土器（3）



藤内式土器（4）



藤内式土器（5）



藤内式土器（6）

中期 縄文土器 その他の土器



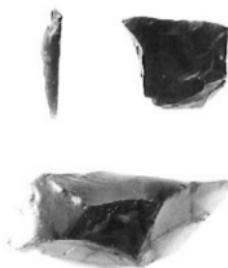
縄文時代草創期の尖頭器類（1）



縄文時代草創期の尖頭器類（2）



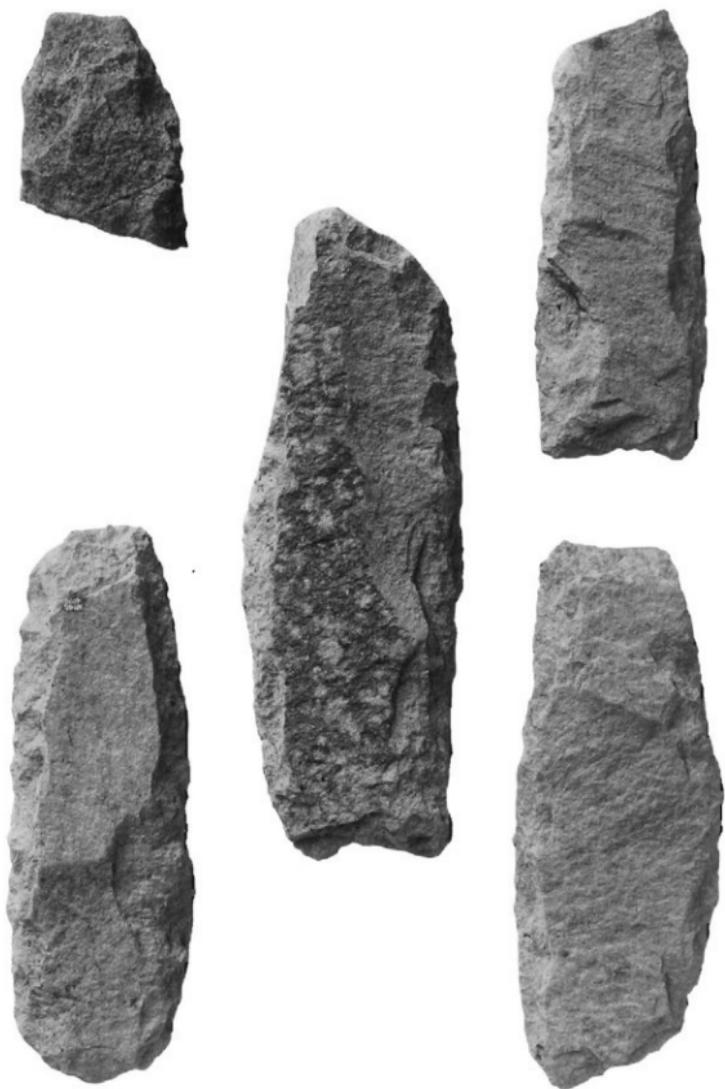
DEF 5-8 グリッドの石器群（1）



DEF 5-8 グリッドの石器群（2）



DEF 5-8 グリッドの石器群（3）



DEF 5-8 グリッドの石器群（4）



DEF 5-8 グリッドの石器群（5）

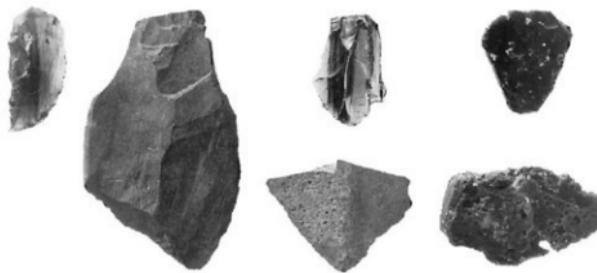


DEF 5-8 グリッドの石器群（6）

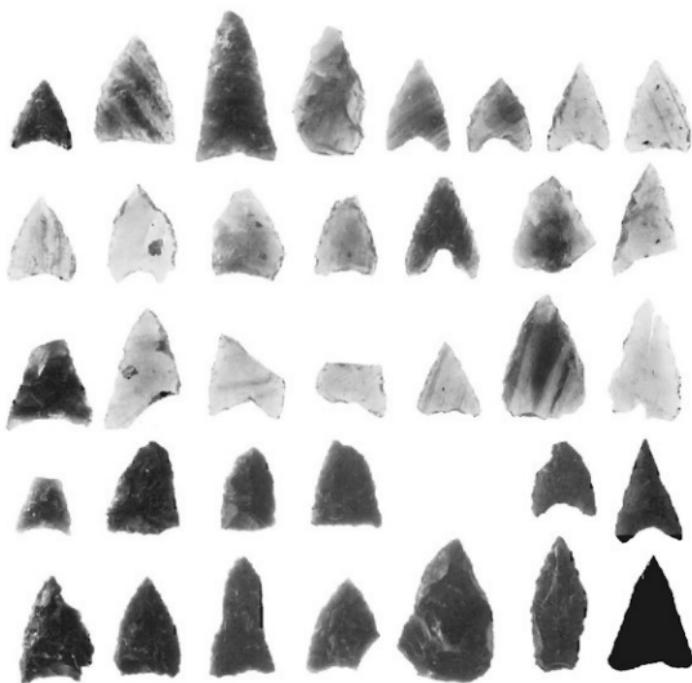
図版40



DEF 5-8 グリッドの石器群（7）



EFG13-16グリッドの石器群（1）

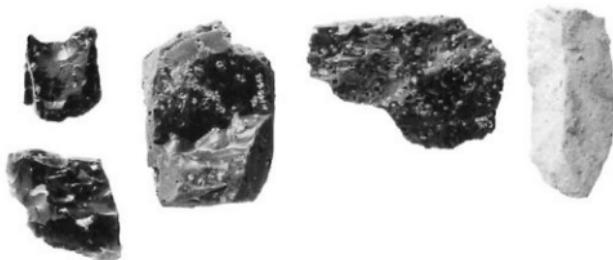


EFG13-16グリッドの石器群（2）



EFG13-16グリッドの石器群（3）

図版42



EFG13-16グリッドの石器群（4）



EFG13-16グリッドの石器群（5）



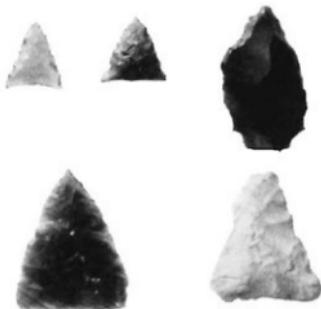
EFG13-16グリッドの石器群（6）



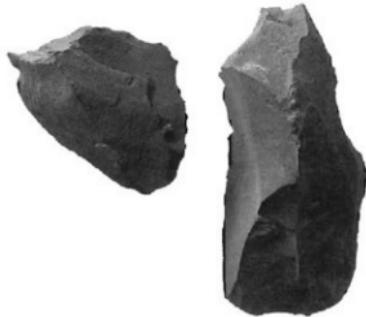
EFG13-16グリッドの石器群（7）



CDE19-21グリッドの石器群



HJK 6-11グリッドの石器群（1）

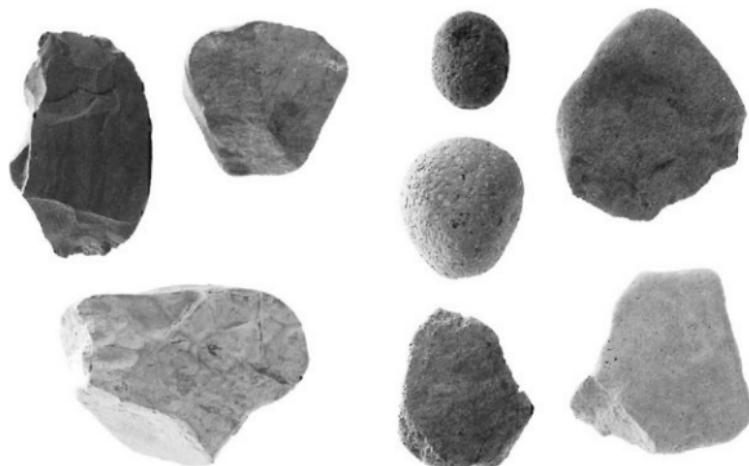


HJK 6-11グリッドの石器群（2）



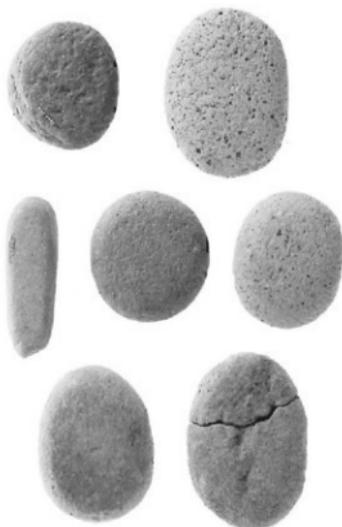
HJK 6-11グリッドの石器群（3）

図版44



Hijk 6-11グリッドの石器群（4）

Hijk 6-11グリッドの石器群（5）



Hijk 6-11グリッドの石器群（6）



Hijk 6-11グリッドの石器群（7）



HJK 6-11グリッドの石器（8）



その他のグリッドの石器群（1）



その他のグリッドの石器群（2）

報告書抄録

ふりがな	ろうだいいらいせき								
書名	老平遺跡								
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
卷次	裾野市-4								
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告								
シリーズ番号	第192集								
編著者名	阿部 敏								
編集機関	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所								
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL 054-262-4261 (代)								
発行年月日	西暦2008年9月30日								
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因	
老平遺跡	裾野市大畑 字老平他 16筆	22220	市町村	遺跡番号					
					世界測地系		2004.4 ~ 2006.3	9,030 m ²	第二東 名建設 事業
					35°11' 16"	138°53' 21"			
					日本測地系				
		35°11' 05"	138°53' 33"						
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
老平遺跡	散布地	旧石器時代	縄群3基 石器集中 6箇所	石器（尖頭器/ナイフ形石器/切 出形石器/端削器/側削器/彫器/ 角錐状石器/二次加工剥片/微細 剥離痕剥片/彫器/削片/石刃/剥 片/碎片/石核/敲石/台石）			後期旧石器時代 の石器製作址の 重層遺跡		
		BB I BBO-YLL YLM YLU							
老平遺跡	散布地	縄文時代 草創期 早期 前期 中期	集石33基 土坑29基	土器（早期-中期）、石器（有舌 尖頭器/石鑓/端削器/側削器/石 匙/石錐/打製石斧/礪器/敲石/ 磨石/石皿/台石/二次加工剥片/ 微細剥離痕剥片/剥片/碎片/石 核/楔形石器）			縄文時代草創期 から中期の石器 群、早期から中 期の土器群		

要約 旧石器時代はAT上位で4枚の文化層を検出。第Ⅰ文化層は石器集中1箇所で剥片のみ、第Ⅱ文化層は石器集中2箇所で石刃/剥片製ナイフ形石器が組成、第Ⅲ文化層は石器集中がなく、単体の石刃のみ、第Ⅳ文化層は石器集中3箇所で、両面加工尖頭器、石刃/剥片製ナイフ形石器などを組成する。縄文時代は、住居跡が検出されず、早期から中期の土器群と草創期から中期の石器群を検出。中心となっているのは早期後半の判ノ木山西式土器ほか条痕文土器。このほか縄文時代の焼土/集石/土坑、時期不明の土坑が検出されている。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第192集

老 平 遺 跡

第二東名No.145地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年9月30日発行

編集・発行 財團法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20

TEL 054-262-4261㈹

FAX 054-262-4266

印 刷 所 松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡2210

TEL 0548-32-0851㈹

